

保健医療統計特論

英文名：Health and Medical Statistics

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

長井万恵、飯田義裕

SDGsとの関連



「その他」のアクティブラーニング実施方法

統計解析に使用するソフトウェアを用いた実データ解析の演習を行う

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①初等的な記述統計・推測統計から多変量解析まで、保健医療分野で用いられる統計解析法を学ぶ。
- ②主に座学にて講義を実施するが、体系的に学習したのちに、統計ソフトウェアを用いて実際にデータ解析を行う。

到達目標

- 1. 論文で使われている統計手法が理解できる。
- 2. 研究を行う際、適切な統計解析法を選択でき、自らのデータに応用できる。
- 3. 論文を作成するにあたって、用いた統計解析の内容を適切に表現できる。

使用教材

特に必須とする教材はない。学期の初めに案内する。

評価方法

期末のレポートにより評価する(100%)

課題・評価に対するフィードバック方法

課題は期末レポートのみとするが、授業の中でその都度わからない部分などについては随時質問を受け付ける。
なお、必要に応じてディスカッション・コメントをする。
Eメールによる質疑応答も可とする。

オフィスアワー

質問および学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。
メールやオンラインでの質問・学習相談については、日程調整のうえで応じる。

メールアドレス（#→@）

kazue-nagai#gunma-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義案内、統計学的思考とは、参考図書の案内、データの分類（長井）	1,2,3	下記／で区切られた用語は対比させて説明できるとよい 質的／量的データ。 名義／順序／間隔／比尺度	1.5h	下記／で区切られた用語は対比させて説明できるとよい 質的／量的データ。 名義／順序／間隔／比尺度	1.5h
2	1変数および2変数まとめた簡約表現、集計表やグラフ、統計量による表現 クロス集計表・散布図・相関係数（長井）	1,2,3	棒グラフ／ヒストグラム 平均値／中央値、分散／標準偏差 クロス集計表／散布図 関連係数／相関係数	1.5h	棒グラフ／ヒストグラム 平均値／中央値、分散／標準偏差 クロス集計表／散布図 関連係数／相関係数	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	統計学における推測とは、推定とは（長井） 母平均値の推定を例に解説する Studentのt分布	1,2,3	記述統計／推測統計 母集団／標本、推定／検定 点推定／区間推定（95%信頼区間） 標準偏差／標準誤差 正規分布／t分布	1.5h	記述統計／推測統計 母集団／標本、推定／検定 点推定／区間推定（95%信頼区間） 標準偏差／標準誤差 正規分布／t分布	1.5h
4	統計的検定とは（長井） 平均値の差の検定を例に解説する	1,2,3	帰無仮説／対立仮説 有意水準／有意確率（=p値） 両側検定／片側検定 対応のある／対応のない（=独立）	1.5h	帰無仮説／対立仮説 有意水準／有意確率（=p値） 両側検定／片側検定 対応のある／対応のない（=独立）	1.5h
5	前回の補足、t検定の具体的手順（長井） ノンパラメトリック法：正規分布を仮定しなくとも使える手法、Mann-WhitneyのU検定など	1,2,3	Wilcoxonの順位和検定／Wilcoxonの符号（付）順位検定	1.5h	Wilcoxonの順位和検定／Wilcoxonの符号（付）順位検定	1.5h
6	相関と回帰（長井） (1) 相関係数の推定と検定 (2) ある変数（群）から別変数を予測する解析：回帰分析	1,2,3	無相関の検定とは 線形回帰、最小2乗法 相関係数／決定係数	1.5h	無相関の検定とは 線形回帰、最小2乗法 相関係数／決定係数	1.5h
7	統計解析の実際：Excelを用いた演習（1）（飯田） 表計算ソフトを初めて使用する事を想定して演習を実施します。 Excelの関数機能を用いて、擬似的なデータから、平均値、中央値分散と値、分散と標準偏差を求めます。 また、度数分布表を作成し、ヒストグラムを作成します。	2,3	平均値、中央値分散値、分散と標準偏差 度数分布表、ヒストグラム	1.5h	平均値、中央値分散値、分散と標準偏差 度数分布表、ヒストグラム	1.5h
8	統計解析の実際：Excelを用いた演習（2）（飯田） 対応のあるデータに対して相関係数と回帰直線を求め、散布図中に回帰直線を書き入れたグラフを作成します。	2,3	相関係数、回帰直線、散布図	1.5h	相関係数、回帰直線、散布図	1.5h
9	クロス集計による関連性の解析（長井） 2つの質的変数についての解析：クロス表の検定	1,2,3	χ^2 検定 Fisherの正確確率検定	1.5h	χ^2 検定 Fisherの正確確率検定	1.5h
10	分散分析初歩（長井） 分散分析：3つ以上の平均値の比較 多重比較。	1,2,3	F検定、F分布 一元配置／二元配置 2要因実験／乱塊法	1.5h	F検定、F分布 一元配置／二元配置 2要因実験／乱塊法	1.5h
11	多変量解析（1）（長井） 重回帰分析とその周辺、logistic回帰	1,2,3	重回帰分析／logistic回帰	1.5h	重回帰分析／logistic回帰	1.5h
12	多変量解析（2）（長井） 主成分分析と因子分析	1,2,3	主成分分析／因子分析	1.5h	主成分分析／因子分析	1.5h
13	調査研究と質問票研究の基本（長井） 質問票の開発	1,2,3	量的研究／質的研究 信頼性／妥当性 Cronbachの α 係数	1.5h	量的研究／質的研究 信頼性／妥当性 Cronbachの α 係数	1.5h
14	統計解析の実際：統計解析ソフトを用いた演習（1）（長井）	2,3	これまでの総復習を兼ねる	1.5h	これまでの総復習を兼ねる	1.5h
15	統計解析の実際：統計解析ソフトを用いた演習（2）（長井）	2,3	これまでの総復習を兼ねる	1.5h	これまでの総復習を兼ねる	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷

チーム医療特論

英文名：Advanced Team Medical Care

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

学位授与方針との対応：

- ✓看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

渡邊秀臣、寺口顕子、梅原里実、浅香満、山上徹也

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①チーム医療の目的と施設・在宅・地域を貫く広がりの実態を理解し、今日的課題と今後のあり方について検討し、チーム医療を担う高度医療専門職の役割について考察する。
- ②講義形式で行い、レポートの提出を求め、それを基に、最後にグループディスカッションを行う。

到達目標

1. チーム医療の基本的考え方と今日的課題について理解できる。
2. チーム医療の連携の実態と概要について理解できる。
3. チーム医療を担う高度医療専門職者の役割について考えられる。

使用教材

1. 水本清久、岡本牧人、石井邦雄、土本寛二 編集：「実践 チーム医療論 -実態と教育プログラム-」医歯薬出版株式会社
2. Charles Vincent著、相馬孝博/藤澤由和・訳「Patient Safety 患者安全」篠原出版新社
3. 厚労省から出される「チーム医療の推進に関する提言」等を使用

評価方法

授業への参加度（50%）、プレゼンテーション（50%）で総合的に評価する。（オンライン、対面いずれの講義でも同様）

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションを行い、コメントし、次の課題が明確になるよう話し合う。（オンライン、対面いずれの講義でも同様）

オフィスアワー

月曜日3～5限 木曜日1～2限 5号館1階 研究科長室

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	チーム医療の基本的考え方及び求められる資質と今日的課題（渡邊）	1	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。	1.5h	チーム医療の推進に関する現状と課題について整理する。	1.5h
2	チーム医療の中で看護に求められる役割と実際（梅原）	1,2,3	チーム医療の推進の中で看護が果たしている役割について内省し、課題を整理しておく。	1.5h	看護が果たすべき役割に焦点化し不足する学習内容を補完する。	1.5h
3	呼吸リハビリテーションチームの実践を通じたチーム医療の理解（浅香）	2	チーム医療に関する実践の文献や雑誌を読んで概要をつかむ。	1.5h	不足する学習内容を補完する。	1.5h
4	地域リハビリテーションにおけるチーム医療の実際（浅香）	2	チーム医療に関する実践の文献や雑誌を読んで概要をつかむ。	1.5h	不足する学習内容を補完する。	1.5h
5	認知症ケアにおけるチーム医療の実際（山上）	2	チーム医療を実践する上での課題とその解決策・工夫点を検討する。	1.5h	不足する学習内容を補完する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	チーム員の教育とチーム医療（山上）	2,3	学生の実習や新人教育の効果的な実施方法を検討する。	1.5h	不足する学習内容を補完する。	1.5h
7	母性看護学・助産学分野におけるチーム医療の役割と実際（寺口）	1,2,3	チーム医療の推進の中で看護が果たしている役割について内省し、課題を整理しておく。	1.5h	看護が果たすべき役割に焦点化し不足する学習内容を補完する。	1.5h
8	チーム医療の推進に関する課題を整理し、今後の展望を考察（渡邊）各自プレゼンテーションし、それを基にディスカッションする	1,2,3	チーム医療の意義と課題について自己の経験の中から考察し、プレゼンテーションに向けて用意をする。	1.5h	グループディスカッションの中で得られた知見を基に、自己の考えを整理する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

1.授業外学習の進め方

自律的な学習が基本です。チーム医療については、国の施策の変化に注目しつつ、同時に実践的課題が明らかになってきているので、行政的施策や実践報告に目を通しておくこと。

予習・復習のための時間は、1回の授業についておよそ1.5～2時間は取る必要があります。

2.質問や疑問点への対応

- ①随時メールにて対応します。疑問が生じたらすぐに連絡して、解決を図ること。

印刷



チーム医療アプローチ特別演習

英文名：Seminar on team medical approach

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

田中聡一、吉田剛、棚橋さつき

科目に関連した実務経験

非常勤医師、非常勤理学療法士、非常勤訪問看護師として勤務（現在）

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①患者およびその家族の健康問題を解決、QOLの向上を目指すために、多職種によるチームアプローチが必要となる事例を検討し、チームアプローチ医療の理解を深める。看護師、医師、リハビリテーション専門職、栄養士、薬剤師、介護福祉士、ソーシャルワーカーなど各専門職に求められる機能を検討し、チームアプローチを推進するための、それぞれの働きや得意分野、守備範囲を学習した上で、機能的・効率的医療提供に結びつくコーディネート法を理解する。
- ②資料やスライドを使いながら学生同士でディスカッションを行う。

到達目標

1. 具体的事例に対して自分が中心となって討論ができ、チームアプローチ医療に対するチームの考えを発表できる。
2. チームアプローチによる医療の重要性、問題点に対して、事例を提示して、プレゼンターとなって討論し、チームアプローチ医療に対する具体的な解答を発表できる。

使用教材

チーム医療を成功させる10 か条 現場に学ぶチームメンバーの心得(中山書店)ISBN 978-4-521-73707-2

評価方法

参加態度60%、プレゼンテーション20%、レポート20%で総合的に判断する。
* オンライン授業の場合も同様を予定。

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションに対するディスカッション、提出レポートの内容、完成度をコメントする。

オフィスアワー

メール等で学習に関する質問は随時受け付ける。

メールアドレス（#→@）

stanaka#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	チーム医療の現状、それに関わる職種、環境（田中）	1,2	チーム医療の現状、それに関わる職種、環境について調査する。	2h	授業をまとめる。	1h
2	病院におけるチーム医療の演習（田中）	1,2	具体的な病院におけるチーム医療例を発表、ディスカッション、ロールプレイングができる様に準備する。	2h	授業をまとめる。	1h
3	地域におけるチーム医療の演習（田中）	1,2	具体的な地域におけるチーム医療例を発表、ディスカッション、ロールプレイングができる様に準備する。	2h	授業をまとめる。	1h
4	行政・法的支援におけるチーム医療（田中）	1,2	行政・法的支援を発表し、具体的なケースを調査する。	2h	授業をまとめる。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	リハビリテーション医療チームにおける各職種の役割（吉田）	1,2	リハ看護やリハにおける理学療法士の役割について調べる。	2h	臨床場面でのリハチームにおける各職種の役割を整理する。	1h
6	産婦人科領域における助産師と理学療法士の協業について（吉田）	1,2	妊産婦の腰痛や腹圧性尿失禁と骨盤底筋トレーニングについて調べる。	2h	産婦人科領域におけるリハチームについて整理する。	1h
7	看護師の視点から考える医療機関およびチーム医療（棚橋）	1,2	チーム医療について調べる。	2h	授業をまとめる。	1h
8	多職種連携における職種の役割（棚橋）	1,2	地域でかかわる各職種について調べる。	2h	授業をまとめる。	1h

合計時間（予習・復習）



24h

備考



予習、復習は原則として全授業を通して24 時間は行う。演習はグループで行うので、予習、復習は自己学習と、グループ学習の両学習を行う。質問は授業前後、メールで随時。



地域支援学特論

英文名：Advanced Community Support and Care

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

棚橋さつき、寺口顕子、倉林しのぶ、梅原里実、篠原智行

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①在院日数の短縮による病院から在宅・地域への医療の移行や少子高齢化社会における家族の多様化が、健康問題を抱える個人を含む家族や地域にもたらす様々な問題について検討し、個人・家族・地域を繋いだ包括的なサポートについて学ぶ。
 独居老人の生活、老々介護の問題、介護負担、虐待などの社会問題には家族の抱える問題が潜んでいることを学び、地域における療養者、家族の生活を支える看護支援やリハビリテーション、地域における子育てを含めた支援の在り方を学ぶ。
 ②双方向でディスカッションを行いながら進める。

到達目標

1. リハビリテーションを中心とした地域支援の在り方を理解できる。
2. 倫理的側面から家族関係、広くは地域支援をとらえることができる。
3. 地域における認知症高齢者、家族の現状と課題について理解できる。
4. 地域における子育ての現状と課題について理解できる。
5. 在宅における療養者、家族への地域支援について理解できる。

使用教材

- 1) 山口晴保編著；認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント，協同医書出版社
 - 2) 日本在宅ケア学会誌
- * その他適宜資料を活用する。

評価方法

授業参加度・貢献度（30%）、レポート（70%）で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

授業の中でその都度ディスカッションをするとともに講評・コメントする。

オフィスアワー

オフィスアワーは各担当者が、講義開始時に提示する

メールアドレス（#→@）

棚橋：tanahashi#takasaki-u.ac.jp 寺口：teraguchi#takasaki-u.ac.jp
 篠原：shinohara#takasaki-u.ac.jp 倉林：kura#takasaki-u.ac.jp
 梅原：umehara#takasakoi-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	在宅生活を継続するためのリハビリテーション的思考について（篠原）	1	リハビリテーション高齢者のリハビリテーション定義を学習する。	1.5h	在宅生活を維持するための支援ができるように自己学習する。	1.5h
2	地域リハビリテーションを構成する専門職の連携と課題（篠原）	1	地域で障害者・家族を支えるための態勢について事前学習する。	1.5h	地域のネットワークを作るために自分で出来ることを補完学習する。	1.5h
3	行政における地域支援事業①（倉林）	2,3	地域包括ケアシステムおよび行政の高齢者保健施策について調べておく。	1.5h	講義資料を読み直し、地域高齢者支援の課題を整理する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	行政における地域支援事業②（倉林）	2,3	地域包括ケアシステムおよび行政の高齢者保健施策について調べておく。	1.5h	講義資料を読み直し、地域高齢者支援の課題を整理する。	1.5h
5	地域で暮らす認知症高齢者（若年性認知症患者を含む）及び家族のおかれている現状と課題（梅原）	3	新聞やネットニュース等から認知症者や家族等が置かれている社会問題について調べ、事例を持参する。	1.5h	現状から課題を整理する。	1.5h
6	地域における子育ての現状と課題（寺口）	4	子育て世代包括支援センターの制度や社会サービス内容について調べておく。	1.5h	現状の子育て支援における問題を理解する。	1.5h
7	在宅における療養者への支援の在り方（棚橋）	5	地域における療養者の支援方法について書籍等にて調べておく。	1.5h	不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
8	地域支援に関する課題と今後の展望（棚橋）	1,2,3,4,5	地域における課題について最新情報について学習しておく。	1.5h	不足する学習内容を補完学習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

授業内容に基づき自ら学習すべき内容を自律的に学習する。

予習・復習は、原則として全授業をとおして30時間を行う。

学習過程において質問等生じた場合にはメール等や講義開始前、終了後に対応する。

印刷 

健康科学特論

英文名：Advanced Health Science

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

桑原敦志、入澤孝一、角野善司

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①健康寿命の延伸には、栄養、身体活動・運動、心の安静、生体防御機構(免疫)の維持が必須である。本授業では、健康の仕組み、身体活動・運動、心の安静、免疫の基礎知識と自己免疫疾患、生活習慣病とその予防など、健康維持における心身のあり方の重要性を科学的根拠に基づき理解する。
- ②講義の実施方法はオムニバス方式で行う。

到達目標

- 1.健康とは何か、健康の概念について理解できる。
- 2.健康の維持・増進と身体活動・運動との関連性について理解できる。
- 3.身体的健康と精神的健康の関連性について理解できる。
- 4.ストレスによる生体反応と健康障害のメカニズムおよび効果的なストレス対処法について理解できる。
- 5.生体防御と免疫機構について理解できる。

参考文献

参考書：別冊ニュートン「人体完全ガイド」第3版 ISBN 978-4-315-52503-8 ニュートンプレス 2022年 1980円

評価方法

対面で行う場合：課題レポート3部（各30%） 授業の積極性（10%）で総合的に判断する。トータルで100%とする。

オンラインで行う場合：Cラーニングを用いた小テスト（教員各30%）、オンライン授業の積極性（10%）で判断する。トータル100%とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

講義内で質問し、その返答に対する正当性、および発表態度についてディスカッション、提出レポートの内容、完成度をコメント。

オンラインで行う場合は、アンケート回答という形でフィードバックする。

オフィスアワー

水曜日13時から14時30分 5号館3階301研究室

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	健康科学とは？健康寿命の延伸を目指すために（桑原）	1	健康科学に関する文を読んで、自分の持っている知識の整理しておく。	1.5h	配布されたプリントに基づく討論の内容を考察しレポートにまとめる。	1.5h
2	身体活動・運動と健康および健康障害－老化と骨粗しょう症（入澤）	2,3	運動と筋肉・骨格の関係について知識の整理をしていく。	1.5h	授業終了後、配布課題についてレポートにまとめる。	1.5h
3	身体活動・運動と健康および健康障害－肥満（入澤）	2,3	運動・食生活と肥満の関係について知識を整理していく。	1.5h	授業終了後、配布課題についてレポートにまとめる。	1.5h
4	身体活動・運動と健康および健康障害－生活習慣病（入澤）	2,3	運動と生活習慣病についての知識を整理していく。	1.5h	授業終了後、配布課題についてレポートにまとめる。	1.5h
5	身体活動・運動の評価方法（入澤）	2,3	新体力テストについて知識をまとめていく。	1.5h	児童生徒の体力と運動の関連について課題を考察し、レポートにまとめる。	1.5h
6	身体的健康と精神的健康の関連性（角野）	2,3,4	心身の健康の連関に関する基礎知識を学習する。	1.5h	配布プリントに従って、身体的健康と精神的健康の関連性について考察し、レポートにまとめる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	身体的健康度の評価方法（角野）	2,3,4	身体的健康度の評価方法に関する既存の知識を整理するとともに、関連する研究知見を調べる。	1.5h	配布プリントに従って、各種の身体的健康度の評価方法の利点・留意点について、レポートにまとめる。	1.5h
8	精神的健康度の評価方法（角野）	2,3,4	精神的健康度の評価方法に関する既存の知識を整理するとともに、関連する研究知見を調べる。	1.5h	配布プリントに従って、各種の精神的健康度の評価方法の利点・留意点について、レポートにまとめる。	1.5h
9	ストレスと生体反応・健康障害（角野）	2,3,4	ストレス学説に関する基礎知識を学習する。	1.5h	配布プリントに従って、ストレスが生体反応・健康障害を生じさせるメカニズムを理解し、レポートにまとめる。	1.5h
10	ストレス対処行動と評価方法（角野）	2,3,4	ストレスコーピングに関する基礎知識を学習する。	1.5h	配布プリントに従って、コーピングによるストレス緩和効果について、レポートにまとめる。	1.5h
11	生体防御と免疫機構（桑原）	5	免疫機構を理解するための基礎知識を学習する。	1.5h	配布プリントに従って、免疫機構の知見を理解し健康を保つのに役立っているかをレポートにまとめる。	1.5h
12	感染症と免疫（桑原）	5	感染症発症メカニズムや免疫の破たんを学習する。	1.5h	配布プリントに従って感染防御、自己免疫疾患を理解しレポートにまとめる。	1.5h
13	生活習慣病が招く健康破たんの結果とは（桑原）	2,3	糖尿病に関する基礎知識を学習する。	1.5h	配布プリントおよびスライドから糖尿病の診断、治療、予防を理解しレポートにまとめる。	1.5h
14	生活習慣病予防がもたらす社会的利益（桑原）	2,3	メタボリックシンドロームの基礎知識を学習する。	1.5h	配布プリントおよびスライドからメタボリックシンドロームと動脈硬化を理解しレポートにまとめる。	1.5h
15	食事・運動・ストレスコントロールで健康増進（桑原）	2,3,4	健康増進のための方法を学習する。	1.5h	食事や運動により生活習慣病を予防し、ストレスを解消する手段をレポートにまとめる。	1.5h

備考



単位修得に必要な時間を満たしていない場合
記載した予習・復習時間では、単位取得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
予習はノートを作成し、まとめてきた上で講義に望む。復習は講義で学習した事項およびその後の自己学習を加え、エビデンスを持った、現時点で最新の疾患に関する知見を明らかにし、レポート作成を行う。 下記メール等での連絡の上、学習に関する質問等は随時受け付ける。

印刷

病態生理学特論

英文名：Advanced pathophysiology

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

田中聡一、渡邊秀臣、桑原敦志

科目に関連した実務経験

非常勤医師として病院に勤務（現在）

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①患者の身体状況を把握し、適切な診療に結び付けていくために、エビデンスに基づいた情報収集と判断が必要である。そのために必要な臨床検査の種類とその意義について学習し、臓器別の病態生理学を詳細に学び、患者の全体的な病態生理を把握する。
- ②スライドや資料を使いながら講義やディスカッションを行う。

到達目標

- 1.患者の健康管理・病態把握・病状管理のために必要な理学的所見および病態生理を説明できる。
- 2.適切な病態把握と臨床検査の方法、そしてそれを身体所見と結びつけて考え、適切な治療を選択できる。
- 3.理学的所見や臨床検査学を通じて得られた情報から病態生理の知識に裏づけた医療的アプローチが実践できる。

使用教材

北川美千代(2012)臨床家のための基礎からわかる病態生理学(医道の日本社)

評価方法

参加態度80%、レポート20%で総合的に判断する。

* オンライン授業の場合も同様を予定。

課題・評価に対するフィードバック方法

講義内で質問し、その返答に対する正当性、および発表態度についてディスカッション、提出レポートの内容、完成度をコメント。

オフィスアワー

メール等で学習に関する質問は随時受け付ける。

メールアドレス（#→@）

stanaka#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	臨床検査から病態を考察（桑原）	1,2,3	臨床検査に関して基礎知識を学習しておく。	1.5h	実際の患者データをみて、病態を検討し、関連する疾患を考察しレポートにまとめる。	1.5h
2	感染症の病態生理と院内感染（桑原）	1,2,3	感染症、院内感染防止について基礎知識を学習しておく。	1.5h	感染症の実態と感染経路別院内感染防止策を考察しレポートにまとめる。	1.5h
3	甲状腺疾患の病態生理（桑原）	1,2,3	甲状腺疾患に関する基礎知識を学習しておく。	1.5h	甲状腺疾患合併妊娠に関する注意点を考察しレポートにまとめる。	1.5h
4	自己免疫疾患の病態生理（桑原）	1,2,3	アレルギーと自己免疫疾患に関する基礎知識を学習しておく。	1.5h	疫機序の破たんによる疾患を考察しレポートにまとめる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	呼吸器疾患の病態生理（桑原）	1,2,3	慢性閉塞性肺疾患に関する基礎知識を学習しておく。	1.5h	慢性閉塞性肺疾患の成因および対応を考察しレポートにまとめる。	1.5h
6	循環器疾患の病態生理（桑原）	1,2,3	心臓の解剖、生理学および検査を学習しておく。	1.5h	心電図の成り立ちと心電図からわかることを考察しレポートにまとめる。	1.5h
7	骨折の病態生理（渡邊）	1,2,3	骨折を起こしやすい部位と種類を学習しておく。	1.5h	骨折の対応法をレポートにまとめる。	1.5h
8	骨、関節系の痛み（渡邊）	1,2,3	骨、関節系で頻度の高いものを調べておく。	1.5h	痛みの原因となるものをレポートにまとめる。	1.5h
9	ロコモティブ症候群（渡邊）	1,2,3	ロコモティブ症候群の定義と病態を調べておく。	1.5h	ロコモティブ症候群の対策をレポートにまとめる。	1.5h
10	内分泌系の生理と疾患（田中）	1,2,3	代表的な内分泌器官を挙げ、放出されるホルモンについて学習しておく。	1.5h	放出されるホルモンの標的とその作用についてレポートにまとめる。	1.5h
11	消化器系の生理と疾患（田中）	1,2,3	食道、胃、十二指腸、小腸、大腸にみられる疾患について学習しておく。	1.5h	肝臓、胆道系、膵臓にみられる疾患についてレポートにまとめる。	1.5h
12	腎・泌尿器系の生理と疾患（田中）	1,2,3	腎臓、尿路、膀胱、尿道のマクロ、ミクロの病理および解剖（含む血管系、内分泌系、神経系）を学習する。	1.5h	腎臓、尿路、膀胱、尿道に関する疾患について解剖・病態生理の視点から説明し、レポートにまとめる。	1.5h
13	神経系の生理と疾患（田中）	1,2,3	中枢神経、末梢神経、筋肉のマクロ、ミクロの病理および解剖（含む血管系、内分泌系）を学習する。	1.5h	中枢神経、末梢神経、筋肉に関する疾患について解剖・病態生理の視点から説明し、レポートにまとめる。	1.5h
14	感覚器の生理と疾患（田中）	1,2,3	体性感覚系のマクロ、ミクロの病理および解剖（含む血管系、内分泌系、神経系）を学習する。	1.5h	体性感覚系に関する疾患について解剖・病態生理の視点から説明し、レポートにまとめる。	1.5h
15	口腔の生理と疾患（田中）	1,2,3	口腔、歯のマクロ、ミクロの病理および解剖（含む血管系、内分泌系、神経系）を学習する。	1.5h	口腔、歯に関する疾患について解剖・病態生理の視点から説明し、レポートにまとめる。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

予習、復習は原則として全授業を通して60時間は行う。予習はノートを作成し、まとめてきた上で講義に望む。復習は講義で学習した事項およびその後の自己学習を加え、エビデンスを持った、現時点で最新の疾患に関する解剖・病態生理の視点をもって、レポート作成を行う。下記メール等での連絡の上、学習に関する質問等は随時受け付ける。オフィスアワーは授業前後。

印刷

医療栄養学特論

英文名：Advanced medical nutrition

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

竹内真理

科目に関連した実務経験

管理栄養士として国立病院機構に勤務（経験）、健大附属クリニック管理栄養士兼任

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①傷病者のための適切な栄養療法を見極め、治療方針（栄養療法）を提案できる知識を身につけること。また、傷病者のQOLを損なうことなく栄養療法を実践できる知識を身につけることを目的とする。
- ②授業は、配布資料を用いて進める。事例や症例検討を通して、知識と実践力を身に着ける。

到達目標

- 臨床現場における傷病者の様々な病態を把握し、疾病に応じた栄養療法を選択できる力を修得する。
- 栄養スクリーニングおよび栄養アセスメントを実施し、必要栄養量や栄養補給方法を選択できる能力を修得する。
- ベッドサイドや在宅医療の現場での栄養管理を実践し、栄養ケアプランを立案する能力を修得する。
- NST活動などのチーム医療においてディレクターやアシスタントディレクターとして活躍できる力を養う。

使用教材

各講義時に資料を配布する。

参考文献

静脈経腸栄養ハンドブック（南江堂）、NSTガイドブック（メディカルレビュー社）、病態栄養ガイドブック（メディカルレビュー社）

評価方法

授業中の発表や発言内容（50%）、学習意欲（20%）、レポート提出（30%）にて総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

授業の中で、その都度ディスカッションするとともに評価およびコメントする。

オフィスアワー

木曜2-4時限。1号館308研究室

メールアドレス（#→@）

mtakeuchi@takasaki-u.ac.jp 質問等はメールでも受け付けます。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	栄養評価。栄養スクリーニングと栄養アセスメント	1,2	学部の栄養学を復習しておく	1.5h	学習した内容を次の講義までに再度確認する	1.5h
2	栄養補給量（投与エネルギー、栄養素、水、電解質など）の算定と栄養補給法の選択	1,2	配布資料の指定箇所を事前に目を通す	1.5h	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する	1.5h
3	栄養ケアプランの立案（診断計画、治療計画、教育計画）	1,2	配布資料の指定箇所を事前に目を通す	1.5h	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	栄養補給の方法①（経口摂取，栄養補助食品の使い方）	1,2	配布資料の指定箇所を事前に目を通す	1.5h	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する	1.5h
5	栄養補給の方法②（経腸栄養，静脈栄養）	1,2	配布資料の指定箇所を事前に目を通す	1.5h	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する	1.5h
6	日本人の食事摂取基準，食生活指針，食事バランスガイド	1,2	配布資料の指定箇所を事前に目を通す	1.5h	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する	1.5h
7	栄養ケアプロセス（NCP）と栄養診断	1,2,4	配布資料の指定箇所を事前に目を通す	1.5h	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する	1.5h
8	チーム医療とNST活動	1,2,4	配布資料の指定箇所を事前に目を通す	1.5h	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する	1.5h
9	入院患者の退院支援	1,2,4	配布資料の指定箇所を事前に目を通す	1.5h	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する	1.5h
10	在宅患者の栄養管理	1,2,4	配布資料の指定箇所を事前に目を通す	1.5h	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する	1.5h
11	病態別栄養管理（内科領域）①	1,2,3,4	配布資料の指定箇所を事前に目を通す	1.5h	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する	1.5h
12	病態別栄養管理（内科領域）②	1,2,3,4	配布資料の指定箇所を事前に目を通す	1.5h	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する	1.5h
13	病態別栄養管理（外科領域）①	1,2,3,4	配布資料の指定箇所を事前に目を通す	1.5h	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する	1.5h
14	病態別栄養管理（外科領域）②	1,2,3,4	配布資料の指定箇所を事前に目を通す	1.5h	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する	1.5h
15	まとめ	1,2,3,4	今まで学んだ栄養管理について，自分の専門職の領域でどのように活かすことができるのか考える	1.5h	自分の思い描く看護師像についてまとめる	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

予習復習時間はレポート作成のための学習時間で補完すること
オンラインで実施する場合：状況に応じ，講義内容，評価方法，試験は変更することがある。

印刷 

薬物動態学特論

英文名：Advanced Biopharmaceutics

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

荻原琢男

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①薬物の生体膜透過機構、生体内での吸収、体内分布、代謝および排泄を理解し、ファーマコキネティクス理論による体内薬物濃度の解析と血中薬物濃度モニタリング（TDM）の意義を学ぶ。また、妊娠時や授乳時に注意すべき医薬品について、事例を示しながら概説する。
- ②対面で行う。

到達目標

- 1.薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬効発現の関わりについて説明できる。
- 2.薬物の代表的な投与方法（剤形、投与経路）を列挙し、その意義を説明できる。
- 3.経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化（崩壊、分散、溶解など）を説明できる。
- 4.妊娠時の服用について、特に胎児移行の観点から注意すべき薬物について、説明できる。
- 5.授乳時の服用について、特に乳汁移行の観点から注意すべき薬物について、説明できる。

使用教材

基礎からわかる妊婦・授乳婦のくすりと服薬指導 第2版 ナツメ社

参考文献

「エピソード薬物動態学」 辻彰 京都廣川書店

評価方法

複数回の症例レポート（50%）と期末試験（50%）によって、薬物動態学の総合的な理解度を測る。

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。

オフィスアワー

講義当該時限の前後の時

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	薬物の生体内運命を理解するための、薬物動態学の意義を学ぶ	1	シラバスを予習しておくこと。	1.5h	本科目の概要・課題について復習し、理解すること。	1.5h
2	薬物の生体膜透過機構と吸収、代表的な投与方法について学び、薬物動態学と製剤学の関連について	2,3	講義内容について概要を調べておく。	1.5h	講義内容をまとめ、理解する。	1.5h
3	薬物の生体膜透過機構と吸収、代表的な投与方法について学び、薬物動態学と製剤学の関連について	2,3	講義内容について概要を調べておく。	1.5h	講義内容をまとめ、理解する。	1.5h
4	薬物の体内分布、排泄およびファーマコキネティクス理論の基礎（分布容積、クリアランスなど）	1	講義内容について概要を調べておく。	1.5h	講義内容をまとめ、理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	薬物の体内分布、排泄およびファーマコキネティクス理論の基礎（分布容積、クリアランスなど）	1	講義内容について概要を調べておく。	1.5h	講義内容をまとめ、理解する。	1.5h
6	薬物の代謝とそれに関わる酵素、その阻害および誘導、代謝に関わる相互作用について	1,2	講義内容について概要を調べておく。	1.5h	講義内容をまとめ、理解する。	1.5h
7	妊娠時の服用について、特に胎児移行の観点から注意すべき薬物について①	1,4	講義内容について概要を調べておく。	1.5h	講義内容をまとめ、理解する。	1.5h
8	妊娠時の服用について、特に胎児移行の観点から注意すべき薬物について②	1,4	講義内容について概要を調べておく。	1.5h	講義内容をまとめ、理解する。	1.5h
9	授乳時の服用について、特に乳汁移行の観点から注意すべき薬物について①	1,5	講義内容について概要を調べておく。	1.5h	講義内容をまとめ、理解する。	1.5h
10	授乳時の服用について、特に乳汁移行の観点から注意すべき薬物について②	1,5	講義内容について概要を調べておく。	1.5h	講義内容をまとめ、理解する。	1.5h
11	薬物動態パラメータの算出方法とその意味について	1,2,3,4,5	講義内容について概要を調べておく。	1.5h	講義内容をまとめ、理解する。	1.5h
12	薬効に個人差が生じた場合の薬物の投与設計（投与量、投与間隔等）について、実際の事例を通じて理解する（演習形式）	1,2,3	講義内容について概要を調べておく。	1.5h	講義内容をまとめ、理解する。	1.5h
13	薬効に個人差が生じた場合の薬物の投与設計（投与量、投与間隔等）について、実際の事例を通じて理解する（演習形式）	1,2,3	講義内容について概要を調べておく。	1.5h	講義内容をまとめ、理解する。	1.5h
14	薬物動態学の最近のトピックス	1,2,3,4,5	講義内容について概要を調べておく。	1.5h	講義内容をまとめ、理解する。	1.5h
15	薬物動態学特論のまとめ	1,2,3,4,5	講義内容について概要を調べておく。	1.5h	講義内容をまとめ、理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

予習・復習は原則として、全授業をとおして45時間は行う。

印刷

医療倫理学特論

英文名：Advanced Medical Ethics

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる

修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

倉林しのぶ、大石柱子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①近年の生命倫理学・医療倫理学に関する諸問題を学ぶだけにとどまらず、臨床現場で起こりうる個々の倫理的問題について検討する。また、“医療を行う側”と“医療を受ける側”それぞれの立場における価値観の相違や、倫理的問題を取り巻く背景を理解しながら問題解決の方策を探る。
- ②具体的な事例を用い理論的な検討を行う。また、文献購読やグループディスカッションを通して、自己と他者との価値観の相違や個をとり巻く背景を理解しながら問題解決の方策を探る。

到達目標

- 1.医療を支える人間と生についての基本的な理念を理解できる。
- 2.現代医療の倫理的問題について、正確な知識と多角的な視野をもつことができる。
- 3.医療職が臨床で直面する倫理的問題を理解できる。
- 4.医療職、患者、家族それぞれの価値観の違いを理解できる。
- 5.倫理的問題の背景を理解しながら、問題解決に向けた方策を検討できる。

使用教材

テキストは使用しない。配布資料を中心とする。

参考文献

参考文献： 霜田求：テキストブック生命倫理。法律文化社 2018、赤林朗：入門・医療倫理Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 勁草書房 2009、福井次矢編：臨床倫理学入門 医学書院、2003
生命倫理学会誌、死の臨床研究会誌 等

評価方法

レポート（30％） 授業参加度・授業貢献度（70％）
オンラインの場合もZOOM等を利用し講義を行うため、同様に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

グループディスカッション、また、事例検討では、その都度、講評とともにコメントする。
オンラインの場合も同様に、C-learning等を活用してコメントをフィードバックする。

オフィスアワー

倉林：オフィスアワー：月曜日・火曜日の11：00～13：00
大石：オフィスアワー：月曜日13：00～14：00、金曜日10：45～12：15

メールアドレス（#→@）

倉林：kura#takasaki-u.ac.jp
大石：oishi#takasaki-u.ac.jp
＊メールの場合は専攻と氏名を必ず記載すること。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	新生児医療における代理決定（大石）	1,2,3	シラバスの講義内容を確認し、配布プリントに目を通す。	1.5h	講義資料を見直し、課題を完成させる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
2	尊厳死とACP（大石）	2,3,4,5	シラバスの講義内容を確認し、配布プリントに目を通す。	1.5h	講義資料を見直し、課題を完成させる。	1.5h
3	海外における安楽死の事情（大石）	2,3,4	シラバスの講義内容を確認し、配布プリントに目を通す。	1.5h	講義資料を見直し、課題を完成させる。	1.5h
4	エンハンスメントー「より良い生」を求める技術と「弱さ」の価値（大石）	1,2,5	シラバスの講義内容を確認し、配布プリントに目を通す。	1.5h	講義資料を見直し、課題を完成させる。	1.5h
5	出生前検査（1）診断技術と現状（大石）	2,3,4,5	シラバスの講義内容を確認し、配布プリントに目を通す。	1.5h	講義資料を見直し、課題を完成させる。	1.5h
6	出生前診断（2）過去の優生学と技術の意義（大石）	2,3,4,5,	シラバスの講義内容を確認し、配布プリントに目を通す。	1.5h	講義資料を見直し、課題を完成させる。	1.5h
7	グリーフケア（大石）	2,3,4,5	シラバスの講義内容を確認し、配布プリントに目を通す。	1.5h	講義資料を見直し、課題を完成させる。	1.5h
8	臨床の倫理（1）医療における倫理とは何か（倉林）	1,2,3	シラバスの講義内容を確認しテーマに沿った自分の考えをまとめておくこと。	1.5h	講義資料を見直し、医療職、患者、家族それぞれの価値観の違いについて振り返る。	1.5h
9	臨床の倫理（2）生と死にかかわる倫理的課題（倉林）	1,2,3	生殖または死に関わる場面での倫理的課題について考える。	1.5h	講義資料を見直し、自身の研究にリンクして考える。	1.5h
10	臨床の倫理（3）研究倫理（倉林）	3,4	看護研究法で学んだ研究倫理について振り返りかえておく。	1.5h	講義資料を見直し、自身の研究に関する倫理的配慮について考える。	1.5h
11	文献抄読1（倉林）	3,4	医療倫理・臨床倫理に関する文献を読み、内容を把握する。	1.5h	ディスカッションの内容から学んだことを振り返る。	1.5h
12	文献抄読2（倉林）	3,4	医療倫理・臨床倫理に関する文献を読み、内容を把握する。	1.5h	ディスカッションの内容から学んだことを振り返る。	1.5h
13	事例検討（1）（倉林）	2,3,4,5	文献を読み込み、資料を作成する。	1.5h	資料文献を見直す。	1.5h
14	事例検討（2）（倉林）	2,3,4,5	文献を読み込み、倫理的課題とその解決に向けた方向性について考える。	1.5h	ディスカッションの内容から学んだことを振り返る。	1.5h
15	事例検討（3）（倉林）	2,3,4,5	文献を読み込み、倫理的課題とその解決に向けた方向性について考える。	1.5h	ディスカッションの内容から学んだことを振り返り、医療者としてそれをどのように活かせるかを検討する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- ・授業はディスカッションを中心に行う。積極的に参加できることを重視する。
- ・事前に文献等を配布された場合、よく読み自分なりの考えをもって講義に参加すること。
- ・オンラインの場合、C-learning また動画配信による講義を行う。また、出席管理は C-learning 上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する。

印刷



教育学特論

英文名：Advanced Education

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

小池洋子、茂木佐智子、樋口大輔

科目に関連した実務経験

病院の教育担当経験

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①専門職として後輩の育成に携わる者としての教育的機能を発揮できる能力を養うことを目的とする。教育対象者は青年期から成人期にあることから成人学習理論、経験学習理論を中心に教育活動を行うための知識・技術を学修する。
- ②講義において教育学の基礎知識を学習後、授業展開のプロセスを踏まえ模擬授業を実施する。

到達目標

- 1.自己が経験してきた学習を通し、教育と学習について理解する。
- 2.対象である青年期から成人期の学習者としての特徴を理解する。
- 3.成人学習者の学習支援の方法について理解する。
- 4.医療専門職の制度と教育体系を理解する。
- 5.教育分野におけるICT活用の現状を理解する。
- 6.教育学に基づく、授業展開過程を理解し、授業を設計する。
- 7.評価の種類と意義を理解し、授業を評価・改善することを価値づける。

使用教材

必要に応じ資料を配布する。

参考文献

舟島なをみ：看護教育学第8版。医学書院、2023年

舟島なをみ：看護学教育における授業展開－質の高い講義・演習・実習の実現に向けて-第2版。医学書院、2020年

丸山仁司：リハビリテーション専門職のための教育学現場で役立つ「教える技術」。医歯薬出版株式会社、2021年

松尾睦：職場が生きて育つ「経験学習」入門。ダイヤモンド社、2011年

評価方法

授業への参加度（50％） 課題についてのプレゼンテーション内容（50％）

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションを行いつつ、コメント・評価し、次の課題を明確化する。

オフィスアワー

5号館207研究室 火13：00～17:00

メールアドレス（#→@）

koike-y#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、教育、学習について（小池）	1	シラバスを読んでおく	1.5h	教育・学習について概念を整理する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
2	専門職を教育する対象者の発達段階と学習の特徴 青年期・成人期の特徴、成人学習（茂木）	2	現在、関わっている指導対象者の特徴を整理しておく	1.5h	対象者の現状を把握することの必要性和成人学習者に対する支援についての考えをまとめる	1.5h
3	臨床での学習支援 経験学習、リフレクション（小池）	3	経験学習について事前学習をする	1.5h	経験を学習にする過程を整理し、学習者への支援の考えをまとめる	1.5h
4	医療専門職の教育体系 看護職、リハビリテーション専門職、その他（小池）	2,4	自分が有する資格の法的位置づけと教育体系を確認しておく	1.5h	医療関係職種のエド育体系を整理する	1.5h
5	授業展開過程① 授業設計と授業の組織化（小池）	2,4,5,6	授業設計について事前学習しておく	1.5h	授業設計の意義について自己の考えをまとめる	1.5h
6	授業展開過程② 教育目的・目標の設定（小池）	2,3,5,6	教育目的・目標の設定、授業方法について事前学習しておく	1.5h	授業設計する上で教育目的・目標を設定する意義について考えをまとめる	1.5h
7	授業展開過程③ 教育におけるICT活用（樋口）	2,5,6	教育評価の定義について事前学習しておく	1.5h	評価の意義を整理する	1.5h
8	授業展開過程④ 授業評価について（小池）	2,5,7	評価の種類について調べておく	1.5h	教育目標と教育評価の関連について整理する	1.5h
9	授業展開過程の演習① 授業案の作成（小池・茂木・樋口）	2,5,6,7	模擬授業実施のための授業案を作成する	1.5h	コメントを受け、授業案を修正する	1.5h
10	授業展開過程の演習② 授業案の作成（小池・茂木・樋口）	2,4,5,6,7	模擬授業実施のための授業案を作成する	1.5h	コメントを受け、授業案を修正する	1.5h
11	授業展開過程の演習③ 授業案の作成（小池・茂木・樋口）	2,4,5,6,7	模擬授業実施のための授業案を作成する	1.5h	コメントを受け、授業案を修正する	1.5h
12	授業展開過程の演習④ 授業案の作成（小池・茂木・樋口）	2,4,5,6,7	模擬授業実施のための授業案を作成する	1.5h	コメントを受け、授業案を修正する	1.5h
13	授業展開過程の演習⑤ 模擬授業（小池・茂木・樋口）	2,4,5,6,7	模擬授業を実施する準備をする	1.5h	模擬授業を実施しての振り返りを行う	1.5h
14	授業展開過程の演習⑩ 模擬授業実施の評価と改善（小池・茂木・樋口）	2,4,5,6,7	模擬授業を実施しての自己評価を行う。	1.5h	授業展開過程をとおして理解したことを整理する。	1.5h
15	まとめ（小池）	1,2,3,4,5,6,7	1回～14回に学習した内容を復習しておく	1.5h	学習した内容を整理する	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- 1.授業外の学習の取り組み方
1) 自律的に学習することが基本である。
2) 各自が模擬授業を実施するため、模擬授業で取り上げる内容について知識を整理する。
3) 予習・復習の時間：各授業に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。
2.その他 オンライン授業となった場合はZOOMを用いる。

印刷



英文読解・英作文の技法

英文名：English for Health Care Science

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：1単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

松田幸子

SDGsとの関連

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

保健医療学の論文を読み書きするのに必要な、基礎的な英語の読解力と表現力を養う。

この授業は、基礎的な英語の読解力と表現力の向上を目的とする。

学生による発表をもとに講義を行う。

到達目標

- 1.論理的な英文構成を理解することができる。
- 2.幅広い英語の表現方法を理解することができる。

使用教材

『はじめてのアカデミックライティング』・田地野彰監修・朝日出版社・2020・1,980円(本体1,800円+税)

『5分間 英文書き換えトレーニング』・小中秀彦・南雲堂・2016・770円(本体700円+税)

国際誌掲載論文のアブストラクト(授業で配布)

評価方法

授業中の発表(70%)、課題(30%)

課題・評価に対するフィードバック方法

授業中の発表に対しては、その場でコメントをする。提出課題については、コメントをつけて返却する。

オフィスアワー

質問および学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、アカデミックライティングとは、名詞節の書き換え。	1,2	使用教材1のUnit 1、使用教材2のLessons 1 - 3	1.5h	授業で扱った内容の見直し。	1.5h
2	叙述文の書き方、形容詞節・副詞節の書き換え。	1,2	使用教材1のUnit 2、使用教材2のLessons 4 - 6	1.5h	授業で扱った内容の見直し。	1.5h
3	比較・対比を表す文章の書き方、副詞節の書き換え。	1,2	使用教材1のUnit 3、使用教材2のLessons 7 - 9	1.5h	授業で扱った内容の見直しと作文課題。	1.5h
4	原因・結果を表す文章の書き方、不定詞・分詞構文などの活用。	1,2	使用教材1のUnit 4、使用教材2のLessons 10 - 12	1.5h	授業で扱った内容の見直し。	1.5h
5	論述文の書き方、態の書き換え。	1,2	使用教材1のUnit 5、使用教材2のLessons 13 - 15	1.5h	授業で扱った内容の見直し。	1.5h
6	論述文の書き方、主語の書き換え。	1,2	使用教材1のUnit 6、使用教材2のLessons 16 - 18	1.5h	授業で扱った内容の見直しと作文課題。	1.5h
7	抄録の書き方、主語の書き換え。	1,2	Abstract 1、使用教材2のLessons 19 - 20	1.5h	授業で扱った内容の見直し。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	抄録の書き方。	1,2	Abstract 2	1.5h	授業で扱った内容の見直しと作文課題。	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

予習欄にある指定教材の範囲をしっかりと準備して授業に臨むこと。

印刷

看護学研究法

英文名：Advanced Research Methods in Nursing Science

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

石田順子、倉林しのぶ、吉田久美子、砂賀道子、堀越摂子、赤堀八重子、廣井寿美、桐山勝枝、武居明美

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①量的研究法：保健医療におけるエビデンス構築のための量的研究の意義・役割および研究に必要な基礎的知識を習得する。調査研究、実験研究、準実験研究および介入研究のプロセス（研究テーマの明確化、文献検討、研究デザインの選択、対象の選定、データ収集方法、データ分析方法、結果、考察）について習得する。人を対象とする研究の特殊性・倫理性を踏まえ、妥当性・信頼性の高い研究とはどのようなものか、研究をクリティックするための視点を理解する。

質的研究法：保健医療における質的研究の意義・役割および研究に必要な基礎的知識を習得する。代表的な分析方法（内容分析、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ、事例研究）について、研究のプロセス（研究テーマの明確化、文献検討、研究デザインの選択、対象の選定、データ収集方法、データ分析方法、結果、考察）について修得する。人を対象とする研究の特殊性・倫理性を踏まえ、妥当性・信頼性の高い研究とはどのようなものか、研究をクリティックするための視点およびデータの種類、真実性を高めるためのデータ収集・データ分析方法の特徴について理解する。

②9人の教員が、オムニバスで講義をすすめる。

到達目標

- 保健医療における量的研究と質的研究の意義・役割について説明できる。
- 人を対象とする研究の特殊性・倫理性を踏まえ、妥当性・信頼性の高い研究とはどのようなものか、研究をクリティックするための視点を記述できる。
- 各研究方法の特徴およびプロセスを説明できる。

使用教材

講義はその都度資料を作成し配布する。

参考文献

近藤潤子監訳：看護研究 原理と方法、医学書院
 福原俊一：臨床研究の道標、健康医療評価研究機構
 黒田裕子他監訳：バーンズ&グループ 看護研究入門－実施・評価・活用－、エルゼビア・ジャパン
 Burns & Grove: The practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence (6th Ed) , ELSER SAUNDERS.
 対馬栄輝：医療系研究論文の読み方・まとめ方、東京図書
 対馬栄輝、石田水里：医療系データのとり方・まとめ方、東京図書
 野口美和子監訳：ナースのための質的研究入門、医学書院
 宣間真美（2007）：質的研究実践ノート、医学書院
 オモクレイグヒル滋子：質的研究方法セミナール グラウンデッド・セオリー・アプローチを学ぶ、医学書院
 木下康之：M-GTA グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践 質的研究への誘い、弘文堂
 木下康之：ライブ講義 M-GTA、弘文堂 等

評価方法

プレゼンテーション（30％） レポート（70％）で評価する。総合評価60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

文献クリティックにおけるプレゼンテーションに対してその都度、ディスカッションするとともに講評及びコメントをする。レポートにはコメントを付し返却する。

オフィスアワー

火曜日（9:00～19:00）403研究室

メールアドレス（#→@）

jishida#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	保健医療における量的研究の意義・役割（石田）	1,2,3	量的研究について調べておく。	1.5h	配布された資料に目を通し、看護研究の目的、意義、研究デザイン、研究倫理についてまとめておく。	1.5h
2	看護研究における倫理（倉林）	1,2	看護研究における倫理について調べておく。	1.5h	配布された資料に目を通し、看護研究における倫理および倫理審査についてまとめておくこと。	1.5h
3	文献レビューと文献の整理（砂質）	1,2	参考文献 1) の 5 章を参考に文献レビューの方法及びクリティークについて調べておく。	1.5h	授業で指示された文献を読み、クリティークするとともに文献レビューを行う。	1.5h
4	文献クリティーク（吉田）	2	参考文献 1) の 5 章を参考に文献レビューの方法及びクリティークについて調べておく。	1.5h	授業で指示された文献を読み、クリティークするとともに文献レビューを行う。	1.5h
5	調査研究（石田）	2,3	調査研究について、参考文献を活用し、調べておくこと。	1.5h	①配布された資料に目を通し、調査研究のポイントについてまとめる。②調査研究に関する文献クリティークの準備を行う。③不足する学習内容を補完する。	1.5h
6	学生による文献クリティーク：調査研究（プレゼンテーションとディスカッション）（石田）	2	課題として配布された調査研究の文献をクリティークしてくること。	1.5h	①ディスカッションからの学びをまとめる。②不足する学習内容を補完する。自分の興味のある文献を1件、クリティークし提出する。	1.5h
7	実験研究と介入研究（廣井，桐山）	2,3	実験・介入研究について、参考文献を活用し、調べておく。	1.5h	①配布された資料に目を通し、実験・介入研究のポイントについてまとめる。②文献クリティークの準備を行う。③不足する学習内容を補完する。	1.5h
8	学生による文献クリティーク：実験研究・介入研究（プレゼンテーションとディスカッション）（桐山，廣井）	2	自分の興味のある実験研究または介入研究の文献をクリティークしてくること。	1.5h	①ディスカッションからの学びをまとめる。②不足する学習内容を補完する。	1.5h
9	保健医療における質的研究の意義と役割（堀越）	1,2,3	質的研究について調べておく。	1.5h	①配布された資料を振り返り、質的研究の意義・役割、研究倫理についてまとめる。②質的研究の真実性を高める方法についてまとめる。③不足する学習内容を補完する。	1.5h
10	質的統合法（KJ法）（赤堀）	2	質的統合法（KJ法）について調べておく。	1.5h	①ディスカッションからの学びをまとめる。②不足する学習内容を補完する。	1.5h
11	内容分析（ベレルソン・クリップンドルフ）（吉田）	2,3	内容分析について参考文献より調べておく。	1.5h	①配布された資料を振り返り、内容分析についてポイントをまとめておく。②不足する学習内容を補完する。	1.5h
12	修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（砂質）	2,3	修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチについて、参考文献を活用し、調べておく。	1.5h	①配布された資料を振り返り、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチのポイントをまとめておく。②不足する学習内容を補完する。	1.5h
13	事例研究（武居）	2,3	事例研究について、参考文献より調べておく。	1.5h	①配布された資料を振り返り、事例研究のポイントをまとめる。②不足する学習内容を補完する。	1.5h
14	学生による質的研究の文献クリティーク（プレゼンテーションとディスカッション）（堀越）	2	自分の研究課題に関連した質的研究の文献について、クリティークを行う。	1.5h	①ディスカッションからの学びをまとめる。②不足する学習内容を補完する。	1.5h
15	看護研究計画書の作成（石田）	1,3	研究計画書について調べておく。	1.5h	①配布された資料を振り返り、研究計画書に記載する内容についてまとめておく。②不足する学習内容を補完する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

授業外学習について

- ・自分の取り組みたい研究課題を見据え、研究方法を理解するために、予習・復習を行うこと。
- ・プレゼンテーションを行うため、積極的に文献を収集し、主体的に学習を進めていくこと。
- ・予習・復習は原則として、各授業の前後に90分以上の時間をかける必要がある。
- ・出席はC-Learningとする。

※学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールで対応する。

責任者以外のメールは、各講義で確認すること

印刷

がん看護学特論 I

英文名：Advanced Cancer Nursing I

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

吉田久美子、石田順子、砂賀道子、神田清子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①成人期におけるがんが患者と家族にもたらす反応、患者の健康、患者と家族のQOLの向上を目指した看護実践のあり方について、がん看護において重要な概念や理論を用いて理解する。がんの告知と治療選択における意思決定を支える看護、手術療法や化学療法に伴う看護、緩和ケアにおける看護についての現状と課題について探求する。
- ②講義形式で行う。

到達目標

- 1.がん看護における重要な概念や理論について実際の現象から概要を説明できる。
- 2.がん看護領域における健康障害を抱えながら生活する成人期の患者と家族の反応を理解し、必要な看護実践方法および課題について概要を説明できる。

使用教材

日本看護科学学会誌、日本がん看護学会誌、日本看護研究学会誌などから論文を紹介する。
他、必要に応じて教材を提示あるいは紹介する。

評価方法

プレゼンテーション（30％） レポート（70％）
※オンライン授業の場合には、Meet、またはZoomを通じて行うため評価方法は上記と同様とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションやレポートについて課題に対する要点を口頭あるいはコメントをつけ返却する。
※オンライン授業の場合には、Meet、またはZoomを通じて講評・コメントすることを原則とする。
レポートについては、必要に応じてC-learning【レポート】機能を通じて、コメントを付して返却する。

オフィスアワー

月曜1～4限

メールアドレス（#→@）

yoshikumi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション がん看護学の動向について（吉田）	1	がん患者や治療の動向をふまえ、がん看護学の動向について学習すること。	1.5h	がん患者や治療の動向をふまえ、がん看護学の動向について学習すること。	1.5h
2	がん看護学の基盤となる理論について（吉田）	1	授業で学習した理論について臨床の患者と関連づけ理解すること。	1.5h	授業で学習した理論について臨床の患者と関連づけ理解すること。	1.5h
3	がん看護学の基盤となる理論について（石田）	1	授業で学習した理論について臨床の患者と関連づけ理解すること。	1.5h	授業で学習した理論について臨床の患者と関連づけ理解すること。	1.5h
4	がん看護学における倫理的課題と看護の役割について（神田）	1,2	倫理的判断が迫られる局面と思考過程について学習すること。	1.5h	倫理的判断が迫られる局面と思考過程について学習すること。	1.5h
5	がんの治療選択における意思決定を支える看護について（石田）	1,2	意思決定が必要となる状況と看護師の役割について学習すること。	1.5h	意思決定が必要となる状況と看護師の役割について学習すること。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	化学療法を受ける患者の症状マネジメント／セルフケアについて（吉田）	1,2	化学療法の特徴と必要となる症状マネジメントをふまえ、看護研究から現状と課題を理解すること。	1.5h	化学療法の特徴と必要となる症状マネジメントをふまえ、看護研究から現状と課題を理解すること。	1.5h
7	手術を受けるがん患者・家族を支える看護について／危機理論（砂賀）	1,2	手術を受ける患者の適応について理解し、そのための看護を思考すること。	1.5h	手術を受ける患者の適応について理解し、そのための看護を思考すること。	1.5h
8	手術を受けるがん患者・家族を支える看護について／適応理論（砂賀）	1,2	手術を受ける患者の適応について理解し、そのための看護を思考すること。	1.5h	手術を受ける患者の適応について理解し、そのための看護を思考すること。	1.5h
9	手術を受けるがん患者と家族を支える看護の実際と課題について（砂賀）	1,2	手術を受ける患者の実状をふまえ、看護の課題を捉えること。	1.5h	手術を受ける患者の実状をふまえ、看護の課題を捉えること。	1.5h
10	治療を受けるがん患者を支える家族への看護について①（石田）	1,2	治療をうける患者を支える家族の特徴を理解すること。	1.5h	治療をうける患者を支える家族の特徴を理解すること。	1.5h
11	治療を受けるがん患者を支える家族への看護について②（石田）	1,2	治療をうける患者を支える家族への看護を考察すること。	1.5h	治療をうける患者を支える家族への看護を考察すること。	1.5h
12	終末期にある患者および家族の全人的苦痛について①（吉田）	1,2	終末期にある患者と家族の特徴を全人的に理解すること。	1.5h	終末期にある患者と家族の特徴を全人的に理解すること。	1.5h
13	終末期にある患者および家族の全人的苦痛について②（吉田）	1,2	終末期にある患者と家族への看護について体系的にまとめること。	1.5h	終末期にある患者と家族への看護について体系的にまとめること。	1.5h
14	終末期にある患者と家族への看護について体系的にまとめること。（吉田）	1,2	緩和ケアの実際を国内外の文献から理解し、課題をとらえること。	1.5h	緩和ケアの実際を国内外の文献から理解し、課題をとらえること。	1.5h
15	終末期にある患者と家族への看護について体系的にまとめること。（吉田）	1,2	緩和ケアの実際を国内外の文献から理解し、課題をとらえること。	1.5h	緩和ケアの実際を国内外の文献から理解し、課題をとらえること。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

1. 具体的な経験をもとに患者・家族の反応および看護実践の課題について検討できるよう、配布された授業資料や文献をよく読んでおくこと。
 2. 対話形式の授業のためディスカッションに積極的に参加できるよう、事前学習の課題について授業で紹介された参考文献などを活用し取り組むこと。
 3. 予習・復習は、原則として各授業に対して1時間以上は行う。
- 【出席登録】
出席登録は、C-learning【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。

印刷

老年看護学特論

英文名：Advanced Gerontological Nursing

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

梅原里実、齋田綾子

科目に関連した実務経験

急性期病院の看護管理者として勤務。認知症看護認定看護師として病院勤務。

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①高齢者特有の健康問題に関する看護アセスメント、生活の自立と QOL の向上を目指した保健・医療・福祉における高齢者の支援やケアマネジメントおよび家族看護などの効果的な看護実践について検討し、超高齢社会における老年看護の専門的な機能と役割を理解し老年看護の役割と課題を考察する。
- ②講義およびプレゼンテーションをふまえ意見交換を行う。

到達目標

1. 高齢者に特有の健康問題に関する今日的課題が説明できる。
2. 生活の自立とQOLの向上を目指した高齢者の支援やケアマネジメントについて概説できる。
3. 家族に対する効果的な看護支援について述べる事ができる。
4. 高齢社会における専門的な機能と役割について説明できる。
5. チーム医療を担う老年看護の課題を見出すことができる。

使用教材

1. 中嶋紀恵子：老年看護学. 日本看護協会出版会
2. 道場信孝：臨床老年医学入門：すべてのヘルスケアプロフェSSIONALのために. 医学書院
3. 橋本肇：高齢者の医療の倫理. 中央出版
4. 鈴木みずえ(監):認知症の看護・介護に役立つよくわかるパーソン・センタード・ケア. 2017. 池田書店.
5. 本田美和子他：ユマニチュード入門. 2014. 医学書院. *その都度講義用資料を配布する

評価方法

授業への参加度50%、プレゼンテーション50% にて総合的に判断する。（オンラインの場合も同様）

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションに対してその都度ディスカッションを行いコメントする。疑問点や次の課題が明確となるよう話し合いを行う（オンラインの場合も同様）

オフィスアワー

金曜日 2 限 5号館5階研究室：502 不在時はメールで受け付ける。

メールアドレス（#→@）

梅原（umehara#takasaki-u.ac.jp）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	高齢者ケアと制度の変遷（1）高齢者保健福祉医療制度の変遷（梅原）	1	高齢者の医療制度及び福祉制度について、文献から調べる。	1h	高齢者の医療・福祉 制度の変遷を復習する。	2h
2	高齢者ケアと制度の変遷（2）高齢者保健福祉医療制度の課題（梅原）	1,2	現在の高齢社会における医療面や生活面の課題を箇条書きにまとめる。	1h	高齢者保健福祉制度の現状と課題についてまとめ復習する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	老化・加齢による高齢者の身体的特徴と疾病①（梅原）	1,2	高齢者の生理的特徴および老年症候群について参考文献を見つけ、熟読して授業に臨む。	1h	疾患的視線からみた老年症候群についてまとめる。	2h
4	老化・加齢による高齢者の身体的特徴と疾病②（梅原）	1,2	アルツハイマー型認知症等の認知症を羅列し、その特徴を調べる。	1h	若年性認知症を起こしやすい認知症疾患を挙げ、それぞれの疾患についてまとめる。	2h
5	高齢者の心理・社会的特徴①（梅原）	1,2	社会における高齢者の地位に関する既存の知識を整理するとともに、関連する研究知見を調べる。	1h	配布プリントに従って社会における高齢者の地位について考察し整理する。	2h
6	高齢者の心理・社会的特徴②（梅原）	1,2	社会における高齢者の地位に関する既存の知識を整理するとともに、関連する研究知見を調べる。	1h	配布プリントに従って社会における高齢者の地位について考察し整理する。	2h
7	高齢者の生活機能とQOL（梅原）	2,3	高齢者の生活機能低下に関する指定した文献を1編読む。	1h	高齢者の生活機能の低下を予防し、QOL を高めるために必要なことについてまとめる。	2h
8	高齢者の健康増進活動（梅原）	1,2,3	高齢者の健康増進活動にはどのようなものがあるのか調べ要点を整理する。	1h	高齢者が健康増進のために行う活動を支援する際にどのような視点が必要かまとめる。	2h
9	認知症ケアの理論と実際①（梅原）	2,3,4	ICFや生活行動モデルについて、参考文献・資料等を用いて調べる。	1h	認知症ケアの基本的考え方について整理しておく。	2h
10	認知症ケアの理論と実際②（梅原）	2,3,4	認知症者の症状について参考文献を用いて調べる。	1h	認知症者に対する看護者の役割について復習しておく。	2h
11	高齢者の看護① 老年症候群（梅原）	2,3,4	高齢者を対象とした循環器疾患の看護研究文献を1編読み文献を持参する。	1h	高齢者の看護の特徴について記載する。	2h
12	高齢者の看護② 老年症候群（梅原）	2,3,4	高齢者を対象とした呼吸器疾患の看護研究文献を1編読み文献を持参する。	1h	高齢者の看護の特徴について記載する。	2h
13	在宅看護における高齢者ケアの理論と実際（梅原）	2,3,4	高齢者と家族関係についての課題を、文献等から調べる。	1h	在宅療養している高齢者と家族への支援の在り方を考え、整理する。	2h
14	高齢者看護の専門職としての役割とチーム連携の実際（老人看護 専門看護師：齊田）	4,5	専門看護師、認定看護師について調べる。	1h	求められている専門 看護師の役割と実際の活動内容から、専門看護師に必要なとされる能力とは何かを整理する。	2h
15	高齢者看護の課題（梅原）	4,5	今までの講義から、高齢者看護の課題を箇条書きにまとめる。	1h	他者の課題発表や意見交換等から、高齢者看護の課題と看護者の役割についてレポートにまとめる。	2h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- 1.授業外学習の進め方
配布された授業資料や文献をよく読み授業内容に基づき自ら学習すべき内容を自律的に学習する。
予習・復習の時間は1回の授業につき1～2時間とし原則として全授業をとおして45時間は行う。
- 2.事前学習の課題について、対話形式の授業を行う。
- 5.出席登録は、C-learning【出席管理】機能にて出席登録を行う。

印刷



母子看護学特論 I

英文名：Advanced Maternal and Child Nursing I

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

堀越摂子、寺口顕子、茂木佐智子、星野美穂、大石時子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

母子看護学の対象となる女性と子ども、家族の健康課題や倫理的課題、課題解決のための看護について、対象を取り巻く環境、最近の研究の動向、対象理解や看護実践の拠り所となる理論や看護実践モデルから考察する。そのうえで、母子看護学分野に携わる看護職者の役割について探求し、今後の課題を明確にする。

②講義の実施方法

ライフサイクルに沿った女性の健康、母性の発達過程とその過程を支援する看護の役割、周産期における女性とその家族への支援、地域サポート体制の構築を教授する。また、子どもの権利を尊重し、人格をもつ主体としての子ども観に立脚し、子どもの成長・発達を理解するための理論、健康障害のある子どもと家族に対する看護のあり方を教授する。

到達目標

1. 母子看護学の対象である子どもと家族を理解するために必要な理論を説明する。
2. ライフサイクルにおける女性と子、家族の健康と健康課題を説明する。
3. セクシュアリティ、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念と成り立ちを説明する。
4. 思春期、成熟期、更年期にみられる女性の健康と健康課題を説明する。
5. 母子看護学における倫理と倫理的課題を説明する。
6. 母子看護学における看護の役割を考察する。

使用教材

- 1) U. ブロンフェンブレンナー著、磯貝芳郎、福富護訳(2007)：人間発達の生態学(エコロジー) 発達心理学への挑戦、川島書店。
 - 2) 都留伸子監訳(2004)：看護理論家とその業績. 医学書院。
 - 3) 岡井真優美(2020)：看護理論家の業績と理論評価 第2版, 医学書院。
 - 3) 舟島なをみ(2011)：看護のための人間発達学 第4版, 医学書院。
 - 4) M. H. クラウス, J.H. ケネル, P. H. クラウス著, 竹内徹訳(2001)：親と子のきずなはどうつくられるか, 医学書院。
 - 5) Browden.V.R., C. S. Greenberg.(2014)：Children and Their Families—The Continuum of Nursing Care, Wolters Kluwer Health.
 - 6) Barnsteiner, J.H.et.al.(2014)：Person and Family Centered Care, Sigma Theta Tau International.
- ※その他、日本看護科学学会誌、日本小児看護学会誌を活用する。

評価方法

授業参加度・貢献度（50％）、プレゼンテーション（50％）で総合的に評価する。
※オンライン授業の場合には、Meet、またはZoomを通じて行うため評価方法は上記と同様とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。
※オンライン授業の場合には、Meet、またはZoomを通じて講評・コメントする。

オフィスアワー

月曜日1限（5号館5階511研究室）
その他、メールでも随時受けつける。

メールアドレス（#→@）

horikoshi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、母子看護学の基盤となる理論[1] 理論の実践のつながり、対象と環境（エコロジカルモデル）（堀越）	1,6	シラバスの内容を読み、科目の目標を理解する。	1.5 h	シラバス、科目オリエンテーションの内容を再確認するとともに、学習する必要性のある理論について確認する。	1.5 h
2	母子看護学の基盤となる理論[2] 人間の発達の共通性と発達の影響要因、認知発達理論（寺口）	1,6	シラバス、科目オリエンテーションの内容に基づき、上記について専門書等で調べる。	1.5 h	不足する学習内容を補完する。学習した理論を活用した母子看護学領域の論文を検索し、クリティークする。	1.5 h
3	母子看護学の基盤となる理論[3] 発達課題理論、家族発達理論（星野）	1,6	シラバス、科目オリエンテーションの内容に基づき、上記理論について専門書等で調べる。	1.5 h	不足する学習内容を補完する。学習した理論を活用した母子看護学領域の論文を検索し、クリティークする。	1.5 h
4	母子看護学の基盤となる理論[4] 家族システム理論、家族ストレス処理理論（寺口）	1,6	シラバス、科目オリエンテーションの内容に基づき、上記理論について専門書等で調べる。	1.5 h	不足する学習内容を補完する。学習した理論を活用した母子看護学領域の論文を検索し、クリティークする。	1.5 h
5	母子看護学の基盤となる理論[5] ソーシャルサポート理論、Patient(Persons)-Family Centered Careの基本概念、Women Centered Careの基本概念（大石）	1,6	シラバス、科目オリエンテーションの内容に基づき、上記理論について専門書等で調べる。	1.5 h	不足する学習内容を補完する。学習した理論を活用した母子看護学領域の論文を検索し、クリティークする。	1.5 h
6	女性と子ども・家族の健康と健康課題[1] セクシュアルヘルス、セクシュアリティの概念・構成要素、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念・課題（大石）	1,2, 3,4	シラバス、科目オリエンテーションの内容に基づき、上記の理論について専門書等で調べる。	1.5 h	不足する学習内容を補完する。学習した理論を活用した母子看護学領域の論文を検索し、クリティークする。	1.5 h
7	女性と子ども・家族の健康と健康課題[2] プレコンセプションケアについて（茂木）	1,2, 3,4	シラバス、科目オリエンテーションの内容に基づき、上記の概念について専門書等で調べる。	1.5 h	不足する学習内容を補完する。学習した概念を活用した母子看護学領域の論文を検索し、クリティークする。	1.5 h
8	女性と子ども・家族の健康と健康課題[3] 新生児期・乳幼児期の子どもと家族の健康課題の解決に寄与する理論（母親役割移行理論、Parenting、親-子相互作用モデルなど）（堀越）	1,2, 4	新生児期・乳児期にある対象と家族の健康課題とその支援について専門書や学術論文を精読し調べ、プレゼンテーションの準備をする。 上記①で取り上げた発達段階にある対象と健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論について理解する。	2.5 h	不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する。	0.5 h
9	女性と子ども・家族の健康と健康課題[4] NICUに入院している子どもと家族の健康課題（星野）	2,3, 4	NICUに入院している子どもと家族の健康課題とその支援について専門書や学術論文を精読し調べ、プレゼンテーションの準備をする。 上記①で取り上げた対象の健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論について理解する。	2.5 h	不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する。	0.5 h
10	女性と子ども・家族の健康と健康課題[5] 医療的ケアが必要な子どもと家族の健康課題（星野）	2,3, 4	医療的ケアが必要な子どもと家族の健康課題をその支援について専門書や学術論文を精読し調べ、プレゼンテーションの準備をする。 上記①で取り上げた対象の健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論について理解する。	2.5 h	不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する。	0.5 h
11	女性と子ども・家族の健康と健康課題[4] 産褥早期の母親と家族の健康課題（茂木）	2,3, 4	産褥期にある女性と家族の健康課題をその支援について専門書や学術論文を精読し調べ、プレゼンテーションの準備をする。 上記①で取り上げた対象の健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論について理解する。	2.5 h	不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する。	0.5 h
12	女性と子ども・家族の健康と健康課題[5] 更年期症状、更年期障害と女性の健康支援、老年期女性の健康課題（寺口）	1,2, 3,4	更年期にある女性の健康課題とその支援について専門書や学術論文を精読し調べ、プレゼンテーションの準備をする。 上記①で取り上げた更年期にある対象と健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論について理解する。	2.5 h	不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する。	0.5 h
13	女性と子どもを取り巻く倫理的課題[1] 子どもの権利条約、小児医療における倫理、倫理的意思決定モデル（星野）	4,5	子どもの権利、母子看護学における倫理的意思決定に関連するガイドライン、多様な倫理的意思決定モデルなどを調べ、内容を確認する。	1.5 h	自己の看護実践を振りかえり、倫理的課題について検討する。 不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	女性と子どもを取り巻く倫理的課題[2] 倫理的意思決定モデルの活用による事例検討（堀越）	4,5	子どもの権利、母子看護学における倫理的意思決定に関連するガイドライン、多様な倫理的意思決定モデルなどを調べ、内容を確認する。	1.5 h	自己の看護実践を振り返り、倫理的課題について検討する。 不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する。	1.5 h
15	母子看護学における看護の役割、総括（堀越）	1,2, 3,4, 5,6	これまでの授業内容を振り返り、看護の役割をまとめる。	1.5 h	不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習するとともに、自己の研究への示唆を検討する。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

【学習上の助言および受講時のルール】

- プレゼンテーション時は、資料を作成し主体的に参加できることを重視する。
- 授業内容に基づき、また自己の取り組みたい研究課題を見据え、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。

【出席登録】

出席登録は、C-learning【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。

印刷

精神看護学特論

英文名：Advanced Psychiatric Nursing

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

酒井美子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義目標

精神保健福祉の動向を歴史的観点、精神保健福祉の関連法規および制度、家族支援等をふまえ、現状の課題を整理し、理解できる。さらに精神的な問題を持つ人への対応、症状の観察と評価方法について理解できる。

②講義の実施方法

精神保健福祉の動向、精神的な問題を持つ人への対応、精神症状の観察および評価方法を踏まえた上、講義、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。

到達目標

- 1.精神保健福祉の歴史をふまえ、精神保健福祉制度を理解できる。
- 2.精神看護領域で用いられる諸理論・方法論を理解できる。
- 3.精神看護における課題を理解できる。

使用教材

教員の作成する授業資料を配布する

参考文献

【参考文献】

- 1) 精神・心理機能評価ハンドブック 山内俊雄著 中央書店
- 2) 認知行動療法ガイド 基礎から応用まで ジュディス・ベック著 伊藤絵美訳 星和書店
- 3) 日本精神保健看護学会誌

評価方法

レポート（70%）、プレゼンテーション（30%）で評価する。
オンラインの場合もC-learning、zoomなどを利用し、評価方法は上記と同様にする。

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーション時は、講評・コメントを毎回行う。
オンラインの場合は、C-learningやメールなどを利用して同様にコメントをフィードバックする。

オフィスアワー

初回講義時に提示する。

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	3	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。	1.5h	オリエンテーションの内容を確認し、必要性のある文献について確認する。	1.5h
2	精神医療・看護の歴史	1,3	シラバスを参考に、各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。	1.5h	授業内容の確認とともに、自らの研究に結びつけながら振り返りを行う。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	精神医療福祉職の専門性と多職種連携	1,3	シラバスを参考に、各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。	1.5h	授業内容の確認とともに、自らの研究に結びつけながら振り返りを行う。	1.5h
4	精神障害者と家族のサポートシステム	1,3	シラバスを参考に、各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。	1.5h	授業内容の確認とともに、自らの研究に結びつけながら振り返りを行う。	1.5h
5	精神障害を対象とした地域包括支援	1,3	シラバスを参考に、各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。	1.5h	授業内容の確認とともに、自らの研究に結びつけながら振り返りを行う。	1.5h
6	精神障害者の就労支援	3	シラバスを参考に、各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。	1.5h	授業内容の確認とともに、自らの研究に結びつけながら振り返りを行う。	1.5h
7	自殺対策と支援	3	シラバスを参考に、各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。	1.5h	授業内容の確認とともに、自らの研究に結びつけながら振り返りを行う。	1.5h
8	震災時のメンタルヘルス・サポート	3	シラバスを参考に、各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。	1.5h	授業内容の確認とともに、自らの研究に結びつけながら振り返りを行う。	1.5h
9	オレムのセルフケア理論	2	シラバスを参考に、各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。	1.5h	授業内容の確認とともに、自らの研究に結びつけながら振り返りを行う。	1.5h
10	プロセスレコード：ペプロウ、ウィーデンバック	2	シラバスを参考に、各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。	1.5h	授業内容の確認とともに、自らの研究に結びつけながら振り返りを行う。	1.5h
11	認知行動療法	2	シラバスを参考に、各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。	1.5h	授業内容の確認とともに、自らの研究に結びつけながら振り返りを行う。	1.5h
12	精神症状の観察と評価1	2	シラバスを参考に、各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。	1.5h	授業内容の確認とともに、自らの研究に結びつけながら振り返りを行う。	1.5h
13	精神症状の観察と評価2	2	シラバスを参考に、各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。	1.5h	授業内容の確認とともに、自らの研究に結びつけながら振り返りを行う。	1.5h
14	グループワーク	1,2,3	シラバスを参考に、各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。	1.5h	授業内容の確認とともに、自らの研究に結びつけながら振り返りを行う。	1.5h
15	グループワーク	1,2,3	シラバスを参考に、各回のキーワードについて調べておく。また、プレゼンテーションの準備を行う。	1.5h	授業内容の確認とともに、自らの研究に結びつけながら振り返りを行う。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

1. 授業外学習の進め方

学習は主体的に取り組み、自己の課題を明らかにできるよう、先行研究を幅広く多岐にわたり読み、クリティークしていくこと。

予習・復習のための時間は、1回の授業についておよそ3時間は取る必要があります。

印刷 

在宅看護学特論

英文名：Advanced Home Care Nursing

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

棚橋さつき、田村直子、浅井直美、笹原啓子、篠原純史

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①在宅看護に関連する基本的知識や訪問看護ステーションにおける人材育成、教育、管理運営方法について探求する。地域包括ケアシステムにおける在宅看護の果たす役割、継続看護および多職種連携について教授する。
- ②双方向にてディスカッションを行いながら対面方式で行う。

到達目標

- 1.在宅看護に関する基本的内容について理解できる。
- 2.訪問看護ステーションにおける人材育成、運営管理等について考察することができる。
- 3.地域包括ケアシステムにおける退院支援・退院調整、チームアプローチについて理解できる。
- 4.在宅看護における新しい知見について考察することができる。

使用教材

日本難病看護学会誌 日本在宅ケア学会誌 見藤隆子他著：看護職者のための政策過程入門
* その他適宜紹介する

参考文献

適宜必要な資料を提示

評価方法

授業への主体的参加を重視し、学習態度や事例素材の準備、プレゼンテーションにより総合的に判断する。レポート（60%）、授業参加態度・貢献度（40%）

課題・評価に対するフィードバック方法

授業の中でその都度ディスカッションをするとともに講評・評価する

オフィスアワー

棚橋：5号館407研究室 月13：00～14：30

メールアドレス（#→@）

棚橋：tanahashi#takasaki-u.ac.jp
各教員の講義の際に提示

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	在宅看護の理念と概念（棚橋）	1	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。	1.5h	不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
2	看護基礎教育における在宅看護学教育（浅井）	1	看護基礎教育における在宅看護論の位置づけについて学習しておく。	1.5h	不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
3	在宅看護における研究①（田村）	1	最近の在宅看護に関する研究論文の傾向を調べておく。	1.5h	不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
4	在宅看護における研究②（田村）	1,4	最近の在宅看護に関する研究論文の傾向を調べておく。	1.5h	不足する学習内容を補完学習する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	退院支援・退院調整①（笹原）	1,3	退院支援・退院調整の基本的事項について学習しておく。	1.5h	不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
6	退院支援・退院調整②（笹原）	1,3	退院支援・退院調整の基本的事項について学習しておく。	1.5h	不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
7	保健医療福祉の協働：チームアプローチ①（篠原）	1,3	多職種連携の基本事項について学習しておく。	1.5h	不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
8	保健医療福祉の協働：チームアプローチ②（篠原）	1,3	多職種連携の基本事項について学習しておく。	1.5h	不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
9	在宅における栄養管理方法（棚橋）	1,3	栄養管理方法の基本事項について学習しておく。	1.5h	不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
10	訪問看護の実際（棚橋）	1,2	1～9回の学習内容を整理し、書籍等で訪問看護の現状について調べておく。	1.5h	不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
11	在宅療養者を支える諸制度の理解（棚橋）	1,2	介護保険制度について学習しておく。	1.5h	不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
12	訪問看護ステーションにおける人材育成（訪問看護師）（浅井）	1,2	現任教育の基本事項について学習しておく。	1.5h	不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
13	訪問看護ステーションにおける経営・管理（棚橋）	1,2	訪問看護ステーションの経営・管理や地域連携の現状等について書籍等について調べておく。	1.5h	不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
14	在宅看護におけるシステム構築（棚橋）	1,2,3,4	訪問看護ステーションの経営・管理や地域連携の現状等について書籍等について調べておく。	1.5h	不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
15	在宅看護の展望と課題（棚橋）	1,2,3,4	訪問看護ステーションの経営・管理や地域連携の現状等について書籍等について調べておく。	1.5h	不足する学習内容を補完学習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- ・授業内容に基づき自ら学習すべき内容を自律的に学習する。
 - ・予習・復習は、原則として全授業をとおして60時間は行う。
 - ・学習過程において質問等生じた場合にはメール等や講義前、終了後にも対応する。
- オンライン授業の場合、C-learningまたは動画配信により講義を行う。

印刷



看護管理学特論 I

英文名：Advanced Nursing Administration Settings I

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

小池洋子、安野朝子、木村憲洋、池田優子

科目に関連した実務経験

病院の看護部長経験、県看護行政経験
病院の感染管理者経験

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ① 社会の変化と医療の高度化に伴い益々重要性が高まるマネジメントの在り方について探求する。具体的にはマネジメントの基礎理論を踏まえ、病院から在宅まで一貫した医療の質を保証するためのチーム医療の推進とそれを中核的に担う看護者のマネジメント能力育成の課題について考察する。
- ② 授業に関係するテーマの文献についてプレゼンし討論を行うなど双方向の授業を中心とする。

到達目標

1. マネジメントに関する諸理論について説明できる。
2. 看護マネジメントに必要な対人関係調整能力の概要を説明できる。
3. 病院における管理・経営の特徴について説明できる。
4. 自己の経験を生かし看護管理上の課題と今後の方向性について考察できる。

使用教材

1. 井部俊子・中西睦子監修：「看護管理学集テキスト」全8巻 日本看護協会出版会
2. ビーター・F.ドラッカー(著)上田惇生訳：「マネジメントー基本と原則」ダイヤモンド社
3. P・ハーシ、K・H・プランチャード、D・E・ジョンソン(著) 山本成二 山本あずさ訳：「入門から応用へ 行動科学の展開 人的資源の活用」生産性出版
4. スティーブン・P.ロビンズ 高木晴夫訳：「組織行動のマネジメント」ダイヤモンド社
5. ヘンリー・ミンツバーク(著)奥村哲史 須貝栄訳：「マネジャーの仕事」白桃書房

評価方法

授業への参加度（50％） 課題を考察したプレゼンテーション内容（50％）

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションを行い、コメント・評価し、次の課題を明確化する。

オフィスアワー

5号館 207研究室 火曜日13:00～19:00

メールアドレス（#→@）

koike-y#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	科目オリエンテーション サービスとマネジメントの概念（小池）	1	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。	1.5h	サービスとマネジメントの概念を整理する。	1.5h
2	看護サービスマネジメント過程（小池）	1	使用教材を読み、看護サービスマネジメントについて調べる。	1.5h	学習した看護サービスマネジメントと自己の経験と照らし合わせて有用性について考察する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	組織の成り立ちと構造（小池）	1	使用教材を読み、組織マネジメントについて調べる。	1.5h	学習したマネジメントの理論と自己の経験と照らし合わせて有用性について考察する。	1.5h
4	看護管理者の役割と機能（小池）	1,2	看護管理者の役割と機能に関しての文献を読んでおく。	1.5h	看護管理者の役割と機能を経験と結び付けて考察する。	1.5h
5	動機づけを促すマネジメント（池田）	1,2	動機付けに関する諸理論やグループマネジメントについて学習し、先行研究についてクリティークする。	1.5h	不足する学習内容を補完する。	1.5h
6	グループマネジメントの方法（池田）	1,2	動機付けに関する諸理論やグループマネジメントについて学習し、先行研究についてクリティークする。	1.5h	不足する学習内容を補完する。	1.5h
7	キャリア発達（小池）	1,2	キャリア発達に関する理論と課題について調べておく。	1.5h	キャリア発達と人材育成に関する先行研究について補完し学習する。	1.5h
8	キャリア発達と教育プログラム（小池）	1,2	キャリア発達に関する理論と課題について調べておく。	1.5h	キャリア発達と人材育成に関する先行研究について補完し学習する。	1.5h
9	看護サービスの質評価（小池）	2,3,4	看護サービスの質評価に関する理論と課題について調べておく。	1.5h	看護サービスの質評価について自己の経験と照らし合わせ考察する。	1.5h
10	組織横断的なシステム構築（安野）	2,3	リスクマネジメントに関する文献について調べておく。	1.5h	システム構築に関する課題について整理する。	1.5h
11	組織におけるリスクマネジメント（安野）	2,3,4	リスクマネジメントに関する文献について調べておく。	1.5h	システム構築に関する課題について整理する。	1.5h
12	質評価への情報の活用（小池）	2,3,4	現場で活用している情報について整理しておく。	1.5h	看護の質評価に利活用する情報について考察する。	1.5h
13	病院経営と医療（木村）	3,4	病院経営の視点と課題について調べておく。	1.5h	病院経営の課題について整理する。	1.5h
14	病院経営収益管理（木村）	3,4	病院経営の視点と課題について調べておく。	1.5h	病院経営の課題について整理する。	1.5h
15	まとめ（小池） 15回の内容についての整理及び 学生によるプレゼンテーション	1,2,3,4	マネジメントの理論と人材育成の手法、および地域包括ケアシステムの構築に向けて施設・在宅の課題についてまとめる	1.5h	自己のプレゼンテーション内容の振り返りと課題について整理する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

1. 授業外学習の進め方

自律的な学習が基本です。自己の取り組みたい課題を明らかにできるよう、先行研究を幅広く多岐にわたり読み、クリティークしていくこと。また、マネジメントに関する著作には必ず目を通し、文献カードに整理しておくこと。

予習・復習のための時間は、1回の授業についておよそ3～4時間は取る必要があります。

2. オンライン授業となった場合はZOOMで授業を行います。講義内容、評価方法に変更はありません。

3. 質問や疑問点への対応

随時メールにて対応します。疑問が生じたらすぐに連絡して、解決を図ること。

印刷



看護技術学特論 I

英文名：Advanced Nursing Art and Science I

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

鶴田晴美、廣井寿美、桐山勝枝

科目に関連した実務経験

看護師として病院に勤務

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①看護技術の条件である、技術を用いる目的、目的をもたらすメカニズム、目的を達成するための手法の安全性と実行可能性について理解する。また、具体的な看護技術のエビデンスを調べ、臨床経験の中から積み上げられ、伝承されてきた看護技術を科学的に解き明かす研究や技術開発の必要性について理解する。
- ②文献検索、プレゼンテーション、ディスカッションにより実施する。

到達目標

- 1.看護技術の条件である、技術を用いる目的、目的をもたらすメカニズム、目的を達成するための手法の安全性と実行可能性について理解できる。
- 2.具体的な看護技術（リラクゼーションケア、温電法ケア、足浴ケア、背面開放座位ケア、体圧分散ケアなど）のエビデンスを調べることができる。
- 3.臨床経験の中から積み上げられ、伝承されてきた看護技術を科学的に解き明かす研究や技術開発の必要性について理解できる。

使用教材

- ・課題や講義内容に関連する文献などを随時提示し、活用する。
- ・日本看護技術学会誌、日本看護科学学会誌、日本看護研究学会誌等の研究論文から最新の知見について紹介する。

評価方法

対面授業：プレゼンテーション（30%）、レポート（70%）
 オンライン：プレゼンテーション（30%）、レポート（70%）
 いずれも、総合的に判断し、60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。
 レポートは、期限内に提出した学生には、コメントなど付けて返却する。

オフィスアワー

火曜日 5時限目
 （5号館2階205研究室）

メールアドレス（#→@）

tsuruta-h#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	科目オリエンテーション 看護技術の条件について （鶴田）	1	シラバスを読み、講義の目標を理解する。	1.5h	科目オリエンテーションの内容を確認するとともに、不足する学習内容を補完する。	1.5h
2	エビデンスと看護研究のつながり （鶴田）	1,3	エビデンスに関して専門書等で調べる。	1.5h	・授業で配布した資料および紹介した論文を精読する。 ・不足する学習内容を補完する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	看護ケアのエビデンスの構築について (鶴田)	1,2,3	エビデンスに関して専門書等で調べる。	1.5h	・授業で配布した資料および紹介した論文を精読する。 ・不足する学習内容を補完する。	1.5h
4	関心のある看護技術について現時点におけるエビデンス 1 (鶴田)	1,2	関心のある看護技術のエビデンスに関する専門書や学術論文を精読し、プレゼンテーションの準備をする。	1.5h	関心のある看護技術のエビデンスに関する論文を検索し、クリティークする。	1.5h
5	関心のある看護技術について現時点におけるエビデンス 2 (廣井)	1,2	関心のある看護技術のエビデンスに関する専門書や学術論文を精読し、プレゼンテーションの準備をする。	1.5h	関心のある看護技術のエビデンスに関する論文を検索し、クリティークする。	1.5h
6	関心のある看護技術について現時点におけるエビデンス 3 (廣井)	1,2	関心のある看護技術のエビデンスに関する専門書や学術論文を精読し、プレゼンテーションの準備をする。	1.5h	関心のある看護技術のエビデンスに関する論文を検索し、クリティークする。	1.5h
7	関心のある看護技術について現時点におけるエビデンス 4 (廣井)	1,2	関心のある看護技術のエビデンスに関する専門書や学術論文を精読し、プレゼンテーションの準備をする。	1.5h	関心のある看護技術のエビデンスに関する論文を検索し、クリティークする。	1.5h
8	関心のある看護技術について現時点におけるエビデンス 5 (桐山)	1,2	関心のある看護技術のエビデンスに関する専門書や学術論文を精読し、プレゼンテーションの準備をする。	1.5h	関心のある看護技術のエビデンスに関する論文を検索し、クリティークする。	1.5h
9	リラクセーションケアの開発とエビデンスの構築に向けての研究 (桐山)	1,2,3	関心のある看護技術のエビデンス構築に関する専門書や学術論文を精読し調べ、プレゼンテーションの準備をする。	1.5h	関心のある看護技術のエビデンス構築に関する論文を検索し、クリティークする。	1.5h
10	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けての研究 1 (桐山)	1,2,3	関心のある看護技術のエビデンス構築に関する専門書や学術論文を精読し調べ、プレゼンテーションの準備をする。	1.5h	関心のある看護技術のエビデンス構築に関する論文を検索し、クリティークする。	1.5h
11	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けての研究 2 (桐山)	1,2,3	関心のある看護技術のエビデンス構築に関する専門書や学術論文を精読し調べ、プレゼンテーションの準備をする。	1.5h	関心のある看護技術のエビデンス構築に関する論文を検索し、クリティークする。	1.5h
12	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けての研究 3 (廣井)	1,2,3	関心のある看護技術のエビデンス構築に関する専門書や学術論文を精読し調べ、プレゼンテーションの準備をする。	1.5h	関心のある看護技術のエビデンス構築に関する論文を検索し、クリティークする。	1.5h
13	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けての研究 4 (鶴田)	1,2,3	関心のある看護技術のエビデンス構築に関する専門書や学術論文を精読し調べ、プレゼンテーションの準備をする。	1.5h	関心のある看護技術のエビデンス構築に関する論文を検索し、クリティークする。	1.5h
14	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けての研究 5 (鶴田)	1,2,3	関心のある看護技術のエビデンス構築に関する専門書や学術論文を精読し調べ、プレゼンテーションの準備をする。	1.5h	関心のある看護技術のエビデンス構築に関する論文を検索し、クリティークする。	1.5h
15	総括 (鶴田)	1,3	これまでの授業内容を振り返り、まとめる。	1.5h	不足する学習内容を補完するとともに、自己の研究への示唆を検討する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

予習・復習の時間について

- ・予習・復習は、原則として全授業を通して45時間は行う。
- ・単位修得に必要な時間を満たしていない場合は、各自で補完すること。

学習過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対応する

オフィスアワー：鶴田 火曜日 5時限目 5号館2階205研究室

随時メールでも受付ける E-mail：tsuruta-h#takasaki-u.ac.jp(鶴田)（#を@に変換してください）

履修に向けて

- ・関心のある看護技術について文献検討し、現時点でのエビデンスについて発表する。また、関心のある看護技術の開発とエビデンス構築に向けた研究の実際について発表する。
- ・文献検索法を熟知しておくこと。
- ・対話形式の授業なので、ディスカッションには積極的に参加すること。

印刷

地域看護学特論

英文名：Advanced Lecture on Community Health Nursing

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

倉林しのぶ、赤堀八重子、武居明美

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

地域におけるヘルスプロモーションにかかわる看護の理論と方法について理解する。公衆衛生や健康の概念、個人や集団の健康づくりに向けた健康教育、個人・家族・集団を対象とした看護活動、地域の健康課題の解決のための社会資源の開発と施策への反映について、対象別の実践方法、保健医療福祉の連携とシステム化といった側面から探求していく。

②講義の実施方法

指導教官との面接やグループディスカッションにおいて、公衆衛生や健康の概念について理解を深める。また、文献購読やグループディスカッションを通して、具体的な事例などを用いて、公衆衛生看護活動、対象別の実践方法、保健医療福祉の連携とシステム化に関する保健師活動の展開方法・技術を理解する。

到達目標

- 1.公衆衛生看護の概念について理解できる
- 2.健康教育、健康管理に関する保健師の活動とその根拠について理解できる。
- 3.地域で生活する個人・家族・集団に対する看護活動のあり方について考察を深めることができる。
- 4.地域の健康問題解決のための社会資源や施策について考察できる。

使用教材

テキストは使用しない。講義内容に応じた資料を提示する。

参考文献

金川克子ほか訳「コミュニティアズパートナー」医学書院
「保健師ジャーナル」「公衆衛生」「公衆衛生情報」等の雑誌

評価方法

プレゼンテーション（50%）レポート（50%）
オンラインの場合もMeet等を利用し講義を行うため、同様に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションを含む全体の流れについて講評とともにコメントする。
オンラインの場合も同様に、C-learningやメール等を活用してコメントをフィードバックする。

オフィスアワー

倉林：月曜日・火曜日11：00～13：00
赤堀：金曜日13：00～15：00
武居：月曜日14：00～16：00

メールアドレス（#→@）

倉林：kura#takasaki-u.ac.jp
赤堀：akabori#takasaki-u.ac.jp
武居：takei-a#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション（倉林）	1	シラバスの内容を読み、講義義の目標を理解する。	1.5h	オリエンテーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある文献について調べる。	1.5h
2	公衆衛生看護の概念（倉林）	1	提示された文献や資料を読み、疑問点について抽出しておく。	1.5h	講義資料を確認しながら、次回講義へつなげる。	1.5h
3	ヘルスプロモーションにかかわる理論と実践例（倉林）	1,2	提示された文献や資料を読み、疑問点について抽出しておく。	1.5h	講義資料を確認しながら、次回講義へつなげる。	1.5h
4	健康教育にかかわる理論と実践例（倉林）	1,2	提示された文献や資料を読み、疑問点について抽出しておく。	1.5h	講義資料を確認しながら、次回講義へつなげる。	1.5h
5	地域の健康指標および特性の把握（倉林）	1,2,3	提示された文献や資料を読み、疑問点について抽出しておく。	1.5h	講義資料を確認しながら、次回講義へつなげる。	1.5h
6	地域保健活動の評価方法（赤堀）	1,2,3	保健医療福祉に関する文献を集めておく。また疑問点を抽出しておく。	1.5h	各分野の連携についてまとめる。	1.5h
7	地域における保健医療福祉の連携とシステム化①（赤堀）	1,2,3	保健医療福祉に関する文献を集めておく。また疑問点を抽出しておく。	1.5h	各分野の連携についてまとめる。	1.5h
8	地域における保健医療福祉の連携とシステム化②（赤堀）	1,2,3	講義に関連する文献を集めておく。また、疑問点を抽出しておく。	1.5h	公衆衛生看護の目的と地域看護職の業務、多職種、他機関との連携についてまとめておく。	1.5h
9	健康危機管理（赤堀）	2,3,4	講義に関連する文献を集めておく。また、疑問点を抽出しておく。	1.5h	健康危機に関する公衆衛生看護の目的と地域看護職の業務についてまとめる。	1.5h
10	在宅療養者への支援（赤堀）	2,3,4	講義に関連する文献を集めておく。また、疑問点を抽出しておく。	1.5h	公衆衛生看護の目的と地域看護職の業務、在宅との連携についてまとめる。	1.5h
11	社会資源と地域ケアシステム①（武居）	2,3,4	講義に関連する文献を集めておく。また、疑問点を抽出しておく。	1.5h	地域ケアシステムの目的と地域看護職の業務、医療、福祉との連携についてまとめておく。	1.5h
12	社会資源と地域ケアシステム②（武居）	2,3,4	講義に関連する文献を集めておく。また、疑問点を抽出しておく。	1.5h	地域ケアシステムの目的と地域看護職の業務、医療、福祉の連携についてまとめておく。	1.5h
13	家族支援（武居）	2,3	講義に関連する文献を集めておく。また、疑問点を抽出しておく。	1.5h	家族を含む地域看護の対象者についての支援と課題についてまとめる。	1.5h
14	地域における個人・家族・集団への公衆衛生看護活動1（武居）	2,3	講義に関連する文献を集めておく。また、疑問点を抽出しておく。	1.5h	家族を含む地域看護の対象者についての支援についてまとめる。	1.5h
15	地域における個人・家族・集団への公衆衛生看護活動2（武居）	1,2,3,4	講義に関連する文献を集めておく。また、疑問点を抽出しておく。	1.5h	家族を含む地域看護の対象者についての支援についてまとめる。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- ・関連する文献の検索および検討を主体的に行うこと。
- ・授業内容に基づき自律的に学習する。
- ・予習・復習は、原則として全授業を通して60時間は行う。
- ・オンラインの場合、C-learningまた動画配信による講義を行う。また、出席管理はC-learning上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する。

印刷



国際看護学特論 I

英文名：Advanced International Nursing I

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

李孟容

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①国際保健における理念やChild Health, Maternal Health, Non-Communicable Diseases, Universal Health Coverage, Infection Diseasesなどを含むグローバルヘルスの健康課題、さらに国際看護における基本的知識について習得し、国際社会の中での看護のあり方について探究する。
- ②講義内容の要点について講義を行い、アクティブラーニングにて展開する。

到達目標

- 1.世界の健康格差を理解し、グローバルの視点で健康課題を説明できる。
- 2.MDGsの果たした成果を振り返りながらSDGsの目指す方向性を説明できる。
- 3.日本における国際協力の仕組みと国・民間・国際機関の活動について説明できる。
- 4.国際社会の中で看護が果たす役割について考察する。

使用教材

- 1)国際保健医療学第3版：国際保健医療学会編(2015)、杏林書院
- 2)Journal of International Health International Nursing Review
- 3)樋口まち子編(2023)：国際看護学 看護の統合と実践3、メヂカルフレンド社
- 4)蟹江憲史編(2017)：持続可能な開発目標とは何か:2030年へ向けた変革のアジェンダ、ミネルヴァ書房
- 5)国際協力研究所編(2009)：指標から国を見る、独立法人国際協力機構(JICA)
- 6)看護学テキストNICE 国際看護 国際社会の中で看護の力を発揮するために、南江堂

評価方法

評価方法：プレゼンテーション（30%）、レポート（70%）

課題・評価に対するフィードバック方法

提出されたレポートに対してはコメントを付して返却し、その後振り返りを行う。

対話式に実施していくのでその都度コメントや講評を行う。

オフィスアワー

オフィスアワーについては初回講義時に提示する。

メールアドレス（#→@）

ri# takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	世界の保健に関する歴史の変遷について	1	教材3を精読する。	1.5h	世界の保健分野で歴史的にどのような変遷をたどり現在に至っているのかを整理する。	1.5h
2	日本の保健・看護に関する歴史の変遷について	1	教材3を精読する。	1.5h	日本の保健は歴史的にどのような変遷をたどり現在に至っているのかを整理し、国際保健の歴史変遷がどのように関わっていたのかを合わせ整理する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	国際保健におけるプライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション理論	1	教材1、3を精読する。	1.5h	プライマリーヘルスケア理論とヘルスプロモーション理論を整理し、その開発の歴史の変遷を整理する。	1.5h
4	健康格差がひきおこす世界の健康課題の現状 / 健康格差とその課題	1	教材1、4、5を精読する。	1.5h	健康格差が発生する原因を学び、健康格差がどのように健康問題に影響を及ぼすのかを整理する。	1.5h
5	健康格差がひきおこす世界の健康課題の現状 / 世界で起こっている健康問題	1	教材1、4、5を精読する。	1.5h	現在、健康格差によって起こっている健康問題に対しての解決方法を考える。	1.5h
6	MDGsの目的と世界の動き	2	教材1、4を精読する	1.5h	MDGsが提唱された背景と全世界の動きをまとめ、2015年までに達成した課題、さらに残された課題を整理する。さらに、引き続き提唱されたSDGsの特徴と全政界の取り組みを整理する。	1.5h
7	MDGsの成果とSDGsが目指す方向について	3	教材1、4を精読する	1.5h	MDGsが提唱された背景と全世界の動きをまとめ、2015年までに達成した課題、さらに残された課題を整理する。さらに、引き続き提唱されたSDGsの特徴と全政界の取り組みを整理する。	1.5h
8	SDGsの世界的動向	3	教材1、4を精読する	1.5h	MDGsが提唱された背景と全世界の動きをまとめ、2015年までに達成した課題、さらに残された課題を整理する。さらに、引き続き提唱されたSDGsの特徴と全政界の取り組みを整理する。	1.5h
9	国際協力にかかわる機関・組織とその役割 / 国際組織とその活動	3	教材1、3、5を精読する。	1.5h	国際経協力に関わる国外、国内機関を整理しそれぞれの具体的機能、活動についてまとめる。	1.5h
10	国際協力に関わる機関・組織とその役割 / 国内組織とその活動	3	教材1、3、5を精読する。	1.5h	国際経協力に関わる国外、国内機関を整理しそれぞれの具体的機能、活動についてまとめる。	1.5h
11	国際災害看護の実践	4	これまでに海外で発生している災害を調べ、看護職がどのように関わってきたのかまとめる。	1.5h	国際災害活動の実践を振りかえり、今後の課題につき整理する。	1.5h
12	日本におけるグローバルな課題 / 感染症・環境破壊・災害・在日外国人問題	4	教材3を精読する。	1.5h	日本におけるグローバルな課題に対しての解決方法を探る。	1.5h
13	国際看護活動の場と対象、健康問題について	4	世界で行われている看護の国際協力（ODA,NGO）について調べる。	1.5h	講義を通して、残された健康問題を整理する。	1.5h
14	日本の看護分野における国際協力の現状と課題	4	世界で行われている看護の国際協力（ODA,NGO）について調べる。	1.5h	講義を通して、残された健康問題を整理する。	1.5h
15	看護の立場で考えるグローバルヘルスの今後の課題と展望	4	世界における保健医療分野に残されている課題を明確にする。	1.5h	講義をとおり、残された健康課題に対しての看護の役割を整理する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- ・自分自身の経験を基に、世界で起こっている健康問題を検討し、その中で看護に求められている機能や役割を、レポート・意見交換などを通し探求する。
 - ・講義内容に基づき、自主的・自律的に予習、復習に取り組む。
 - ・予習復習は原則として、全授業を通して60時間は行う。
 - ・オンラインの場合、C-learning また動画配信による講義を行う。
- また、出席管理は C-learning 上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する。
- ※学習の過程で疑問・質問が生じた場合はメールで対応する。

印刷

健康基礎科学特論 I

英文名：Advanced Basic Medical Science I

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

桑原敦志

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①糖尿病を代表とする生活習慣病を持った患者は年々増加し、病院で看護を提供するだけでなく、訪問看護や、介護施設においても糖尿病・生活習慣病の知識は欠かせないものとなっている。生活習慣病の予防から治療まで幅広い知識を習得する。
- ②授業は教科書や資料を基に進めていく。

到達目標

- 生活習慣病の定義を理解できる
- 糖尿病の検査診断・治療と糖尿病患者に対する看護について理解できる。
- 高血圧・脂質異常症の診断・治療と看護の注意点について理解できる。
- 動脈硬化性疾患のもたらす合併症と対処法について理解できる。
- 生活習慣病の予防について理解できる。

使用教材

丸ごとわかる生活習慣病 ISBN 978-4-525-50141-9 南山堂2018
その他、適宜教材を用意する。

評価方法

課題レポート（50%）、授業での発言や積極性（50%）で総合的に判断する。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出されたレポートに対して、内容と完成度に対してコメントし評価する。授業中にディスカッションを行う際に、学生自身の発言内容に対しても講評する。

オフィスアワー

毎週水曜日11時から14時。5号館3階301研究室。Eメールでの質問は常時受け付ける。

メールアドレス（#→@）

kuwabara#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	生活習慣病の基礎知識	1	教科書から生活習慣病の定義を理解する。	1.5h	生活習慣病の基礎知識を理解し生活習慣のデータを読めるようにする。	1.5h
2	疾患別の知識とケア：肥満・肥満症	4	教科書から肥満・肥満症の定義を理解する。	1.5h	肥満・肥満症の基礎知識を理解し検査診断、ケアを理解する。	1.5h
3	疾患別の知識とケア：糖尿病	2	教科書から糖尿病の定義を理解する。	1.5h	糖尿病の基礎知識を理解し検査診断、ケアを理解する。	1.5h
4	疾患別の知識とケア：高血圧	3	教科書から高血圧の定義を理解する。	1.5h	高血圧の基礎知識を理解し検査診断、ケアを理解する。	1.5h
5	疾患別の知識とケア：脂質異常症	3	教科書から脂質異常症の定義を理解する。	1.5h	脂質異常症の基礎知識を理解し検査診断、ケアを理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	疾患別の知識とケア：メタボリックシンドローム	1,2,3,4	教科書からメタボリックシンドロームの定義を理解する。	1.5h	メタボリックシンドロームの基礎知識を理解し検査診断、ケアを理解する。	1.5h
7	疾患別の知識とケア：痛風・高尿酸血症	1,4	教科書から痛風・高尿酸血症の定義を理解する。	1.5h	痛風・高尿酸血症の基礎知識を理解し検査診断、ケアを理解する。	1.5h
8	疾患別の知識とケア：脂肪肝	1,4	教科書から脂肪肝の定義を理解する。	1.5h	脂肪肝の基礎知識を理解し検査診断、ケアを理解する。	1.5h
9	疾患別の知識とケア：慢性腎臓病	1,4	教科書から慢性腎臓病の定義を理解する。	1.5h	慢性腎臓病の基礎知識を理解し検査診断、ケアを理解する。	1.5h
10	疾患別の知識とケア：閉塞性睡眠時無呼吸症候群	1	教科書から閉塞性睡眠時無呼吸症候群の定義を理解する。	1.5h	閉塞性睡眠時無呼吸症候群の基礎知識を理解し検査診断、ケアを理解する。	1.5h
11	生活習慣病の治療：減量とリバウンド予防	5	教科書から減量とリバウンド予防のコツを理解する。	1.5h	減量とリバウンド予防の基礎知識を理解し患者に適應できるようにする。	1.5h
12	生活習慣病の治療：食事療法	5	教科書から食事療法のコツを理解する。	1.5h	食事療法の基礎知識を理解し患者に適應できるようにする。	1.5h
13	生活習慣病の治療：運動療法	5	教科書から運動療法予防のコツを理解する。	1.5h	運動療法の基礎知識を理解し患者に適應できるようにする。	1.5h
14	生活習慣病の治療：禁煙	5	教科書から禁煙のコツを理解する。	1.5h	禁煙の基礎知識を理解し患者に適應できるようにする。	1.5h
15	生活習慣病の治療：禁酒・節酒	5	教科書から禁酒・節酒のコツを理解する。	1.5h	禁酒・節酒の基礎知識を理解し患者に適應できるようにする。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

授業は教科書や資料を基に進めていくので、予習して積極的に参加することが必要である。
予習復習の時間を十分に確保し、授業内容に対して自分の考えを持つことを重視する。

印刷

健康支援科学特論 I

英文名：Advanced Health Support Science I

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

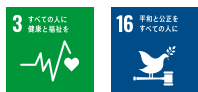
学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
 - ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
 - ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①子どもの健康問題が深刻化複雑化する中、学校においては、子どもの心身の健康を保持増進するために、子どもの健康支援に関する答申や学校保健安全法の改正、学習指導要領の改訂等が行われ、子どもの健康支援に対する学校への社会的ニーズも変化している。また、学校においては子どもの健康支援にあたり校内外の関係機関や専門職と連携・協働することが求められている。そこで、学校における子どもへの健康支援のこれまでの概観し、これからを展望するとともに、看護職の役割について探求する。

②

到達目標

- 1.学校における子どもの健康支援を概観し、変遷及び現状と課題を理解する
- 2.養護教諭に必要な資質能力について考察することができる
- 3.自己の経験を生かし学校における健康支援の課題と今後の方向性を探求することができる。

使用教材

- 1.学校保健の動向 令和5年度版 日本学校保健会発行
- 2.子どものからだと心白書2023 子どものからだと心・連絡会議
- 3.大谷尚子著：養護覚え書 ジャパンマニスト社
- 4.小倉 学著：養護教諭～その専門性と機能 東山書房
- 5.森昭三 著：これからの養護教諭 教育的視座からの提言 大修館書店
- 6.藤田和也著：養護教諭が担う教育とは何か(2008) 農山漁村文化協会
- 7.岡田加奈子「養護教諭の養護の概念～ケアの視点から」日本保健医療行動科学学会年報(2002)

評価方法

授業への参加度（50％） 課題を考察したプレゼンテーション内容（50％）

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションを行い、コメント・評価し、次の課題を明確化する。

オフィスアワー

初回講義時に提示する。

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	科目オリエンテーション 学校保健の動向（1）子どもの健康支援に関する答申から	1	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。	1.5 h	科目オリエンテーションの内容を理解し、自己の学習課題を整理する。	1.5 h
2	学校保健の動向（2）学校保健に関する法律から	1	学校保健安全法、学習指導要領を読み、健康支援に関する内容を理解しておく	1.5 h	不足する学習内容を補完する。	1.5 h
3	養護の本質と概念	1,2	使用教材を読み、養護の本質と概念について調べる。	1.5 h	学習した養護の本質と概念について、自身の考えをまとめる	1.5 h
4	養護教諭制度の沿革と職務・役割の変遷	1,2	養護教諭制度の沿革と職務・役割の変遷について調べる。	1.5 h	現在、求められている役割について自身の考えをまとめる。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	養護活動の基礎理念（１）「養護教諭 その専門性と機能」	1,2	使用教材を読み、内容をまとめて発表できるようにする	1.5 h	不足する学習内容を補完する。	1.5 h
6	養護活動の基礎理念（２）養護覚え書	1,2	使用教材を読み、内容をまとめて発表できるようにする	1.5 h	不足する学習内容を補完する。	1.5 h
7	教育に果たす養護教諭の役割（１）教育課程と養護教諭（校長または経験者）	1,2	教育課程とその編成及び今期の学習指導要領改訂の流れとその概要について調べておく。	1.5 h	不足する学習内容を補完する。	1.5 h
8	教育に果たす養護教諭の役割（２）健康教育と養護教諭	1,2	使用教材を読み、養護教諭が担う教育とは何かについてまとめておく。	1.5 h	学習内容を振り返り、養護教諭が担う教育について整理する。	1.5 h
9	健康支援活動（１）慢性疾患を抱える子どもの理解※がん	2,3	小児がんを抱える子どもの現状や学校における健康支援に関する資料及び先行研究について調べておく。	1.5 h	学校における、小児がん患児への健康支援について整理する。	1.5 h
10	健康支援活動（２）慢性疾患を抱える子どもの理解※アレルギー	2,3	アレルギーを抱える子どもの現状や学校における健康支援に関する資料及び先行研究について調べておく。	1.5 h	学校における、アレルギー患児への健康支援について整理する。	1.5 h
11	健康支援活動（３）慢性疾患を抱える子どもの理解※医療的ケア児	2,3	医療的ケア児の現状や学校における健康支援に関する資料及び先行研究について調べておく。	1.5 h	学校における、医療的ケア児への健康支援について整理する。	1.5 h
12	健康支援活動（４）心の健康問題を抱える子どもの理解※虐待・不登校（SC）	2,3	子ども虐待及び不登校の現状や学校における健康支援に関する資料及び先行研究について調べておく。	1.5 h	学校における、虐待や不登校の子どもへの健康支援について整理する。システム構築に関する課題について整理する。	1.5 h
13	健康支援活動（５）心の健康問題を抱える子どもの理解（SSW）	2,3	子どもの心の健康の現状や、学校における健康支援に関する資料及び先行研究について調べておく。	1.5 h	学校における、心の健康課題を抱える子どもへの健康支援について整理する。	1.5 h
14	健康支援活動（６）特別支援と養護教諭	2,3	学校における特別な配慮を要する子どもの健康支援に関する資料及び先行研究について調べておく。	1.5 h	学校における、特別な配慮を要する子どもへの健康支援について整理する。	1.5 h
15	子どもの健康支援におけるまとめ15回の内容についての整理及び学生によるプレゼンテーション	1,2,3	学校における子どもの健康支援の現状と課題についてまとめる	1.5 h	自己のプレゼンテーション内容の振り返りと課題について整理する。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

1. 授業外学習の進め方

自律的な学習が基本です。自己の取り組みたい課題を明らかにできるよう、先行研究を幅広く多岐にわたり読み、クリティークしていくこと。そのため、予習・復習のための時間を、全体として45時間は行う必要がある。

2. オンライン授業となった場合はZOOMで授業を行います。講義内容、評価方法に変更はありません。

3. 質問や疑問点への対応

- ①随時メールにて対応します。疑問が生じたらすぐに連絡して、解決を図ること。
- ②担当教員の連絡先、オフィスアワー：初回講義時に提示する。

印刷 

健康基礎科学特論Ⅱ

英文名：Advanced Basic Medical ScienceⅡ

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

桑原敦志

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①病院で行われる糖尿病患者に対する看護師による生活指導、糖尿病患者の家族に対する食事指導など、看護実践から導かれる糖尿病患者療養指導の問題点を抽出し、問題解決への考え方とエビデンスに基づく医療・看護を理解する。全人的看護を考え、生活習慣病に関する看護の問題点を考える。
- ②授業は教科書や資料を基に進めていく。

到達目標

1. 糖尿病患者の実際を理解できる。
2. 糖尿病患者の生活指導について理解できる。
3. 糖尿病療養指導に対する看護師の役割について理解できる。
4. 糖尿病合併症と対処法について理解できる。
5. 看護師の糖尿病予防に対する貢献について理解できる。

使用教材

教科書は使わず、最新の論文をチョイスして教科書として用いる。
その他、公的機関や糖尿病学会が発行する教材を用意する。

評価方法

課題レポート（50%）、授業での発言や積極性（50%）で総合的に判断する。

課題・評価に対するフィードバック方法

提出されたレポートに対して、内容と完成度に対してコメントし評価する。授業中にディスカッションを行う際に、学生自身の発言内容に対しても講評する。

オフィスアワー

毎週水曜日11時から14時。5号館3階301研究室。Eメールでの質問は常時受け付ける。

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	糖尿病患者の実際	1	シラバスを読み科目の内容を理解する。	1.5h	糖尿病患者に関する知識をまとめ、患者の生活背景を想像できるようにする。	1.5h
2	看護師による糖尿病生活指導	2	糖尿病患者の生活指導を調べておく。	1.5h	看護師の行う糖尿病患者に対する生活指導で、患者には社会的に何が必要か理解する。	1.5h
3	看護師による糖尿病療養指導：食事療法	3	糖尿病患者の食事療法を調べておく。	1.5h	看護師の行う糖尿病患者に対する食事指導のコツをまとめる。	1.5h
4	看護師による糖尿病療養指導：運動療法	3	糖尿病患者の運動療法を調べておく。	1.5h	看護師の行う糖尿病患者に対する運動指導のコツをまとめる。	1.5h
5	糖尿病患者の薬物療法	1,3	糖尿病患者の薬物療法を調べておく。	1.5h	糖尿病患者に対する薬物療法の副作用をまとめる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	インスリン治療の実際	1,3	糖尿病患者のインスリン療法を調べておく。	1.5h	看護師の行う糖尿病患者に対するインスリン治療指導のコツをまとめる。	1.5h
7	糖尿病性網膜症と治療・看護	1,4	糖尿病性網膜症を調べておく。	1.5h	看護師の行う糖尿病性網膜症患者に対する看護の注意点をまとめる。	1.5h
8	糖尿病性腎症と治療・看護	1,4	糖尿病性腎症を調べておく。	1.5h	看護師の行う糖尿病性腎症患者に対する看護の注意点をまとめる。	1.5h
9	糖尿病性神経症と治療・看護	1,4	糖尿病性神経症を調べておく。	1.5h	看護師の行う糖尿病性神経症患者に対する看護の注意点をまとめる。	1.5h
10	糖尿病と大血管障害	1,4	糖尿病による動脈硬化について調べておく。	1.5h	糖尿病による動脈硬化によっておこる疾患をまとめる。	1.5h
11	生活習慣病としての糖尿病と併存疾患	1,2,3	糖尿病患者と生活習慣病について調べておく。	1.5h	糖尿病を含む生活習慣病による動脈硬化性疾患についてまとめる。	1.5h
12	糖尿病発症予防としての健康診断	1,5	特定健診について調べる。	1.5h	糖尿病を含む生活習慣病を発見するための健診と疾病診断基準に関してまとめる。	1.5h
13	看護師が行う糖尿病発症予防のための生活指導	2,5	糖尿病予備群と診断された場合について調べる。	1.5h	糖尿病発症予防のため看護師のできる生活指導についてまとめる。	1.5h
14	看護師が行う糖尿病発症予防のための食事運動指導	3,5	糖尿病予備群に対する生活指導の効果について調べる。	1.5h	糖尿病発症予防のため看護師のできる食事運動指導についてまとめる。	1.5h
15	糖尿病に関するまとめ	1	社会的な存在としての糖尿病患者の心身の状況に関して調べる。	1.5h	糖尿病発症予防、治療について看護師のできることにについてまとめる。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

授業は教科書や資料を基に進めていくので、予習して積極的に参加することが必要である。
予習復習の時間を十分に確保し、授業内容に対して自分の考えを持つことを重視する。

印刷 

健康基礎科学演習 I

英文名：Seminar I：Basic Medical Science

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

桑原敦志

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①健康基礎科学特論での学びを基にして、生活習慣病患者に関しても診断・検査・治療を理解できるようにする。糖尿病療養指導及び糖尿病予防の観点から、食事療法、運動療法、薬物療法の基本を理論的に理解し、糖尿病発症予防、糖尿病の検査・診断、インスリン療法まで理解できるようにする。授業内容から研究テーマを明確にする。
- ②授業は資料を基に進めていく

到達目標

- 1.生活習慣病の定義を理解できる。
- 2.糖尿病の検査診断・治療と糖尿病患者に対する看護について理解できる。
- 3.高血圧・脂質異常症の診断・治療と看護の注意点について理解できる。
- 4.動脈硬化性疾患のもたらす合併症と対処法について理解できる。
- 5.生活習慣病の予防について理解できる。

使用教材

毎回、論文資料を用意する。

評価方法

課題レポート（50%）、授業での発言や積極性（50%）で総合的に判断する。発言無しでは評価しない。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題レポートやプレゼンテーションに対し毎回口頭で評価する。

オフィスアワー

毎週水曜日11時から14時。5号館3階301研究室。Eメールでの質問は常時受け付ける。

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、生活習慣病の基本	1	シラバスを読んで科目の目標を理解する。	1.5h	オリエンテーションの確認と生活習慣病を大まかに捉えておく。	1.5h
2	糖尿病の検査・診断、治療と看護①食事と運動	2	糖尿病の基本を理解する。	1.5h	糖尿病の食事運動療法に関する文献を抽出する。	1.5h
3	糖尿病の検査・診断、治療と看護②薬物療法	2	糖尿病の基本を理解する。	1.5h	糖尿病の薬物療法に関する文献を抽出する。	1.5h
4	糖尿病の検査・診断、治療と看護③インスリン治療	2	糖尿病の基本を理解する。	1.5h	糖尿病のインスリン療法に関する文献を抽出する。	1.5h
5	高血圧症の検査診断、治療と看護の役割①減塩食	3	高血圧の基本を理解する。	1.5h	高血圧症の減塩食に関する文献を抽出する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	高血圧症の検査診断、治療と看護の役割②降圧薬	3	高血圧症の基本を理解する。	1.5h	高血圧症の降圧薬に関する文献を抽出する。	1.5h
7	高血圧症の検査診断、治療と看護の役割③腎臓保護	3	高血圧症の基本を理解する。	1.5h	高血圧症の腎障害に関する文献を抽出する。	1.5h
8	脂質異常症の検査診断、治療と看護の役割①食事内容	3	脂血異常症の基本を理解する。	1.5h	脂質異常症の食事療法に関する文献を抽出する。	1.5h
9	脂質異常症の検査診断、治療と看護の役割②脂質異常症治療薬	3	脂血異常症の基本を理解する。	1.5h	脂質異常症の薬物療法に関する文献を抽出する。	1.5h
10	動脈硬化性疾患の治療・看護の注意点①心筋梗塞	4	心筋梗塞の基本を理解する。	1.5h	心筋梗塞の看護に関する文献を抽出する。	1.5h
11	動脈硬化性疾患の治療・看護の注意点②脳卒中	4	脳卒中の基本を理解する。	1.5h	脳卒中の看護に関する文献を抽出する。	1.5h
12	生活習慣病のもたらす健康上の弊害	4,5	生活習慣病のもたらす弊害を理解する。	1.5h	生活習慣病のリスクに関する文献を抽出する。	1.5h
13	生活習慣病に対して予防できること①生活指導	4,5	生活習慣病の生活指導を理解する。	1.5h	生活習慣病の看護師のできる生活指導に関する文献を抽出する。	1.5h
14	生活習慣病に対して予防できること②クリニカルイナーシャ	4,5	生活習慣病の治療を理解する。	1.5h	生活習慣病のクリニカルイナーシャに関する文献を抽出する。	1.5h
15	生活習慣病のまとめ	1,4,5	生活習慣病をまとめる。	1.5h	生活習慣病に関する文献をまとめる。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

授業は資料を基に進めていくので、予習して積極的に参加することが必要である。
予習復習の時間を十分に確保し、授業内容に対して自分の考えを持つことを重視する。

印刷



健康基礎科学演習Ⅱ

英文名：SeminarⅡ：Basic Medical Science

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

桑原敦志

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①糖尿病発症から治療までの一連の流れで抽出した課題解決を目指すアプローチについて、また、生活習慣病の発症から治療まで、文献やディスカッションを通じて検討する。看護師がチーム医療の一員として、糖尿病患者療養に関して重要な役割を担うことから、生活習慣病の中で糖尿病を捉え、予防することに貢献する看護の基本となるような課題を見つける。研究方法を検討し、研究計画書を作成できるようにする。
- ②授業は資料を基に進めていく。

到達目標

- 1.糖尿病予防・治療に対して看護師の役割を理解できる
- 2.生活習慣病・糖尿病予防のための生活習慣指導を理解する。
- 3.高血糖に関する知見を学び、研究のテーマを明らかにすることができる。

使用教材

適宜用意する。

評価方法

課題レポート（50%）、授業での発言や積極性（50%）で総合的に判断する。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートやプレゼンテーションに対する考察、評価をその都度口頭で伝える。

オフィスアワー

毎週水曜日11時から14時。5号館3階301研究室。Eメールでの質問は常時受け付ける。

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	看護師として生活習慣病・糖尿病予防や治療に対してどのように取り組むか、研究テーマを考えていく。	1,2	シラバスを読んで、生活習慣病について知識を整理しておく。	1.5h	授業でのディスカッションをもとに、看護師が行う生活習慣病予防をまとめる。	1.5h
2	看護師として生活習慣病・糖尿病予防や治療に対してどのように取り組むか、研究テーマを考えていく。	1,2	前回授業をもとに生活習慣病の知識を整理する。	1.5h	授業でのディスカッションをもとに、看護師が行う生活習慣病予防をまとめる。	1.5h
3	看護師として生活習慣病・糖尿病予防や治療に対してどのように取り組むか、研究テーマを考えていく。	1,2	前回授業をもとに生活習慣病の知識を整理する。	1.5h	授業でのディスカッションをもとに、看護師が行う生活習慣病予防をまとめる。	1.5h
4	看護師として生活習慣病・糖尿病予防や治療に対してどのように取り組むか、研究テーマを考えていく。	1,2	前回授業をもとに生活習慣病の知識を整理する。	1.5h	授業でのディスカッションをもとに、看護師が行う生活習慣病予防をまとめる。	1.5h
5	看護師として生活習慣病・糖尿病予防や治療に対してどのように取り組むか、研究テーマを考えていく。	1,2	前回授業をもとに生活習慣病の知識を整理する。	1.5h	授業でのディスカッションをもとに、看護師が行う生活習慣病予防をまとめる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	取り組みもうとする研究課題に対して、どのような疑問点、不明点があるのかをディスカッションを通じて見出ししていく。	1,2,3	生活習慣病患者看護の課題を考えておく。	1.5h	授業でのディスカッションをもとに、課題の不明点をまとめて、文献を検索しておく。	1.5h
7	取り組みもうとする研究課題に対して、どのような疑問点、不明点があるのかをディスカッションを通じて見出ししていく。	1,2,3	生活習慣病患者看護の課題を考えておく。	1.5h	授業でのディスカッションをもとに、課題の不明点をまとめて、文献を検索しておく。	1.5h
8	取り組みもうとする研究課題に対して、どのような疑問点、不明点があるのかをディスカッションを通じて見出ししていく。	1,2,3	生活習慣病患者看護の課題を考えておく。	1.5h	授業でのディスカッションをもとに、課題の不明点をまとめて、文献を検索しておく。	1.5h
9	取り組みもうとする研究課題に対して、どのような疑問点、不明点があるのかをディスカッションを通じて見出ししていく。	1,2,3	生活習慣病患者看護の課題を考えておく。	1.5h	授業でのディスカッションをもとに、課題の不明点をまとめて、文献を検索しておく。	1.5h
10	取り組みもうとする研究課題に対して、どのような疑問点、不明点があるのかをディスカッションを通じて見出ししていく。	1,2,3	生活習慣病患者看護の課題を考えておく。	1.5h	授業でのディスカッションをもとに、課題の不明点をまとめて、文献を検索しておく。	1.5h
11	生活習慣病・糖尿病看護に対する研究テーマを、ディスカッションを通じて明確化する。	3	生活習慣病患者看護の文献を読んでおく。	1.5h	授業でのディスカッションをもとに、研究課題をまとめる。	1.5h
12	生活習慣病・糖尿病看護に対する研究テーマを、ディスカッションを通じて明確化する。	3	生活習慣病患者看護の文献を読んでおく。	1.5h	授業でのディスカッションをもとに、研究課題をまとめる。	1.5h
13	生活習慣病・糖尿病看護に対する研究テーマを、ディスカッションを通じて明確化する。	3	生活習慣病患者看護の文献を読んでおく。	1.5h	授業でのディスカッションをもとに、研究課題をまとめる。	1.5h
14	生活習慣病・糖尿病看護に対する研究テーマを、ディスカッションを通じて明確化する。	3	生活習慣病患者看護の文献を読んでおく。	1.5h	授業でのディスカッションをもとに、研究課題をまとめる。	1.5h
15	生活習慣病・糖尿病看護に対する研究テーマを、ディスカッションを通じて明確化する。	3	生活習慣病患者看護の文献を読んでおく。	1.5h	授業でのディスカッションをもとに、研究課題をまとめる。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

授業は資料を基に進めていくので、予習して積極的に参加することが必要である。
予習復習の時間を十分に確保し、授業内容に対して自分の考えを持つことを重視する。

印刷 

健康基礎科学演習Ⅲ

英文名：SeminarⅢ：Basic Medical Science

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

桑原敦志

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①健康基礎科学演習Ⅱで提示された課題に対して、糖尿病患者および糖尿病発症以前の耐糖能障害患者、さらに生活習慣病のある患者に対しても行うことができる看護介入研究を立案し、実践するための計画書を作成する。看護介入として食事療法を中心に捉え、食事と血糖変化に対しての研究をする。
- ②授業は資料を基に進めていく。

到達目標

- 1.生活習慣病に関する研究テーマについて研究方法を検討することができる。
- 2.研究計画書を作成することができる。

使用教材

「人を対象とする生命科学・医学系研究における倫理指針」令和3年3月23日
高崎健康福祉大学研究倫理審査チェックリスト

評価方法

研究計画書（100%）

課題・評価に対するフィードバック方法

研究計画書を作成するときに口頭で評価する。

オフィスアワー

毎週水曜日11時から14時。5号館3階301研究室。Eメールでの質問は常時受け付ける。

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	研究テーマに合わせた研究デザイン（対象者、対象者リクルート方法、対象者数、介入か非介入か、侵襲の有無、測定方法、分析方法など）と研究計画書の作成 研究倫理指針を熟読し、倫理的配慮の明確化を行う。	1,2	シラバスを読んで講義目標を理解する。	1.5h	健康基礎科学演習Ⅰ・Ⅱをもとにして、授業でのディスカッションを組み入れて研究計画書を作成する。	1.5h
2	研究テーマに合わせた研究デザイン（対象者、対象者リクルート方法、対象者数、介入か非介入か、侵襲の有無、測定方法、分析方法など）と研究計画書の作成 研究倫理指針を熟読し、倫理的配慮の明確化を行う。	1,2	前回演習をもとにして研究テーマを考える。	1.5h	健康基礎科学演習Ⅰ・Ⅱをもとにして、授業でのディスカッションを組み入れて研究計画書を作成する。	1.5h
3	研究テーマに合わせた研究デザイン（対象者、対象者リクルート方法、対象者数、介入か非介入か、侵襲の有無、測定方法、分析方法など）と研究計画書の作成 研究倫理指針を熟読し、倫理的配慮の明確化を行う。	1,2	前回の演習をもとにして研究テーマを考える。	1.5h	健康基礎科学演習Ⅰ・Ⅱをもとにして、授業でのディスカッションを組み入れて研究計画書を作成する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	研究テーマに合わせた研究デザイン（対象者、対象者リクルート方法、対象者数、介入か非介入か、侵襲の有無、測定方法、分析方法など）と研究計画書の作成 研究倫理指針を熟読し、倫理的配慮の明確化を行う。	1,2	前回の演習をもとにして研究テーマを考える。	1.5h	健康基礎科学演習Ⅰ・Ⅱをもとにして、授業でのディスカッションを組み入れて研究計画書を作成する。	1.5h
5	研究テーマに合わせた研究デザイン（対象者、対象者リクルート方法、対象者数、介入か非介入か、侵襲の有無、測定方法、分析方法など）と研究計画書の作成 研究倫理指針を熟読し、倫理的配慮の明確化を行う。	1,2	前回の演習をもとにして研究テーマを考える。	1.5h	健康基礎科学演習Ⅰ・Ⅱをもとにして、授業でのディスカッションを組み入れて研究計画書を作成する。	1.5h
6	少人数を対象として予備実験を行う	1,2	プレテストの準備をする。	1.5h	予備実験の結果をもとにして調査方法の欠点を明確にする。	1.5h
7	少人数を対象として予備実験を行う	1,2	プレテストの準備をする。	1.5h	予備実験の結果をもとにして調査方法の欠点を明確にする。	1.5h
8	少人数を対象として予備実験を行う	1,2	プレテストの準備をする。	1.5h	予備実験の結果をもとにして調査方法の欠点を明確にする。	1.5h
9	少人数を対象として予備実験を行う	1,2	プレテストの準備をする。	1.5h	予備実験の結果をもとにして調査方法の欠点を明確にする。	1.5h
10	少人数を対象として予備実験を行う	1,2	プレテストの準備をする。	1.5h	予備実験の結果をもとにして調査方法の欠点を明確にする。	1.5h
11	研究計画書の加筆修正を行い、研究倫理審査を受ける。	1,2	予備実験の結果をもとにして研究計画書の加筆修正を行う。	1.5h	授業のディスカッションを参考に、研究計画書を完成させる。	1.5h
12	研究計画書の加筆修正を行い、研究倫理審査を受ける。	1,2	予備実験の結果をもとにして研究計画書の加筆修正を行う。	1.5h	授業のディスカッションを参考に、研究計画書を完成させる。	1.5h
13	研究計画書の加筆修正を行い、研究倫理審査を受ける。	1,2	予備実験の結果をもとにして研究計画書の加筆修正を行う。	1.5h	授業のディスカッションを参考に、研究計画書を完成させる。	1.5h
14	研究計画書の加筆修正を行い、研究倫理審査を受ける。	1,2	予備実験の結果をもとにして研究計画書の加筆修正を行う。	1.5h	授業のディスカッションを参考に、研究計画書を完成させる。	1.5h
15	研究計画書の加筆修正を行い、研究倫理審査を受ける。	1,2	予備実験の結果をもとにして研究計画書の加筆修正を行う。	1.5h	授業のディスカッションを参考に、研究計画書を完成させる。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

予習復習の時間を十分に確保し、授業内容に対して自分の考えを持つことを重視する。

印刷 

健康支援科学特論Ⅱ

英文名：Advanced Health Support ScienceⅡ

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

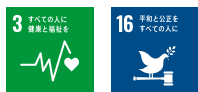
学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
 - ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
 - ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く▼

すべて閉じる▲

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①学校現場で実際に行われている子どもの健康支援に関わる実践の中を、「虐待」「不登校」などの心の健康問題、薬物乱用や性に関する問題行動、医療的ケアや発達障害等の特別支援、教育・福祉・医療等の連携からとらえなおし、我が国の学校における子どもの健康支援の現状と課題を探究する。

②

到達目標

- 1.学校が直面している子どもの健康支援に関する課題を認識することができる
- 2.自他が関心を持つ課題について、文献検討、発表、議論等の参加を通して客観的・批判的にとらえることができる
- 3.学校における子どもの健康課題において、自らが今後深く検討していく課題を設定することができる

使用教材

エリック・H・エリクソン著・西平直・中島由恵訳(2011)：アイデンティティとライフサイクル.誠信書房 文部科学省(2010)：生徒指導提要 井上直美他編著(2008)：子ども虐待防止のための家族支援ガイド.明石書店 石隈利紀著(2015)：学校心理学.誠信書房 学校保健学会誌，小児保健協会学会誌，日本思春期学会誌，養護教諭教育学会誌などから論文を紹介する。

評価方法

プレゼンテーション（30％） レポート（70％）

※オンライン授業の場合には、Meet、またはZoomを通じて行うため評価方法は上記と同様とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションやレポートについて課題に対する要点を口頭あるいはコメントをつけ返却する。

※オンライン授業の場合には、Meet、またはZoomを通じて講評・コメントすることを原則とする。また、レポートについては、必要に応じてC-learning【レポート】機能を通じて、コメントを付して返却する。

オフィスアワー

初回講義時に提示する。

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	学校における子どもの健康支援に関わる実践の抽出	1	自身の実践を振り返り、子どもの健康支援にかかわる実践を抽出しておく	1.5h	自律的に学習の必要のある事柄に対し確認する	1.5h
2	学校における子どもの心の健康支援1	1,2	子どもの心の成長発達の特徴と発達段階の課題を学習する	1.5h	子どもの心の健康支援に関する文献の講読	1.5h
3	学校における子どもの心の健康支援2	1,2	子どもの心の健康支援に関する文献の講読	1.5h	関連文献の考証と課題の抽出	1.5h
4	学校における子どもの心の健康支援3	1,2	子どもの心の健康支援に関する文献の講読	1.5h	関連文献の考証と課題の抽出	1.5h
5	子どもの問題行動と学校の支援1	1,2	子どもの生徒指導上の問題（薬物乱用等）に関する文献の講読	1.5h	関連文献の考証と課題の抽出	1.5h
6	子どもの問題行動と学校の支援2	1,2	子どもの生徒指導上の問題（性に関する問題等）に関する文献の講読	1.5h	関連文献の考証と課題の抽出	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	子どもの問題行動と学校の支援3	1,2	子どもの生徒指導上の問題に対する学校の支援に関する文献の講読	1.5h	関連文献の考証と課題の抽出	1.5h
8	特別な配慮を要する子どもの健康支援1	1,2	特別な配慮を要する子どもの現状と学校における課題を学習する	1.5h	特別な配慮を要する子どもの支援に関する文献の講読	1.5h
9	特別な配慮を要する子どもの健康支援2	1,2	医療的ケアを要する子どもの支援に関する文献の講読	1.5h	関連文献の考証と課題の抽出	1.5h
10	特別な配慮を要する子どもの健康支援3	1,2	発達障害の子どもの支援に関する文献の講読	1.5h	関連文献の考証と課題の抽出	1.5h
11	子どもの健康支援における多職種連携1	1,2	チーム学校のあり方と現状及び課題を学習する	1.5h	チーム学校に関する文献の講読	1.5h
12	子どもの健康支援における多職種連携2	1,2	子どもの健康支援における多職種連携に関する文献の講読	1.5h	関連文献の考証と課題の抽出	1.5h
13	子どもの健康支援における多職種連携3	1,2	子どもの健康支援における多職種連携に関する文献の講読	1.5h	関連文献の考証と課題の抽出	1.5h
14	学校における子どもの健康支援の現状と課題について1	1,2,3	第1回から13回までの学習をまとめ、プレゼンテーションできるように準備する	1.5h	協議を受け、子どもの健康支援の現状と課題を考察する	1.5h
15	学校における子供の健康支援の現状と課題について2	1,2,3	学校における子供の健康支援の現状と課題についてまとめ、プレゼンテーションできるように準備する。	1.5h	自らの研究課題について見通しを持てるよう整理する	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- 1.具体的な経験をもとに子ども・教師・保護者等の反応および実践の課題について検討できるよう、配布された授業資料や文献をよく読んでおくこと。
- 2.対話形式の授業のためディスカッションに積極的に参加できるよう、事前学習の課題について授業で紹介された参考文献などを活用し取り組むこと。
- 3.予習・復習は、原則として全授業を通して45時間を行う。
- 4.質問等：
 - ①随時メールにて対応します。疑問が生じたらすぐに連絡して、解決を図ること。
 - ②担当教員の連絡先、オフィスアワーは初回講義時に提示する。

印刷

健康支援科学演習 I

英文名：Seminar I：Health Support Science

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

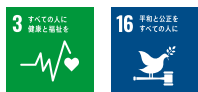
学位授与方針との対応：

- 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①文献検討、発表、議論、学会等の参加などを通して、子どもの健康支援において学校が直面する課題を抽出するとともに、問題解決に必要なプロセスについての理解を深め、自らの研究課題の設定について見通しを立てる。

②

到達目標

- 1.子どもの健康支援において学校が直面する課題を抽出することができる
- 2.文献検討、発表、議論、学会等の参加を通して、自他が関心をもつ課題を客観的かつ批判的にとらえることができる
- 3.自らが追求したい研究課題を設定できる

参考文献

参考書： D.F.ボーリット&C.T.ベック著 「看護学研究 原理と方法 第2版」 医学書院

評価方法

毎回の発表用資料および文献集・文献リストなどのポートフォリオ（70%）、講義参加度・貢献度（30%）。オンライン授業の場合、『課題に対するフィードバック』『出席方法』はC-learning上で行う。

課題・評価に対するフィードバック方法

評価方法に対する課題のフィードバックを適時行い、プレゼンテーションに対し、その都度ディスカッションを行うとともに講評する。

オフィスアワー

初回講義時に提示する。

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1	自身の研究テーマを説明できるように準備する。	1.5h	自律的に学習の必要のある事柄に対し確認する。	1.5h
2	子どもの健康支援における学校の問題点の抽出	1,2	自身の研究における問題点の抽出。	1.5h	関連文献の考証。	1.5h
3	子どもの健康支援における学校の問題点の抽出	1,2	自身の研究における問題点の抽出。	1.5h	関連文献の考証。	1.5h
4	子どもの健康支援における学校の問題点の抽出	1,2	自身の研究における問題点の抽出。	1.5h	関連文献の考証。	1.5h
5	関連文献考証	1,2	関連文献の準備。	1.5h	関連文献を参考に補完学習する。	1.5h
6	関連文献考証	1,2	関連文献の準備。	1.5h	関連文献を参考に補完学習する。	1.5h
7	関連文献考証	1,2	関連文献の準備。	1.5h	関連文献を参考に補完学習する。	1.5h
8	関連文献考証またはフィールドワーク	1,2	関連文献またはフィールドワークの準備。	1.5h	関連文献を参考に補完学習する。	1.5h
9	関連文献考証またはフィールドワーク	1,2	関連文献またはフィールドワークの準備。	1.5h	関連文献を参考に補完学習する。	1.5h
10	関連文献考証またはフィールドワーク	1,2	関連文献またはフィールドワークの準備。	1.5h	関連文献を参考に補完学習する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	問題の明確化（1）：研究テーマの方向性	2,3	研究テーマの方向性について発表できるようにする。	1.5h	関連文献を参考に補完学習する。	1.5h
12	問題の明確化（2）：研究テーマの方向性	2,3	協議を受け、研究テーマの方向性を再考する。	1.5h	関連文献を参考に補完学習する。	1.5h
13	問題の全体像整理（1）：関連文献の考証のまとめ	1,3	問題の全体像をまとめ研究デザインを発表できるようにする。	1.5h	関連文献を参考に補完学習する。	1.5h
14	問題の全体像整理（2）：関連文献の考証のまとめ	2,3	協議を受け、研究デザインを再考する。	1.5h	参考文献を参考に補完学習する。	1.5h
15	問題解決のための戦略：方法論に関する方向性	2,3	関連文献をもとに研究デザインを決定する。	1.5h	参考文献を参考に補完学習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

予習・復習の時間：15回の講義の中で45時間を確保する。
各自の興味をもった分野に関する情報収集および資料の整理を行い、次回の発表用資料作成を行う。
担当教員連絡先、オフィスアワーは初回講義時に提示する。

印刷



健康支援科学演習Ⅱ

英文名：SeminarⅡ：Health Support Science

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①臨床における研究課題について具体的な解決方法を見出し、必要な介入方法についての検討を進める。さらに、妥当な問題解決方法を模索し、他者に分かるような論理構成で、科学的手法を用いた研究計画を作成するための準備を行い、研究計画書を提出する。

②

到達目標

- 1.文献考証から、各自の研究課題に対してより具体的に問題解決方法を抽出することができる。
- 2.研究方法について多角的視点で検討し、科学的な手法を考えることができる。
- 3.予備検討などを行い研究方法の実現可能性や妥当性を検討することができる。
- 4.各自の研究に関する全体像を他者に分かるように論理的に表現することができる。
- 5.研究計画書を作成し、提出する事ができる。

使用教材

特に指定しない。

評価方法

研究計画書（70%）、各回の準備資料のポートフォリオ（20%）、講義参加度・貢献度（10%）。（対面、オンライン同様）。オンライン授業の場合、『課題に対するフィードバック』『出席方法』はC-learning上で行う。

課題・評価に対するフィードバック方法

研究方法に対する課題のフィードバックを適時行い、プレゼンテーションに対し、その都度ディスカッションを行うとともに講評する。

オフィスアワー

初回講義時に提示する。

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1	自身の研究テーマにおける問題点や評価方法について説明できるように準備する。	1.5h	自律的に学習の必要のある事柄に対し確認しておく。	1.5h
2	関連文献から研究方法に関する整理	1,2	関連文献考証。	1.5h	指摘事項の再確認。	1.5h
3	研究方法の提案	2,3	関連文献考証。	1.5h	指摘事項や課題について再確認。	1.5h
4	研究方法の提案	2,3	関連文献考証。	1.5h	指摘事項や課題について再確認。	1.5h
5	研究方法の提案	2,3	関連文献考証。	1.5h	指摘事項や課題について再確認。	1.5h
6	研究事例の検討	2,3	関連文献考証。	1.5h	指摘事項や課題について再確認。	1.5h
7	研究事例の検討	2,3	関連文献考証。	1.5h	指摘事項や課題について再確認。	1.5h
8	研究事例の検討	2,3	関連文献考証。	1.5h	指摘事項や課題について再確認。	1.5h
9	研究計画の提案	2,3,4	発表練習しておく。	1.5h	指摘事項の確認。	1.5h
10	研究計画の提案	2,3,4	発表練習しておく。	1.5h	指摘事項の確認。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
11	研究計画のプレ発表会（準備）	4,5	発表練習しておく。	1.5h	指摘事項の確認。	1.5h
12	研究計画のプレ発表会	4,5	発表練習しておく。	1.5h	指摘事項の修正。	1.5h
13	研究計画の修正	4,5	発表練習しておく。	1.5h	指摘事項の修正。	1.5h
14	研究計画の修正	4,5	発表練習しておく。	1.5h	指摘事項の修正。	1.5h
15	研究計画発表会	5	発表練習しておく。	1.5h	指摘事項の確認・修正。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

^

備考

予習・復習の時間：15回の講義の中で45時間を確保する。
毎回の発表のための準備作業を行い、段階的に研究計画書の作成に取り組む。
担当教員連絡先、オフィスアワーは初回講義時に提示する。

^

印刷



健康支援科学演習Ⅲ

英文名：SeminarⅢ：Health Support Science

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

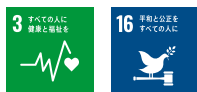
学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く▼

すべて閉じる▲

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法



①学校における子どもの健康支援に関する課題の中から、研究テーマを設定し、研究目的の達成のための妥当な研究方法を検討し、研究計画書を作成する。それをもとに特別研究に向けた準備を整える。

②

到達目標



- 1.研究テーマに基づき、研究目的・研究方法を明確化し、研究計画書を作成する。
- 2.プレテストを実施し、問題点・改善点を修正し、妥当性のある研究計画書を提出する。

使用教材



適宜指示する。

評価方法



研究計画書（100％）

課題・評価に対するフィードバック方法



計画書作成プロセスでその都度ディスカッションを行い、コメント・評価する。

オフィスアワー



初回講義時に提示する。

授業計画表



4月

研究計画書を作成し、プレテストを実施する。

修正を行い、倫理審査にかける。

6～7月

データ収集に合わせて、文献検索を行い、比較検討ができるよう準備する。

【予習】先行研究や文献についてさらに読み込み、研究テーマと目的と意義、方法の一貫性を検討する。

プレテストを行うにあたり、予測される問題点を整理し、対象者の選定方法や方法について整理しておく。

【予習時間】30h

【復習】研究計画書の妥当性について出された疑問や課題について精査する。

プレテストで得られた課題についてその結果をもとに、研究方法について整理し、修正する。

【復習時間】30h

合計時間（予習・復習）



60h

備考



1.授業時間外での学習の進め方

研究計画書を定められた期日までに提出する必要がある。研究倫理審査基準について熟読し、基準に耐えうる研究計画書となるよう自律的な学習を進める。

予習・復習は原則として60時間は行う必要がある。

2.疑問・質問への対応

①学習過程で生じた疑問は、随時メールで対応する。

②担当教員連絡先、オフィスアワー：初回講義時に提示する。

看護技術学特論Ⅱ

英文名：Advanced Nursing Art and ScienceⅡ

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

鶴田晴美、廣井寿美、桐山勝枝

科目に関連した実務経験

看護師として病院に勤務

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①看護技術のエビデンスの構築に向けた介入研究を実施する上で有用な方法論としての概念分析、サブストラクションについて学ぶ。介入研究における倫理的問題、Outcome指標の作成、データ分析法および看護モデルの構築について学ぶ。
- ②プレゼンテーション、分析、ディスカッションにより進める。

到達目標

- 1.看護技術のエビデンスの構築に向けた介入研究を実施する上で有用な方法論としての概念分析、サブストラクションについて学ぶ。
- 2.人を対象とする看護介入研究において遵守すべき倫理的事項が理解できる。
- 3.Outcomeとしての心理的指標、生理的指標の作成について理解できる。
- 4.収集したデータの統計分析法、質的分析法について知る。
- 5.看護モデルの構築について学ぶ。

使用教材

- ・Rogers(1999) Concept Development in Nursing : Foundations, Techniques, and Applications, WB Saunders
- ・論文は、日本看護技術学会誌、日本看護科学学会誌、日本看護研究学会会等の研究論文から最新の知見を紹介する。

評価方法

対面で実施する場合：プレゼンテーション（30%）、レポート（70%）
 オンラインで実施する場合：プレゼンテーション（30%）、レポート（70%）
 いずれも総合的に評価する。60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。
 レポートは期限内に提出した学生には、コメントなどを付けて返却する。

オフィスアワー

火曜日5時限目 5号館2階205研究室

メールアドレス（#→@）

tsuruta-h#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	科目オリエンテーション 概念分析について（Rogersの概念分析） （鶴田）	1	シラバスを読み、講義の目標を理解する。	1.5h	・科目オリエンテーションの内容を確認する。 ・Rogersの概念分析について理解を深める。	1.5h
2	リラクゼーションについての概念分析	1,4	関心のある概念について、プレゼンテーションの準備をする。	1.5h	・不足する学習内容を補完する。 ・関心のある概念についての論文を検索し、クリ	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	(桐山)				ディークする。	
3	関心のある概念についてのミニ概念分析 1 (廣井)	1,4	関心のある概念について、プレゼンテーションの準備をする。	1.5h	・不足する学習内容を補完する。 ・関心のある概念についての論文を検索し、クリティークする。	1.5h
4	関心のある概念についてのミニ概念分析 2 (廣井)	1,4	関心のある概念について、プレゼンテーションの準備をする。	1.5h	・不足する学習内容を補完する。 ・関心のある概念についての論文を検索し、クリティークする。	1.5h
5	関心のある概念についてのミニ概念分析 3 (鶴田)	1,4	関心のある概念について、プレゼンテーションの準備をする。	1.5h	・不足する学習内容を補完する。 ・関心のある概念についての論文を検索し、クリティークする。	1.5h
6	人を対象とする看護介入研究における倫理事項 (桐山)	2	授業のテーマに関して専門書を精読する。	1.5h	・不足する学習内容を補完する。 ・授業で扱った内容について、看護技術学特論 I で精読した論文ではどうなっているか検討する。	1.5h
7	Outcome指標の作成 (桐山)	3	授業のテーマに関して専門書を精読する。	1.5h	・不足する学習内容を補完する。 ・授業で扱った内容について、看護技術学特論 I で精読した論文ではどうなっているか検討する。	1.5h
8	量的データ分析法 (廣井)	3,4	授業のテーマに関して専門書を精読する。	1.5h	・不足する学習内容を補完する。 ・授業で扱った内容について、看護技術学特論 I で精読した論文ではどうなっているか検討する。	1.5h
9	質的データ分析法 (鶴田)	3,4	授業のテーマに関して専門書を精読する。	1.5h	・不足する学習内容を補完する。 ・授業で扱った内容について、看護技術学特論 I で精読した論文ではどうなっているか検討する。	1.5h
10	サブストラクションについて (桐山)	1,2,3,4	関心のある介入研究について、サブストラクションのプレゼンテーションの準備をする。	1.5h	・不足する学習内容を補完する。 ・関心のある介入研究についての論文を検索し、クリティークする。	1.5h
11	関心のある介入研究におけるサブストラクション 1 (廣井)	1,2,3,4	関心のある介入研究について、サブストラクションのプレゼンテーションの準備をする。	1.5h	・不足する学習内容を補完する。 ・関心のある介入研究についての論文を検索し、クリティークする。	1.5h
12	関心のある介入研究におけるサブストラクション 2 (鶴田)	1,2,3,4	関心のある介入研究について、サブストラクションのプレゼンテーションの準備をする。	1.5h	・不足する学習内容を補完する。 ・関心のある介入研究についての論文を検索し、クリティークする。	1.5h
13	関心のある介入研究におけるサブストラクション 3 (鶴田)	1,2,3,4	関心のある介入研究について、サブストラクションのプレゼンテーションの準備をする。	1.5h	・不足する学習内容を補完する。 ・関心のある介入研究についての論文を検索し、クリティークする。	1.5h
14	看護モデルの構築 (鶴田)	1,2,3,4,5	関心のある介入研究に、看護モデルが記載されている論文を検索する。	1.5h	・不足する学習内容を補完する。 ・関心のある介入研究について看護モデルが記載されている論文をクリティークする。	1.5h
15	まとめ (鶴田)	1,4	これまでの授業内容を振り返り、まとめる。	1.5h	不足する学習内容を補完するとともに、自己の研究への示唆を検討する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

予習・復習時間について

・単位修得に必要な時間を満たしていない場合、各自で補完すること。

・予習・復習は、原則として全授業を通して45時間は行う。

*学修過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対応する。

オフィスアワー：鶴田 火曜日5時限目 5号館2階205研究室

随時メールでも受付ける

印刷 

看護技術学演習 I

英文名：Seminar I：Nursing Art and Science

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

鶴田晴美、廣井寿美、桐山勝枝

科目に関連した実務経験

看護師として病院に勤務

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①注目すべき看護現象を記述し、その現象のなかにどのような患者・家族の問題があり、それを解決するためにどのような看護技術が用いられているのかを抽出し、注目した看護技術の条件（技術を用いる目的、目的をもたらすメカニズム、目的を達せられる臨床上での確立、手法の安全性と実行可能性）について理解する。
- ②文献とディスカッションを通して検討する。

到達目標

1. 注目すべき看護現象のなかにある患者・家族の問題およびその問題を解決するために用いられている看護技術を抽出する。
2. 注目した看護技術の条件である、技術を用いる目的、目的をもたらすメカニズム、目的を達せられる臨床上での確立、手法の安全性と実行可能性について明確にできる。

使用教材

- ・課題や講義内容に関連する文献などを随時提示し、活用する。
- ・日本看護技術学会誌、日本看護科学学会誌、日本看護研究学会誌等から論文を紹介する。

評価方法

対面で実施する場合：プレゼンテーション（30%）、レポート（70%）
 オンラインで実施する場合：プレゼンテーション（30%）、レポート（70%）
 いずれも総合的に評価する。60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

- ・プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。
- ・レポートは、期限内に提出した学生には、コメントなどを付けて返却する。

オフィスアワー

火曜日5時限目 5号館2階205研究室

メールアドレス（#→@）

tsuruta-h#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	注目すべき看護現象を記述し、その現象のなかにどのような患者・家族の健康課題があり、それをするためにどのような看護技術が用いられているのかを検討する。（鶴田）	1	・シラバスを読み、講義目標を理解する。 ・注目する看護現象を具体的に記述する。	1.5 h	・不足する学習内容を補完する。 ・授業でのディスカッションを基に記述した看護現象について理解を深める。	1.5 h
2	注目すべき看護現象を記述し、その現象のなかにどのような患者・家族の健康課題があり、それをするためにどのよ	1	・注目する看護現象を具体的に記述する。	1.5 h	・不足する学習内容を補完する。 ・授業でのディスカッションを基に	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	うな看護技術が用いられているのかを検討する。 (鶴田)				記述した看護現象について理解を深める。	
3	注目すべき看護現象を記述し、その現象のなかにどのような患者・家族の健康課題があり、それをするためにどのような看護技術が用いられているのかを検討する。 (鶴田)	1	・注目する看護現象を具体的に記述する。	1.5h	・不足する学習内容を補完する。 ・授業でのディスカッションを基に記述した看護現象について理解を深める。	1.5h
4	関心のある看護技術について文献検討 (鶴田)	1,2	関心のある看護技術に関する文献を集め、クリティークする。	1.5h	授業でのディスカッションを基に関心のある看護技術について文献クリティークを深める。	1.5h
5	関心のある看護技術について文献検討 (鶴田)	1,2	関心のある看護技術に関する文献を集め、クリティークする。	1.5h	授業でのディスカッションを基に関心のある看護技術について文献クリティークを深める。	1.5h
6	関心のある看護技術について文献検討 (鶴田)	1,2	関心のある看護技術に関する文献を集め、クリティークする。	1.5h	授業でのディスカッションを基に関心のある看護技術について文献クリティークを深める。	1.5h
7	関心のある看護技術についての技術の条件を明らかにする。 (廣井)	1,2	関心のある看護技術について、集めた文献を基に技術の条件について考える。	1.5h	授業でのディスカッションを基に関心のある看護技術に関する技術の条件について理解を深める。	1.5h
8	関心のある看護技術についての技術の条件を明らかにする。 (廣井)	1,2	関心のある看護技術について、集めた文献を基に技術の条件について考える。	1.5h	授業でのディスカッションを基に関心のある看護技術に関する技術の条件について理解を深める。	1.5h
9	関心のある看護技術についての技術の条件を明らかにする。 (廣井)	1,2	関心のある看護技術について、集めた文献を基に技術の条件について考える。	1.5h	授業でのディスカッションを基に関心のある看護技術に関する技術の条件について理解を深める。	1.5h
10	関心のある看護技術について現時点におけるエビデンスを明らかにする。 (桐山)	1,2	関心のある看護技術について集めた文献を基に現時点におけるエビデンスについて考える。	1.5h	授業でのディスカッションを基に関心のある看護技術のエビデンスについて理解を深める。	1.5h
11	関心のある看護技術について現時点におけるエビデンスを明らかにする。 (桐山)	1,2	関心のある看護技術について集めた文献を基に現時点におけるエビデンスについて考える。	1.5h	授業でのディスカッションを基に関心のある看護技術のエビデンスについて理解を深める。	1.5h
12	関心のある看護技術について現時点におけるエビデンスを明らかにする。 (桐山)	1,2	関心のある看護技術について集めた文献を基に現時点におけるエビデンスについて考える。	1.5h	授業でのディスカッションを基に関心のある看護技術のエビデンスについて理解を深める。	1.5h
13	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けて研究の方向性を明らかにする。 (鶴田)	1,2	これまでの授業を基に研究の方向性について考える。	1.5h	授業でのディスカッションを基に研究の方向性を明確にする。	1.5h
14	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けて研究の方向性を明らかにする。 (鶴田)	1,2	これまでの授業を基に研究の方向性について考える。	1.5h	授業でのディスカッションを基に研究の方向性を明確にする。	1.5h
15	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けて研究の方向性を明らかにする。 (鶴田)	1,2	これまでの授業を基に研究の方向性について考える。	1.5h	授業でのディスカッションを基に研究の方向性を明確にする。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

予習・復習について

- ・予習・復習は、原則として全授業を通して45時間は行う。
 - ・単位修得に必要な時間を満たしていない場合、各自で補完すること。
- 学修過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対応する。

①オフィスアワー：火曜日 5時限目 5号館2階205研究室

②随時メールでも受付ける。

- ・看護技術学特論Ⅰで取り上げた看護技術について、文献をクリティークし発表する。
- ・対話形式の授業なので、ディスカッションには積極的に参加すること。

印刷

看護技術学演習Ⅱ

英文名：SeminarⅡ：Nursing Art and Science

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

鶴田晴美

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①注目した看護技術の開発およびエビデンスの構築に向けた研究をするために重要となる概念について、概念分析を行う。また、注目した看護技術、介入研究におけるサブストラクションを作成し、技術開発およびエビデンスの構築に向けたテーマを明確にする。
- ②文献とディスカッションを通して検討する。

到達目標

1. 注目した看護技術の開発およびエビデンスの構築に向けた研究をするために重要となる概念について、概念分析ができる。
2. 注目した看護技術における介入研究におけるサブストラクションが作成できる。
3. 技術の開発およびエビデンスの構築に向けた研究テーマを明確化する。

使用教材

- ・Rogers(2000) Concept Development in Nursing：Foundations，Techniques, and Applications 2nd Ed, Saunders
- ・論文は、日本看護技術学会誌、日本看護科学学会誌、日本看護研究学会誌等の研究論文から最新の知見を紹介する。

評価方法

対面で実施する場合：プレゼンテーション（30%）、レポート（70%）
 オンラインで実施する場合：プレゼンテーション（30%）、レポート（70%）
 いずれも総合的に評価する。60点以上を合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

- ・プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。
- ・レポートは、期限内に提出した学生には、コメントなどを付けて返却する。

オフィスアワー

火曜日5時限目 5号館2階205研究室

メールアドレス（#→@）

tsuruta-h#takasaki-u.ac.jp（鶴田）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	注目すべき看護現象の記述を基に、看護技術の開発およびエビデンスの構築に向けた研究をするために重要となる概念について、概念分析を行う。	1	・シラバスを読み、講義の目標を理解する。 ・研究を行う上で重要となる概念について、概念分析を行う。	1.5h	授業でのディスカッションを基に、取り組んだ概念分析を洗練させる。	1.5h
2	注目すべき看護現象の記述を基に、看護技術の開発およびエビデンスの構築に向けた研究をするために重要となる概念について、概念分析を行う。	1	・研究を行う上で重要となる概念について、概念分析を行う。	1.5h	授業でのディスカッションを基に、取り組んだ概念分析を洗練させる。	1.5h
3	注目すべき看護現象の記述を基に、看護技術の開発およびエビデンスの構築に向けた研究をするために重要となる概念について、概念分析を行う。	1	・研究を行う上で重要となる概念について、概念分析を行う。	1.5h	授業でのディスカッションを基に、取り組んだ概念分析を洗練させる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	注目すべき看護現象の記述を基に、看護技術の開発およびエビデンスの構築に向けた研究をするために重要となる概念について、概念分析を行う。	1	・研究を行う上で重要となる概念について、概念分析を行う。	1.5h	授業でのディスカッションを基に、取り組んだ概念分析を洗練させる。	1.5h
5	注目すべき看護現象の記述を基に、看護技術の開発およびエビデンスの構築に向けた研究をするために重要となる概念について、概念分析を行う。	1	・研究を行う上で重要となる概念について、概念分析を行う。	1.5h	授業でのディスカッションを基に、取り組んだ概念分析を洗練させる。	1.5h
6	注目した看護技術における介入研究を基に、サブストラクシオンを作成する。	2	注目した看護技術の介入研究に関するサブストラクシオンを作成する。	1.5h	授業でのディスカッションを基に、作成したサブストラクシオンを洗練させる。	1.5h
7	注目した看護技術における介入研究を基に、サブストラクシオンを作成する。	2	注目した看護技術の介入研究に関するサブストラクシオンを作成する。	1.5h	授業でのディスカッションを基に、作成したサブストラクシオンを洗練させる。	1.5h
8	注目した看護技術における介入研究を基に、サブストラクシオンを作成する。	2	注目した看護技術の介入研究に関するサブストラクシオンを作成する。	1.5h	授業でのディスカッションを基に、作成したサブストラクシオンを洗練させる。	1.5h
9	注目した看護技術における介入研究を基に、サブストラクシオンを作成する。	2	注目した看護技術の介入研究に関するサブストラクシオンを作成する。	1.5h	授業でのディスカッションを基に、作成したサブストラクシオンを洗練させる。	1.5h
10	注目した看護技術における介入研究を基に、サブストラクシオンを作成する。	2	注目した看護技術の介入研究に関するサブストラクシオンを作成する。	1.5h	授業でのディスカッションを基に、作成したサブストラクシオンを洗練させる。	1.5h
11	技術開発およびエビデンスの構築に向けた研究テーマの明確化	3	これまでの授業を基に研究テーマについて考える。	1.5h	授業でのディスカッションを基に研究テーマを明確にする。	1.5h
12	技術開発およびエビデンスの構築に向けた研究テーマの明確化	3	これまでの授業を基に研究テーマについて考える。	1.5h	授業でのディスカッションを基に研究テーマを明確にする。	1.5h
13	技術開発およびエビデンスの構築に向けた研究テーマの明確化	3	これまでの授業を基に研究テーマについて考える。	1.5h	授業でのディスカッションを基に研究テーマを明確にする。	1.5h
14	技術開発およびエビデンスの構築に向けた研究テーマの明確化	3	これまでの授業を基に研究テーマについて考える。	1.5h	授業でのディスカッションを基に研究テーマを明確にする。	1.5h
15	技術開発およびエビデンスの構築に向けた研究テーマの明確化	3	これまでの授業を基に研究テーマについて考える。	1.5h	授業でのディスカッションを基に研究テーマを明確にする。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

1. 予習・復習について
 - ・予習・復習は、原則として全授業を通し45時間は行う。
 - ・単位修得に必要な時間を満たしていない場合、各自で補完すること。
 - * 学修過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対処する。
2. オフィスアワー：鶴田 火曜日5時限目 5号館2階205研究室
随時メールでも受付ける。
3. 方法
 - ・看護技術学特論Ⅱで取り上げた概念について概念分析を行い、発表する。
 - ・看護技術学特論Ⅱで取り上げた介入評価研究を基にサブストラクシオンを作成し、発表する。
 - ・対話形式の授業なので、ディスカッションには積極的に参加すること。

印刷

看護技術学演習Ⅲ

英文名：SeminarⅢ：Nursing Art and Science

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

鶴田晴美

科目に関連した実務経験

看護師として病院勤務

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①看護技術開発やエビデンスの構築に向けたテーマについて妥当な研究方法（研究フィールドの条件、研究デザイン、対象者の選定、サンプルサイズ、介入方法、測定方法、分析方法、研究倫理等）を検討し、研究計画書を作成し、プレテストを経て、研究計画書が完成できる。
- ②文献とディスカッションを通して検討する。

到達目標

- 1.看護技術開発やエビデンスの構築に向けた研究テーマについて妥当な研究方法を検討することができる。
- 2.研究計画書を作成することができる。

使用教材

「人を対象とする生命科学、医学系研究に関する倫理指針」

評価方法

研究計画書（100%）

課題・評価に対するフィードバック方法

研究計画書作成段階で、口頭あるいは文書でコメントする。

オフィスアワー

火曜日5時限目 5号館2階205研究室

メールアドレス（#→@）

tsuruta-h#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	2年次 4月から5月に開講する。 研究計画書の作成 （研究フィールドの条件、研究デザイン、対象者の適格基準・除外基準、リクルート方法、サンプルサイズ、介入方法、測定指標、分析方法、倫理的配慮の明確化）	1,2	・シラバスを読み、講義目標を理解する。 ・看護技術学演習Ⅰ・Ⅱを基に研究計画書を作成する。	1.5 h	授業でのディスカッションを基に研究計画書を洗練させる。	1.5 h
2	2年次 4月から5月に開講する。 研究計画書の作成 （研究フィールドの条件、研究デザイン、対象者の適格基準・除外基準、リクルート方法、サンプルサイズ、介入方法、測定指標、分析方法、倫理的配慮の明確化）	1,2	・看護技術学演習Ⅰ・Ⅱを基に研究計画書を作成する。	1.5 h	授業でのディスカッションを基に研究計画書を洗練させる。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	2年次 4月から5月に開講する。 研究計画書の作成 (研究フィールドの条件、研究デザイン、対象者の適格基準・除外基準、リクルート方法、サンプルサイズ、介入方法、測定指標、分析方法、倫理的配慮の明確化)	1,2	・看護技術学演習Ⅰ・Ⅱを基に研究計画書を作成する。	1.5h	授業でのディスカッションを基に研究計画書を洗練させる。	1.5h
4	2年次 4月から5月に開講する。 研究計画書の作成 (研究フィールドの条件、研究デザイン、対象者の適格基準・除外基準、リクルート方法、サンプルサイズ、介入方法、測定指標、分析方法、倫理的配慮の明確化)	1,2	・看護技術学演習Ⅰ・Ⅱを基に研究計画書を作成する。	1.5h	授業でのディスカッションを基に研究計画書を洗練させる。	1.5h
5	2年次 4月から5月に開講する。 研究計画書の作成 (研究フィールドの条件、研究デザイン、対象者の適格基準・除外基準、リクルート方法、サンプルサイズ、介入方法、測定指標、分析方法、倫理的配慮の明確化)	1,2	・看護技術学演習Ⅰ・Ⅱを基に研究計画書を作成する。	1.5h	授業でのディスカッションを基に研究計画書を洗練させる。	1.5h
6	プレテストの実施	1,2	作成した研究計画書を基にプレテストの実施の準備をする。	1.5h	プレテストで得られたデータをまとめるとともに、調査の実施方法を振り返る。	1.5h
7	プレテストの実施	1,2	作成した研究計画書を基にプレテストの実施の準備をする。	1.5h	プレテストで得られたデータをまとめるとともに、調査の実施方法を振り返る。	1.5h
8	プレテストの実施	1,2	作成した研究計画書を基にプレテストの実施の準備をする。	1.5h	プレテストで得られたデータをまとめるとともに、調査の実施方法を振り返る。	1.5h
9	プレテストの実施	1,2	作成した研究計画書を基にプレテストの実施の準備をする。	1.5h	プレテストで得られたデータをまとめるとともに、調査の実施方法を振り返る。	1.5h
10	プレテストの実施	1,2	作成した研究計画書を基にプレテストの実施の準備をする。	1.5h	プレテストで得られたデータをまとめるとともに、調査の実施方法を振り返る。	1.5h
11	研究計画書の修正	1,2	プレテストの結果を基に研究計画書を修正する。	1.5h	授業でのディスカッションをもとに研究計画書を洗練させる。	1.5h
12	研究計画書の修正	1,2	プレテストの結果を基に研究計画書を修正する。	1.5h	授業でのディスカッションをもとに研究計画書を洗練させる。	1.5h
13	研究計画書の修正	1,2	プレテストの結果を基に研究計画書を修正する。	1.5h	授業でのディスカッションをもとに研究計画書を洗練させる。	1.5h
14	研究計画書の修正	1,2	プレテストの結果を基に研究計画書を修正する。	1.5h	授業でのディスカッションをもとに研究計画書を洗練させる。	1.5h
15	研究計画書の修正	1,2	プレテストの結果を基に研究計画書を修正する。	1.5h	授業でのディスカッションをもとに研究計画書を洗練させる。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

予習・復習について

- ・予習・復習は、原則として全授業を通し45時間は行う。
- ・単位修得に必要な時間を満たしていない場合、各自で補充すること。
- ・定められた期日までに研究計画書を研究科委員会に提出する。医療機関での研究倫理審査が必要な場合は、6月までには承認が得られるように準備する。研究科委員会審査および研究倫理委員会の承認を得て実施となる。

印刷 

看護健康開発科学特別研究

英文名：Seminar for Master's thesis on Nursing Health Science

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：選択

単位数：8単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

桑原敦志

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①健康基礎科学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学んだことを基礎として、生活習慣病のある患者に対してどのように看護を展開していくか、患者の個性と社会性を考慮した看護研究のテーマについて研究計画書をもとにデータ収集を行い、解析する。得られた研究結果を考察し論文にまとめる。
- ②授業は資料を基に進めていく。

到達目標

- 1.研究のプロセスを学び、重要なポイントを確認しながら、研究を進めることができる。
- 2.生活習慣病患者の看護における課題に対して、課題解決のために役立つ修士論文を作成できる。

使用教材

特に指定しない。

評価方法

修士論文に対し、学位論文審査基準7項目と最終試験基準5項目によって評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

研究計画書に関する作成資料についてコメントを付けて返却する。

データ収集の状況と分析過程及びまとめ方、考察の内容などについて口頭でコメントする。

作成段階の修士論文について緒言、方法、結果、考察、結語についてコメントを付けて返却する。

オフィスアワー

毎週水曜日11時から14時。5号館3階301研究室。Eメールでの質問は常時受け付ける。

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

4～5月

研究計画書を確認し、倫理審査へ提出する。

研究の背景・動機が体系的に記載され、研究目的が明確であることを確認。

研究方に、対象者の選定理由・選定方法、データの収集、解析方法、研究対象者に対する倫理的配慮・個人情報保護、研究資金など必要事項が記載されていることを確認。

研究計画書に基づき、研究開始準備と具体的な手続きを行う。

6～8月

研究対象者に対する倫理的配慮を考慮しながらデータを取集する。

得られたデータと研究目的や分析項目の適合性を確認する。

9～10月

計画書に基づいてデータの分析を行い、結果を系統的にまとめる。

中間発表での意見及びコメントを論文の作成に活用する。

11～1月

研究実施から研究結果をえて考察するまでの新知見を明確にして論文を作成する。

研究目的に対し一貫性や客観性を確認しながら作成する。

プレゼンテーション資料について適切な記載方法で作成する。

プレゼンテーションでのコメントや助言をもとに加筆修正し論文の精度を上げる。

【予習】研究プロセスに応じ授業時に課題を提示

【予習時間】 期間中適宜
【復習】 研究プロセスに応じ授業時に課題を提示
【復習時間】 期間中適宜

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



授業は資料を基に進めていくので、予習して積極的に参加することが必要である。
予習復習の時間を十分に確保し、授業内容に対して自分の考えを持つことを重視する。
定められた期日までに修士論文を研究科委員会に提出する。
指定された期日までに既定の書式で修士論文を提出することにより、単位の取得が可能となる。
各授業の内容に取り組むためには授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。
オンラインの場合、Mee t、Zoom等を用いて行う。

印刷 

看護健康開発科学特別研究

英文名：Seminar for Master's thesis on Nursing Health Science

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：選択

単位数：8単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

鶴田晴美

科目に関連した実務経験

看護師として病院勤務

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①看護健康開発領域の研究課題に関して、看護および健康上の課題や先行研究のクリティックを通して研究テーマを設定し、適切な研究方法を選び研究を実践する。得られた知見を論理的にまとめ、結果を考察し論文を執筆することができる。
- ②ディスカッションを通して検討する。

到達目標

- 1.研究テーマに関連した領域における先行研究の文献レビューおよびクリティックができる。
- 2.先行研究の文献レビューを踏まえて、研究テーマを設定できる。
- 3.倫理的配慮にもとづいて研究計画を立案できる。
- 4.研究テーマ、研究目的に適した研究方法を選択し、それを適切に実施できる。
- 5.収集されたデータを整理・分析できる。
- 6.得られた結果について、解釈・考察できる。

使用教材

- 1.研究テーマに関する文献等を提示し、活用する。
- 2.研究法に関する著書を活用する。
 - ・バーンズ&グループ；黒田裕子他監訳：看護研究入門-評価・統合・エビデンスの生成-原著第7版 エルゼビア・ジャパン 2019
 - ・DF.ポーリット&C.T.ベック著；近藤潤子監訳 看護研究 原理と方法 医学書院 2010

評価方法

修士論文に対し、学位論文審査基準項目と最終試験基準項目によって評価する。
※オンライン授業の場合には、Zoomを通じて行うため評価方法は上記と同様とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

- 1.研究計画書について、口頭あるいは書面にてコメントする。
 - 2.データの収集、結果の分析、考察の内容等について、口頭あるいは書面にてコメントする。
 - 3.論文作成段階で、緒言、目的、方法、結果、考察について、口頭あるいは書面にてコメントする。
- ※オンライン授業の場合には、Meet、またはZoomを通じて講評・コメントすることを原則とする。また、レポートについては、必要に応じてC-learning【レポート】機能を通じて、コメントを付して返却する。

オフィスアワー

火曜日5時限目 5号館2階205研究室

メールアドレス（#→@）

tsuruta-h#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

4～5月

- 1.研究を倫理的に進めるために必要な内容を含めた研究計画書を確認し、倫理審査へ提出する。
- 2.研究計画書に記載した方法に基づき、対象者の倫理を十分に考慮しデータ収集の準備をする。

6～8月

- 1.精度の高い豊かなデータ収集をするために調査方法や調査内容を確認しながら収集する。
- 9～10月
- 1.計画書に記載した分析方法に基づき順序立てて分析を行い、結果を系統的に図や表を用いてまとめる。
- 2.中間発表を行い、受けたコメントを論文作成に活用する。
- 11月～12月
- 1.論文の内容を熟考し知見を明確に表現し、表記の適切性にも考慮し論文を作成する。
- 【予習】 研究プロセスに応じ、各段階での課題を提示する。
- 【予習時間】 期間中適宜
- 【復習】 復習はそれぞれの課題を強化する。
- 【復習時間】 期間中適宜

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



- 1.予習・復習の時間：各授業に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかけ、補完する。
- 【出席登録】
- 出席登録は、C-learning【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。
- 【授業外学習の進め方】
- 1) 研究プロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進める。
- 2) 修士論文を作成できるよう関連文献を有効に活用し研究活動を行う。
- 3) オンラインの場合は、Zoomなどを中心に行う。

印刷 

がん看護学特論Ⅱ

英文名：Advanced Cancer Nursing II

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

吉田久美子、石田順子、砂賀道子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①がんや治療から受ける影響をふまえ、研究課題・看護実践の探求するため、危機理論・家族理論・セルフケア理論や症状マネジメント理論などがん看護に活用される理論・モデルを理解する。がんサバイバーの概念を理解し、初期治療期から終末期にある対象者の看護についての現状と課題について探求する。
- ②講義形式で行う。

到達目標

- 1.がん看護に活用される理論・モデルの概要を述べることができる。
- 2.研究・実践に活用する理論を2つ以上選択し、事例に適用することができる。
- 3.サバイバーの状況に応じ、適用できる理論とその時期の看護支援や課題を述べることができる。

使用教材

都留伸子監訳(2004)：看護理論家とその業績,医学書院 大西和子他編(2018)：がん看護学,NOUVELLE HIROKAWA,日本看護科学学会誌、日野原重明監修(2012)：実践がんサバイバーシップ,医学書院,鈴木裕子他編集(2012)家族看護学 理論と実践,日本看護協会出版会,日本看護科学学会誌、がん看護学会誌、日本看護研究学会誌などから論文を紹介する。

評価方法

プレゼンテーション（30％） レポート（70％）

※オンライン授業の場合には、Meet、またはZoomを通じて行うため評価方法は上記と同様とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションやレポートについて課題に対する要点を口頭あるいはコメントをつけ返却する。

※オンライン授業の場合には、Meet、またはZoomを通じて講評・コメントすることを原則とする。また、レポートについては、必要に応じてC-learning【レポート】機能を通じて、コメントを付して返却する。

オフィスアワー

月曜1～4限 410研究室

メールアドレス（#→@）

yoshikumi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション がん看護学に活用できる理論について【担当：吉田】	1	がん看護学で活用されやすい代表的な理論の概要について調べておくこと。	1.5h	がん看護学で活用されやすい代表的な理論の概要についてまとめること。	1.5h
2	がんサバイバーの時期別特徴と抱える問題について：文献検討①【担当：吉田】	3	がんサバイバーが抱えやすい問題を記述しておくこと。	1.5h	がんサバイバーの時期の特徴と抱える問題を整理しておくこと。	1.5h
3	がんサバイバーの時期別特徴と抱える問題について：文献検討	3	がんサバイバーに関連する文献を購読しておくこと。	1.5h	がんサバイバーに関連する文献を購読し時期と特徴を整理しておくこと。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	② 【担当：吉田】					
4	がん治療を受ける患者・家族の特徴と抱える問題について：文献検討① 【担当：砂賀】	1,2,3	がん治療（手術、薬物、放射線）を受ける患者の特徴について文献を購読しておくこと。	1.5h	がん治療（手術、薬物、放射線）を受ける患者の特徴や問題について、文献をもとに整理しておくこと。	1.5h
5	がん治療を受ける患者・家族の特徴と抱える問題について：文献検討② 【担当：吉田・石田・砂賀】	1,2,3	がん治療（手術、薬物、放射線）を受ける患者の特徴や問題について注目し検討できるよう文献を準備しておくこと。	1.5h	がん治療（手術、薬物、放射線）を受ける患者の特徴や問題について文献をもとに整理すること。	1.5h
6	緩和ケアを受ける患者と家族を支援する看護：文献検索① 【担当：吉田】	1,2	緩和ケアの文献を検索し、プレゼンテーションできるよう準備しておくこと。	1.5h	緩和ケアの文献を検索し、プレゼンテーションから要点を記述しておくこと。	1.5h
7	緩和ケアを受ける患者と家族を支援する看護：文献検討② 【担当：吉田】	1,2	緩和ケアの文献を検索し、プレゼンテーションできる準備を行うこと。	1.5h	緩和ケアの文献を検索し、プレゼンテーションから要点を記述しておくこと。	1.5h
8	終末期ケアの現状と課題について：文献検討① 【担当：吉田】	1,3	終末期ケアの文献を検索し検討できるよう、文献の概要をまとめた資料を作成し準備しておくこと。	1.5h	終末期ケアの文献を検索し、現状と課題についてまとめておくこと。	1.5h
9	終末期ケアの現状と課題について：文献検討② 【担当：吉田】	1,3	終末期ケアの文献を検索し準備しておくこと。	1.5h	終末期ケアの文献を検索し、現状と課題についてまとめておくこと。	1.5h
10	がん看護学における理論の活用と課題について：文献検討① 【担当：吉田】	1,2,3	実践・研究で用いる理論を2つ選択し、それぞれの特徴を記述しておくこと。	1.5h	実践・研究で用いる理論を2つ選択し、理論と事例、および看護の課題について整理しておくこと。	1.5h
11	がん看護学における理論の活用と課題について：文献検討② 【担当：吉田】	1,2,3	実践・研究で用いる理論を2つ選択し、学習の準備をしておくこと。	1.5h	実践・研究で用いる理論を2つ選択し、理論の活用例について整理しておくこと。	1.5h
12	がん看護学における理論の活用と課題について：文献検討③ 【担当：吉田】	1,2,3	理論についてプレゼンテーションできるよう、資料を作成し準備を行うこと。	1.5h	理論についてプレゼンテーションなどから学習した内容を整理しておくこと。	1.5h
13	がん看護学における理論の活用と課題について：文献検討④ 【担当：吉田・石田・砂賀】	1,2,3	事例をがん看護理論に適用し、プレゼンテーションできるよう資料を作成し準備を行うこと。	1.5h	事例をがん看護理論に適用し、プレゼンテーションなどから学習した内容を整理しておくこと。	1.5h
14	家族に関する理論と看護について：文献検討① 【担当：石田】	1,2	家族理論や文献から特徴を学習できるよう、文献などを購読しておくこと。	1.5h	家族理論や文献からがん患者の家族の特徴を整理しておくこと。	1.5h
15	家族に関する理論と看護について：文献検討② 【担当：吉田・石田・砂賀】	1,2	家族理論や文献から特徴について前回の学習の要点を確認しておくこと。	1.5h	家族理論や文献から特徴について学習した内容を積み上げ整理しておくこと。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- 1.具体的な経験をもとに患者・家族の反応および看護実践の課題について検討できるよう、配布された授業資料や文献をよく読んでおくこと。
- 2.対話形式の授業のためディスカッションに積極的に参加できるよう、事前学習の課題について授業で紹介された参考文献などを活用し取り組むこと。
- 3.予習・復習は、原則として各授業に対して1時間以上は行う。

【出席登録】

出席登録は、C-learning【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。

印刷

がん看護学演習 I

英文名：Seminar I：Cancer Nursing

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

石田順子、吉田久美子、砂賀道子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

がん看護の立場で、実践の場で起こっている問題点を抽出すると同時に、それらの問題について明確にするための研究法の検討を行う。また、各自の興味ある分野の問題に焦点を当てて、問題解決に必要なプロセスについての理解を深め、研究テーマの絞り込みと関連論文の考証、使用方法の選択およびその手法について学ぶ。3人の教員が担当する。

到達目標

- 1.臨床における問題点の抽出方法を理解し、各自の研究テーマにつなげて具体化することができる。
- 2.研究テーマに即した関連論文の考証を行い、広い視点をもって問題を概観することができる。
- 3.問題解決のためのアプローチの多様性を認識し、その中からテーマに合う方法を見出すことができる。
- 4.必要な指標や方法を選択し、その手法を理解できる。

使用教材

- ・がん看護コアカリキュラム,医学書院
- ・D.F ポーリット,B.P.ハングラー著,近藤潤子訳,看護研究 原理と方法,医学書院
- ・Nancy Burns,SuzanK,Grove著,黒田裕子他訳,看護研究入門,エルゼビア・ジャパン
- ・日本がん看護学会誌、日本看護研究学会誌、日本看護科学学会学会誌から文献を紹介する。

評価方法

毎回の発表用資料および文献集・文献リストなどのポートフォリオ（70%）、講義参加度・貢献度（30%）
総合60%以上で合格とする（対面、オンライン同様）。
オンライン授業の場合、『課題に対するフィードバック』『出席方法』はC-learning 上で行う。

課題・評価に対するフィードバック方法

評価方法に対する課題のフィードバックを適時行い、プレゼンテーションに対し、その都度ディスカッションを行うとともに講評する。

オフィスアワー

火曜日（9:00～19:00）403研究室

メールアドレス（#→@）

jishida#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション（石田、吉田、砂賀）	1	自身の研究テーマを説明できるように準備する。	1.5h	自律的に学習の必要のある事柄に対し確認する。	1.5h
2	臨床における問題点の抽出（石田、吉田、砂賀）	1,2	自身の臨床（研究）における問題点の抽出	1.5h	関連文献の検討	1.5h
3	臨床における問題点の抽出（石田、吉田、砂賀）	1,2	自身の臨床（研究）における問題点の抽出	1.5h	関連文献の検討	1.5h
4	臨床における問題点の抽出（石田、吉田、砂賀）	1,2	自身の臨床（研究）における問題点の抽出	1.5h	関連文献の検討	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	関連文献のクリティーク（石田、吉田、砂質）	1,2	関連文献の準備	1.5h	関連文献を参考に補完学習	1.5h
6	関連文献のクリティーク（石田、吉田、砂質）	1,2	関連文献の準備	1.5h	関連文献を参考に補完学習する	1.5h
7	関連文献のクリティーク（石田、吉田、砂質）	1,2	関連文献の準備	1.5h	関連文献を参考に補完学習する	1.5h
8	関連文献のクリティーク（石田、吉田、砂質）	1,3	関連文献の準備	1.5h	関連文献を参考に補完学習する	1.5h
9	問題解決に必要な評価指標等の検討（石田、吉田、砂質）	1,3	関連文献の準備	1.5h	関連文献を参考に補完学習する	1.5h
10	問題解決に必要な評価指標等の検討（石田、吉田、砂質）	1,3	関連文献の準備	1.5h	関連文献を参考に補完学習する	1.5h
11	評価指標の必要性の検討（石田、吉田、砂質）	3,4	関連文献の準備	1.5h	関連文献を参考に補完学習する	1.5h
12	評価指標の必要性の検討（石田、吉田、砂質）	3,4	関連文献の準備	1.5h	関連文献を参考に補完学習する	1.5h
13	問題の明確化：研究テーマの方向性（石田、吉田、砂質）	1,3	関連文献の準備	1.5h	関連文献を参考に補完学習する	1.5h
14	問題の全体像整理：関連文献の考証のまとめ（石田、吉田、砂質）	1,2,3	関連文献をもとに研究デザインを再考する	1.5h	参考文献を参考に補完学習する	1.5h
15	問題解決のための戦略：方法論に関する方向性（石田、吉田、砂質）	1,2,3,4	関連文献をもとに研究デザインを再考する	1.5h	参考文献を参考に補完学習する	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- ・十分な準備をしてから講義に臨むこと。
- ・看護学研究方法の講義・演習と関連させ、演習Ⅰで自己の課題を明確にしていく。その講義資料を参考にする。
- ・主体的積極的に文献を収集していく。興味・関心のある研究を踏まえて準備を進める。
- ・予習・復習は原則として、各授業の前後に1.5時間以上をかける必要がある。
- ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールで対応する。

印刷



がん看護学演習Ⅱ

英文名：SeminarⅡ：Advanced Cancer Nursing

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

砂賀道子、吉田久美子、石田順子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①がん看護学特論Ⅰ・Ⅱ、がん看護学演習Ⅰで明らかになったがん看護実践上の課題について追究し、先行研究を活用しながら興味関心のある研究テーマを明確化する。そして、研究テーマから概念枠組み、研究手法を検討し、研究計画書を作成する。
- ②演習形式で行う。

到達目標

- 1.がん看護における実践上の課題を焦点化する。
- 2.文献検討、およびクリティークを行い、興味関心のある研究テーマを明確化する。
- 3.研究の概念枠組みを作成し、研究手法を明確化する。
- 4.研究計画書原案を作成する。

使用教材

- ・D.Fボーリット, C.T.ベッグ著, 近藤潤子監訳：看護研究－原理と方法－, 医学書院。
 - ・ナンシー・バーンズ, スーザン.K.グローブ著, 黒田裕子ほか訳：看護研究入門, エルゼビアジャパン。
 - ・ホロウェイ, ウィーラー著, 野口美和子監訳：ナースのための質的研究入門, 医学書院。
- *日本看護科学学会誌, 日本がん看護学会誌, 日本看護研究学会誌など最新の研究論文を適宜活用する。

参考文献

適宜紹介する。

評価方法

毎回の発表用資料および文献集・文献リストなどのポートフォリオ（70%）、講義参加度・貢献度（30%）
総合60%以上で合格とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題のフィードバックは適時行い、ディスカッションを行うとともに講評する。

オフィスアワー

火曜日、5号館4階404研究室

メールアドレス（#→@）

sunaga#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	科目オリエンテーション、がん看護における実践上の課題について	1,2,3	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度提示する。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。 講義ごとに不足する学習内容について補完する。	1.5h
2	がん看護における実践上の課題について、先行研究についての文献検討及び、文献のクリティークから研究テーマを明確化する。	1,2,3	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度提示する。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					行う。 講義ごとに不足する学習内容について補完する。	
3	がん看護における実践上の課題について、先行研究についての文献検討及び、文献のクリティークから研究テーマを明確化する。	1,2,3	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度提示する。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。 講義ごとに不足する学習内容について補完する。	1.5h
4	がん看護における実践上の課題について、先行研究についての文献検討及び、文献のクリティークから研究テーマを明確化する。	1,2,3	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度提示する。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。 講義ごとに不足する学習内容について補完する。	1.5h
5	研究テーマの概念枠組み、研究手法（研究デザイン・研究対象者・研究方法・分析方法・評価方法等）、倫理的配慮について文献検討を基に検討し、明確化する。	1,3	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度提示する。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。 講義ごとに不足する学習内容について補完する。	1.5h
6	研究テーマの概念枠組み、研究手法（研究デザイン・研究対象者・研究方法・分析方法・評価方法等）、倫理的配慮について文献検討を基に検討し、明確化する。	1,3	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度提示する。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。 講義ごとに不足する学習内容について補完する。	1.5h
7	研究テーマの概念枠組み、研究手法（研究デザイン・研究対象者・研究方法・分析方法・評価方法等）、倫理的配慮について文献検討を基に検討し、明確化する。	1,3	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度提示する。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。 講義ごとに不足する学習内容について補完する。	1.5h
8	研究テーマの概念枠組み、研究手法（研究デザイン・研究対象者・研究方法・分析方法・評価方法等）、倫理的配慮について文献検討を基に検討し、明確化する。	1,3	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度提示する。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。 講義ごとに不足する学習内容について補完する。	1.5h
9	研究計画書の原案を作成する。	1,3,4	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度提示する。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。 講義ごとに不足する学習内容について補完する。	1.5h
10	研究計画書の原案を作成する。	1,3,4	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度提示する。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。 講義ごとに不足する学習内容について補完する。	1.5h
11	研究計画書の原案を作成する。	1,3,4	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度提示する。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。 講義ごとに不足する学習内容について補完する。	1.5h
12	研究計画書の原案を作成する。	1,3,4	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度提示する。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。 講義ごとに不足する学習内容について補完する。	1.5h
13	研究計画書の原案を作成する。	1,3,4	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度提示する。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。 講義ごとに不足する学習内容について補完する。	1.5h
14	フィールド調査と対象者確保の調整1	1,3	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度提示する。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。 講義ごとに不足する学習内容について補完する。	1.5h
15	フィールド調査と対象者確保の調整2	1,3	研究方法に合わせて対象者への説明や同意書、調査内容の実際を実施する	1.5h	プレテストをした改善点を修正し、現地調査の準備を行う	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- 1.課題に対して積極的に取り組むこと。
- 2.研究における自己の課題を明確にしながら、学習すべき内容について自律的に学習すること。
- 3.予習・復習は、原則として各授業1.5時間以上は行う。

【出席登録】

出席登録は、C-learning【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。

印刷 

がん看護学演習Ⅲ

英文名：SeminarⅢ：Cancer Nursing

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

吉田久美子、石田順子、砂賀道子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①演習Ⅱで作成した研究計画書に基づき明らかにした課題を臨床において実践可能であるか検討する。そして抽出された問題点および改善点について整理し、研究計画書の修正を行い特別研究の学習につなげる。
- ②演習形式で行う。

到達目標

- 1.演習Ⅱで作成した研究計画書が実践可能であるか検討する。
- 2.研究施設との調整を行い、問題点や修正点を明確にする。
- 3.問題点を修正し研究が可能な計画書を作成する。

使用教材

学習状況に応じ参考文献を紹介し、さらに資料を配布する

評価方法

毎回の発表用資料および文献集・文献リストなどのポートフォリオ（70%）、講義参加度・貢献度（30%）
総合60%以上で合格とする（対面、オンライン同様）。
オンライン授業の場合、『課題に対するフィードバック』『出席方法』はC-learning上で行う。

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションやレポートについて課題に対する要点を口頭あるいはコメントをつけ返却する。
※オンライン授業の場合には、Meet、またはZoomを通じて講評・コメントすることを原則とする。また、レポートについては、必要に応じてC-learning【レポート】機能を通じて、コメントを付して返却する。

オフィスアワー

月曜2～4限 410研究室

メールアドレス（#→@）

yoshikumi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	研究計画書と倫理審査申請書類の検討	1,2,3	研究計画（対象者見振り）等の点検、倫理審査手順書作成、課題を明らかにする	1.5h	課題を解決し、手順に従い倫理審査を受ける準備を整える	1.5h
2	倫理審査の提出準備	1,2,3	関係者に研究計画を説明できるように準備する	1.5h	倫理審査の指摘を受け、計画書を修正する	1.5h
3	倫理審査の提出準備	1,2,3	関係者に研究計画を説明できるように準備する	1.5h	倫理審査の指摘を受け、計画書を修正する	1.5h
4	研究計画発表準備・プレゼンテーション練習	1,3	効果的な計画発表の学習の基、内容を整理し、パワーポイントを作成する	1.5h	改善点を整理し、他者が理解できるPPIに修正し、発表の練習をする	1.5h
5	研究計画発表準備・プレゼンテーション練習	1,3	効果的な計画発表の学習の基、内容を整理し、パワーポイントを作成する	1.5h	改善点を整理し、他者が理解できるPPIに修正し、発表の練習をする	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	研究計画発表準備・プレゼンテーション練習	1,3	効果的な計画発表の学習の基、内容を整理し、パワーポイントを作成する	1.5h	改善点を整理し、他者が理解できるPPに修正し、発表の練習をする	1.5h
7	研究計画発表審査	1,3	目的や方法、倫理等の計画を時間内で発表する準備をする（態度・声・速度等）	1.5h	質問内容を受け、問題点を整理する	1.5h
8	研究計画発表審査	1,3	目的や方法、倫理等の計画を時間内で発表する準備をする（態度・声・速度等）	1.5h	質問内容を受け、問題点を整理する	1.5h
9	研究計画書の修正	1,3	発表を受けての修正点や課題を整理し、計画書を修正する	1.5h	研究計画書を修正し完成させる	1.5h
10	フィールド研究の準備	1,2,3	フィールド先と連絡調整をして関係先の管理者・スタッフの説明書を準備する	1.5h	説明の改善点等を整理し、修正する	1.5h
11	フィールド研究の準備	1,2,3	フィールド先と連絡調整をして関係先の管理者・スタッフの説明書を準備する	1.5h	説明の改善点等を整理し、修正する	1.5h
12	フィールド研究の準備	1,2,3	フィールド先と連絡調整をして関係先の管理者・スタッフの説明書を準備する	1.5h	説明の改善点等を整理し、修正する	1.5h
13	プレテスト	1,2,3	研究方法に合わせて対象者への説明や同意書、調査内容の実際を実施する	1.5h	プレテストをした改善点を修正し、現地調査の準備を行う	1.5h
14	プレテスト	1,2,3	研究方法に合わせて対象者への説明や同意書、調査内容の実際を実施する	1.5h	プレテストをした改善点を修正し、現地調査の準備を行う	1.5h
15	プレテスト	1,2,3	研究方法に合わせて対象者への説明や同意書、調査内容の実際を実施する	1.5h	プレテストをした改善点を修正し、現地調査の準備を行う	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- 1.授業全体について
- 1)プログラムについて検討できるよう、配布された授業資料や倫理審査で準備する内容や計画書に必要な内容を文献や研究の参考書をよく読んでおくこと。
- 2) 対話形式の授業であり、主体的に研究活動を展開するための疑問点や質問事項を解決するため積極的に授業に参加すること。
- 3) 予習・復習は、原則として各授業1時間以上は行う。
- 【出席登録】
- 出席登録は、C-learning【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。

印刷

地域・精神看護学特論

英文名：Advanced Community Health and Psychiatric Nursing

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

倉林しのぶ、酒井美子、赤堀八重子、武居明美

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

地域・精神看護学領域における研究動向を踏まえ、研究課題の明確化と研究計画の作成に向けた文献抄読を行う。国内外の文献抄読により、論文読解能力を高め、研究目的に沿った研究手法について理解する

②講義の実施方法

指導教官との面接やグループディスカッションにおいて、地域・精神看護学領域に関連した文献の抄読を行い、研究課題の明確化と研究計画の作成に向けた方法および研究目的に沿った研究手法について検討を行う。

到達目標

1. 地域・精神看護学領域における研究課題について検討できる
2. 研究課題に関連する文献のクリティックができる
3. 文献学習を基に、研究の基盤となる理論について理解し、説明ができる
4. 文献学習を基に、研究実践に向けた研究手法について理解し、説明ができる

使用教材

各回の授業内容に関連した文献を提示する。

評価方法

評価方法 授業参加度（60％） レポート（40％）
オンラインの場合もMeet等を利用し講義を行うため、同様に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーション時は、毎回、講評とともにコメントする。
オンラインの場合も同様に、C-learningやメール等を活用してコメントをフィードバックする。

オフィスアワー

倉林：月曜日・火曜日の11:00～13:00
赤堀：金曜日の13:00～15:00
武居：月曜日の14：00～16：00

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション（倉林）	1	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。	1.5h	オリエンテーションの内容を確認し、必要性のある文献について確認する。	1.5h
2	地域におけるヘルスプロモーションと課題（倉林）	1	「ヘルスプロモーション」について調べ、ディスカッションができるようにしておく。	1.5h	授業内容の確認とともに自らの研究に結び付けながら振り返りを行う。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	保健行動とその根拠、および生活習慣病の予防と課題（赤堀）	1	「保健行動」について調べ、ディスカッションができるようにしておく。	1.5h	授業内容の確認とともに自らの研究に結び付けながら振り返りを行う。	1.5h
4	健康教育等の行動変容に向けた取り組み（赤堀）	1,2	「行動変容理論」について調べ、ディスカッションができるようにしておく。	1.5h	授業内容の確認とともに自らの研究に結び付けながら振り返りを行う。	1.5h
5	地域における社会資源1（赤堀）	1,2	地域で活用できる「社会資源」について調べ、ディスカッションに参加できるようにしておく。	1.5h	授業内容の確認とともに自らの研究に結び付けながら振り返りを行う。	1.5h
6	地域における社会資源2（武居）	1,2	地域で活用できる「社会資源」について調べ、ディスカッションに参加できるようにしておく。	1.5h	授業内容の確認とともに自らの研究に結び付けながら振り返りを行う。	1.5h
7	地域で生活する療養者と家族支援に関する課題（武居）	2,3	療養者を「生活者」と捉え、地域で生活するうえでどのような課題があるか調べ、ディスカッションに参加できるようにしておく。	1.5h	授業内容の確認とともに自らの研究に結び付けながら振り返りを行う。	1.5h
8	臨床・地域における倫理的課題（倉林）	2,3	地域で生活する療養者とその家族に生じる倫理的課題について考える。	1.5h	授業内容の確認とともに自らの研究に結び付けながら振り返りを行う。	1.5h
9	精神保健における倫理的課題（倉林）	2,3	精神医療分野における倫理的課題について考える。	1.5h	授業内容の確認とともに自らの研究に結び付けながら振り返りを行う。	1.5h
10	精神保健医療福祉政策の動向と精神障害の地域包括ケアシステム	1,2	厚労省の資料「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築のための手引き」（2020年度版）1章と2章を概観し、ディスカッションができるようにしておく。	1.5h	授業内容の確認とともに自らの研究に関連づけながら振り返りを行う。	1.5h
11	精神地域包括ケアシステム構築に向けて考えるべき様々な要素	2,3	前回使用した資料の第3章と4章を概観し、ディスカッションができるようにしておく。	1.5h	授業内容の確認とともに自らの研究に関連づけながら振り返りを行う。	1.5h
12	精神障害者の自立した地域生活と家族が安心して生活できるための支援のあり方	1,2	「精神障害者障害者の自立」と「家族支援」について調べ、ディスカッションができるようにしておく。	1.5h	授業内容の確認とともに自らの研究に関連づけながら振り返りを行う。	1.5h
13	地域精神保健福祉職の多職種連携	1,2	地域精神保健福祉職の「多職種連携」について調べ、ディスカッションができるようにしておく。	1.5h	授業内容の確認とともに自らの研究に関連づけながら振り返りを行う。	1.5h
14	精神障害者と就労	1,2	精神障害者の就労の現状、活用できる制度について調べ、ディスカッションができるようにしておく。	1.5h	授業内容の確認とともに自らの研究に関連づけながら振り返りを行う。	1.5h
15	まとめ、総合討論（倉林）	3,4	本授業全体を見直しておく。プレゼンテーションの準備を行う。	1.5h	全体のまとめを行い研究課題について検討する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

○授業内容に基づき、また自己の取り組みたい研究課題を見据え、文献検討やプレゼンテーション資料の準備を行うこと。

○オンラインの場合、C-learningまた動画配信による講義を行う。また、出席管理はC-learning上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する。

印刷 

地域・精神看護学演習 I

英文名：Seminar I：Community Health and Psychiatric Nursing

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

倉林しのぶ、酒井美子、赤堀八重子、武居明美

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

地域・精神看護学領域における健康課題を多様な角度から捉え、その課題を明確化するためのプロセスを学ぶ。近年の地域・精神看護学の研究動向を踏まえながら、対象とその家族、また保健・医療・福祉従事者の健康課題や倫理的課題、メンタルヘルスについての理解を深める。また、地域で生活する精神障がい者への支援、地域精神保健福祉の関連職種との多職種連携について理解を深める。

②講義の実施方法

近年の地域・精神看護学の研究動向に関する文献等を活用し、保健・医療・福祉従事者の健康課題や倫理的課題、メンタルヘルス、また、地域で生活する精神障がい者への支援、地域精神保健福祉の関連職種との多職種連携について、指導教員を交えたグループディスカッションを行う。

到達目標

1. 地域で生活する対象およびその家族のもつ健康課題について理解できる。
2. 地域・精神看護学領域における健康課題解決のための理論構築ができる。
3. 地域の特徴を踏まえた看護介入の方法について明確化できる。
4. 課題を解決するためのアプローチについての討論ができる。

参考文献

参考文献：金川克子ほか訳「コミュニティアズパートナー」医学書院 また、演習内容に応じ、適宜提示する。

評価方法

ディスカッションとグループワークへの参加（30％）プレゼンテーション（20％）レポート（50％）
オンラインの場合もMeet等を利用して講義を行うため、同様に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションを含む全体の流れについて講評とともにコメントする。
オンラインの場合も同様に、C-learningやメール等を活用してコメントをフィードバックする。

オフィスアワー

倉林：月曜日・火曜日の11:00～13:00
赤堀：金曜日の13:00～15:00
武居：月曜日の14:00～16:00

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	地域・精神看護における対象およびその家族の理解と健康課題・倫理的課題の探究①（倉林）	1,2	講義内容を確認し、対象と家族に関わる課題について考える。	1.5 h	対象と家族、および健康課題を抽出するためのアセスメントについて検討する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
2	地域・精神看護における対象およびその家族の理解と健康課題・倫理的課題の探究②	1,2	講義内容を確認し、対象と家族に関わる課題について考える。	1.5 h	対象と家族、および健康課題を抽出するためのアセスメントについて検討する。	1.5 h
3	対象および家族のもつ健康課題・倫理的課題のアセスメントとその手法（倉林）	1,2	講義内容を確認し、対象と家族に関わる課題と解決のための実践について考える。	1.5 h	対象と家族、および健康課題を抽出するためのアセスメントについて検討する。	1.5 h
4	対象および家族のもつ健康課題・倫理的課題のアセスメントとその手法	1,2	講義内容を確認し、対象と家族に関わる課題と解決のための実践について考える。	1.5 h	対象と家族、および健康課題を抽出するためのアセスメントについて検討する。	1.5 h
5	対象および家族のもつ健康課題・倫理的課題のアセスメントとその手法に関わる文献を収集し、検討する。（倉林、赤堀、武居）	1,2	講義内容を確認し、対象と家族に関わる課題と解決のための実践について考える。	1.5 h	文献から対象と家族、および健康課題を抽出するためのアセスメントについて検討する。	1.5 h
6	対象および家族のもつ健康課題・倫理的課題のアセスメントとその手法に関わる文献を収集し、検討する。（倉林、赤堀、武居）	1,2	講義内容を確認し、対象と家族に関わる課題と解決のための実践について考える。	1.5 h	文献から対象と家族、および健康課題を抽出するためのアセスメントについて検討する。	1.5 h
7	・理論モデル（プリシード・プロシードモデル、ヘルスビリーフモデル、行動変容ステージ理論、ストレスコーピング理論、家族発達理論、ストレングスモデル） ・保健医療福祉に関する行政施策（地域における保健施策、精神障がい者への自立支援、地域精神保健福祉の関連職種との多職種連携） ・倫理的課題へのアプローチ手法（倉林、赤堀、武居）	1,2,3	シラバスのなかのキーワードについて学習する。	1.5 h	各理論モデルや行政施策等についてまとめ、倫理的課題についても検討する。	1.5 h
8	・理論モデル（プリシード・プロシードモデル、ヘルスビリーフモデル、行動変容ステージ理論、ストレスコーピング理論、家族発達理論、ストレングスモデル） ・保健医療福祉に関する行政施策（地域における保健施策、精神障がい者への自立支援、地域精神保健福祉の関連職種との多職種連携） ・倫理的課題へのアプローチ手法（倉林、赤堀、武居）	1,2,3	シラバスのなかのキーワードについて学習する。	1.5 h	各理論モデルや行政施策等についてまとめ、倫理的課題についても検討する。	1.5 h
9	・理論モデル（プリシード・プロシードモデル、ヘルスビリーフモデル、行動変容ステージ理論、ストレスコーピング理論、家族発達理論、ストレングスモデル） ・保健医療福祉に関する行政施策（地域における保健施策、精神障がい者への自立支援、地域精神保健福祉の関連職種との多職種連携） ・倫理的課題へのアプローチ手法（倉林、赤堀、武居）	1,2,3	シラバスのなかのキーワードについて学習する。	1.5 h	各理論モデルや行政施策等についてまとめ、倫理的課題についても検討する。	1.5 h
10	・理論モデル（プリシード・プロシードモデル、ヘルスビリーフモデル、行動変容ステージ理論、ストレスコーピング理論、家族発達理論、ストレングスモデル） ・保健医療福祉に関する行政施策（地域における保健施策、精神障がい者への自立支援、地域精神保健福祉の関連職種との多職種連携） ・倫理的課題へのアプローチ手法（倉林、赤堀、武居）	1,2,3	シラバスのなかのキーワードについて学習する。	1.5 h	各理論モデルや行政施策等についてまとめ、倫理的課題についても検討する。	1.5 h
11	・理論モデル（プリシード・プロシードモデル、ヘルスビリーフモデル、行動変容ステージ理論、ストレスコーピング理論、家族発達理論、ストレングスモデル） ・保健医療福祉に関する行政施策（地域における保健施策、精神障がい者への自立支援、地域精神保健福祉の関連職種との多職種連携） ・倫理的課題へのアプローチ手法（倉林、赤堀、武居）	1,2,3	シラバスのなかのキーワードについて学習する。	1.5 h	各理論モデルや行政施策等についてまとめ、倫理的課題についても検討する。	1.5 h
12	・理論モデル（プリシード・プロシードモデル、ヘルスビリーフモデル、行動変容ステージ理論、ストレスコーピング理論、家族発達理論、ストレングスモデル） ・保健医療福祉に関する行政施策（地域における保健施策、精神障がい者への自立支援、地域精神保健福祉の関連職種との多職種連携） ・倫理的課題へのアプローチ手法（倉林、赤堀、武居）	1,2,3	シラバスのなかのキーワードについて学習する。	1.5 h	各理論モデルや行政施策等についてまとめ、倫理的課題についても検討する。	1.5 h
13	研究課題の明確化と発表（倉林、赤堀、武居）	1,2,3,4	プレゼンテーションの準備。	1.5 h	本講義の全体を見直す。	1.5 h
14	研究課題の明確化と発表（倉林、赤堀、武居）	1,2,3,4	プレゼンテーションの準備。	1.5 h	本講義の全体を見直す。	1.5 h
15	研究課題の明確化と発表（倉林、赤堀、武居）	1,2,3,4	プレゼンテーションの準備。	1.5 h	本講義の全体を見直す。	1.5 h

備考

- 授業内容に基づき、また自己の取り組みたい研究課題を見据え、文献検討やプレゼンテーション資料の準備を行うこと。
- オンラインの場合、C-learningまたは動画配信による講義を行う。また、出席管理はC-learning上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する。

印刷 

地域・精神看護学演習Ⅱ

英文名：SeminarⅡ：Community Health and Psychiatric Nursing

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

倉林しのぶ、酒井美子、赤堀八重子、武居明美

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

地域・精神看護学演習Ⅰで捉えた健康課題を解決するための具体的な実践方法について、先行研究や国内外の文献を活用しながら検討する。健康課題に応じた方法論を構築したうえで、研究テーマおよび目的に基づいた実践のためのプログラムを作成する。

②講義の実施方法

先行研究や国内外の文献を活用しながら指導教員を交えたグループディスカッションを行い、研究テーマおよび目的に基づいた実践のためのプログラムを作成する。

到達目標

- 1.健康課題の背景にある、対象および家族の発達段階や価値観について記述できる
- 2.健康課題に関連する国内外の文献について検討しクリティークができる
- 3.問題解決のための具体的な実践のためのプログラムの作成ができる

使用教材

適宜提示する。

評価方法

ディスカッションとグループワークへの参加（30％） プレゼンテーション（30％） レポート（40％）
オンラインの場合もMeet等を利用しディスカッションやプレゼンテーションを行うため、同様に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

プログラム内容を含む全体の流れについて講評とともにコメントする。
オンラインの場合も同様に、C-learningやメール等を活用してコメントをフィードバックする。

オフィスアワー

倉林：月曜日・火曜日の11:00～13:00

赤堀：金曜日の13:00～15:00

武居：月曜日の14：00～16：00

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	対象および家族の発達段階とその背景について①	1	シラバスの確認と、必要な文献の探索。	1.5h	文献を理解した上で整理しまとめる。	1.5h
2	対象および家族の発達段階とその背景について②	1	シラバスの確認と、必要な文献の探索。	1.5h	文献を理解した上で整理しまとめる。	1.5h
3	健康課題に関連する文献抄読とクリティーク・実践プログラムの方向性の検討	1,2	文献のクリティークと検討、プレゼンテーションの準備。	1.5h	文献整理、プログラムの検討。	1.5h
4	健康課題に関連する文献抄読とクリティーク・実践プログラムの方向性の検討	1,2	文献のクリティークと検討、プレゼンテーションの準備。	1.5h	文献整理、プログラムの検討。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	健康課題に関連する文献抄読とクリティーク・実践プログラムの方向性の検討	1,2	文献のクリティークと検討、プレゼンテーションの準備。	1.5h	文献整理、プログラムの検討。	1.5h
6	健康課題の解決に向けた実践プログラムの作成、倫理的配慮についての検討	3	健康課題について文献をもとに検討しプログラムを作成する。	1.5h	毎回のコメントをもとにプログラムの修正をする。	1.5h
7	健康課題の解決に向けた実践プログラムの作成、倫理的配慮についての検討	3	健康課題について文献をもとに検討しプログラムを作成する。	1.5h	毎回のコメントをもとにプログラムの修正をする。	1.5h
8	健康課題の解決に向けた実践プログラムの作成、倫理的配慮についての検討	3	健康課題について文献をもとに検討しプログラムを作成する。	1.5h	毎回のコメントをもとにプログラムの修正をする。	1.5h
9	健康課題の解決に向けた実践プログラムの作成、倫理的配慮についての検討	3	健康課題について文献をもとに検討しプログラムを作成する。	1.5h	毎回のコメントをもとにプログラムの修正をする。	1.5h
10	健康課題の解決に向けた実践プログラムの作成、倫理的配慮についての検討	3	健康課題について文献をもとに検討しプログラムを作成する。	1.5h	毎回のコメントをもとにプログラムの修正をする。	1.5h
11	作成した実践プログラムの発表と修正	3	プレゼンテーションの準備。	1.5h	コメントを受け、プログラムを加筆修正していく。	1.5h
12	作成した実践プログラムの発表と修正	3	プレゼンテーションの準備。	1.5h	コメントを受け、プログラムを加筆修正していく。	1.5h
13	作成した実践プログラムの発表と修正	3	プレゼンテーションの準備。	1.5h	コメントを受け、プログラムを加筆修正していく。	1.5h
14	プログラムに基づく計画書原案の作成	3	プレゼンテーションの準備。	1.5h	コメントを受け、プログラムを加筆修正していく。	1.5h
15	プログラムに基づく計画書原案の作成	3	プレゼンテーションの準備。	1.5h	コメントを受け、プログラムを加筆修正していく。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- ・各講義の担当者については初回の講義時に提示する。
- ・予習・復習は、原則として全授業を通して45時間を行う。
- ・オンラインの場合、C-learningまた動画配信による講義を行う。また、出席管理はC-learning上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する。

印刷



地域・精神看護学演習Ⅲ

英文名：SeminarⅢ：Community Health and Psychiatric Nursing

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

倉林しのぶ、酒井美子、赤堀八重子、武居明美

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

演習Ⅱで作成した実践プログラムを計画に基づいて実施する。実施に際しては、施設・他職種との連携・調整を図りながらプログラムの効果や問題点・改善点についても検討し、評価につなげていく。

②講義の実施方法

演習Ⅱで作成した実践プログラムを計画に基づいて実施する。実施にあたっては、適宜、指導教員とディスカッションを行い、プログラムについて検討する。

到達目標

1. 実践プログラムに基づいた実施ができる
2. 実施したプログラムの効果判定、問題点、改善点について整理できる

使用教材

演習の進行状況に応じ、適宜提示する

評価方法

研究計画（50%）、プレゼンテーション（50%）

課題・評価に対するフィードバック方法

計画書を含む全体の流れについて講評とともにコメントする。
オンラインの場合、Meet等を利用してコメントする。

オフィスアワー

倉林：月曜日・火曜日の11:00～13:00

赤堀：金曜日の13:00～15:00

武居：月曜日の14:00～16:00

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	プログラムに関する全体の流れを確認する 実践場所の選定、データ収集方法、倫理的配慮、分析方法、評価方法等について明確化する 研究倫理審査受審の準備 実践施設との具体的な打ち合わせおよび調整の実施	1,2	プログラムを確認し全体の流れを把握しておく。施設との打ち合わせ準備を行う	1.5h	実践から評価までの見直しを適宜行い、修正を重ねる	1.5h
2	プログラムに関する全体の流れを確認する 実践場所の選定、データ収集方法、倫理的配慮、分析方法、評価方法等について明確化する	1,2	プログラムを確認し全体の流れを把握しておく。施設との打ち合わせ準備を行う	1.5h	実践から評価までの見直しを適宜行い、修正を重ねる	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	研究倫理審査受審の準備 実践施設との具体的な打ち合わせおよび調整の実施					
3	プログラムに関する全体の流れを確認する 実践場所の選定、データ収集方法、倫理的配慮、分析方法、評価方法等について明確化する 研究倫理審査受審の準備 実践施設との具体的な打ち合わせおよび調整の実施	1,2	プログラムを確認し全体の流れを把握しておく。施設との打ち合わせ準備を行う	1.5h	実践から評価までの見直しを適宜行い、修正を重ねる	1.5h
4	プログラムに関する全体の流れを確認する 実践場所の選定、データ収集方法、倫理的配慮、分析方法、評価方法等について明確化する 研究倫理審査受審の準備1.5 実践施設との具体的な打ち合わせおよび調整の実施	1,2	プログラムを確認し全体の流れを把握しておく。施設との打ち合わせ準備を行う	1.5h	実践から評価までの見直しを適宜行い、修正を重ねる	1.5h
5	実習施設におけるプログラムの実施 プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 プログラムの効果判定と評価 プレゼンテーション	1,2	実施までの準備を綿密に行う	1.5h	実施後の効果や問題点の把握し整理しておく。プレゼンテーションの準備を行う	1.5h
6	実習施設におけるプログラムの実施 プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 プログラムの効果判定と評価 プレゼンテーション	1,2	実施までの準備を綿密に行う	1.5h	実施後の効果や問題点の把握し整理しておく。プレゼンテーションの準備を行う	1.5h
7	実習施設におけるプログラムの実施 プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 プログラムの効果判定と評価 プレゼンテーション	1,2	実施までの準備を綿密に行う	1.5h	実施後の効果や問題点の把握し整理しておく。プレゼンテーションの準備を行う	1.5h
8	実習施設におけるプログラムの実施 プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 プログラムの効果判定と評価 プレゼンテーション	1,2	実施までの準備を綿密に行う	1.5h	実施後の効果や問題点の把握し整理しておく。プレゼンテーションの準備を行う	1.5h
9	実習施設におけるプログラムの実施 プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 プログラムの効果判定と評価 プレゼンテーション	1,2	実施までの準備を綿密に行う	1.5h	実施後の効果や問題点の把握し整理しておく。プレゼンテーションの準備を行う	1.5h
10	実習施設におけるプログラムの実施 プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 プログラムの効果判定と評価 プレゼンテーション	1,2	実施までの準備を綿密に行う	1.5h	実施後の効果や問題点の把握し整理しておく。プレゼンテーションの準備を行う	1.5h
11	実習施設におけるプログラムの実施 プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 プログラムの効果判定と評価 プレゼンテーション	1,2	実施までの準備を綿密に行う	1.5h	実施後の効果や問題点の把握し整理しておく。プレゼンテーションの準備を行う	1.5h
12	実習施設におけるプログラムの実施 プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 プログラムの効果判定と評価 プレゼンテーション	1,2	実施までの準備を綿密に行う	1.5h	実施後の効果や問題点の把握し整理しておく。プレゼンテーションの準備を行う	1.5h
13	実習施設におけるプログラムの実施 プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 プログラムの効果判定と評価 プレゼンテーション	1,2	実施までの準備を綿密に行う	1.5h	実施後の効果や問題点の把握し整理しておく。プレゼンテーションの準備を行う	1.5h
14	実習施設におけるプログラムの実施 プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 プログラムの効果判定と評価 プレゼンテーション	1,2	実施までの準備を綿密に行う	1.5h	実施後の効果や問題点の把握し整理しておく。プレゼンテーションの準備を行う	1.5h
15	実習施設におけるプログラムの実施 プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 プログラムの効果判定と評価 プレゼンテーション	1,2	実施までの準備を綿密に行う	1.5h	実施後の効果や問題点の把握し整理しておく。プレゼンテーションの準備を行う	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- ・各講義の担当者については初回の講義時に提示する。
- ・予習・復習は、原則として全授業を通して45時間を行う。
- ・オンラインの場合、C-learningまたは動画配信による講義を行う。また、出席管理はC-learning上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する。

印刷 

母子看護学特論Ⅱ

英文名：Advanced Maternal and Child NursingⅡ

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

堀越摂子、寺口颯子、大石時子、星野美穂、長江美代子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

母子看護学の対象となる女性と子ども、および家族の健康課題、倫理的課題、課題解決のための看護について、対象を取り巻く環境、最近の研究の動向、対象理解や看護実践の拠り所となる理論や看護実践モデルをふまえた上でより母子看護学の専門的な視点から見出す。

②講義の実施方法

毎回の講義内容の概要についてミニ講義を行い、事例検討やグループディスカッションをとおして学びを深める。

到達目標

1. 母子看護学の対象である女性と子ども、および家族を理解するために必要な理論や概念を理解する。
2. 母子看護学の基盤となる理論や概念を活用した論文を精読し、理解する。
3. 各ライフサイクルにある女性、母性の特徴、および健康障害を抱え生活する子どもと家族の特徴を理解する。
4. 上記1～3をふまえ、母子看護学の対象である子どもと家族の健康課題、課題解決のための方策を考察する。
5. 母子看護学における看護の役割を考察する。

使用教材

- 1) 都留伸子監訳(2004)：看護理論家とその業績、医学書院。
 - 2) 筒井真優美編集(2020)：看護理論家の業績と理論評価 第2版、医学書院。
 - 3) M. H. クラウス, J.H. ケネル, P. H. クラウス著, 竹内徹訳(2001)：親と子のきずなはどうつくられるか、医学書院。
 - 4) Browden, V. R., C. S. Greenberg.(2014)：Children and Their Families—The Continuum of Nursing Care, Wolters Kluwer Health.
- ※その他、日本看護科学会誌、日本小児看護学会誌、日本助産学会誌等を活用する。

評価方法

授業参加度・貢献度（50%）、プレゼンテーション（50%）で総合的に評価する。
※オンライン授業の場合には、Meet、またはZoomを通じて行うため評価方法は上記と同様とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。
※オンライン授業の場合には、Meet、またはZoomを通じて講評・コメントする。

オフィスアワー

月曜日1限（5号館5階511研究室）
その他、メールでも随時受けつける。

メールアドレス（#→@）

horikoshi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、母子看護学の基盤となる理論[1]ヘルスプロモーション（堀越）	1,2	シラバスの内容を読み、科目の目標を理解する。	1.5 h	シラバス、科目オリエンテーションの内容を再確認するとともに、	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					学習する必要性のある理論について確認する。	
2	母子看護学の基盤となる理論[2] 子どもの気質とparenting（星野）	1,2	シラバス、科目オリエンテーションの内容に基づき、子どもの気質とparenting、母親役割達成（移行）モデルの理論について専門書等で調べる。	1.5h	①不足する学習内容を補完する。 ②学習した理論を活用した母子看護学領域の論文を検索し、クリティックする。	1.5h
3	母子看護学の基盤となる理論[3] 愛着理論、親-子相互作用（バーナード）モデル（堀越）	1,2	シラバス、科目オリエンテーションの内容に基づき、愛着理論、親-子相互作用（バーナード）モデル理論について専門書等で調べる。	1.5h	①不足する学習内容を補完する。 ②学習した概念・理論を活用した母子看護学領域の論文を検索し、クリティックする。	1.5h
4	母子看護学の基盤となる理論[4] 親による子の障害受容過程（Drotar）（寺口）	1,2	シラバス、科目オリエンテーションの内容に基づき、ストレス・コーピング理論、子どものストレス・コーピングの発達について専門書等で調べる。	1.5h	①不足する学習内容を補完する。 ②学習した理論を活用した母子看護学領域の論文を検索し、クリティックする。	1.5h
5	ライフサイクルに沿った女性の健康、母性の発達および健康課題と看護[1] 思春期女性の健康課題（大石）	1,2,3	①ライフサイクルに沿った女性健康と発達課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を理解する。 ②上記に関連した健康課題、モデルを活用した母子看護学領域の論文を検索し、クリティックする。	1.5h	①不足する学習内容を補完する。 ②学習した理論を活用した母子看護学領域の論文を検索し、クリティックする。	1.5h
6	ライフサイクルに沿った女性の健康、母性の発達および健康課題と看護[2] 母親役割達成（移行）モデル（寺口）	1,2,3	①ライフサイクルに沿った女性健康と発達課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を理解する。 ②上記に関連した健康課題、モデルを活用した母子看護学領域の論文を検索し、クリティックする。	1.5h	不足する学習内容を補完する。	1.5h
7	ライフサイクルに沿った女性の健康、母性の発達および健康課題と看護[3] 育児不安、育児負担のある母親の理解と支援（堀越）	1,2,3	①ライフサイクルに沿った女性健康と発達課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を理解する。 ②上記に関連した健康課題、モデルを活用した母子看護学領域の論文を検索し、クリティックする。	2.5h	不足する学習内容を補完する。	0.5h
8	ライフサイクルに沿った女性の健康、母性の発達および健康課題と看護[4] 働く女性の健康課題（職場環境、育児支援）（大石）	1,2,3	①ライフサイクルに沿った女性健康と発達課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を理解する。 ②上記に関連した健康課題、モデルを活用した母子看護学領域の論文を検索し、クリティックする。	2.5h	不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する	0.5h
9	健康障害を抱える子どもと家族への看護[1] 健康障害を抱える子どもの特徴 健康障害を抱える子どもの家族の特徴（星野）	1,2,3,4	①健康障害を抱える子どもと家族の健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を理解する。 ②上記①に関連する論文を検索し、クリティックする。適宜、プレゼンテーション資料の準備をする。	2.5h	不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する	0.5h
10	健康障害を抱える子どもと家族への看護[2] 健康障害を抱える子どもと家族を取り巻く環境—エコロジカルモデルから人的・物理的環境、社会資源、多職種連携の現状と関係性を考える—（星野）	1,2,3,4	①健康障害を抱える子どもと家族の健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を理解する。 ②上記①に関連する論文を検索し、クリティックする。適宜、プレゼンテーション資料の準備をする。	2.5h	不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する	0.5h
11	健康障害を抱える子どもと家族への看護[3] 健康障害を抱える子どもと家族への看護介入と課題—看護実践と研究成果から—（星野）	1,2,3,4	①健康障害を抱える子どもと家族の健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を理解する。 ②上記①に関連する論文を検索し、クリティックする。適宜、プレゼンテーション資料の準備をする。	2.5h	不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する	0.5h
12	健康課題を抱える女性と家族への看護[1] DV、性暴力が女性の一生へ与える影響（長江）	1,2,3,4	①健康課題を抱える女性と家族の健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を理解する。 ②上記①に関連する論文を検索し、クリティックする。適宜、プレゼンテーションの準備をする。	2.5h	不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
13	健康課題を抱える女性と家族への看護[2] 性暴力被害の幼児期から思春期、周産期への影響（長江）	1,2,3,4,5	①健康課題を抱える女性と家族の健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を理解する。 ②上記①に関連する論文を検索し、クリティークする。適宜、プレゼンテーションの準備をする。	2.5h	不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する。	0.5h
14	健康課題を抱える女性と家族への看護[3] 発達課題・健康障害を抱える女性と家族への看護介入と課題—看護実践と研究成果から（堀越）	1,2,3,4,5	①健康課題を抱える女性と家族の健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を理解する。 ②上記①に関連する論文を検索し、クリティークする。適宜、プレゼンテーションの準備をする。	2.5h	不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習する。	0.5h
15	母子看護学における看護の役割、総括（堀越）	1,2,3,4,5	これまでの授業内容を振り返り、看護の役割をまとめる。	1.5h	不足する学習内容、さらに深めたい学習内容について調べ、補完学習するとともに、自己の研究への示唆を検討する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

【学習上の助言および受講時のルール】
●プレゼンテーション時は、資料を作成し主体的に参加できることを重視する。
●授業内容に基づき、また自己の取り組みたい研究課題を見据え、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。
【出席登録】
出席登録は、C-learning【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。

印刷

母子看護学演習 I

英文名 : Seminar I : Maternal and Child Nursing

科目区分 : 修士課程

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

堀越摂子、大石時子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

母子看護学特論の学び、および関連する国内外の文献講読を通して、母子と家族の抱える健康課題、倫理的課題を多角的に捉え、その課題を明確化するためのプロセスを学ぶ。また、関心のある分野の課題に焦点を当て、文献検討や事例検討を通して自らの研究テーマ（研究課題）を明確にする。

②講義の実施方法

自己の関心のあるテーマに基づき、文献検索、文献精読、クリティークを行う。また、クリティークのプレゼンテーションやディスカッションを行う。

到達目標

1. 文献検討の手法を理解する。
2. 女性、子どもと家族の健康課題と看護実践の現状について記述する。
3. 記述した健康課題を母子看護学の拠り所となる諸理論から捉えなおす。
4. 自己の研究テーマを明確にする。

使用教材

検索した文献の活用、資料配布

参考文献

- 1) ジュディス・ガラード著、安部陽子訳(2012) : 看護研究のための文献レビュー マトリックス方式 第3版, 医学書院。
 - 2) キャサリン・ポーブ, ニコライ・メンズ, ジェニー・ポペイ著, 伊藤景一, 北素子監訳(2009) : 質的研究と量的研究のエビデンスの統合—ヘルスケアにおける研究・実践・政策への活用, 医学書院。
- ※その他、母子看護学特論 I の配布資料や日本看護科学会誌を適宜活用する。

評価方法

授業参加度・貢献度（10%）、プレゼンテーションとクリティーク（30%）、レポート（60%）
 ※オンライン授業の場合には、Meet、またはZoomを通じて行うため評価方法は上記と同様とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

- ① プレゼンテーションやクリティークの内容に対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。
 - ② レポートにはコメントを付して返却する。
- ※オンライン授業の場合には、Meet、またはZoomを通じて講評・コメントすることを原則とする。また、レポートについては、必要に応じてC-learning【レポート】機能を通じて、コメントを付して返却する。

オフィスアワー

- ① 月曜日1限（5号館5階511研究室）
- ② 随時メールでも受け付ける。

メールアドレス（#→@）

horikoshi#@takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、母子看護学の対象となる子どもと家族の健康課題、および看護実践上の課題の探究（堀越）	2	シラバスの内容を読み、科目の目標を理解する。	1.5 h	科目オリエンテーションの内容を再確認するとともに、必要性のある文献について確認する。自律的に学習の必要のある事柄に対し確認する。	1.5 h
2	実践における健康課題と倫理的課題の抽出①（堀越）	1	自身の実践における課題の抽出	2.0 h	関連文献の検討	1.0 h
3	実践における健康課題と倫理的課題の抽出②（堀越）	1	自身の実践における課題の抽出	2.0 h	関連文献の検討	1.0 h
4	文献検討の手法（堀越）	2,3	テキスト1）、2）の関連する項を精読する。	1.5 h	不足する学習内容を補完する。	1.5 h
5	文献の収集とクリティーク① 文献クリティークを行い、母子と家族の抱える健康課題を明確にする。（堀越）	2,3	①自己の関心のあるテーマに基づき、文献検索、文献精読、クリティークを行う。 ②健康課題を理解する上で有用な理論・概念を明確化する。	1.5 h	①文献のクリティークを通し、自己の看護実践・研究（・教育）への示唆を検討する。 ②不足する学習内容を補完する。	1.5 h
6	文献の収集とクリティーク②（堀越）	2,3	①自己の関心のあるテーマに基づき、文献検索、文献精読、クリティークを行う。 ②健康課題を理解する上で有用な理論・概念を明確化する。	1.5 h	①文献のクリティークを通し、自己の看護実践・研究（・教育）への示唆を検討する。 ②不足する学習内容を補完する。	1.5 h
7	文献の収集とクリティーク③（英文抄読）（大石）	2,3	①自己の関心のあるテーマに基づき、文献検索、文献精読、クリティークを行う。 ②健康課題を理解する上で有用な理論・概念を明確化する。	1.5 h	①文献のクリティークを通し、自己の看護実践・研究（・教育）への示唆を検討する。 ②不足する学習内容を補完する。	1.5 h
8	文献の収集とクリティーク④（英文抄読）（大石）	2,3	①自己の関心のあるテーマに基づき、文献検索、文献精読、クリティークを行う。 ②健康課題を理解する上で有用な理論・概念を明確化する。	1.5 h	①文献のクリティークを通し、自己の看護実践・研究（・教育）への示唆を検討する。 ②不足する学習内容を補完する。	1.5 h
9	エビデンスの統合① 母子と家族の抱える健康課題とその看護実践に関連する先行研究の成果を統合し、文献検討を行う。（堀越）	2,3	①自己の関心のあるテーマに基づき、文献検索、精読、クリティークを行う。 ②健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を明確化する。	2.0 h	文献検討をとおし、自己の看護実践・研究（・教育）への示唆を検討するとともに、不足する学習内容を明確化し、補完する。	1.0 h
10	エビデンスの統合② 母子と家族の抱える健康課題とその看護実践に関連する先行研究の成果を統合し、文献検討を行う。（堀越）	2,3,4	①自己の関心のあるテーマに基づき、文献検索、精読、クリティークを行う。 ②健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を明確化する。	2.0 h	文献検討をとおし、自己の看護実践・研究・教育への示唆を検討するとともに、不足する学習内容を明確化し、補完する。	1.0 h
11	エビデンスの統合③ 母子と家族の抱える健康課題とその看護実践に関連する先行研究の成果を統合し、文献検討を行う。（堀越）	2,3,4	①自己の関心のあるテーマに基づき、文献検索、精読、クリティークを行う。 ②健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を明確化する。	2.0 h	文献検討をとおし、自己の看護実践・研究・教育への示唆を検討するとともに、不足する学習内容を明確化し、補完する。	1.0 h
12	エビデンスの統合④ 母子と家族の抱える健康課題とその看護実践に関連する先行研究の成果を統合し、文献検討を行う。（堀越）	2,3,4	①自己の関心のあるテーマに基づき、文献検索、精読、クリティークを行う。 ②健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を明確化する。	2.0 h	文献検討をとおし、自己の看護実践・研究・教育への示唆を検討するとともに、不足する学習内容を明確化し、補完する。	1.0 h
13	研究課題の明確化：研究テーマの方向性（堀越）	2,3,4	①自己の関心のあるテーマに基づき、文献検索、精読、クリティークを行う。 ②健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を明確化する。	2.0 h	文献検討をとおし、自己の看護実践・研究・教育への示唆を検討するとともに、不足する学習内容を明確化し、補完する。	1.0 h
14	研究課題の明確化（堀越）	2,3,4	①自己の関心のあるテーマに基づき、文献検索、精読、クリティークを行う。 ②健康課題の理解、および課題解決に向けた看護介入を検討する上で有用な理論や概念を明確化する。	2.0 h	文献検討をとおし、自己の看護実践・研究・教育への示唆を検討するとともに、不足する学習内容を明確化し、補完する。	1.0 h
15	研究課題の明確化と発表 問題解決のための戦略：方法論に関する方向性（堀越）	2,3,4	第9～14回の学習成果のプレゼンテーション資料を作成し、準備する。	2.0 h	自己の看護実践・研究・教育への示唆を検討する。	1.0 h

備考

- 【学習上の助言および受講時のルール】
- プレゼンテーション時は、資料を作成し主体的に参加できることを重視する。
 - 授業内容に基づき、また自己の取り組みたい研究課題を見据え、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。
 - 予習・復習は、原則として全授業をとおして45時間を行う。
 - 学習過程において疑問が生じた場合、相談したいことがある場合には、メール等に対応する。

印刷 

母子看護学演習Ⅱ

英文名：SeminarⅡ：Maternal and Child Nursing

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

堀越摂子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①母子看護学演習Ⅰで選定した健康課題と看護実践上の課題について研究的視点から論述し、自己の課題を明確化する。
- ②文献検討やディスカッションをとおして、研究課題の概念枠組み、研究手法を検討し、研究計画書を作成する。

到達目標

- 1.文献検討に基づき、研究課題を焦点化する。
- 2.上記1.に基づき、研究課題を設定する。
- 3.研究課題に対する看護研究のあり方やその方向性を明確化する。
- 4.研究課題に対する看護研究プログラムの試案を作成する。

使用教材

- 1)ジュディス・ガラード著、安部陽子訳(2012)：看護研究のための文献レビュー マトリックス方式 第3版，医学書院。
 - 2)キャサリン・ポーブ，ニコライ・メンズ，ジェニー・ボベイ著，伊藤景一，北素子監訳(2009)：質的研究と量的研究のエビデンスの統合ヘルスケアにおける研究・実践・政策への活用，医学書院。
- ※その他、母子看護学特論Ⅰ・Ⅱ、母子看護学演習Ⅰの配布資料や日本助産学会誌を適宜活用する。

評価方法

授業参加度・貢献度（10%）、プレゼンテーションとクリティーク（30%）、レポート（60%）
 ※オンライン授業の場合には、Meet、またはZoomを通じて行うため評価方法は上記と同様とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションやクリティークの内容に対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。
 レポートにはコメントを付して返却する。
 ※オンライン授業の場合には、Meet、またはZoomを通じて講評・コメントすることを原則とする。また、レポートについては、必要に応じてC-learning【レポート】機能を通じて、コメントを付して返却する。

オフィスアワー

質問及び相談には、随時応じる（オンライン時も同様）。その他にもメールにて随時対応する。

メールアドレス（#→@）

horikoshi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、母子看護学の対象となる子どもと家族の健康課題、および看護実践上の課題の探究	1	①シラバスの内容を読み、科目の目標を理解する。 ②研究として取り組みたい研究課題を明確にする。	1.5 h	シラバス、科目オリエンテーションの内容を再確認するとともに、学習する必要性のある学習内容を明確化する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
2	研究課題の焦点化、明確化[1] 先行研究についての文献検討、及び文献のクリティークを行い、母子看護学に関連した研究課題を明確化する。	1,2	①自己の関心のあるテーマに基づき、文献検索、文献精読、クリティークを行う。 ②研究課題の掘り所になる理論・概念を明確化する。	2.0 h	自己の研究課題の方向性を導くとともに、不足する学習内容を補完する。	1.0 h
3	研究課題の焦点化、明確化[2] 先行研究についての文献検討、及び文献のクリティークを行い、母子看護学に関連した研究課題を明確化する。	1,2	①自己の関心のあるテーマに基づき、文献検索、文献精読、クリティークを行う。 ②研究課題の掘り所になる理論・概念を明確化する。	2.5 h	自己の研究課題の方向性を導くとともに、不足する学習内容を補完する。	0.5 h
4	研究課題の焦点化、明確化[3] 先行研究についての文献検討、及び文献のクリティークを行い、母子看護学に関連した研究課題を明確化する。	1,2	①自己の関心のあるテーマに基づき、文献検索、文献精読、クリティークを行う。 ②研究課題の掘り所になる理論・概念を明確化する。	2.5 h	自己の研究課題の方向性を導くとともに、不足する学習内容を補完する。	0.5 h
5	研究課題の焦点化、明確化[4] 先行研究についての文献検討、及び文献のクリティークを行い、母子看護学に関連した研究課題を明確化する。	1,2	①自己の関心のあるテーマに基づき、文献検索、文献精読、クリティークを行う。 ②研究課題の掘り所になる理論・概念を明確化する。	2.5 h	自己の研究課題の方向性を導くとともに、不足する学習内容を補完する。	0.5 h
6	プレゼンテーション[1]	1,2	第2～5回の学習成果のプレゼンテーション資料を準備する。	2.0 h	自己の研究課題への示唆を検討するとともに、不足する学習内容を補完する。	1.0 h
7	研究方法の選定[1] 先行研究についての文献検討、及び文献のクリティーク、研究方法に関する学習を行い、自己の研究課題に対する看護研究のあり方や研究方法の方向性（研究デザイン、研究対象者の選定、データ収集方法、分析方法など）を明確化する。	3	研究課題に関連した文献検索、文献精読、クリティークを行う。	2.5 h	自己の研究課題に対する研究方法の方向性を明確化するとともに、不足する学習内容を補完する。	0.5 h
8	研究方法の選定[2] 先行研究についての文献検討、及び文献のクリティーク、研究方法に関する学習を行い、自己の研究課題に対する看護研究のあり方や研究方法の方向性を明確化する。	3	研究課題に関連した文献検索、文献精読、クリティークを行う。	2.5 h	自己の研究課題に対する研究方法の方向性を明確化するとともに、不足する学習内容を補完する。	0.5 h
9	研究方法の選定[3] 先行研究についての文献検討、及び文献のクリティーク、研究方法に関する学習を行い、自己の研究課題に対する看護研究のあり方や研究方法の方向性を明確化する。	3	研究課題に関連した文献検索、文献精読、クリティークを行う。	2.5 h	自己の研究課題に対する研究方法の方向性を明確化するとともに、不足する学習内容を補完する。	0.5 h
10	研究方法の選定[4] 先行研究についての文献検討、及び文献のクリティーク、研究方法に関する学習を行い、自己の研究課題に対する看護研究のあり方や研究方法の方向性を明確化する。	3	研究課題に関連した文献検索、文献精読、クリティークを行う。	2.5 h	自己の研究課題に対する研究方法の方向性を明確化するとともに、不足する学習内容を補完する。	0.5 h
11	プレゼンテーション[2]	3	第7～10回の学習成果のプレゼンテーション資料を作成し、準備する。	2.0 h	自己の研究課題に対する研究方法の方向性を導くとともに、不足する学習内容を補完する。	1.0 h
12	研究計画書の試案作成[1] 今までの学習内容を踏まえ、自己の研究課題に対する研究計画書を試作する。	4	今までの学習内容に基づき、自己の研究課題に対する研究計画書を試作する。	2.0 h	不足する学習内容を補完する。	1.0 h
13	プレゼンテーション[3]	2,3, 4	第12回の学習成果のプレゼンテーション資料を作成し、準備する。	2.0 h	授業での助言・指導に基づき、研究計画書の試案を修正・加筆する。	1.0 h
14	研究計画書の試案作成[2] 今までの学習内容を踏まえ、自己の研究課題に対する研究計画書を試作する。	2,3, 4	第13回の授業での助言・指導に基づき、研究計画書の試案を修正・加筆する。	2.0 h	不足する学習内容を補完する。	1.0 h
15	プレゼンテーション[4]	2,3, 4	第14回の学習成果のプレゼンテーション資料を作成し、準備する。	2.0 h	自己の研究課題に対する研究方法についての課題を検討する。	1.0 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

【学習上の助言および受講時のルール】

- プレゼンテーション時は、資料を作成し主体的に参加できることを重視する。
- 授業内容に基づき、また特別研究に取り組む上での自己の課題を明確にしながら、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。

【出席登録】

出席登録は、C-learning【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。

印刷 

母子看護学演習Ⅲ

英文名：SeminarⅢ：Maternal and Child Nursing

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

堀越摂子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

母子看護学演習Ⅱで作成した研究計画書を基に研究施設との調整やプレテストを実施し、改善点を明確にして実践可能な看護研究プログラムに修正することで、特別研究の学習につなげる。

②講義の実施方法

担当教員との面談により具体的な方法を検討し、実施する。

到達目標

- 1.母子看護学演習Ⅱで作成した研究計画書が実践可能であるか検討する。
- 2.研究施設との調整やプレテストを行い、問題点や修正点を明確にする。
- 3.問題点を修正し、実践可能な看護研究プログラムに修正する。

使用教材

- ・母子看護学特論Ⅰ・Ⅱ、母子看護学演習Ⅰ・Ⅱの配布資料や日本看護学会誌、日本助産学会誌を適宜活用する。
- ・看護学研究法で使用したテキストや配布資料を活用する。

評価方法

レポートや課題への取り組み内容（30%）、プレゼンテーション（70%）

※オンライン授業の場合には、Meet、またはZoomを通じて行うため評価方法は上記と同様とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションやクリティークの内容に対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。

レポートにはコメントを付して返却する。

※オンライン授業の場合には、Meet、またはZoomを通じて講評・コメントすることを原則とする。また、レポートについては、必要に応じてC-learning【レポート】機能を通じて、コメントを付して返却する。

オフィスアワー

質問及び相談には、随時応じる（オンライン時も同様）。そのほかにもメールにて随時対応する。

メールアドレス（#→@）

horikoshi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、研究計画書の検討	1,2,3	①シラバスの内容を読み、科目の目標を理解する。 ②研究計画の点検を行う。	1.5h	授業でのディスカッションを基に研究計画書を洗練させる。	1.5h
2	研究計画書審査の準備	1,2,3	研究計画書審査に向けて必要な資料を作成する。	1.5h	改善点を整理し、研究計画書を洗練させる。	1.5h
3	研究計画書審査の準備	1,2,3	研究計画書審査に向けて必要な資料を作成する。	1.5h	研究計画書審査に備え、発表の練習をする。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	研究計画書審査の準備	1,3	研究計画書審査に向けて必要な資料を作成する。	1.5h	研究計画書審査に備え、発表の練習をする。	1.5h
5	研究計画書審査	1,3	研究目的や方法、倫理等の計画を時間内で説明する準備をする。	1.5h	質問内容を受け、問題点を整理する。	1.5h
6	研究計画書審査	1,3	研究目的や方法、倫理等の計画を時間内で説明する準備をする。	1.5h	質問内容を受け、問題点を整理し、研究計画書を修正する。	1.5h
7	プレテストの実施	1,2,3	修正した研究計画書を基にプレテスト実施の準備をする。	2.0h	プレテストで明確になった改善点を修正する。	1.0h
8	プレテストの実施	1,2,3	修正した研究計画書を基にプレテスト実施の準備をする。	2.0h	プレテストで明確になった改善点を修正する。	1.0h
9	研究フィールドとの調整	1,2,3	フィールド先と連絡調整を行い、説明の準備をする。	1.5h	フィールドでの研究実施に関する改善点等を整理し、倫理審査受審に備える。	1.5h
10	研究フィールドとの調整	1,2,3	フィールド先と連絡調整を行い、説明の準備をする。	1.5h	フィールドでの研究実施に関する改善点等を整理し、倫理審査受審に備える。	1.5h
11	倫理審査申請書類の検討、及び倫理審査の提出準備	1,2,3	倫理審査申請時に必要な書類や申請の手順を確認する。	1.5h	倫理審査を受ける準備を整える。	1.5h
12	倫理審査の提出準備	1,2,3	関係者に研究計画を説明できるよう準備する。	1.5h	倫理審査の指摘を受け、計画書の改善点を整理する。	1.5h
13	倫理審査の提出準備	1,2,3	関係者に研究計画を説明できるよう準備する。	1.5h	倫理審査の指摘を受け、計画書の改善点を整理する。	1.5h
14	研究計画書の修正	1,2,3	倫理審査を受けての修正点や課題を整理し、計画書を修正する。	2.0h	研究計画書を修正し完成させ、現地調査の準備を行う。	1.0h
15	研究計画書の修正	1,2,3	倫理審査を受けての修正点や課題を整理し、計画書の修正する。	2.0h	研究計画書を修正し完成させ、現地調査の準備を行う。	1.0h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

【学習上の助言および受講時のルール】

- プレゼンテーション時は、資料を作成し主体的に参加できることを重視する。
- 授業内容に基づき、特別研究に取り組む上での自己の課題を明確にしながら、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。
- 常に、科学的方法を用い系統的に探究すること、研究協力者、研究対象者への倫理的配慮を意識しながら、学習する。

【出席登録】

出席登録は、C-learning【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。

印刷

国際看護学特論Ⅱ

英文名：Advanced International Nursing Ⅱ

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

李孟容

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①レイニンガーの Sunriseモデル、Purnellモデルなどの異文化看護理論を学び、国際看護の対象となる看護上の課題に焦点をあてた文化を越えた問題解決の具体的展開について習得する。さらに、世界における保健医療分野の問題解決に用いられる開発手法であるPCM（Project Cycle Management）を理解し、国際看護上の問題解決についての現状と課題について探求する。
- ②講義内容の要点について講義を行い、アクティブラーニングにて展開する。

到達目標

- 異文化の視点で国際保健、看護の場と対象を説明できる。
- 異文化看護論であるSunriseモデル、Purnellモデル、Campinha-Bacoteモデル、GigerandDavidhizarモデルの概要について説明できる
- 国際的に保健、看護活動を展開するために必要な手法を説明できる。

使用教材

- 樋口まち子編(2023)：国際看護学、メヂカルフレンド社
- PCM開発援助のためのプロジェクト・サイクル・マネージメント：参加型計画編、FASID
- Marilyn R. McFarland(2018)：Leininger's Transcultural Nursing: Concepts, Theories, Research & Practice、McGraw-Hill Education / Medical
- Joyce Giger(2016):Transcultural Nursing、Mosby
- マデリン M.レイニンガー(1995)、レイニンガー看護論—文化ケアの多様性と普遍性、医学書院

評価方法

プレゼンテーション（30%）、レポート（70%）

課題・評価に対するフィードバック方法

提出されたレポートに対してはコメントを付して返却し、その後振り返りを行う。
対話式に実施していくのでその都度コメントや講評を行う。

オフィスアワー

初回講義時に提示する。

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	グローバルヘルスと異文化	1	教材1を精読する。	1.5h	国際保健問題解決と異文化の理解の関係につき具体的に整理する。	1.5h
2	異文化看護とは	1	教材1を精読する。	1.5h	文化と看護につき自分の言葉で表現できるようにする。	1.5h
3	異文化看護論Ⅰ / Leiningerの看護論	1,2	教材1、3を精読する。	1.5h	Leiningerの理論とサンライズモデルの特徴を整理する	1.5h
4	異文化看護論Ⅰ / Leiningerの看護論	1,2	教材1、3を精読する。	1.5h	Leiningerの理論とサンライズモデルの特徴を整理する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	異文化看護論Ⅱ / Joyce Giger, Purnell, Campinha-Bacoteの看護論	1,2	教材1、4を精読する。	1.5h	Joyce Giger, Purnell, Campinha-Bacoteの理論の特徴を整理する。	1.5h
6	異文化看護論と看護の展開1 自身が持つ国際看護上の課題を明確しに、各異文化理論を用いて看護の対象理解と解決方法をアセスメントする	1,2	これまで学んだ異文化看護理論を復習する。	1.5h	異文化看護理論を用いて展開した看護につき解決された課題、残された課題を整理する。	1.5h
7	異文化看護論と看護の展開2 自身が持つ国際看護上の課題を明確しに、各異文化理論を用いて看護の対象理解と解決方法をアセスメントする	1,2	これまで学んだ異文化看護理論を復習する。	1.5h	異文化看護理論を用いて展開した看護につき解決された課題、残された課題を整理する。	1.5h
8	異文化看護論と看護の展開3 自身が持つ国際看護上の課題を明確しに、各異文化理論を用いて看護の対象理解と解決方法をアセスメントする	1,2	これまで学んだ異文化看護理論を復習する。	1.5h	異文化看護理論を用いて展開した看護につき解決された課題、残された課題を整理する。	1.5h
9	異文化看護論と看護の展開4 自身が持つ国際看護上の課題を明確しに、各異文化理論を用いて看護の対象理解と解決方法をアセスメントする	1,2	これまで学んだ異文化看護理論を復習する。	1.5h	異文化看護理論を用いて展開した看護につき解決された課題、残された課題を整理する。	1.5h
10	PCMとは	3	事前に配布するプロジェクト・サイクル・マネージメント教材を精読する。	1.5h	PCMの特徴と意義を整理する。	1.5h
11	PCMの具体的手法について1/ 課題の把握	3	事前に配布するプロジェクト・サイクル・マネージメント教材を精読する。	1.5h	PCM手法において課題の把握方法を整理する。	1.5h
12	PCMの具体的手法について2/ 課題の整理	3	事前に配布するプロジェクト・サイクル・マネージメント教材を精読する。	1.5h	PCM手法において課題整理のプロセスと特徴を整理する。	1.5h
13	PCMの具体的手法について3/ 解決策検討手法	3	事前に配布するプロジェクト・サイクル・マネージメント教材を精読する。	1.5h	PCM手法においての課題解決の検討方法をまとめる。	1.5h
14	PCMの具体的手法について4/ 課題解決の対策とその評価	3	事前に配布するプロジェクト・サイクル・マネージメント教材を精読する。	1.5h	PCM手法においての課題解決と評価方法を整理する。	1.5h
15	PCM手法の課題把握～評価までの振り返り	123	これまでのPCMの各段階において不明瞭な部分を明らかにし整理する。	1.5h	PCM手法の流れと留意点を整理する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- ・自分自身の経験を基に、その国で起こっている看護の課題を検討し明確にする。
- ・看護理論については英文献が読めるように準備をしておくこと。
- ・PCM手法の展開は、保健医療のみならずあらゆる角度からのアセスメントが必要となるため、社会学、保健行動学、民俗学などについても知識を得ておくこと。
- ・講義内容に基づき、自主的・自律的に予習、復習に取り組む。
- ・予習復習は原則として、全授業を通して45時間は行う。
- ・オンラインの場合、C-learning また動画配信による講義を行う。

また、出席管理は C-learning 上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する。

※学習の過程で疑問・質問が生じた場合はメールで対応する。

印刷

国際看護学演習 I

英文名：Seminar I：International Nursing

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

李孟容

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①国際看護学特論Ⅱで焦点をあてた国際看護上の課題につき、PCM手法を用いながら、地域の健康資源（人的資源、経済的資源、物的資源、知的資源）を考慮し、優先付け、組合せ、活用方法などを討議しながら問題解決のためのプロジェクト計画策定過程を学ぶ。さらに、1. 課題解決のための国際協力 2. 在日外国人支援 3. その他の希望 より1つ選択し、倫理的配慮を行いながら国内外の動向を調べ、学生自身が関心のある国際看護上の課題を抽出できる。

②抄読会形式とする。

到達目標

- PCM手法を用い、異文化看護を関連づけながら課題解決のための一連の過程が展開できる。
- 自分自身が関心のある国際看護の課題につき英文等を精読した中で、国内外の動向を調べる事ができる
- 自分自身が関心のある国際看護の課題の抽出ができる

使用教材

- PCM開発のためのプロジェクト・サイクル・マネージメント、FASID
- Journal of International Health
- International Nursing Review

評価方法

プレゼンテーション（30％）、レポート（70％）

課題・評価に対するフィードバック方法

提出されたレポートに対してはコメントを付して返却し、その後振り返りを行う。
対話式に実施していくのでその都度コメントや講評を行う。

オフィスアワー

初回講義時に提示する。

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	自身の経験の中での国際看護上の課題について	1	国際看護学特論Ⅱで焦点をあてた看護上の課題につきその内容を復習する。	1.5h	整理したここでの課題の背景を具体的に整理する。	1.5h
2	PCM手法を用いた課題解決の展開1 1で明らかにした自身の経験の中での看護上の課題につき、その国の状況分析、課題分析、対策検討、実施、評価までの一連の流れ検討する	1	PCM手法につき復習する。	1.5h	各段階で不明確の部分を明らかにし、整理する。	1.5h
3	PCM手法を用いた課題解決の展開2 1で明らかにした自身の経験の中での看護上の課題につき、その国の状況分析、課題分析、対策検討、実施、評価までの一連の流れ検討する	1	PCM手法につき復習する。	1.5h	各段階で不明確の部分を明らかにし、整理する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	PCM手法を用いた課題解決の展開3 1で明らかにした自身の経験の中での看護上の課題につき、その国の状況分析、課題分析、対策検討、実施、評価までの一連の流れ検討する	1	PCM手法につき復習する。	1.5h	各段階で不明確の部分を明らかにし、整理する。	1.5h
5	PCM手法を用いた課題解決の展開4 1で明らかにした自身の経験の中での看護上の課題につき、その国の状況分析、課題分析、対策検討、実施、評価までの一連の流れ検討する	1	PCM手法につき復習する。	1.5h	各段階で不明確の部分を明らかにし、整理する。	1.5h
6	PCM手法を用いた課題解決の展開5 1で明らかにした自身の経験の中での看護上の課題につき、その国の状況分析、課題分析、対策検討、実施、評価までの一連の流れ検討する	1	PCM手法につき復習する。	1.5h	各段階で不明確の部分を明らかにし、整理する。	1.5h
7	PCM手法で作成した内容をプロジェクトとして計画書を作成し発表する	1	PCM手法を復習する。	1.5h	計画書の作成につきその特徴をまとめる。	1.5h
8	PCM手法で作成した内容をプロジェクトとして計画書を作成し発表する	1	PCM手法を復習する。	1.5h	計画書の作成につきその特徴をまとめる。	1.5h
9	自身の関心のある国際看護上の課題を明確にする	2,3	国際看護学特論Ⅱの振り返りを行い、自身の関心のある課題を挙げてくる。	1.5h	明確にした課題の背景を整理する。	1.5h
10	自身の関心のある国際看護上の課題につき、文献や論文、または見聞等から現状を把握しその動向を明らかにし発表する。	2,3	声までに提示された教材やプリントなどを精読し、さらに課題に関連する新たな情報も集め精読する。	1.5h	不足している学習内容を補完する。	1.5h
11	自身の関心のある国際看護上の課題につき、文献や論文、または見聞等から現状を把握しその動向を明らかにし発表する。	2,3	声までに提示された教材やプリントなどを精読し、さらに課題に関連する新たな情報も集め精読する。	1.5h	不足している学習内容を補完する。	1.5h
12	自身の関心のある国際看護上の課題につき、文献や論文、または見聞等から現状を把握しその動向を明らかにし発表する。	2,3	声までに提示された教材やプリントなどを精読し、さらに課題に関連する新たな情報も集め精読する。	1.5h	不足している学習内容を補完する。	1.5h
13	自身の関心のある国際看護上の課題につき、文献や論文、または見聞等から現状を把握しその動向を明らかにし発表する。	2,3	声までに提示された教材やプリントなどを精読し、さらに課題に関連する新たな情報も集め精読する。	1.5h	不足している学習内容を補完する。	1.5h
14	自身の関心のある国際看護上の課題につき、文献や論文、または見聞等から現状を把握しその動向を明らかにし発表する。	2,3	声までに提示された教材やプリントなどを精読し、さらに課題に関連する新たな情報も集め精読する。	1.5h	不足している学習内容を補完する。	1.5h
15	文献や論文、または見聞等から現状を把握しその動向を明らかにしたものの中から解決すべく国際看護上の課題として位置づける。	2,3	明らかにした関心のある国際看護課題につき再度振り返りを行い整理する。	1.5h	不足している学習内容を補完する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- ・自身の関心のある国際看護上の課題から、現状分析を行いながら探究したい国際看護上の課題へと整理する。
- ・現状分析には実際に現地に赴くことも可能だが、倫理上の配慮を十分におこなうこと。
- ・講義内容に基づき、自主的・自律的に予習、復習に取り組む。
- ・予習復習は原則として、全授業を通して45時間は行う。
- ・オンラインの場合、C-learning また動画配信による講義を行う。

また、出席管理は C-learning 上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する。

※学習の過程で疑問・質問が生じた場合はメールで対応する。

印刷 

国際看護学演習Ⅱ

英文名：SeminarⅡ：International Nursing

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

李孟蓉

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①国際看護学演習Ⅰで抽出した学生自身が関心を寄せている国際看護上の課題につき、英文献・和文献クリティークを行い、文献レビューを通してその課題へのアプローチの世界的動向を学ぶ。さらにその学びを踏まえ、各自の研究課題を明らかにする。国際看護学特論Ⅱや国際看護学演習Ⅰで検討した理論や手法を基に、明らかにした研究課題より自己の研究テーマや研究目的を明らかにし、研究計画書のアウトラインを検討する。

②抄読会形式とする。

到達目標

1. 学生自身が関心を寄せている国際看護上の課題の世界的動向が理解できる。
2. 自身の研究課題を明らかにできる。
3. 研究テーマ、目的を明らかにでき、研究計画書のアウトラインが作成できる。

使用教材

集めた論文、文献

評価方法

プレゼンテーション（50%）、レポート（50%）

課題・評価に対するフィードバック方法

提出されたレポートに対してはコメントを付して返却し、その後振り返りを行う。
対話式に実施していくのでその都度コメントや講評を行う。

オフィスアワー

初回講義時に提示する。

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	自身が関心を寄せている国際看護上の課題の世界的動向	1	自身が関心を寄せている国際看護上の課題の世界的動向の資料を収集する。	1.5h	何が課題なのかを明確にする。	1.5h
2	自身が関心を寄せている国際看護上の課題の世界的動向	1	自身が関心を寄せている国際看護上の課題の世界的動向の資料を収集する。	1.5h	何が課題なのかを明確にする。	1.5h
3	今までの学習を基に研究課題を明らかにする。	2,3	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
4	今までの学習を基に研究課題を明らかにする。	2,3	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
5	今までの学習を基に研究課題を明らかにする。	2,3	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					完学習する。	
6	研究テーマ、研究目的を明らかにする。	2,3	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
7	研究テーマ、研究目的を明らかにする。	2,3	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
8	研究テーマ、研究目的を明らかにする。	2,3	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
9	研究テーマ、研究目的を明らかにする。	2,3	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
10	研究テーマ、研究目的を明らかにする。	2,3	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
11	研究計画書のアウトラインを作成する。	2,3	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
12	研究計画書のアウトラインを作成する。	2,3	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
13	研究計画書のアウトラインを作成する。	2,3	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
14	研究計画書のアウトラインを作成する。	2,3	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
15	研究計画書のアウトラインを作成する。	2,3	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- ・研究計画書作成に向けた講義時間となる。今まで学んできた講義内容を集積させた検討を行うこと。
 - ・課題に対して積極的に取り組み、自分で考え主体的に臨むこと。
 - ・予習復習は原則として、全授業を通して45時間は行う。
 - ・オンラインの場合、C-learning また動画配信による講義を行う。
- また、出席管理はC-learning上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する。
※学習の過程で疑問・質問が生じた場合はメールで対応する。

印刷

国際看護学演習Ⅲ

英文名：SeminarⅢ：International Nursing

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

李孟容

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①国際看護学演習Ⅱで明確にした研究テーマや目的を基に、妥当性のある研究方法（対象、デザイン、測定指標、分析方法、研究倫理など）を検討し、研究計画書を作成する。また、作成した研究計画書に沿ってプレテストを行い、適宜、研究計画書の修正を行い、研究計画書が完成させる。

②抄読会形式とする。

到達目標

1. 研究計画書が作成できる。
2. プレテストを基に研究計画書の修正ができる。

使用教材

特になし

評価方法

プレゼンテーション（50%）、レポート（50%）

課題・評価に対するフィードバック方法

提出されたレポートに対してはコメントを付して返却し、その後振り取りを行う。

対話式に実施していくのでその都度コメントや講評を行う。

オフィスアワー

初回講義時に提示する。

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	研究計画書の作成（テーマ、目的、対象、デザイン、測定指標、分析方法、研究倫理など）。	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
2	研究計画書の作成（テーマ、目的、対象、デザイン、測定指標、分析方法、研究倫理など）。	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
3	研究計画書の作成（テーマ、目的、対象、デザイン、測定指標、分析方法、研究倫理など）。	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
4	研究計画書の作成（テーマ、目的、対象、デザイン、測定指標、分析方法、研究倫理など）。	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
5	研究計画書の作成（テーマ、目的、対象、デザイン、測定指標、分析方法、研究倫理など）。	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
					完学習する。	
6	ブレテストの対象選択と実施。	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
7	ブレテストの対象選択と実施。	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
8	ブレテストの対象選択と実施。	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
9	ブレテストの対象選択と実施。	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
10	ブレテストの対象選択と実施。	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
11	研究究計画書の修正とその有効性・妥当性の検討。	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
12	研究究計画書の修正とその有効性・妥当性の検討。	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
13	研究究計画書の修正とその有効性・妥当性の検討。	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
14	研究究計画書の修正とその有効性・妥当性の検討。	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
15	研究究計画書の修正とその有効性・妥当性の検討。	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・特別研究に向けての研究計画書の作成のため主体的・積極的に予習復習を行い講義に臨むこと。
・演習Ⅱで明らかにした研究課題の振り返りを常に行いながら取り組む事。
・予習復習は原則として、全授業を通して45時間は行う。
・オンラインの場合、C-learning また動画配信による講義を行う。
また、出席管理はC-learning上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する。
※学習の過程で疑問・質問が生じた場合はメールで対応する。

印刷 

看護実践開発科学特別研究

英文名：Seminar for Master's thesis on Nursing Practice Science

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：選択

単位数：8単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

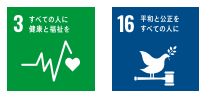
すべて開く

すべて閉じる

担当教員

吉田久美子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①慢性的な経過をたどり治療を継続しているがん患者の生活の質の向上を目指した看護研究のテーマについて、研究計画書をもとにデータを収集する。そして、研究目的に適した分析方法により、結果を体系的に整理し、がん看護学における課題へ対応し発展に寄与しうる研究結果を修士論文としてまとめる。
- ②研究活動をプロセスを経て遂行する。

到達目標

- 1.研究のプロセスにおける要点をおさえながら、研究を進めることができる。
- 2.がん看護学の課題に対応し発展に寄与しうる修士論文を作成することができる。

使用教材

- 1.研究テーマに関する文献等を提示する。
- 2.研究法に関する以下の著書などを紹介する。
 - ・バーンズ&グローブ著；黒田裕子他監訳：看護研究入門-評価・統合・エビデンスの生成-第7版 エルゼビア・ジャパン 2013

評価方法

学位論文審査基準7項目と、最終試験基準5項目を評価対象の100%とし、最終評価する。
※オンライン授業の場合には、Meet、またはZoomを通じて行うため評価方法は上記と同様とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

- 1.研究計画書について、口頭あるいは書面にてコメントする。
 - 2.データの収集、結果の分析、考察の内容等について、口頭あるいは書面にてコメントする。
 - 3.論文作成段階で、緒言、目的、方法、結果、考察について、口頭あるいは書面にてコメントする。
- ※オンライン授業の場合には、Meet、またはZoomを通じて講評・コメントすることを原則とする。
レポートについては、必要に応じてC-learning【レポート】機能を通じて、コメントを付して返却する。

オフィスアワー

月曜・金曜 10:00～16:00

メールアドレス（#→@）

yoshikumi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

【4～5月】

- 1.研究を倫理的に進めるために必要な内容を含めた研究計画書を確認し倫理審査へ提出する。
 - 1)研究の背景・動機が体系的に記載され、研究目的が明確であることを確認する。
 - 2)研究方法に対象者、対象者の選定理由、選定方法、調査方法、調査内容、分析方法、安全性・公平性の確保、倫理的配慮など必要事項が記載されていることを確認する。
- 2.研究計画書に記載した方法に基づき、対象者の倫理を十分考慮しデータ収集を開始する。
 - 1)調査方法、調査内容などを中心に、質の高いデータを得るために具体的調整や準備を行う。
 - 2)データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても準備した上で収集に取り組む。

【6～8月】

- 1.以下の点に配慮し、適切なデータを収集する。
 - 1)精度の高い豊かなデータを収集するため、調査方法や調査内容を確認しながら収集する。
 - 2)データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても検討した上で、収集に取り組む。
 - 3)得られたデータと研究目的や分析との適合性を確認し、データ収集方法の精度を上げる。

【9～10月】

1.計画書に記載した分析方法に基づき順序立て分析を行い、結果を系統的に図表も用いまとめる。

1)中間発表を行い、受けたコメントを論文の作成に活用する。

2)データを計画書に記載した分析方法をもとに体系的な分析を行う。

3)分析結果に適した図表を作成し、結果の内容を科学的に表現する。

【11～12月】

1.論文の内容を熟考し知見を明確に表現し、表記の適切性にも考慮し作成する。

1)論文として緒言から結語まで、研究目的に対し一貫性や客観性を確認しながら作成する。

2)がん看護学における課題へ対応し、発展に寄与しうる研究結果に対する考察を作成する。

3)論文と図表など、またプレゼンテーション資料について適切な記載方法で作成する。

4)研究の全体についてプレゼンテーションし、助言をもとに追加修正し論文の精度を上げる。

5)新知見を明確にし、臨床におけるがん看護学の向上に向け最終論文として提出する。

【予習】研究プロセスに応じ、各段階での課題を提示する。

【予習時間】期間中適宜

【復習】復習はそれぞれの課題を強化する。

【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



1.授業外学習の進め方

1)研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進めること。

2)がん看護学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。

2.予習・復習の時間

各授業の内容に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある

【出席登録】

出席登録は、C-learning【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。

印刷



看護実践開発科学特別研究

英文名 : Seminar for Master's thesis on Nursing Practice Science

科目区分 : 修士課程

学年 : 2年

開講期 : 通年

選択・必修 : 選択

単位数 : 8単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

石田順子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

治療期（手術を受け、がん化学療法を受けている等）にあるがん患者の症状マネジメント、がん患者と家族の生活の質の向上をめざした看護研究のテーマについて研究計画書をもとにデータを収集する。そして研究目的に適した分析方法により分析結果を体系的に整理し、がん看護学における課題へ対応し発展に寄与しうる研究を修士論文としてまとめる。

プロセス毎に対面で指導を行う。

到達目標

1. 研究のプロセスにおける要点をおさえながら、研究を進めることができる。
2. がん看護学の課題に対応し発展に寄与しうる修士論文を作成することができる。

使用教材

1. 研究テーマに関する文献等を提示し、活用する。
2. 研究法に関する著書を活用する。
 - ・バーンズ & グローブ : 黒田裕子他監訳 : 看護研究入門-評価・統合・エビデンスの生成-原著第7版 エルゼビア・ジャパン 2013
 - ・DF.ボーリット & C.T.ベック著 : 近藤潤子監訳 看護研究 原理と方法 医学書院 2010

評価方法

修士論文に対し、学位論文審査基準7項目と最終試験基準5項目によって評価する。

状況により、Zoomを通じて行うこともある。

課題・評価に対するフィードバック方法

- ・研究計画書に関する作成資料についてコメントなどを付けて返却する。
- ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方、考察の内容などについて口頭または書面でコメントする。
- ・作成段階の修士論文について緒言、方法、結果、考察、結語についてコメントなどを付け返却する。

オフィスアワー

火曜日（9:00～19:00）403研究室

メールアドレス（#→@）

jishida#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

4～5月

1. 研究を倫理的に進めるために必要な内容を含めた研究計画書を確認し倫理審査へ提出する。
 - 1) 研究の背景・動機が体系的に記載され、研究目的が明確であることを確認する。
 - 2) 研究方法に対象者、対象者の選定理由、選定方法、調査方法、調査内容、分析方法、安全性・公平性の確保、倫理的配慮など必要事項が記載されていることを確認する。
2. 研究計画書に記載した方法に基づき、対象者の倫理を十分考慮しデータ収集を開始する。
 - 1) 調査方法、調査内容などを中心に質の高いデータを得るために具体的調整や準備を行う。
 - 2) データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても準備した上で収集に取り組む。

6～8月

1. 精度の高い豊かなデータを収集するため、調査方法や調査内容を確認しながら収集する。
 - 1) データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても検討した上で、収集に取り組む。
 - 2) 得られたデータと研究目的や分析との適合性を確認し、データ収集方法の精度を上げる。

9～10月

1. 計画書に記載した分析方法に基づき分析を行い、結果を系統的に図表も用いまとめる。

1)データを計画書に記載した分析方法をもとに体系的な分析を行う。

2)分析結果に適した図表を作成し、結果の内容を科学的に表現する。

2. 中間発表を行い、受けたコメントを論文の作成に活用する。

11～1月

1. 論文の内容を熟考し知見を明確に表現し、表記の適切性にも考慮し作成する。

1)論文として緒言から結語まで、研究目的に対し一貫性や客観性を確認しながら作成する。

2)がん看護学における課題へ対応し、発展に寄与しうる研究結果に対する考察を作成する。

3)論文と図表など、またプレゼンテーション資料について適切な記載方法で作成する。

4)研究の全体についてプレゼンテーションし、助言をもとに修正し論文の精度を上げる。

5)新知見を明確にし、臨床におけるがん看護学の向上に向け最終論文として提出する。

2. 最終審査の準備と審査を受ける。

2月

1)研究発表の準備と発表を行う。

2)論文の学会発表および投稿準備を行う。

【予習】研究プロセスに応じ授業時に課題を提示

【予習時間】期間中適宜

【復習】研究プロセスに応じ授業時に課題を提示

【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）



期間中適宜

備考



1.授業外学習の進め方

1)研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進めること。

2)がん看護学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。

2.予習・復習は原則として、各授業前後に 90 分以上の時間をかける必要がある。

※学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールで

印刷



看護実践開発科学特別研究

英文名：Seminar for Master's thesis on Nursing Practice Science

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：選択

単位数：8単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

砂賀道子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①がんと診断され、治療を受けながらもがんと共に生きるがんサバイバーの生きる力を高め、自律や適応を促す支援を目指した看護研究のテーマについて、研究計画書をもとにデータを収集する。そして、研究目的に適した分析方法により結果を体系的に整理し、がん看護学における課題への対応と発展に寄与できるよう研究成果を修士論文としてまとめ提出する。
- ②研究プロセスに沿って遂行する。

到達目標

1. 研究のプロセスにおける要点をおさえながら、研究を進めることができる
2. がん看護学の課題に対応し発展に寄与しうる修士論文を作成することができる

使用教材

1. 研究テーマに関する最新の文献等を提示する。
2. 研究法に関する著書を活用する。
 - ・バーンズ & グローブ：黒田裕子他監訳：看護研究入門-評価・統合・エビデンスの生成-原著第7版 エルゼビア・ジャパン 2013
 - ・DF.ポーリット&C.T.ベック著：近藤潤子監訳 看護研究 原理と方法 医学書院 2010

参考文献

適宜、紹介する。

評価方法

修士論文に対し、学位論文審査基準7項目と最終試験基準5項目によって評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

1. 研究計画書に関する作成資料についてコメントを付し返却する。
2. データ収集の状況と分析過程及びまとめ方、考察の内容などについて口頭あるいは書面でコメントする。
3. 作成段階の修士論文について緒言、方法、結果、考察、結語についてその時々でディスカッションし、コメントを付し返却する

オフィスアワー

火曜日、5号館4階404研究室 その他はメールでも対応可能。

メールアドレス（#→@）

sunaga#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

4～5月

1. 研究を倫理的に進めるために必要な内容を含めた研究計画書を確認し倫理審査へ提出する。
 - 1) 研究の背景・動機が体系的に記載され、研究目的が明確であることを確認する。
 - 2) 研究方法に対象者、対象者の選定理由、選定方法、調査方法、調査内容、分析方法、安全性・公平性の確保、倫理的配慮など必要事項が記載されていることを確認する。
 2. 研究計画書に記載した方法に基づき、対象者の倫理を十分考慮しデータ収集を開始する。
 - 1) 調査方法、調査内容などを中心に、質の高いデータを得るために具体的調整や準備を行う。
 - 2) データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても準備した上で収集に取り組む。
- 6～8月
- 精度の高い豊かなデータを収集するため、調査方法や調査内容を確認しながら収集する。

- 1) データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても検討した上で、収集に取り組む。
- 2) 得られたデータと研究目的や分析との適合性を確認し、データ収集方法の精度を上げる。
- 9～10月
- 計画書に記載した分析方法に基づき順序立て分析を行い、結果を系統的に図表も用いまとめる。
- 1) 中間発表を行い、受けたコメントを論文の作成に活用する。
- 2) データを計画書に記載した分析方法をもとに体系的な分析を行う。
- 3) 分析結果に適した図表を作成し、結果の内容を科学的に表現する。
- 11～1月
- 論文の内容を熟考し知見を明確に表現し、表記の適切性にも考慮し作成する。
- 1) 論文として緒言から結語まで、研究目的に対し一貫性や客観性を確認しながら作成する。
- 2) がん看護学における課題へ対応し、発展に寄与しうる研究結果に対する考察を作成する。
- 3) 論文と図表など、またプレゼンテーション資料について適切な記載方法で作成する。
- 4) 研究の全体についてプレゼンテーションし、助言をもとに追加修正し論文の精度を上げる。
- 5) 新知見を明確にし、臨床におけるがん看護学の向上に向け最終論文として提出する。

- 1～2月
1. 研究発表の準備と発表を行う。
2. 論文の学会発表および投稿準備を行う。
- 【予習】研究プロセスに応じ授業時に課題を提示
- 【予習時間】期間中適宜
- 【復習】それぞれの課題を強化する
- 【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



- 1 .授業外学習の進め方
- 1) 研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進めること。
- 2) がん看護学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。
2. 予習・復習の時間：各授業の内容に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある
- 【出席登録】
- 出席登録は、C-learning【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。

印刷

看護実践開発科学特別研究

英文名：Seminar for Master's thesis on Nursing Practice Science

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：選択

単位数：8単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

倉林しのぶ

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ① 演習課程のなかで明確にした研究テーマについて、研究計画書に沿って臨床の場面で実施しデータ収集を行う。研究に適した方法によってデータを分析し、系統立てて整理を行い、修士論文を作成する。
- ② 講義は指導教官との対面またはWebにより個別的な指導を行う。

到達目標

1. 研究のプロセスにおける要点をおさえながら、研究を進めることができる。
2. 実施したプログラムについて分析および結果の整理ができる。
3. プログラムの効果、結果、問題点、課題等について論文としてまとめ、提出できる。

使用教材

研究テーマに即した文献、学術誌、研究法に関する書籍を紹介する。

評価方法

・修士論文とプレゼンテーション

修士論文に対しては学位論文審査基準7項目と最終試験基準5項目によって評価する。
オンラインの場合もMeet等を利用しディスカッションやプレゼンテーションを行うため、同様に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

論文作成については、データ収集、分析方法、結果に至るまで毎回、講評とともにコメントする。
オンラインの場合、Zoom等を利用してコメントする。

オフィスアワー

月曜日・火曜日の11：00～13：00

メールアドレス（#→@）

kura#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

【4～5月】

1. 研究計画書を確認し倫理審査へ提出する。
 - 1) 研究の背景・動機が体系的に記載され、研究目的が明確であることを確認する。
 - 2) 研究方法に、対象者の選定理由・方法、データ収集方法、分析方法、倫理的配慮など必要事項が記載されていることを確認する。
2. 研究計画書に基づき、具体的調整と準備を行う。

【6～8月】

1. 対象者の倫理を十分考慮したうえでデータ収集を開始する。
データ収集の手順や対象者への倫理的配慮について十分確認した上で取り組む。
2. 得られたデータと研究目的や分析との適合性を確認する。

【9～10月】

1. 計画書に基づいた分析を行い、結果を系統的にまとめる。
2. 中間発表での意見およびコメントを論文の作成に活用する。

【11～1月】

実施から結果までのプロセスをふまえた内容を熟考し、知見を明確に表現した論文を作成する。

- 1) 研究目的に対し一貫性や客観性を確認しながら作成する。
- 2) プレゼンテーション資料について適切な記載方法で作成する。

3) プレゼンテーションでのコメントや助言をもとに加筆修正し論文の精度を上げる。

【予習】 研究プロセスに応じ授業時に課題を提示

【予習時間】 期間中適宜

【復習】 研究プロセスに応じ授業時に課題を提示

【復習時間】 期間中適宜

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



- 1.定められた期日までに修士論文を研究科委員会に提出する。指定された期日までに規定の書式で修士論文を提出することにより、 単位の取得が可能となる。
- 2.各授業の内容に取り組むためには、 授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。関連する文献等を有効に活用し研究をすすめること。
- 3.オンラインの場合、Zoom等を中心に行う。

印刷 

看護実践開発科学特別研究

英文名：Seminar for Master's thesis on Nursing Practice Science

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：8単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

堀越摂子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①講義の目標

各自の関心に基づいた母子看護学の課題に関して、看護実践の質の向上を目指した研究課題を設定し、研究計画書を作成する。そして、研究計画をもとにデータ収集・分析を行い、母子看護学における課題への対応と発展に寄与できるよう、修士論文を作成する。研究で得られた知見をもとに、研究課題の展開について自らの考えを述べる。

②講義の実施方法

研究の実施および論文の作成に関する指導は、個々の進捗状況にあわせて指導の日程や時間を調整する。

到達目標

1. 研究のプロセスにおける要点をおさえながら、研究を進めることができる
2. 母子看護学の課題に対応し発展に寄与しうる修士論文を作成することができる

使用教材

1. 研究テーマに関する文献等を提示し、活用する。
2. 研究法に関する著書を活用する。
 - ・バーンズ & グローブ：黒田裕子他監訳：看護研究入門-評価・統合・エビデンスの生成-原著第7版 エルゼビア・ジャパン 2013
 - ・DF.ポーリット&C.T.ベック著：近藤潤子監訳 看護研究 原理と方法 医学書院 2010

評価方法

修士論文に対し、学位論文審査基準7項目と最終試験基準5項目によって評価する。

※オンライン授業の場合には、Meet、またはZoomを通じて行うため評価方法は上記と同様とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

1. 研究計画書および関連する資料について、コメントする。
 2. データ収集の状況と分析過程及びまとめ方、考察の内容等について、口頭あるいは書面でコメントする。
 3. 修士論文の作成において、緒言、目的、方法、結果、考察について、口頭あるいは書面でコメントする
- ※オンライン授業の場合には、Zoomを通じて講評・コメントすることを原則とする。また、レポートについては、必要に応じてC-learning【レポート】機能を通じて、コメントを付けて返却する。

オフィスアワー

月曜日13：00～14：30、5号館5階511研究室

メールアドレス（#→@）

horikoshi#takasaki-u.ac.jp
随時メールでも受け付ける。

授業計画表

4～5月

1. 研究を倫理的に進めるために必要な内容を含めた研究計画書を確認し倫理審査へ提出する。
 - 1) 研究の背景・動機が体系的に記載され、研究目的が明確であることを確認する。
 - 2) 研究方法に対象者、対象者の選定理由、選定方法、調査方法、調査内容、分析方法、安全性・公平性の確保、倫理的配慮など必要事項が記載されていることを確認する。
2. 研究計画書に記載した方法に基づき、対象者の倫理を十分考慮しデータ収集を開始する。
 - 1) 調査方法、調査内容などを中心に、質の高いデータを得るために具体的調整や準備を行う。
 - 2) データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても準備した上で収集に取り組む。

6～8月
精度の高い豊かなデータを収集するため、調査方法や調査内容を確認しながら収集する。
1) データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても検討した上で、収集に取り組む。
2) 得られたデータと研究目的や分析との適合性を確認し、データ収集方法の精度を上げる。

9～10月
計画書に記載した分析方法に基づき順序立て分析を行い、結果を系統的に図表も用いまとめる。
1) 中間発表を行い、受けたコメントを論文の作成に活用する。
2) データを計画書に記載した分析方法をもとに体系的な分析を行う。
3) 分析結果に適した図表を作成し、結果の内容を科学的に表現する。

11～1月
論文の内容を熟考し知見を明確に表現し、表記の適切性にも考慮し作成する。
1) 論文として緒言から結語まで、研究目的に対し一貫性や客観性を確認しながら作成する。
2) 母子看護学における課題へ対応し、発展に寄与しうる研究結果に対する考察を作成する。
3) 論文と図表など、またプレゼンテーション資料について適切な記載方法で作成する。
4) 研究の全体についてプレゼンテーションし、助言をもとに追加修正し論文の精度を上げる。
5) 研究で得られた知見を明確にし、臨床における母子看護学の向上に向け最終論文として提出する。

2月
1. 研究発表の準備と発表を行う。
【予習】研究プロセスに応じ授業時に課題を提示
【予習時間】期間中適宜
【復習】それぞれの課題を強化する。
【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



- 1 .授業外学習の進め方
1) 研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進めること。
2) 母子看護学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。
2. 予習・復習の時間：各授業の内容に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある
【出席登録】
出席登録は、C-learning【出席管理】機能を通じて、確認キーをみて出席登録を行う。

印刷

看護実践開発科学特別研究

英文名 : Seminar for Master's thesis on Nursing Practice Science

科目区分 : 修士課程

学年 : 2年

開講期 : 通年

選択・必修 : 選択

単位数 : 8単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

赤堀八重子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①地域・精神看護学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを基盤とした実践プログラムについて、研究計画書に沿って臨床の場面で実施しデータ収集を行う。研究に適した方法によってデータを分析し、系統立てて整理を行い、修士論文を作成する。
- ②講義は指導教官との対面またはWebにより個別的な指導を行う。

到達目標

- 1.研究のプロセスにおける要点をおさえながら、研究を進めることができる。
- 2.実施したプログラムについて分析および結果の整理ができる。
- 3.プログラムの効果、結果、問題点、課題等について論文としてまとめ、提出できる。

使用教材

なし

評価方法

・修士論文とプレゼンテーション

修士論文に対しては学位論文審査基準7項目と最終試験基準5項目によって評価する。
オンラインの場合もMeet等を利用しディスカッションやプレゼンテーションを行うため、同様に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

論文作成については、データ収集、分析方法、結果に至るまで毎回、講評とともにコメントする。
オンラインの場合、Zoom等を利用してコメントする。

オフィスアワー

金曜日13:00～16:15

メールアドレス（#→@）

akabori#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

【4～5月】

1. 研究計画書を確認し倫理審査へ提出する。
 - 1) 研究の背景・動機が体系的に記載され、研究目的が明確であることを確認する。
 - 2) 研究方法に、対象者の選定理由・方法、データ収集方法、分析方法、倫理的配慮など必要事項が記載されていることを確認する。
2. 研究計画書に基づき、具体的調整と準備を行う。

【6～8月】

1. 対象者の倫理を十分考慮したうえでデータ収集を開始する。
データ収集の手順や対象者への倫理的配慮について十分確認した上で取り組む。
2. 得られたデータと研究目的や分析との適合性を確認する。

【9～10月】

1. 計画書に基づいた分析を行い、結果を系統的にまとめる。
2. 中間発表での意見およびコメントを論文の作成に活用する。

【11～1月】

実施から結果までのプロセスをふまえた内容を熟考し、知見を明確に表現した論文を作成する。

- 1) 研究目的に対し一貫性や客観性を確認しながら作成する。
- 2) プレゼンテーション資料について適切な記載方法で作成する。

3) プレゼンテーションでのコメントや助言をもとに加筆修正し論文の精度を上げる。

【予習】 研究プロセスに応じ授業時に課題を提示

【予習時間】 期間中適宜

【復習】 研究プロセスに応じ授業時に課題を提示

【復習時間】 期間中適宜

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



- ・定められた期日までに修士論文を研究科委員会に提出する。指定された期日までに規定の書式で修士論文を提出することにより、単位の取得が可能となる。
- ・各授業の内容に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。
- ・オンラインの場合、Zoom等を中心に行う。

印刷 

看護実践開発科学特別研究

英文名：Seminar for Master's thesis on Nursing Practice Science

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：選択

単位数：8単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

星野美穂

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①各自の関心に基づいた小児看護学領域の課題に関して、看護実践の質の向上を目指した研究課題を設定し、研究計画書を作成する。そして、研究計画をもとにデータ収集・分析を行い、小児看護学における課題への対応と発展に寄与できるよう、修士論文を作成する。研究で得られた知見をもとに、研究課題の展開について自らの考えを述べる。
- ②研究の実施および論文の作成に関する指導は、個々の進捗状況にあわせて指導の日程や時間を調整する。

到達目標

- 1.研究のプロセスにおける要点をおさえながら、研究を進めることができる
- 2.小児看護学の課題に対応し発展に寄与しうる修士論文を作成することができる

使用教材

- 1.研究テーマに関する文献等を提示し、活用する。
- 2.研究法に関する著書を活用する。
 - ・バーンズ & グローブ：黒田裕子他監訳：看護研究入門・評価・統合・エビデンスの生成－原著第7版 エルゼビア・ジャパン 2013
 - ・DF.ポーリット&C.T.ベック著：近藤潤子監訳 看護研究 原理と方法 医学書院 2010

評価方法

修士論文に対し、学位論文審査基準7項目と最終試験基準5項目によって評価する。
※オンライン授業の場合には、Meet、またはZoomを通じて行うため評価方法は上記と同様とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

1. 研究計画書および関連する資料について、コメントする。
 2. データ収集の状況と分析過程及びまとめ方、考察の内容等について、口頭あるいは書面でコメントする。
 3. 修士論文の作成において、緒言、目的、方法、結果、考察について、口頭あるいは書面でコメントする
- ※オンライン授業の場合には、Zoomを通じて講評・コメントすることを原則とする。また、レポートについては、必要に応じてC-learning【レポート】機能を通じて、コメントを付して返却する。

オフィスアワー

火曜日 5号館5階504研究室 メールでも適宜対応可能。

メールアドレス（#→@）

hoshino-m#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

4～5月

1. 研究を倫理的に進めるために必要な内容を含めた研究計画書を確認し倫理審査へ提出する。
- 1) 研究の背景・動機が体系的に記載され、研究目的が明確であることを確認する。
- 2) 研究方法に対象者、対象者の選定理由、選定方法、調査方法、調査内容、分析方法、安全性・公平性の確保、倫理的配慮など必要事項が記載されていることを確認する。
2. 研究計画書に記載した方法に基づき、対象者の倫理を十分考慮しデータ収集を開始する。
- 1) 調査方法、調査内容などを中心に、質の高いデータを得るために具体的調整や準備を行う。
- 2) データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても準備した上で収集に取り組む。

6～8月

- 精度の高い豊かなデータを収集するため、調査方法や調査内容を確認しながら収集する。
- 1) データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても検討した上で、収集に取り組む。

2) 得られたデータと研究目的や分析との適合性を確認し、データ収集方法の精度を上げる。

9～10月

計画書に記載した分析方法に基づき順序立て分析を行い、結果を系統的に図表も用いまとめる。

1) 中間発表を行い、受けたコメントを論文の作成に活用する。

2) データを計画書に記載した分析方法をもとに体系的な分析を行う。

3) 分析結果に適した図表を作成し、結果の内容を科学的に表現する。

11～1月

論文の内容を熟考し知見を明確に表現し、表記の適切性にも考慮し作成する。

1) 論文として緒言から結語まで、研究目的に対し一貫性や客観性を確認しながら作成する。

2) 小児看護学における課題へ対応し、発展に寄与しうる研究結果に対する考察を作成する。

3) 論文と図表など、またプレゼンテーション資料について適切な記載方法で作成する。

4) 研究の全体についてプレゼンテーションし、助言をもとに追加修正し論文の精度を上げる。

5) 研究で得られた知見を明確にし、臨床における小児看護学の向上に向け最終論文として提出する。

2月

1. 研究発表の準備と発表を行う。

【予習】研究プロセスに応じ授業時に課題を提示

【予習時間】期間中適宜

【復習】それぞれの課題を強化する。

【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）



期間中適宜

備考



1 .授業外学習の進め方

1) 研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進めること。

2) 小児看護学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。

2. 予習・復習の時間：各授業の内容に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある

印刷



看護実践開発科学特別研究

英文名 : Seminar for Master's thesis on Nursing Practice Science

科目区分 : 修士課程

学年 : 2年

開講期 : 通年

選択・必修 : 選択

単位数 : 8単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

武居明美

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①地域・精神看護学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを基盤とした実践プログラムについて、研究計画書に沿って臨床の場面で実施しデータ収集を行う。研究に適した方法によってデータを分析し、系統立てて整理を行い、修士論文を作成する。
- ②講義は指導教官との対面またはWebにより個別的な指導を行う。

到達目標

- 1.研究のプロセスにおける要点をおさえながら、研究を進めることができる。
- 2.実施したプログラムについて分析および結果の整理ができる。
- 3.プログラムの効果、結果、問題点、課題等について論文としてまとめ、提出できる。

使用教材

なし

評価方法

・修士論文とプレゼンテーション

修士論文に対しては学位論文審査基準7項目と最終試験基準5項目によって評価する。
オンラインの場合もMeet等を利用しディスカッションやプレゼンテーションを行うため、同様に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

論文作成については、データ収集、分析方法、結果に至るまで毎回、講評とともにコメントする。
オンラインの場合、Zoom等を利用してコメントする。

オフィスアワー

火曜日13:00～16:15

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

【4～5月】

1. 研究計画書を確認し倫理審査へ提出する。
 - 1) 研究の背景・動機が体系的に記載され、研究目的が明確であることを確認する。
 - 2) 研究方法に、対象者の選定理由・方法、データ収集方法、分析方法、倫理的配慮など必要事項が記載されていることを確認する。
2. 研究計画書に基づき、具体的調整と準備を行う。

【6～8月】

1. 対象者の倫理を十分考慮したうえでデータ収集を開始する。
データ収集の手順や対象者への倫理的配慮について十分確認した上で取り組む。
2. 得られたデータと研究目的や分析との適合性を確認する。

【9～10月】

1. 計画書に基づいた分析を行い、結果を系統的にまとめる。
2. 中間発表での意見およびコメントを論文の作成に活用する。

【11～1月】

実施から結果までのプロセスをふまえた内容を熟考し、知見を明確に表現した論文を作成する。

- 1) 研究目的に対し一貫性や客観性を確認しながら作成する。
- 2) プレゼンテーション資料について適切な記載方法で作成する。

3) プレゼンテーションでのコメントや助言をもとに加筆修正し論文の精度を上げる。

【予習】 研究プロセスに応じ授業時に課題を提示

【予習時間】 期間中適宜

【復習】 研究プロセスに応じ授業時に課題を提示

【復習時間】 期間中適宜

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



- ・定められた期日までに修士論文を研究科委員会に提出する。指定された期日までに規定の書式で修士論文を提出することにより、単位の取得が可能となる
- ・各授業の内容に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある
- ・オンラインの場合、Zoom等を中心に行う。

印刷 

老年・在宅看護学特論

英文名：Advanced Gerontological and Home Care Nursing

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

棚橋さつき、梅原里実、田村直子、飯塚明恵、石井純子、常名陽子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ① 老年・在宅看護についての制度、保健医療福祉の連携やシステムといった側面から在宅で過ごす療養者や高齢者また、認知症高齢者の看護を教授する。また、実践者からの事例等を通して、訪問看護の課題および解決に向けた方略について地域連携や看護連携の側面も含め考察する。
- ② 対面で、講義、ディスカッションを交えながら双方向的な講義展開を行う。

到達目標

1. 在宅看護における療養者・家族の特徴について理解する。
2. 訪問看護ステーションの現状、課題について理解する。
3. 高齢化社会における認知症のとらえ方、今後の対策について理解する。
4. 高齢者への社会資源サポートについて理解する。

使用教材

舟島なをみ(2015)：看護実践・教育のための測定用具ファイル 第5版 医学書院
厚生労働省など国、県、市町村が発表している施策やデータ等
* その他日本在宅ケア学科誌 日本在宅看護学会誌、日本看護管理学会誌等を活用する。

評価方法

授業参加度・貢献度（40%）、各講義中での総合討論等の成果（60%）で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

授業の中でその都度ディスカッションをするとともに講評・評価する。

オフィスアワー

初回授業で提示する

メールアドレス（#→@）

棚橋：tanahashi#takasaki-u.ac.jp
各教員は講義の時に提示

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	科目オリエンテーション 在宅看護の状況（棚橋）	1	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。	1.5 h	科目オリエンテーションの内容を確認するとともに、自律的に在宅看護の状況について確認する。	1.5 h
2	医療介護連携における介護支援専門員の役割（石井）	1,4	講義目標に基づき左記の現状等について書籍等にて調べる。	1.5 h	不足する学習内容について補完学習する。	1.5 h
3	訪問看護ステーションにおける在宅治療の役割と展望（飯塚）	1,4	講義目標に基づき左記の現状等について書籍等にて調べる。	1.5 h	不足する学習内容について補完学習する。	1.5 h
4	在宅看護における家族支援（難病）（棚橋）	1,2	講義目標に基づき左記の現状等について書籍等にて調べる。	1.5 h	不足する学習内容について補完学習する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	訪問看護ステーションにおける看護師教育①（常名）	1,2	講義目標に基づき左記の現状等について書籍等にて調べる。	1.5h	不足する学習内容について補完学習する。	1.5h
6	訪問看護ステーションにおける看護師教育②（常名）	1,2,4	関連学会、学会誌等でトピックス、最新の知見について調べ、自身の研究テーマの位置付けを考察する。	1.5h	不足する学習内容について補完学習する。	1.5h
7	在宅看護に関する研究の動向（棚橋）	1,2,3,4	関連学会、学会誌等でトピックス、最新の知見について調べ、自身の研究テーマの位置付けを考察する。	1.5h	不足する学習内容について補完学習する。	1.5h
8	エンド・オブ・ライフケア①（田村）	1,2	講義目標に基づき左記の現状等について書籍等にて調べる。	1.5h	不足する学習内容について補完学習する。	1.5h
9	エンド・オブ・ライフケア②（田村）	1,2	講義目標に基づき左記の現状等について書籍等にて調べる。	1.5h	不足する学習内容について補完学習する。	1.5h
10	認知症認定看護師が地域で果たす役割（梅原）	1,2,3,4	講義目標に基づき左記の現状等について書籍等にて調べる。	1.5h	不足する学習内容について補完学習する。	1.5h
11	高齢者ケアと制度について（梅原）	3,4	地域で高齢者が暮らすための様々な制度やケアの現状について調べる。	1.5h	不足する学習内容について補完学習する。	1.5h
12	認知症施策の方向性とヘルスプロモーションについて（梅原）	3,4	認知症に関する施策の変遷とヘルスプロモーションについて調べる。	1.5h	不足する学習内容について補完学習する。	1.5h
13	高齢者の人権擁護（認知症高齢者や高齢者虐待等）（梅原）	3,4	人権擁護に関する様々な制度と、高齢者の虐待の種類や現状を調べる。	1.5h	不足する学習内容について補完学習する。	1.5h
14	高齢者を取り巻く環境について、事例をとって学習（梅原）	1,3,4	自身の経験や文献を通して、高齢者がQOLを向上・維持しながら生活できるような環境の有り方について考える。	1.5h	今後の自身の高齢者ケアに関する課題について挙げられる。	1.5h
15	社会資源による高齢者サポート等について実践者から現状と課題について学ぶ（梅原）	1,3,4	自身の経験と学習してきた社会資源を関連させ、現状と課題を考える。	1.5h	今後の自身の高齢者ケアに関する課題について挙げられる。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

①授業内容に基づき自ら学習すべき内容を自律的に学習する。

予習・復習は、原則として全授業をとおして45時間は行う。

②学習過程において質問等生じた場合にはオフィスアワー、メール等で授業開始前もしくは終了時間後に応じる。
オンライン授業の場合、C-learningまたは動画配信により講義を行う。

印刷

老年・在宅看護学演習 I

英文名：Seminar I：Gerontological and Home Care Nursing

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

棚橋さつき、梅原里実、浅井直美、佐橋こずえ

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①高齢者患者と家族に特有な看護実践方法とその評価方法を探求し、高度看護専門職としての課題を明確にする。また、質の高い在宅看護サービスを提供するための看護実践方法を、事例などから学び、施設における現状や課題を明確化する。
- ②ディスカッションを行いながら双方向での対面授業。

到達目標

1. 老年・在宅看護領域に関する理論構築および実践的な技術開発のための研究手法を習得する。
2. 実際に行われている老年看護や在宅看護実践方法について検討し、研究課題の方向性を見出す。

使用教材

アイボ・エイブラハム：ベストプラクティスのための高齢者ケアプロトコル、医学書院
堀内園子：認知症看護入門、ライフサポート社
岡田晋吾編：地域連携パスの作成術・活用術、医学書院
訪問看護の事業所開設Q&A、日本看護協会出版社
その他適宜指示する

評価方法

授業への主体的参加を重視し、学習態度やプレゼンテーション内容から総合的に判断する。
総合討論等の成果（60％）、授業参加度・貢献度（40％）

課題・評価に対するフィードバック方法

授業の中でその都度ディスカッションをするとともに講評・評価する。

オフィスアワー

授業中に各教員が提示する。

メールアドレス（#→@）

棚橋：tanahashi#takasaki-u.ac.jp
各教員は講義の時に提示

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	在宅看護学における看護実践上の課題の探索（棚橋）	1,2	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。左記の講義内容に関連する論文を検索しクリティークする。	1.5h	不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
2	在宅看護の質の管理：訪問看護事業所（棚橋）	1,2	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。左記の講義内容に関連する論文を検索しクリティークする。	1.5h	不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
3	文献検討の手法①（浅井）	1,2	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。左記の講義内容に関連する論文を検索しクリティークする。	1.5h	不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
4	文献検討の手法②（浅井）	1,2	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。左記の講義内容に関連する論文を検索しクリティークする。	1.5h	不足する学習内容を補完学習する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	文献検討の手法③（浅井）	1,2	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。左記の講義内容に関連する論文を検索しクリティークする。	1.5h	不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
6	在宅で暮らす認知症高齢者の特徴（梅原）	1,2	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。左記の講義内容に関連する論文を検索しクリティークする。	1.5h	不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
7	認知症高齢者を介護する家族の特徴と支援（梅原）	1,2	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。左記の講義内容に関連する論文を検索しクリティークする。	1.5h	不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
8	在宅における認知症高齢者の転倒予防と支援（梅原）	1,2	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。左記の講義内容に関連する論文を検索しクリティークする。	1.5h	不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
9	地域における小児看護の特徴①（佐橋）	1,2	実践方法について、専門書などで調べ、学術集会・学会誌等で最新の知見および実践報告に関する情報を収集する。	1.5h	看護実践方法について確認し補完学習を行う。	1.5h
10	地域における小児看護の特徴②（佐橋）	1,2	実践方法について、専門書などで調べ、学術集会・学会誌等で最新の知見および実践報告に関する情報を収集する。	1.5h	看護実践方法について確認し補完学習を行う。	1.5h
11	在宅看護の質の管理：人材育成（棚橋）	1,2	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。左記の講義内容に関連する論文を検索しクリティークする。	1.5h	不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
12	在宅看護と行政（棚橋）	1,2	実践方法について、専門書などで調べ、学術集会・学会誌等で最新の知見および実践報告に関する情報を収集する。	1.5h	看護実践方法について確認し、補完学習を行う。	1.5h
13	在宅看護において実施されている看護実践方法から課題を明確化する①（棚橋）	1,2	実践方法について、専門書などで調べ、学術集会・学会誌等で最新の知見および実践報告に関する情報を収集する。	1.5h	看護実践方法について確認し補完学習を行う。	1.5h
14	在宅看護において実施されている看護実践方法から課題を明確化する②（棚橋）	1,2	事例発表に向けて準備を行う。	1.5h	発表での意見を参考に課題の方向性について補完する。	1.5h
15	在宅看護において実施されている看護実践方法から課題を明確化する③（棚橋）	1,2	事例発表に向けて準備を行う。	1.5h	発表での意見を参考に課題の方向性について補完する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

訪問看護の質向上のための方法に関する情報収集を事前に行って参加してほしい。授業内容に基づき自ら学習すべき内容を自律的に学習する。
予習・復習は、原則として全授業をとおして45時間は行う。
学習過程において質問等生じた場合にはメール等にて対応する。
オンライン授業の場合、C-learningまたは動画配信による講義を行う。
質問などについては授業開始前、授業終了後に対応する。

印刷

老年・在宅看護学演習Ⅱ

英文名：SeminarⅡ：Gerontological and Home Care Nursing

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

棚橋さつき、梅原里実

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①自己の抱える問題や課題を事例検討会やフィールドワークをとおして高度訪問看護実践に必要な能力における知識を獲得する。また、専攻研究を活用しながら興味関心のある研究テーマを明確化する。そして、研究テーマから、研究手法を検討し、研究計画書を作成する。
- ②双方向の対面方式にてディスカッションを行いながら行う。

到達目標

1. 老年・在宅看護関連の実践上の課題解を焦点化する。
2. 文献検討、およびクリティークを行い、興味関心のあるテーマを明確化する。
3. 研究手法を明確化する。
4. 研究計画書原案を作成する。

使用教材

日本在宅ケア学会誌 廣谷速人著：論文のレトリック 南江堂
D.F.ポートリット&C.T.ベック著 看護研究 原理と方法 医学書院 その他適宜指示する

評価方法

授業への主体的参加を重視し、学習態度や資料準備、プレゼンテーション内容から総合的に判断する。
研究計画書（70%）、発表（30%）

課題・評価に対するフィードバック方法

授業の中でその都度ディスカッションをするとともに講評・評価する。

オフィスアワー

棚橋：5号館4階 407研究室 月13：00～14：30
梅原：初回講義時に提示する。

メールアドレス（#→@）

棚橋：tanahashi#takasaki-u.ac.jp
梅原：umehara#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	科目オリエンテーション、老年・在宅看護学、ケアシステム開発における課題について	1	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。	1.5h	自己の課題についての文献を自律的に学習する。	1.5h
2	国内外の文献をクリティークし、自己の研究課題についてテーマを抽出する。	1,2	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。	1.5h	自己の課題についての文献を自律的に学習する。	1.5h
3	国内外の文献をクリティークし、自己の研究課題についてテーマを抽出する。	1,2	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。	1.5h	自己の課題についての文献を自律的に学習する。	1.5h
4	国内外の文献をクリティークし、自己の研究課題についてテーマを抽出する。	1,2	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。	1.5h	自己の課題についての文献を自律的に学習する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	国内外の文献をクリティークし、自己の研究課題についてテーマを抽出する。	1,2	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。	1.5h	自己の課題についての文献を自律的に学習する。	1.5h
6	研究テーマ、研究手法（研究デザイン・研究対象者・研究方法・分析方法・評価方法等）倫理的配慮について文献検討を基に検討し、明確化する。	1,2,3	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。	1.5h	自己の課題についての文献を自律的に学習する。	1.5h
7	研究テーマ、研究手法（研究デザイン・研究対象者・研究方法・分析方法・評価方法等）倫理的配慮について文献検討を基に検討し、明確化する。	1,2,3	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。	1.5h	自己の課題についての文献を自律的に学習する。	1.5h
8	研究テーマ、研究手法（研究デザイン・研究対象者・研究方法・分析方法・評価方法等）倫理的配慮について文献検討を基に検討し、明確化する。	1,2,3	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。	1.5h	自己の課題についての文献を自律的に学習する。	1.5h
9	研究テーマ、研究手法（研究デザイン・研究対象者・研究方法・分析方法・評価方法等）倫理的配慮について文献検討を基に検討し、明確化する。	1,2,3	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。	1.5h	自己の課題についての文献を自律的に学習する。	1.5h
10	研究テーマ、研究手法（研究デザイン・研究対象者・研究方法・分析方法・評価方法等）倫理的配慮について文献検討を基に検討し、明確化する。	1,2,3	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。	1.5h	自己の課題についての文献を自律的に学習する。	1.5h
11	研究計画書の原案を作成する。	1,2,3,4	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。	1.5h	自己の課題についての文献を自律的に学習する。	1.5h
12	研究計画書の原案を作成する。	1,2,3,4	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。	1.5h	自己の課題についての文献を自律的に学習する。	1.5h
13	研究計画書の原案を作成する。	1,2,3,4	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。	1.5h	自己の課題についての文献を自律的に学習する。	1.5h
14	フィールド調査と対象者の調整	1,2,3,4	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。	1.5h	自己の課題についての文献を自律的に学習する。	1.5h
15	フィールド調査と対象者の調整	1,2,3,4	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。	1.5h	自己の課題についての文献を自律的に学習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

本講義は、老年・在宅看護学特論、演習Ⅰを終了していることが必要である。
予習、復習時間は全体を通して45時間確保することが必要である。
自己の課題を明確にして、事前に老年・在宅看護におけるトピックスなどを学習して、文献学習、事例検討会に取り組んでほしい。
オンラインの場合、C-learningまたは動画配信による講義を行う。
予習・復習は、原則として全授業をとおして45時間は行う。
学習過程において質問等生じた場合にはオフィスアワー、メールにて対応する。

印刷

老年・在宅看護学演習Ⅲ

英文名：SeminarⅢ：Gerontological and Home Care Nursing

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

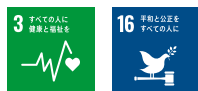
すべて開く

すべて閉じる

担当教員

棚橋さつき、梅原里実

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①老年・在宅看護や在宅移行の構築、高齢者施設における研究テーマについて妥当な研究方法（研究フィールドの条件、対象者の選定、サンプルサイズ、介入方法、分析方法、研究倫理等）を検討し、研究計画書を作成し特別研究に向けて準備を整える。
- ②双方向の形式にて、ディスカッションを行いながらの対面方式。

到達目標

- 1.在宅看護学に関する科目で学び得た知識と技術を具体的な計画のもとで総合的に活用する。
- 2.実践プログラムに基づいた実践ができる。
- 3.実施したプログラムの効果測定、問題点、改善点について整理できる。

使用教材

適宜指示する。

参考文献

適宜指示する。

評価方法

研究計画書 （100%）

課題・評価に対するフィードバック方法

授業の中でその都度ディスカッションをするとともに講評・評価する。

オフィスアワー

授業中に各教員が提示する。

メールアドレス（#→@）

棚橋：tanahashi#takasaki-u.ac.jp

梅原：umehara#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	2年次4月～6月にかけて開講する。 ・実践プログラムに関する全体の流れを確認する。 ・実践場所の選定、データ収集方法、倫理的配慮、分析方法、評価方法について明確にする。 ・実践プログラム実施施設との具体的な打ち合わせおよび調整の実施 ・倫理審査にかける。	1,2,3	実践プログラム作成に必要な知識を自律的に学習する。	2h	先行文献や専門書等により不足する学習内容を補完学習する。	1h
2	2年次4月～6月にかけて開講する。 ・実践プログラムに関する全体の流れを確認	1,2,3	実践プログラム作成に必要な知識を自律的に学習する。	2h	先行文献や専門書等により不足する学習内容を補完学習する。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	する。 ・実践場所の選定、データ収集方法、倫理的配慮、分析方法、評価方法について明確にする。 ・実践プログラム実施施設との具体的な打ち合わせおよび調整の実施 ・倫理審査にかける。					
3	2年次4月～6月にかけて開講する。 ・実践プログラムに関する全体の流れを確認する。 ・実践場所の選定、データ収集方法、倫理的配慮、分析方法、評価方法について明確にする。 ・実践プログラム実施施設との具体的な打ち合わせおよび調整の実施 ・倫理審査にかける。	1,2,3	実践プログラム作成に必要な知識を自律的に学習する。	2h	先行文献や専門書等により不足する学習内容を補完学習する。	1h
4	2年次4月～6月にかけて開講する。 ・実践プログラムに関する全体の流れを確認する。 ・実践場所の選定、データ収集方法、倫理的配慮、分析方法、評価方法について明確にする。 ・実践プログラム実施施設との具体的な打ち合わせおよび調整の実施 ・倫理審査にかける。	1,2,3	実践プログラム作成に必要な知識を自律的に学習する。	2h	先行文献や専門書等により不足する学習内容を補完学習する。	1h
5	2年次4月～6月にかけて開講する。 ・実践プログラムに関する全体の流れを確認する。 ・実践場所の選定、データ収集方法、倫理的配慮、分析方法、評価方法について明確にする。 ・実践プログラム実施施設との具体的な打ち合わせおよび調整の実施 ・倫理審査にかける。	1,2,3	実践プログラム作成に必要な知識を自律的に学習する。	2h	先行文献や専門書等により不足する学習内容を補完学習する。	1h
6	・実習施設におけるプログラムの実施 ・プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 ・プログラムの効果判定と評価 ・プレゼンテーション	1,2,3	プログラムを実施するために情報収集方法等について補完学習を行う。	2h	プログラムの評価方法やプレゼンテーションの準備について不足する学習を補完する。	1h
7	・実習施設におけるプログラムの実施 ・プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 ・プログラムの効果判定と評価 ・プレゼンテーション	1,2,3	プログラムを実施するために情報収集方法等について補完学習を行う。	2h	プログラムの評価方法やプレゼンテーションの準備について不足する学習を補完する。	1h
8	・実習施設におけるプログラムの実施 ・プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 ・プログラムの効果判定と評価 ・プレゼンテーション	1,2,3	プログラムを実施するために情報収集方法等について補完学習を行う。	2h	プログラムの評価方法やプレゼンテーションの準備について不足する学習を補完する。	1h
9	・実習施設におけるプログラムの実施 ・プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 ・プログラムの効果判定と評価 ・プレゼンテーション	1,2,3	プログラムを実施するために情報収集方法等について補完学習を行う。	1h	プログラムの評価方法やプレゼンテーションの準備について不足する学習を補完する。	2h
10	・実習施設におけるプログラムの実施 ・プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 ・プログラムの効果判定と評価 ・プレゼンテーション	1,2,3	プログラムを実施するために情報収集方法等について補完学習を行う。	2h	プログラムの評価方法やプレゼンテーションの準備について不足する学習を補完する。	1h
11	・実習施設におけるプログラムの実施 ・プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 ・プログラムの効果判定と評価 ・プレゼンテーション	1,2,3	プログラムを実施するために情報収集方法等について補完学習を行う。	2h	プログラムの評価方法やプレゼンテーションの準備について不足する学習を補完する。	1h
12	・実習施設におけるプログラムの実施 ・プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 ・プログラムの効果判定と評価 ・プレゼンテーション	1,2,3	プログラムを実施するために情報収集方法等について補完学習を行う。	2h	プログラムの評価方法やプレゼンテーションの準備について不足する学習を補完する。	1h
13	・実習施設におけるプログラムの実施 ・プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 ・プログラムの効果判定と評価 ・プレゼンテーション	1,2,3	プログラムを実施するために情報収集方法等について補完学習を行う。	2h	プログラムの評価方法やプレゼンテーションの準備について不足する学習を補完する。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
14	・実習施設におけるプログラムの実施 ・プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 ・プログラムの効果判定と評価 ・プレゼンテーション	1,2,3	プログラムを実施するために情報収集方法等について補完学習を行う。	2h	プログラムの評価方法やプレゼンテーションの準備について不足する学習を補完する。	1h
15	・実習施設におけるプログラムの実施 ・プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 ・プログラムの効果判定と評価 ・プレゼンテーション	1,2,3	プログラムを実施するために情報収集方法等について補完学習を行う。	2h	プログラムの評価方法やプレゼンテーションの準備について不足する学習を補完する。	1h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

定められた期日までに研究計画書を研究科委員会に提出する。医療機関での研究倫理審査が必要な場合は、6月までには承認が得られるように準備をする。
研究科委員会の審査および研究倫理委員会の承認を得なければ研究は実施できない。
予習・復習は、原則として全授業をととして45時間で行う。
学習過程において質問等生じた場合にはメール等にて対応する。

印刷



看護管理学特論Ⅱ

英文名：Advanced Nursing Administration Settings Ⅱ

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

小池洋子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①チーム医療の中核を担う看護師のマネジメント能力育成をめぐる現状について、病院組織の構造的側面・人間的側面の両面から分析し、課題を明確化し、それぞれが抱える課題と解決に向けた方法論について学ぶ。更に病院における組織開発とシステム構築に向けたマネジメントの現状や人材育成に向けた教育プログラムの構築について学びを深める。
- ②自己の実践経験を理論と結び付け整理し、履修生と教員による討議にて理解を深める。

到達目標

- 1.組織開発に関する理論を学習し、マネジメントについて多角的な視点から考えることができる。
- 2.組織開発におけるグループマネジメントの課題について理解できる。
- 3.病院組織横断的なシステム構築の現状と課題について考察できる。
- 4.キャリアデベロップメントに関する課題を明確化し、人材育成プログラムについて検討できる。

使用教材

- 1.Senge P.M, 著、枝廣淳子、小田理一郎訳；学習する組織:システム思考で未来を創造する、英治出版
- 2.Goffee, R, Jonce, G, 著、森由美子訳：DREAM WOLK PLACE, だれもが「最高の自分」になれる組織をつくる、英治出版
- 3.手島恵編著：看護のためのポジティブ・マネジメント、医学書院
- 4.堀公俊著：チーム・ファシリテーション最強の組織を作る12のステップ、朝日新聞出版
- 5.エドガー・H・シャイン著、二村俊子・三善勝代訳：キャリア・ダイナミックス、白桃書房

評価方法

授業への参加度（50％） 課題についてのプレゼンテーション内容（50％）

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションを行いつつ、コメント・評価し、次の課題を明確化する。

オフィスアワー

5号館207研究室 火13：00～17:00

メールアドレス（#→@）

koike-y#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義ガイダンス 組織を構造的側面と人間的側面から理解する	1	シラバスをよく読み、参考文献の中から関心のあるものについてまとめておく。	1.5h	不足の内容について補完する。	1.5h
2	組織開発に関する理論について学ぶ 組織行動学 システム理論 ホールシステム・アプローチ ポジティブ・マネジメント	1	シラバスをよく読み、参考文献の中から関心のあるものについてまとめておく。	1.5h	不足の内容について補完する。	1.5h
3	組織開発におけるグループマネジメントのあり方	1	シラバスをよく読み、参考文献の中から関心のあるものについてまとめておく。	1.5h	不足の内容について補完する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	組織開発におけるシステム構築について	1,3	自己の体験を通して、システムづくりの課題についてまとめておく。	1.5h	不足の内容について補完する。	1.5h
5	組織横断的な人材開発について	1,3	自己の体験を通して、システムづくりの課題についてまとめておく。	1.5h	不足の内容について補完する。	1.5h
6	組織開発におけるキャリア支援 キャリア発達 キャリアデベロップメント キャリアアンカー	1,2	キャリア発達及びマネジメントに関する理論について文献を読んでおく。	1.5h	不足の内容について補完する。	1.5h
7	組織開発におけるマネジメントのあり方 ドラッカーと目標管理	1,2	キャリア発達及びマネジメントに関する理論について文献を読んでおく。	1.5h	不足の内容について補完する。	1.5h
8	効果的なグループマネジメントのあり方 その1 ポジティブ・マネジメント	1,3	グループマネジメントの理論に基づく方法について文献を読んでおく。	1.5h	不足の内容について補完する。	1.5h
9	効果的なグループマネジメントのあり方 その2 傾聴と承認	1,3	グループマネジメントの理論に基づく方法について文献を読んでおく。	1.5h	不足の内容について補完する。	1.5h
10	効果的なグループマネジメントのあり方 その3 コーチングとティーチング	1,3	グループマネジメントの理論に基づく方法について文献を読んでおく。	1.5h	不足の内容について補完する。	1.5h
11	効果的なグループマネジメントのあり方 その4 ダイアログとディスカッション	1,3	グループマネジメントの理論に基づく方法について文献を読んでおく。	1.5h	不足の内容について補完する。	1.5h
12	組織開発における人材育成プログラム その1 新人に対する教育プログラム	1,2,3,4	人材育成プログラムに関する参考文献を読んでおく。	1.5h	不足の内容について補完する。	1.5h
13	組織開発における人材育成プログラム その2 中堅に対する教育プログラム	1,2,3,4	人材育成プログラムに関する参考文献を読んでおく。	1.5h	不足の内容について補完する。	1.5h
14	組織開発における人材育成プログラム その3 管理者に対する教育プログラム	1,2,3,4	人材育成プログラムに関する参考文献を読んでおく。	1.5h	不足の内容について補完する。	1.5h
15	まとめ 組織開発におけるマネジメントの役割と課題についてのプレゼンテーションと振り返り	1,2,3,4	講義で学習した内容について総括しつつ、組織開発におけるマネジメントの役割と課題についてまとめる。	1.5h	ディスカッションで出された内容を加えながら不足する内容について補完する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

学習への取り組み

自律的な学習が基本です。組織開発に向けて必要な看護マネジメントの理論や方法論について学びを深めること。この講義は自己の研究課題を絞り上げていくための講義内容となるので、関連する書籍や文献検索を重ねて、主体的な学習を進めること。そのため、予習・復習の時間は、1回の授業について3.4時間とはする必要があります。質問または疑問への対応

疑問が生じたら、そのままにしないですぐ連絡をして、解決を図ること。

その他 オンライン授業となった場合は、ZOOM会議を用いて授業を行います。

印刷

看護管理学演習 I

英文名 : Seminar I : Nursing Administration Settings

科目区分 : 修士課程

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

小池洋子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①組織開発における人材育成の具体的方法について学ぶ。
- ②文献とディスカッションを重ねるとともに、臨床の場における人材育成プログラムの実際についてフィールドに出かけ学ぶ。

到達目標

- 1.組織開発におけるマネジメント手法について理解できる。
- 2.キャリアアデベロップメントに関する課題を明確化し、人材育成プログラムについて検討できる。

使用教材

特に指定しない。

評価方法

授業及びフィールドワークへの参加度 (50%) プレゼンテーション内容 (50%)

課題・評価に対するフィードバック方法

講義の中でその都度ディスカッションするとともに、コメントを加え、評価する。

オフィスアワー

5号館207研究室 火13 : 00~17:00

メールアドレス (#→@)

koike-y#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1	マネジメントに関する関心のある文献について読んでおく。	1.5h	不足内容について補完する。	1.5h
2	関心のあるマネジメント理論についての文献検討	1	マネジメントに関する関心のある文献について読んでおく。	1.5h	不足内容について補完する。	1.5h
3	関心のあるマネジメント理論についての文献検討	1	マネジメントに関する関心のある文献について読んでおく。	1.5h	不足内容について補完する。	1.5h
4	関心のあるマネジメント理論についての文献検討	1	マネジメントに関する関心のある文献について読んでおく。	1.5h	不足内容について補完する。	1.5h
5	関心のあるマネジメント理論についての文献検討	1	マネジメントに関する関心のある文献について読んでおく。	1.5h	不足内容について補完する。	1.5h
6	関心のあるマネジメント方法論についての文献検討とディスカッション	1	関心のあるマネジメント方法論に関する文献を読んでおく。	1.5h	不足内容について補完する。	1.5h
7	関心のあるマネジメント方法論についての文献検討とディスカッション	1	関心のあるマネジメント方法論に関する文献を読んでおく。	1.5h	不足内容について補完する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	関心のあるマネジメント方法論についての文献検討とディスカッション	1	関心のあるマネジメント方法論に関する文献を読んでおく。	1.5h	不足内容について補完する。	1.5h
9	関心のあるマネジメント方法論についての文献検討とディスカッション	1	関心のあるマネジメント方法論に関する文献を読んでおく。	1.5h	不足内容について補完する。	1.5h
10	人材育成に関する文献検討及びフィールドワーク	1,2	人材育成に関する文献を読んでおく。	1.5h	不足内容について学習し補完する。	1.5h
11	人材育成に関する文献検討及びフィールドワーク	1,2	人材育成に関する文献を読んでおく。	1.5h	不足内容について学習し補完する。	1.5h
12	人材育成に関する文献検討及びフィールドワーク	1,2	人材育成に関する文献を読んでおく。	1.5h	不足内容について学習し補完する。	1.5h
13	人材育成に関する文献検討及びフィールドワーク	1,2	人材育成に関する文献を読んでおく。	1.5h	不足内容について学習し補完する。	1.5h
14	人材育成に関する文献検討及びフィールドワーク	1,2	人材育成に関する文献を読んでおく。	1.5h	不足内容について学習し補完する。	1.5h
15	まとめ	1,2	人材育成に関する文献について文献を読んでおく。	1.5h	不足内容について学習し補完する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

1. 授業外学習の進め方

- マネジメントの理論及び方法論について、文献検討を行い、クリティークし発表する。そのための予習・復習について、全体として45時間は行う必要がある。
- 人材育成教育プログラムへの参加を通して、何が効果的で、自己の課題は何か明確化できるよう、特に復習とまとめに各回3時間必要である。
- オンライン授業となった場合はZOOM会議を用いる。

2. 質問や疑問点への対応

疑問が生じたら、そのままにしないで連絡して解決を図ること。

印刷 

看護管理学演習Ⅱ

英文名：SeminarⅡ：Nursing Administration Settings

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

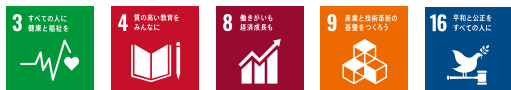
担当教員

小池洋子

科目に関連した実務経験

病院の看護部長経験、県看護行政経験

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①演習Ⅰでの学習を基に、マネジメントやキャリア開発に関する研究の動向を調べ、自己の関心領域を明確化し、研究計画書のアウトラインを明らかにする。
- ②国内外のマネジメントやキャリア開発に関する文献検討とディスカッションを中心に進める。

到達目標

- 1.看護管理に関する文献検索を行い、概要を理解するとともに課題を明らかにできる。
- 2.自己の関心領域を明確化し、研究計画書のアウトラインを作成できる。

使用教材

その都度提示する。

評価方法

授業への参加度（50％）、プレゼンテーション内容（50％）

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。

オフィスアワー

5号館207研究室 火13：00～17:00

メールアドレス（#→@）

koike-y#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	マネジメントやキャリア開発に関する国内外の文献の検討	1	マネジメント・キャリア開発に関する文献のクリティークを行う。	1.5h	不足する学習内容を補完し、次の課題を明確化する。	1.5h
2	マネジメントやキャリア開発に関する国内外の文献の検討	1	マネジメント・キャリア開発に関する文献のクリティークを行う。	1.5h	不足する学習内容を補完し、次の課題を明確化する。	1.5h
3	マネジメントやキャリア開発に関する国内外の文献の検討	1	マネジメント・キャリア開発に関する文献のクリティークを行う。	1.5h	不足する学習内容を補完し、次の課題を明確化する。	1.5h
4	マネジメントやキャリア開発に関する国内外の文献の検討	1	マネジメント・キャリア開発に関する文献のクリティークを行う。	1.5h	不足する学習内容を補完し、次の課題を明確化する。	1.5h
5	マネジメントやキャリア開発に関する国内外の文献の検討	1	マネジメント・キャリア開発に関する文献のクリティークを行う。	1.5h	不足する学習内容を補完し、次の課題を明確化する。	1.5h
6	マネジメントに関する自己の関心領域に沿って、研究テーマを明らかにする	1,2	先行研究についてクリティークし、研究テーマを絞り上げる。	1.5h	不足する学習内容について補完する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	マネジメントに関する自己の関心領域に沿って、研究テーマを明らかにする	1,2	先行研究についてクリティークし、研究テーマを絞り上げる。	1.5h	不足する学習内容について補完する。	1.5h
8	マネジメントに関する自己の関心領域に沿って、研究テーマを明らかにする	1,2	先行研究についてクリティークし、研究テーマを絞り上げる。	1.5h	不足する学習内容について補完する。	1.5h
9	マネジメントに関する自己の関心領域に沿って、研究テーマを明らかにする	1,2	先行研究についてクリティークし、研究テーマを絞り上げる。	1.5h	不足する学習内容について補完する。	1.5h
10	マネジメントに関する自己の関心領域に沿って、研究テーマを明らかにする	1,2	先行研究についてクリティークし、研究テーマを絞り上げる。	1.5h	不足する学習内容について補完する。	1.5h
11	研究テーマに沿って、研究目的を明らかにし、研究計画書のアウトラインを作成する	1,2	先行研究の結果を踏まえ、研究テーマから目的、方法までの研究の概要についてイメージし、整理する。	1.5h	ディスカッションで出された課題や不足する学習内容について補完する。	1.5h
12	研究テーマに沿って、研究目的を明らかにし、研究計画書のアウトラインを作成する	1,2	先行研究の結果を踏まえ、研究テーマから目的、方法までの研究の概要についてイメージし、整理する。	1.5h	ディスカッションで出された課題や不足する学習内容について補完する。	1.5h
13	研究テーマに沿って、研究目的を明らかにし、研究計画書のアウトラインを作成する	1,2	先行研究の結果を踏まえ、研究テーマから目的、方法までの研究の概要についてイメージし、整理する。	1.5h	ディスカッションで出された課題や不足する学習内容について補完する。	1.5h
14	研究テーマに沿って、研究目的を明らかにし、研究計画書のアウトラインを作成する	1,2	先行研究の結果を踏まえ、研究テーマから目的、方法までの研究の概要についてイメージし、整理する。	1.5h	ディスカッションで出された課題や不足する学習内容について補完する。	1.5h
15	研究テーマに沿って、研究目的を明らかにし、研究計画書のアウトラインを作成する	1,2	先行研究の結果を踏まえ、研究テーマから目的、方法までの研究の概要についてイメージし、整理する。	1.5h	ディスカッションで出された課題や不足する学習内容について補完する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

授業外学習の進め方

自らの研究課題とテーマを、明確化していく重要な時期である。何故そのテーマを選んだのか、先行研究の十分な検討の中から、研究目的を明確化していくための自律的学習を積み重ねる必要があります。そのためには、予習・復習は全授業を通して45時間は必要となる。

質問や疑問点への対応

疑問が生じたら、そのままにしないで連絡して解決を図ること。

学習過程で生じた疑問や質問については、その都度メールで応じる。

その他 オンライン授業となった場合はZOOM会議を用います。

印刷 

看護管理学演習Ⅲ

英文名：SeminarⅢ：Nursing Administration Settings

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

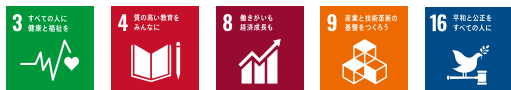
担当教員

小池洋子

科目に関連した実務経験

病院の看護部長を経験、県の看護行政を経験

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①看護マネジメントに関するテーマをもとに、研究目的を明確化し、目的達成のための妥当な研究方法を検討し、研究計画書を作成する。それをもとに特別研究に向けた準備を整える。
- ②文献検討とディスカッションを行うとともに、自己学習にて計画書作成を進める。

到達目標

- 1.研究テーマに基づき、研究目的・研究方法を明確化し、研究計画書を作成する。
- 2.プレテストを実施し、問題点・改善点を修正し、妥当性のある研究計画書を提出する。

使用教材

適宜指示する。

評価方法

研究計画書（100%）

課題・評価に対するフィードバック方法

計画書作成プロセスでその都度ディスカッションを行い、コメント・評価する。

オフィスアワー

5号館207研究室 火13：00～17:00

メールアドレス（#→@）

koike-y#tajkasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	研究計画書の作成（テーマ、目的、対象、デザイン、調査方法、分析方法、研究倫理など）	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
2	研究計画書の作成（テーマ、目的、対象、デザイン、調査方法、分析方法、研究倫理など）	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
3	研究計画書の作成（テーマ、目的、対象、デザイン、調査方法、分析方法、研究倫理など）	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
4	研究計画書の作成（テーマ、目的、対象、デザイン、調査方法、分析方法、研究倫理など）	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
5	研究計画書の作成（テーマ、目的、対象、デザイン、調査方法、分析方法、研究倫理など）	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	ブレテストの対象選択と実施	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
7	ブレテストの対象選択と実施	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
8	ブレテストの対象選択と実施	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
9	ブレテストの対象選択と実施	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
10	ブレテストの対象選択と実施	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
11	研究計画書の修正とその有効性・妥当性の検討	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
12	研究計画書の修正とその有効性・妥当性の検討	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
13	研究計画書の修正とその有効性・妥当性の検討	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
14	研究計画書の修正とその有効性・妥当性の検討	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
15	研究計画書の修正とその有効性・妥当性の検討	1,2	講義ごとに資料を作成する。課題はその都度示す。	1.5h	講義ごとに振り返りを行い、資料の追加・修正を行う。不足する学習内容を補完学習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45 h

備考

授業時間外での学習の進め方

研究計画書を定められた期日までに提出する必要がある。研究倫理審査基準について熟読し、基準に耐えうる研究計画書となるよう自律的な学習を進める。

予習・復習は原則として45時間は行う必要がある。

質問や疑問点への対応

疑問が生じたら、そのままにしないで連絡して解決を図ること。

その他 オンライン授業となった場合はZOOM会議を用いる。

印刷

ケアシステム開発科学特別研究

英文名：Seminar for Master's thesis on Care System Science

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：選択

単位数：8単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

棚橋さつき

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①在宅看護におけるシステム開発を目指した看護研究テーマについて、研究計画書をもとにデータを収集する。そして、研究目的に適した分析方法により、結果を体系的に整理し、在宅看護学における課題へ対応し発展に寄与しうる修士論文を作成することができる。
- ②対面の双方向で行う、適宜状況により、オンライン方式も交えながら進める。

到達目標

- 1.研究のプロセスにおける要点をおさえながら、研究を進めることができる。
- 2.在宅看護、ケアシステム開発における課題に対応し発展に寄与しうる修士論文を作成することができる。

使用教材

課題や修士論文の内容などに関する文献等を提示し活用する。

参考文献

適宜提示する

評価方法

修士論文に対し、学位論文審査基準7項目と最終試験基準5項目によって評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

- ・研究計画書に関する作成資料等についてコメントなどをつけて返却する。
- ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方や考察の内容等について口頭あるいは書面にてコメントする。
- ・作成段階の修士論文について方法、結果、考察、結語についてコメントをつけ返却する。

オフィスアワー

5号館407研究室 月13：00～14：30

メールアドレス（#→@）

棚橋：tanahashi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

4～5月

- 1.研究を倫理的に進めるために必要な内容を含めた研究計画書を確認し倫理審査へ提出する。
- 2.研究計画書に記載した方法に基づき、対象者の倫理を十分に考慮しデータ収集の準備をする。

6～8月

精度の高い豊かなデータ収集をするために調査方法や調査内容を確認しながら収集する。

9～10月

計画書に記載した分析方法に基づき順序立てて分析を行い、結果を系統的に図や表を用いてまとめる。また中間発表を行い、受けたコメントを論文作成に活用する。

11月～1月

論文の内容を熟考し知見を明確に表現し、論文を作成する。

【予習】研究プロセスに応じ授業中に課題を提示

【予習時間】期間中適宜

【復習】研究プロセスに応じ授業中に課題を提示

【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



- 1.授業外学習の進め方
- 1) 研究プロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進める。
 - 2) ケアシステム開発の修士論文を作成できるよう関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。
- 2.予習・復習の時間：各授業に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。

印刷



ケアシステム開発科学特別研究

英文名：Seminar for Master's thesis on Care System Science

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：選択

単位数：8単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

田村直子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①保健・医療・福祉におけるエンドオブライフケアや地域在宅看護におけるシステム開発を目指した看護研究テーマについて、研究計画書をもとにデータを収集する。そして、研究目的に適した分析方法により、結果を体系的に整理し、在宅看護学における課題へ対応し発展に寄与しうる修士論文を作成することができる。
- ②対面の双方向で行う、適宜状況により、オンライン方式も交えながら進める。

到達目標

- 1.研究のプロセスにおける要点をおさえながら、研究を進めることができる。
- 2.地域在宅看護、ケアシステム開発における課題に対応し発展に寄与しうる修士論文を作成することができる。

使用教材

1. 研究課題・研究テーマに関する文献等を提示し、活用する。
2. 研究法に関する著書を活用する。
 - ・バーンズ&グローブ看護研究入門―評価・統合・エビデンスの生成（原著第9版）黒田 裕子ら監訳,エルセビアジャパン 2023
 - ・ポーリット & ベック 看護研究 第3版 坂下玲子監訳 医学書院 2025

参考文献

適宜提示する

評価方法

修士論文に対し、学位論文審査基準7項目と最終試験基準5項目によって評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

- ・研究計画書に関する作成資料等についてコメントなどをつけて返却する。
- ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方や考察の内容等について口頭あるいは書面にてコメントする。
- ・作成段階の修士論文について方法、結果、考察、結語についてその時々でディスカッションし、コメントをつけ返却する。

オフィスアワー

5号館402研究室 木13：00～14：30

メールアドレス（#→@）

田村：tamura#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

4～5月

- 1.研究を倫理的に進めるために必要な内容を含めた研究計画書を確認し倫理審査へ提出する。
- 2.研究計画書に記載した方法に基づき、対象者の倫理を十分に考慮しデータ収集の準備をする。

6～8月

精度の高い豊かなデータ収集をするために調査方法や調査内容を確認しながら収集する。

9～10月

計画書に記載した分析方法に基づき順序立てて分析を行い、結果を系統的に図や表を用いてまとめる。

また中間発表を行い、受けたコメントを論文作成に活用する。

11月～1月

論文の内容を熟考し知見を明確に表現し、論文を作成する。

1月～2月

研究発表の準備と発表を行う。
論文や学会発表および投稿準備を行う。
【予習】研究プロセスに応じ授業中に課題を提示
【予習時間】期間中適宜
【復習】研究プロセスに応じ授業中に課題を提示
【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



- 1.授業外学習の進め方
1) 研究プロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進める。
2) ケアシステム開発の修士論文を作成できるよう関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。
2. 予習・復習の時間：各授業に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。

印刷



ケアシステム開発科学特別研究

英文名：Seminar for Master's thesis on Care System Science

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：選択

単位数：8単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

浅井直美

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①地域・在宅における看護ケアシステム開発を目指した看護研究テーマについて、研究計画書をもとにデータを収集する。研究目的に適した分析方法により、結果を体系的に整理し、在宅看護学における課題に対応、発展に寄与しうる修士論文を作成することができる。
- ②対面の双方向で行う、適宜状況により、オンライン方式も交えながら進める。

到達目標

- 1.研究のプロセスにおける要点をおさえながら、研究を進めることができる。
- 2.地域・在宅における看護ケアシステムの開発における課題に対応し発展に寄与しうる修士論文を作成することができる。

使用教材

課題や修士論文の内容などに関する文献等を提示し活用する。

参考文献

適宜提示する

評価方法

修士論文に対し、学位論文審査基準7項目と最終試験基準5項目によって評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

- ・研究計画書に関する作成資料等についてコメントなどをつけて返却する。
- ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方や考察の内容等について口頭あるいは書面にてコメントする。
- ・作成段階の修士論文について方法、結果、考察、結語についてコメントをつけ返却する。

オフィスアワー

5号館401研究室 金10：45～12：15

メールアドレス（#→@）

浅井：asai-n#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

4～5月

- 1.研究を倫理的に進めるために必要な内容を含めた研究計画書を確認し倫理審査へ提出する。
- 2.研究計画書に記載した方法に基づき、対象者の倫理を十分に考慮しデータ収集の準備をする。

6～8月

精度の高い豊かなデータ収集をするために調査方法や調査内容を確認しながら収集する。

9～10月

計画書に記載した分析方法に基づき順序立てて分析を行い、結果を系統的に図や表を用いてまとめる。また中間発表を行い、受けたコメントを論文作成に活用する。

11月～1月

論文の内容を熟考し知見を明確に表現し、論文を作成する。

【予習】研究プロセスに応じ授業中に課題を提示

【予習時間】期間中適宜

【復習】研究プロセスに応じ授業中に課題を提示

【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



1.授業外学習の進め方

- 1) 研究プロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進める。
- 2) 地域・在宅における看護ケアシステム開発の修士論文を作成できるよう関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。

2.予習・復習の時間：各授業に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。

印刷



ケアシステム開発科学特別研究

英文名：Seminar for Master's thesis on Care System Science

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：選択

単位数：8単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

梅原里実

科目に関連した実務経験

急性期病院の看護管理者として勤務経験。地域包括推進室室長として勤務。認知症看護認定看護師としての実務経験。

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①老年看護（認知症高齢者看護）におけるケアシステム開発を目指した看護研究テーマについて幅広い視点で課題に取り組む。研究計画書をもとにデータを収集し、研究目的に適した分析方法により、結果を体系的に整理し、老年看護学における課題へ対応し発展に寄与しうる修士論文を作成することができる。
- ②講義及びプレゼンテーションによる意見交換

到達目標

1. 研究のプロセスにおける要点を理解しながら、研究を進めることができる。
2. 老年看護におけるケアシステム開発の課題に対応し老年看護の発展に寄与しうる修士論文を作成することができる。

使用教材

- ・課題や修士論文の内容に関する文献・資料等を提示する。
- ・バーンス&グローブ著；黒田裕子他監訳：看護研究入門-評価・統合・エビデンスの生成-第7版 エルゼビア・ジャパン 2013

評価方法

修士論文に対し、学位論文審査基準7項目と最終試験基準5項目(80%)研究への取り組み（20%）によって評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

- ・研究計画書に関する作成資料等についてコメントなどをつけて返却する。
- ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方や考察の内容等について口頭あるいは書面にてコメントする。
- ・作成段階の修士論文について方法、結果、考察、結語についてコメントをつけ返却する。

オフィスアワー

5号館5階502研究室 月10:00～18:00

メールアドレス（#→@）

umehara#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

4～5月

1. 研究を倫理的に進めるために必要な内容を含めた研究計画書を確認し倫理審査へ提出する。
2. 研究計画書に記載した方法に基づき、対象者の倫理を十分に考慮しデータ収集の準備をする。

6～8月

精度の高い豊かなデータ収集をするために調査方法や調査内容を確認しながら収集する。

9～10月

計画書に記載した分析方法に基づき順序立てて分析を行い、結果を系統的に図や表を用いてまとめる。
また中間発表を行い、受けたコメントを論文作成に活用する。

11月～1月

論文の内容を熟考し知見を明確に表現し、論文を作成する。

【予習】研究プロセスに応じ授業中に課題を提示

【予習時間】期間中適宜

【復習】研究プロセスに応じ授業中に課題を提示
【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



- 1.授業外学習の進め方
 - 1) 研究プロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進めること。
 - 2) ケアシステム開発の修士論文を作成できるよう関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。
- 2.予習・復習の時間：各授業に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。

印刷

助産学特論 I (ウィメンズヘルス)(助産師養成領域)

英文名 : Advanced Theory of Midwifery I (Women's Health)

科目区分 : 修士課程

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大石時子、寺口顯子、伊藤理廣、青木知子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①女性のライフサイクルにおける性と生殖にかかわる助産師の視点からのアセスメントとケア並びにその評価について学び実践に生かせる。
- ②対面またはZOOMにて講義とdiscussionを行う。

到達目標

- 1.思春期男女に対する基本的姿勢と心身の理解の基に、相談や、適切な対応ができる。
- 2.セクシュアリティの多様性（性自認や性志向）を理解し、性交渉や避妊のあり方、および妊娠の中断に対する個別相談や集団指導の基礎を理解し説明できる。
- 3.思春期から中高年の女性の性と生殖に関する健康問題とその対応について説明できる。
- 4.女性へ暴力・性暴力の原因、現状、将来的影響を理解し、支援方法について説明できる

使用教材

1荻野美穂：女のからだ、岩波新書

参考文献

ウィメンズヘルス事典-女性のからだところガイド、日本母性衛生学会
 燕は戻って来ない、桐野夏生

評価方法

参加度（40%）、presentation（60%） 「不妊治療大国日本に対する私の考え」

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。

オフィスアワー

火曜日12時～13時、5号館5階508研究室

メールアドレス（#→@）

oishi-t#takasaki-u.ac.jp（大石）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	WOMEN'S HEALTH とGENDER（大石）	1,2,3,4	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する	1.5h	科目オリエンテーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容について確認する	1.5h
2	現代の思春期の人々のSexualityとGender（大石）	1,2,3,4	性の多様性について、Web上で、どのような内容が書かれているかnavigateしてみる	1.5h	思春期の人々の性のあり様の現状を多面的に理解する（COVID-19の影響を含む）	1.5h
3	女性と月経、月経障害について（寺口）	1,2,3	女のからだ 第2章までを読む	1.5h	女のからだ 第3,4章を読む	1.5h
4	思春期女性の支援（避妊）（寺口）	1,2,3	女のからだ 第2章までを読む	1.5h	女のからだ 第3,4章を読む	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	思春期女性の支援（ピル）（伊藤）	1,2,3	月経のメカニズムについて調べておく	1.5h	ピルの作用機序と副作用について復習する	1.5h
6	思春期女性の支援（ピル）（伊藤）	1,2,3	月経のメカニズムについて調べておく	1.5h	ピルの作用機序と副作用について復習する	1.5h
7	性感染症予防と支援（大石）	1,2,3	子宮と女性性器の解剖	1.5h	性感染症予防に果たす助産師の役割を考察する	1.5h
8	子宮頸がん、乳がん（大石）	1,2,3,4	乳房、子宮と女性性器の解剖	1.5h	子宮頸がん予防に果たす助産師の役割を考察する	1.5h
9	女性生殖器がんと助産ケア（大石）	1,2,3	乳がん、子宮がん、卵巣がんについて復習しておく	1.5h	女性にとって生殖器がんがもつ意味とそれに対する助産ケアを考察する	1.5h
10	女性に対する暴力―DV、人身売買他（大石）	1,2,3	DVについてインターネット上の情報を収集する	1.5h	DVの社会背景を考察する	1.5h
11	女性に対する暴力―性暴力（青木）	1,2,3,4	DVについてインターネット上の情報を収集する	1.5h	性暴力の社会背景を考察する	1.5h
12	不妊治療の現状（寺口）	3	妊娠成立のメカニズムを復習しておく	1.5h	テキスト：女のからだ 第5章を読む	1.5h
13	不妊の悩みを持つ女性と家族への支援（寺口）	3	テキスト：女のからだ 第5章を読む	1.5h	不妊治療が女性と社会に及ぼす影響について考察する	1.5h
14	不妊治療に対する考察のpresentation（大石）	3	自分の関心のある不妊治療について調べ、考察しpresentationを準備する	1.5h	発表で共有した情報を統括し、不妊治療への考察を深める	1.5h
15	中高年女性における性と生殖、身体的健康上の特徴とケア（寺口）	3,4	中高年女性の身体的特徴	1.5h	中高年女性の健康に及ぼす社会的要因について考察する	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- ・主体的にdiscussionに参加する。
- ・自律的に学習する。
- ・予習・復習は、原則として全授業をととして45時間は行う。
- ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールでアポをとり研究室で対応する。

印刷

助産学特論Ⅱ(助産管理)(助産師養成領域)

英文名：Advanced Theory of MidwiferyⅡ(Midwifery Management)

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

学位授与方針との対応：

- ✓看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

小泉仁子、馬目裕子、川崎綾子

科目に関連した実務経験

小泉仁子は総合周産期母子医療センターを有する大学附属病院での看護管理経験を持つ

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①助産業務、管理、および病院、助産所運営の基本的な法的理解を図るとともに、助産業務の評価とその調整ができるための管理プロセスの基礎を学ぶ。
- ②講義は、対面またはZOOMで実施する。

到達目標

- 1.助産業務に関する法律を理解し、説明できる。
- 2.助産管理の方法を理解し、説明できる。
- 3.安全管理のあり方を理解し、説明できる。
- 4.自己の開設する助産所または勤務する周産母子センターを想定し、助産管理の側面における姿勢を説明できる。（各自の経験に基づき想定したそれぞれの助産管理）

使用教材

テキスト：1我部山・他：助産学講座10，医学書院 2助産業務要覧2023年版，看護協会出版会

参考文献

参考書：看護六法，新日本法規，助産業務ガイドライン2019，院内助産・助産師外来ガイドライン2018

評価方法

筆記試験（100%）

課題・評価に対するフィードバック方法

講義時にディスカッションを通して相互理解を深める。

オフィスアワー

初講時に示す。

メールアドレス（#→@）

初講時に示す。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	助産業務・管理の概念（小泉） ＊助産業務と助産業務展開について助産師の役割と業務について学ぶ	1,2	必読図書を読み、課題を明確にしておく。	1.5h	ディスカッションで自己課題を明確にする。	1.5h
2	助産業務に関連する法規（法的施策）（小泉）	1,2	テキストの該当部分を熟読し、自己の問題点を明確にする。	1.5h	問題点が明らかになったことを確認し、次の単元の学習につなげる。	1.5h
3	助産業務に関連する法規（法的施策）（小泉）	1,2	テキストの該当部分を熟読し、自己の問題点を明確にする。	1.5h	問題点が明らかになったことを確認し、次の単元の学習につなげる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	助産業務管理の実際（病院）（小泉） ＊助産業務における安全・管理の実際について学ぶ	2,4	必読図書を読み、課題を明確にしておく。	1.5h	ディスカッションで自己課題を明確にする。	1.5h
5	助産業務管理の実際（含助産所等の連携）（川崎） ＊助産業務における安全・管理の実際について学ぶ	2,4	必読図書を読み、課題を明確にしておく。	1.5h	ディスカッションで自己課題を明確にする	1.5h
6	助産業務管理の実際（含助産所等の連携）（川崎） ＊助産業務における安全・管理の実際について学ぶ	2,4	必読図書を読み、課題を明確にしておく。	1.5h	ディスカッションで自己課題を明確にする	1.5h
7	周産期における安全管理・危機管理（川崎）	2,3	テキストの該当部分を熟読し、自己の問題点を明確にする。	1.5h	問題点が明らかになったことを確認し、次の単元の学習につなげる。	1.5h
8	医療事故防止、感染予防対策、災害対策等（馬目）	2,3	産科医療過誤訴訟	1.5h	災害支援・災害時分娩	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

- ・各単元（授業時間）について、テキストの該当部分にそって自己の学習目標を明確にする。
- ・予習・復習は、原則として全授業をととして24時間は行う。
- ・授業内容について、理解できた事柄を確認し、出来なかった事柄をさらに追求する努力をする。
- ・学習内容について、問題意識を高め、他の参考書、一般書籍、新聞等に目を通すなどさらに研鑽する。
- ・国内外を問わず、母子と女性の健康問題について幅広く知識や出来事に興味を馳せるよう努力する。
- ・講義を受けるに当たっては、積極的に参加し、質問や議論を交りあるものにするよう努力する。

印刷

助産学特論Ⅲ(開業・院内助産)(助産師養成領域)

英文名: Advanced Theory of MidwiferyⅢ(Independent Practice of Midwifery)

科目区分: 修士課程

学年: 1年

開講期: 後期

選択・必修: 必修

単位数: 1単位

学位授与方針との対応:

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

寺口顕子、東福寺幾夫、宮下美代子、岡本登美子、眞下由利子、林啓子

科目に関連した実務経験

宮下美代子: みやした助産院院長

岡本登美子: ウバウバハウス岡本助産院院長

眞下由利子: 眞下助産院院長

林 啓子: 院内バースセンター(院内助産所)を開設している病院に勤務

履修を必須とする資格

助産師国家試験受験資格取得にかかる必修科目「助産管理」

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①地域における助産所等の開業や院内助産の設置、運営に必要な企業家としてのマインドと経営的視点を持ちつつ、マネジメントを行っていくための基礎を学ぶ。
- ②講義ならびに助産所における講義・実践の見学を踏まえ、自身の開所したい助産所のプレゼンテーションを行う。

到達目標

- 1.助産所・院内助産や助産師の開業に関わる法的根拠を説明できる。
- 2.経営や、経営戦略を理解し説明ができる。
- 3.マネジメントの一環としての多職種協同を理解し、説明できる。
- 4.リスク管理や必要時の対応を具体的に説明できる。
- 5.行政への働きかけ(産後母子訪問システム等の実績等)、NPO法人の取得・運営を理解し、説明できる。
- 6.助産に関わる各種ガイドラインを理解し、説明できる。

使用教材

- 1)我部山キヨ子編.助産学講座10 助産管理.医学書院
 - 2)産婦人科診療ガイドライン2023 産科編
 - 3)日本助産師会.助産業務ガイドライン2019
 - 4)福井トシ子・井本寛子編.助産師業務要覧2024年版.日本看護協会出版会
 - 5)日本遠隔医療学会.図説・日本の遠隔医療2017
- その他資料で提供

評価方法

授業参加度・貢献度(30%)、presentation(70%)で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

presentationに対して、その場でコメントをしてフィードバックする。

オフィスアワー

寺口 火曜日12時～13時、5号館5階509研究室

メールアドレス(＃→@)

teraguchi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス・助産師の開業・起業（寺口）	1,6	助産師の開業に関わる法的根拠について確認する。	0.5h	助産師のさまざまな起業の可能性について考察する。	0.25h
2	群馬県助産師会における母子保健事業（眞下）	2,5	群馬県助産師会立すずの音助産院のHPで活動方針・事業を確認する	0.5h	すずの音助産院の事業の実際からその役割・特徴を振り返りまとめる。	0.25h
3	群馬県助産師会における母子保健事業の実際（眞下）	3,4,5	群馬県助産師会立すずの音助産院のHPで活動方針・事業を確認する	0.5h	すずの音助産院の事業の実際からその役割・特徴を振り返りまとめる。	0.25h
4	助産所における経営と経営戦略（宮下）	2	みやした助産院の経営内容をHPで調べておく。業務要覧で該当箇所を読む。	0.5h	学びをまとめ「私が開所したい助産院」とのテーマでpresentationの準備をする	0.25h
5	助産所における経営戦略の実際（宮下）	2	みやした助産院の経営内容をHPで調べておく。業務要覧で該当箇所を読む。	0.5h	学びをまとめ「私が開所したい助産院」とのテーマでpresentationの準備をする	0.25h
6	助産師の自律と多職種協働（内外）のあり方（宮下）	3	みやした助産院の経営内容をHPで調べておく。業務要覧で該当箇所を読む。	0.5h	学びをまとめ「私が開所したい助産所とのテーマでpresentationの準備をする	0.25h
7	助産師の自律と人間関係の調整（宮下）	3	みやした助産院の経営内容をHPで調べておく。業務要覧で該当箇所を読む。	0.5h	学びをまとめ「私が開所したい助産所」とのテーマでpresentationの準備をする	0.25h
8	医療の安全体制、緊急時の対応、ハイリスク妊産婦ケアの適切な展開（宮下）	4,6	みやした助産院の経営内容をHPで調べておく。業務要覧で該当箇所を読む。	0.5h	学びをまとめ「私が開所したい助産所」とのテーマでpresentationの準備をする	0.25h
9	助産師による産後ケア事業の実際（岡本）	4	ウバウバハウス岡本助産院のHPで産後ケア事業を調べる	0.5h	産後ケア事業の法的根拠と意義についてまとめる	0.25h
10	助産師による産後ケア事業の実際（岡本）	5	ウバウバハウス岡本助産院のHPで産後ケア事業を調べる	0.5h	産後ケア事業の法的根拠と意義についてまとめる	0.25h
11	院内助産システムと助産師の自律について（林）	3,4,6	院内助産システムとはどのようなシステムなのか調べておく	0.5h	施設の状況に合わせた院内助産システムの導入について考える	0.25h
12	助産師の自律（バースセンターの設立経験から）（林）	3,4,6	院内助産を導入していくために、助産師自身に何が必要かを考える	0.5h	助産師の声明・綱領（日本助産師会）を読み、院内助産を通した助産師の自律について考える	0.25h
13	遠隔医療とは（東福寺） （1）遠隔医療とは （2）遠隔医療の歴史 （3）遠隔医療実用上の障害 （4）D to D遠隔医療 （5）D to P、D to N to P遠隔医療、オンライン診療 （6）その他の遠隔医療 （7）遠隔禁煙支援とDigital Therapy	3,4	副読本「図説・日本の遠隔医療2017」（日本遠隔医療学会編）1章～3章を通読する。	0.5h	助産師の立場で、遠隔医療をどのように利用できるかを考え、整理する。	0.25h
14	IT technologyを使った周産期管理（東福寺） （1）分娩監視装置 （2）遠隔妊婦健診 （3）電子母子手帳	3,4	副読本「図説・日本の遠隔医療2017」（日本遠隔医療学会編）2章を通読する。	0.5h	周産期管理へのICT応用を整理する。	0.25h
15	presentation 私が開所したい助産所（寺口）	1,2,3,4,6	presentationの準備：助産所の理念・業務内容・人員配置・マップほか	0.5h	お互いの発表を共有し、さらに自己の考察を深める	0.25h

合計時間（予習・復習）

11.25h

備考

- ・助産所では予習してきた項目に基づき、疑問を解決すべく、積極的に質問する。旅費等については別途説明する。
- ・授業内容に基づき、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。
- ・予習・復習は、原則として全授業をとおして11時間15分は行う。
- ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールまたはメールで調整の上、研究室で対応する。

印刷

助産学特論Ⅳ (母子保健政策)(助産師養成領域)

科目区分：修士課程 学年：2 年 開講期：前期 選択・必修：必修 単位数：1 単位

学位授与方針との対応：

✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる

✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる

教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる

✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

■ 担当教員

寺口顕子、高田昌代、菊地栄、西優也

■ SDGs との関連



■ 実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①母子保健、女性の健康および助産に関連する法律や政策がどのように策定され実施されていくのかを理解する。

②対面または ZOOM による講義に加えて、現場を見学しながら説明や講義を受ける。

■ 到達目標

- 母子保健・女性の健康・および助産に関連する法律や政策を理解し説明ができる。
- 母子保健・女性の健康および助産に関連する法律や政策がどのように変遷してきたかを理解できる。
- 政策策定過程に影響を及ぼす団体（助産師職能団体・NPO 法人・女性団体等）の役割を理解できる。
- 母子保健・女性の健康および助産に関連する法律や政策がどのように現実に実践されているのかを理解し、説明できる。
- 母子保健・女性の健康および助産に関連する政策を改善していくための方策を考察する。

■ 参考文献

①井本寛子、福井トシ子編、助産師業務要覧、日本看護協会出版会

②産み育てと助産の歴史、2016、医学書院

その他資料提供

■ 評価方法

レポート (100%) 「母子保健・女性の健康のために必要な政策改善と方法についての私の考え」

■ 課題・評価に対するフィードバック方法

質問に対して、その場でコメントをしてフィードバックする。

■ オフィスアワー

寺口 火曜日 12 時～13 時、5 号館 5 階 509 研究室

■ メールアドレス (#→@)

寺口 teraguchi # takasaki-u.ac.jp

■ 授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	母子保健政策と助産師（寺口）	1,2,3	母子保健や女性、助産師に関わる法律にはどのようなものがあるか調べておく	1.5h	社会政策の決定過程やその内容が、社会における母子や助産師に与える影響について具体的な例をあげて考える	1.5h
2	母子保健と助産をめぐる法律や政策の変遷（菊地）	1,2,3	母子保健、女性の健康、助産に関連する法律や政策のニュースに日頃から注目し、書き留めておく	1.5h	関連する法律や政策について列挙し、自分の考えをまとめる	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	こどもの権利と困難（菊地）	1,2,3	子どもの権利及び人権に関連するニュースを日頃から注目し、書き留めておく	1.5h	関連する法律や政策について列挙し、自分の考えをまとめる	1.5h
4	日本助産師会における政策要望活動等（高田）	1,3	日本助産師会の HP より職能団体の役割を知る	1.5h	職能団体が政策策定に関わっている事項と方法についてまとめる	1.5h
5	日本助産師会における政策要望活動等（高田）	2,4	日本助産師会の HP より職能団体の役割を知る	1.5h	職能団体が政策策定に関わっている事項と方法についてまとめる	1.5h
6	県レベルにおける母子保健政策実施（西）	2,4	群馬県の HP で母子保健統計と政策を調べる	1.5h	母子保健政策の法的根拠と国、県、市町村の役割を復習する	1.5h
7	県レベルにおける母子保健政策実施（西）	4,5	群馬県の HP で母子保健統計と政策を調べる	1.5h	母子保健政策の法的根拠と国、県、市町村の役割を復習する	1.5h
8	母子保健政策への要望の試み、まとめ（寺口）	5	7 回までの講義を振り返り、母子保健政策への要望を考えて参加する。	1.5h	助産師が母子保健政策の改善に関わる意義についてまとめる	1.5h

■ 合計時間（予習・復習）

24h

■ 備考

- ・各施設で、予習してきた項目に基づき、疑問を解決すべく、積極的に質問する。
- ・授業内容に基づき、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。
- ・予習・復習は、原則として全授業をとおりて 24 時間は行う。
- ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールまたはメール連絡の上で研究室で対応する。

助産における補完代替医療(助産師養成領域)

英文名 : Complementary and Alternative Care in Midwifery

科目区分 : 修士課程

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

今関節子、山西加織、小池智美

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①女性のライフスタイルをホリスティックに観て、一人ひとりの状態に合わせた健康管理の一環として、助産業務における適切な活用範囲を、特に女性の性と生殖にあてて、その目的、適用、実際を習得する。
- 各テーマについて、目標に照して理論的な理解をはかり、実技を通して臨床における展開の基礎とする。
- ②対面での講義、演習を行う。

到達目標

- 1.助産業務の中に補完代替医療を活用するにあたって、安全性の確認と倫理性について説明できる。
- 2.各種補完代替医療を正しく理解し、十分な習得の下で適切に実施できる。

使用教材

基本的には講義時に資料を配布する。

- 1松本清一・他著：妊産婦体操の理論と実際、全国保健センター連合会
- 2鮫島浩二：女性によく効くアロマセラピー、主婦の友社
- 3今西二郎：医療従事者のための補完・代替医療、金芳堂

評価方法

レポート（100%）

各補完代替法実施後、各自確認して様式に沿って提出された記録により評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回提出された記録に対して、コメントし、評価する。

オフィスアワー

初回講義時に提示

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	科目オリエンテーション 補完代替医療とリスクマネジメント（今関）	1,2	シラバスの内容を読み、授業の内容を理解する。	1.5 h	オリエンテーションの内容を確認するとともに助産師に求められる守備範囲について法や事例を通して確認し、記録を提出する。	1.5 h
2	ヨガの基礎理論（山西）	2	ヨガに関して書籍等でその効果や実践方法等を予習する。	1.5 h	授業で実践したヨガを実践し、効果や実践のポイントを復習する。	1.5 h
3	ヨガの実際（山西）	2	ヨガに関して書籍等でその効果や実践方法等を予習する。	1.5 h	授業で実践したヨガを実践し、効果や実践のポイントを復習する。	1.5 h
4	妊産婦エクササイズの理論（今関）	1,2	あらかじめ配布された資料によく目を通して出席する。	1.5 h	授業で指摘し、実践したエクササイズを実際に行って確認する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	妊産婦エクササイズの実際（今関）	1,2	あらかじめ配布された資料によく目を通して出席する。	1.5 h	授業で指摘し、実践したエクササイズを実際に行って確認する。	1.5 h
6	産痛緩和法の理論と実際 身体的・心理的リラクセーション（今関）	1,2	配布した資料並びに今まで実践した産痛緩和リラクセーション方法や効果を理論的に理解しておく。	1.5 h	学習した産痛緩和につながる身体的・心理的リラクセーションについて、理論的にまとめる。	1.5 h
7	産痛緩和法の理論と実際 マッサージ・呼吸法（今関）	1,2	配布した資料並びに今まで実践したマッサージ・呼吸法やその効果を振り返って理論的に理解して出席する。	1.5 h	学習した産痛緩和法を実際に行って確認し、効果をまとめる準備をする。	1.5 h
8	アロマ・ハーブに使われる精油・植物（今関）	1,2	身近で取得可能なハーブの植物を調べ採取して、配布資料にもとづき主要成分や作用を調べてくる。	1.5 h	学習したアロマセラピーや、ハーブティーを妊産婦に応用する上での留意点をまとめる。	1.5 h
9	女性のライフサイクルとアロマセラピー（今関）	1,2	女性のライフサイクルにおける健康課題を復習しておく。	1.5 h	学習したアロマセラピーや、ハーブティーを妊産婦や女性の日常に応用する効果をまとめて、提出する。	1.5 h
10	リフレクソロジーの基礎理論（小池）	1,2	左右の足底の反射区の違いを理解して授業に出席する。	1.5 h	各種技法を実際の実施し、様式に沿って記録し提出する。	1.5 h
11	リフレクソロジーの実際（小池）	1,2	左右の足底の反射区の違いを理解して授業に出席する。	1.5 h	各種技法を実際の実施し、様式に沿って記録し提出する。	1.5 h
12	ツボの基礎理論（今関）	1,2	資料にもとづいて主要な経脈の確認をして授業に出席する。	1.5 h	周産期、月経時に関わる主要なツボが確認でき実施できるようにしておく。	1.5 h
13	ツボの女性・妊産婦ケアへの適用（今関）	1,2	資料にもとづいて主要な経脈の確認をして授業に出席する。	1.5 h	周産期、月経時に関わる主要なツボが確認でき実施できるようにしておく。	1.5 h
14	産後の骨盤エクササイズの理論と実際（今関）	1,2	産後の骨盤と筋・靱帯の変化を理解して授業に出席する。	1.5 h	骨盤底筋群のエクササイズを復習し、様式に沿って記録して提出する。	1.5 h
15	快適なコンチネンスのための骨盤底筋エクササイズの理論と実際（今関）	1,2	コンチネンスのための骨盤と筋・靱帯の変化を理解して授業に出席する。	1.5 h	骨盤底筋群のエクササイズを復習し、様式に沿って記録して提出する。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・授業の実施場所は、2・3回目は8号館1Fイベントホール、他はすべて助産学実習室。いつでも運動と水分補給ができるように準備して臨む。
・学習過程において疑問・質問が生じた場合は下記の方法で対応する。
オフィスアワーおよびメールアドレスは初回講義時に提示

印刷

女性のフィジカルアセスメント(助産師養成領域)

英文名：Physical Assessment of Women

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大石時子、寺口顯子、新井基子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①女性の性と生殖に関わるフィジカルアセスメントの意義と原則並びに基本技術の理論と実際を理解し、実践のための土台を築く。
- ②対面による講義と演習を行う。

到達目標

- 1.助産師が行うべき女性の生涯の各ステージに対応したフィジカルアセスメントの診察項目、診察技法、評価について説明出来る。
- 2.女性のフィジカルアセスメントに必要な助産師に許可された診察・検査・計測機器についての操作法と結果の評価について説明出来る。
- 3.女性の生殖器の診察と評価および検体採取について演習で実施できる。

使用教材

大石時子・他：助産師のためのフィジカルイグザミネーション，医学書院

参考文献

学部で使用したフィジカルアセスメントの教科書等、助産診断技術学の教科書

評価方法

実技試験（100％）

課題・評価に対するフィードバック方法

演習において、その場で講評・コメントする。

オフィスアワー

火曜日12時～13時、5号館5階508研究室

メールアドレス（#→@）

oishi-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	助産師によるフィジカルアセスメントの基本と意義（大石）	1,2	教科書序章、I-1を読む	1.5h	看護診断と助産診断の相違を考察する	1.5h
2	妊娠判定、妊婦健康診断（寺口）	1,2	妊婦健診の項目を復習しておく	1.5h	診察法と妊娠期診断技術学で学習したアセスメントとを結びつける	1.5h
3	妊婦健康診断法（胎児の健康を含む）（寺口）	1,2	妊婦健診法の技術を復習し、妊婦健診の目的を再確認しておく	1.5h	診察法と妊娠期診断技術学で学習した内容を結びつけアセスメントする	1.5h
4	頭部、顔、頸部の診察法とアセスメント（大石）	1,2	教科書 I-3を読む	1.5h	診察技術を練習する	1.5h
5	腹部、手足の診察とアセスメント（大石）	1,2	教科書 I-3を読む	1.5h	診察技術を練習する	1.5h
6	婦人科的診察法（大石）	1,2,3	教科書 I-3を読む	1.5h	生殖器の解剖を復習する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	検体採取法、アセスメントの実際（大石）	1,2,3	教科書Ⅰ-5を読む	1.5h	技術テストに向け練習を行う	1.5h
8	婦人科的診察 ・検体採取法、アセスメントの実際（大石）	1,2,3	教科書Ⅰ-5を読む	1.5h	技術テストに向け練習を行う	1.5h
9	乳房の診察法の基礎理論（新井）	1,2	教科書Ⅳ-3,4を読む	1.5h	配布資料の理解を確認する	1.5h
10	乳房の診察法とアセスメントの実際（新井）	1,2	教科書Ⅳ-3,4を読む	1.5h	配布資料の理解を確認する	1.5h
11	胸部の診察とアセスメント（大石）	1,2	教科書Ⅰ-3を読む	1.5h	診察技術を練習する	1.5h
12	褥婦の健康診査（産褥復古、心理・精神の変化のアセスメント）	1,2	教科書の第Ⅳ章1～4を読む	1.5h	診察技術・アセスメントの練習	1.5h
13	新生児の診察法とアセスメントの基礎（全身の診察、成熟度判定）	1,2	教科書の第Ⅵ章、今日の助産等の該当箇所を読む	1.5h	診察技術を練習する	1.5h
14	新生児の診察法とアセスメントの実際（全身の診察、成熟度判定）	1,2	診察技術の確認	1.5h	診察技術を練習する	1.5h
15	中高年女性のアセスメント（加齢・ホルモン変動に伴う変化）	1,2	助産学特論Ⅰ「中高年女性」に関する講義の振り返り、 助産診断技術学Ⅰの該当箇所を読む	1.5h	助産学特論Ⅰの学修と結び付けて理解したことをまとめる	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

^

備考

- ・主体的に演習に参加する。
- ・自律的に技術の練習をする。
- ・技術で得た身体所見をアセスメントする
- ・予習・復習は、原則として全授業をとおして45時間は行う。
- ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールでアボをとり研究室で対応する。

^

印刷



産婦人科医学診断(助産師養成領域)

英文名：Gynecology Diagnosis

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

篠崎博光、曽田雅之、中村和人

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①女性のライフサイクルに沿った健康を支援していくために、生涯にわたる女性特有の疾患とその管理について理解する。
- ②講義は対面で実施する。

到達目標

- 1.医学的側面からの疾患のアセスメントならびに疾患管理プロセスを理解する。
- 2.婦人科診療の基本的考え方と方法、ならびに疾患診断への姿勢を説明できる。
- 3.女性の生涯にわたって起こりやすい疾患と医療について説明できる。
- 4.生涯にわたる女性特有の疾患とその管理について理解し、女性の健康支援における研究シーズを獲得する。

使用教材

テキスト：岡井 崇：標準産婦人科学(STANDARD TEXTBOOK), 医学書院

評価方法

授業参加度・貢献度（30％） レポート（70％）

課題・評価に対するフィードバック方法

講義開始時に学習内容についての質問を提示し、講義終了時にフィードバックを行う。

オフィスアワー

初回講義時に提示

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	女性生殖器官の構造・女性の性機能（篠崎）	1,2,3,4	該当部分をテキスト等で事前学習する。	1h	不足する学習内容を補充する。	2h
2	女性のライフサイクルと健康課題（篠崎）	1,2,3,4	該当部分をテキスト等で事前学習する。	1h	不足する学習内容を補充する。	2h
3	月経異常 女子アスリートとウィメンズヘルス（篠崎）	1,2,3,4	該当部分をテキスト等で事前学習する。	1h	不足する学習内容を補充する。	2h
4	産婦人科検査（画像診断）（篠崎）	1,2,3,4	該当部分をテキスト等で事前学習する。	1h	不足する学習内容を補充する。	2h
5	女性性器の疾患①（中村）	2,3,4	女性性器の感染症・良性腫瘍の内容について、テキストを用いて包括的に把握しておく。	1h	テキスト・資料をもとにして内容の確認を行う。	2h
6	女性性器の疾患②（中村）	2,3,4	婦人科悪性腫瘍の各々について、特徴を事前に理解しておく。	1h	テキストと実地臨床との違いを確認し、知識を整理する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	加齢と疾患、更年期と更年期障害（曾田）	1,2,3,4	該当部分をテキスト等で事前学習する。	1h	不足する学習内容を補充する。	2h
8	加齢と疾患、骨粗鬆症（曾田）	1,2,3,4	該当部分をテキスト等で事前学習する。	1h	不足する学習内容を補充する。	2h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

- ・予習・復習は、原則として全授業をととして24時間は行う。
- ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。

印刷

新生児学(助産師養成領域)

英文名：Neonatology

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

丸山 憲一

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①新生児の成熟度および体格による分類とその評価を行う能力を修得する。更に子宮外環境への生理的適応変化を知り、出生後の栄養と育児などを含めた基本的ケアの提供方法を選択、判断できる知識を養う。また、ハイリスク新生児や染色体異常症、代謝異常症など遺伝に関わる疾患や奇形症候群の症例に対して、家族への支援方法を助産師の立場から検討できる知識を養う。
- ②講義は対面で実施する。

到達目標

- 1.新生児の特徴、生理的適応変化を理解できる。
- 2.新生児のアセスメントとケアを展開できる能力を養う。
- 3.ハイリスク新生児、疾患をもつ新生児の病態生理を理解できる。
- 4.緊急時に対応できる知識を理解できる。

使用教材

テキスト：仁志田博司：新生児学入門(第6版)，医学書院

評価方法

レポート（50%）および口頭発表（50%）で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

口頭発表時に、発表内容についてディスカッションするとともに講評、コメントする。

オフィスアワー

初回講義時に提示

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	新生児学総論、ハイリスク新生児の評価	1,2,3	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h
2	新生児診断学	1,2,3	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h
3	新生児の生理、発達	1,2,3	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h
4	新生児の養護と管理（ハイリスク新生児、NICU入院児を含む）	1,2,3,4	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h
5	体温調節と保温	1,2,3,4	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	栄養の基礎と診療	1,2,3,4	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h
7	水—電解質バランス	1,2,3,4	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h
8	内分泌系・代謝系の異常	1,2,3,4	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h
9	内分泌系・代謝系の異常と管理	1,2,3,4	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h
10	呼吸器系の生理と診療	1,2,3,4	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h
11	循環器系の基礎と診療	1,2,3,4	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h
12	黄疸の基礎と臨床、血液系の病態と診療	1,2,3,4	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	【復習】講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h
13	免疫系と感染	1,2,3,4	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h
14	中枢神経系の障害と診療	1,2,3,4	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h
15	先天異常と遺伝、主要疾患の病態と整理	1,2,3,4	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h

合計時間（予習・復習）

11.25h

備考

- ・予習・復習は、原則として全授業をとおして45時間は行う。
- ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。

印刷

周産期ハイリスク論 I (助産師養成領域)

英文名 : High risk of Perinatal Complications I

科目区分 : 修士課程

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 1単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

伊藤理廣、竹中恒久

SDGsとの関連

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①妊娠期・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期の異常及び主なる合併症とその予防策について理解できる。
- ②講義は対面で実施する。

到達目標

1. 妊娠期・分娩期の母体・胎児、産褥期の主要な異常の病態生理について述べるができる。
2. 妊娠期・分娩期の母体・胎児、産褥期の異常発生時の対応およびハイリスクな母子のアセスメントとケアを展開できる能力を養う。
3. 緊急時に対応できる知識を学ぶ。

使用教材

標準産科婦人科学 第5版 綾部琢哉 医学書院(ISBN : 978-4-260-04265-9)

評価方法

筆記試験 (100%)

課題・評価に対するフィードバック方法

第4回以降の講義では、毎回、前回の学習内容についての小テストを行う。

オフィスアワー

初回講義時に提示

メールアドレス (#→@)

初回講義時に提示

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	胎児の発生と出生前診断 (伊藤)	1,2	シラバスの内容に基づき、左記の項目について専門書などで調べる。	0.25 h	不足する学習内容を補完学習する。	0.5h
2	不妊症 (伊藤)	1,2	シラバスの内容に基づき、左記の項目について専門書などで調べる。	0.25 h	不足する学習内容を補完学習する。	0.5h
3	不育症 (伊藤)	1,2	シラバスの内容に基づき、左記の項目について専門書などで調べる。	0.25 h	不足する学習内容を補完学習する。	0.5h
4	妊娠の異常：つわり、妊娠悪阻、流産・切迫流産、異所性妊娠 (竹中)	1,2	教科書の該当部分を通読しておく。(前書きも読んでおいてください。)	0.25 h	当日学習した要点を整理する。	0.5h
5	妊娠の異常：多胎妊娠、卵巣腫大、胎児形態異常、妊娠高血圧症候群 (竹中)	1,2	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25 h	当日学習した要点を整理する。	0.5h
6	妊娠の異常：早産・切迫早産、過期妊娠・過期産、多胎妊娠 (その2)、血液型不適合妊娠 (竹中)	1,2	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25 h	当日学習した要点を整理する。	0.5h
7	妊娠の異常：羊水の異常、胎盤・臍帯の異常、胎児発育不全、巨大児、胎児疾患 (竹中)	1,2	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25 h	当日学習した要点を整理する。	0.5h
8	合併症妊娠・偶発合併症：外陰腔疾患、子宮疾患、卵巣の疾患、心血管疾患、血液疾患 (竹中)	1,2	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25 h	当日学習した要点を整理する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	合併症妊娠・偶発合併症：腎・泌尿器系疾患、消化器疾患、呼吸器疾患、糖代謝異常、甲状腺機能異常、精神神経疾患（竹中）	1,2	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25h	当日学習した要点を整理する。	0.5h
10	合併症妊娠・偶発合併症：母子感染、環境要因と胎児障害（竹中）	1,2	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25h	当日学習した要点を整理する。	0.5h
11	分娩の異常：前期破水、陣痛の異常、産道の異常、児頭骨盤不均衡、回旋・胎勢・進入の異常（竹中）	1,2,3	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25h	当日学習した要点を整理する。	0.5h
12	分娩の異常：胎位の異常、遷延分娩、胎児機能不全、胎盤・臍帯の異常（その2）（竹中）	1,2,3	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25h	当日学習した要点を整理する。	0.5h
13	分娩の異常：産道損傷、弛緩出血、子宮内反症、羊水塞栓症、出血と産科ショック（竹中）	1,2,3	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25h	当日学習した要点を整理する。	0.5h
14	分娩の異常：ハイリスク分娩の管理 産科処置：産科手術、分娩誘発・陣痛促進（竹中）	1,2,3	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25h	当日学習した要点を整理する。	0.5h
15	産科処置：産科麻酔 産褥期の異常：静脈血栓症、肺血栓塞栓症、産褥感染症、産褥期の精神疾患、恥骨結合離開（竹中）	1,2,3	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25h	当日学習した要点を整理する。	0.5h

合計時間（予習・復習）

11.25h

備考

・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。

印刷

周産期ハイリスク論Ⅱ(助産師養成領域)

英文名：High risk of Perinatal ComplicationsⅡ

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

伊藤雄二、丸山憲一、竹中俊文、吉田光典、増山葉月

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①周産期ハイリスク論Ⅰ、新生児学で学習したことをふまえて、妊娠期・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期におけるハイリスクな母子に対応した、助産に当然付随する行為と臨時応急の処置として、助産の立場から必要とされる技術を習得する。
- ②講義は対面で実施する。講義内容によっては学外で実習を行う。

到達目標

- 1.超音波装置による診察と画像の評価の基礎が演習でできる。
- 2.会陰裂傷の評価と縫合の基礎が演習でできる。
- 3.妊娠期・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期の異常発生時の対応に必要な技術が習得できる。

使用教材

テキスト：

- 1荒木勤：最新産科学(異常編)，文光堂
- 2岡井崇・綾部琢哉：標準産婦人科学(第5版)，医学書院
- 3細野茂春：新生児蘇生法テキスト第4版，メジカルビュー社

参考文献

参考書：①馬場一憲：基礎からわかる産婦人科超音波診断，東京医学社 ②藤森敬：胎児心拍数モニタリング講座（第2版），メディカ出版 ③進純郎・堀口成子：正常分娩の助産術－トラブルへの対応と会陰裂傷縫合（ブラッシュアップ助産学），医学書院 ④田村正徳：日本版救急蘇生ガイドライン2015に基づく新生児蘇生法テキスト（第3版），メジカルビュー社 ⑤村越毅・加藤智子：産科の必須手技ベスト58－本当に知りたかった技とコツ，メディカ出版

評価方法

筆記試験（60％） 演習レポート（40％）

課題・評価に対するフィードバック方法

講義および実習中に逐次ディスカッションを行い、その都度講評・コメントする。

試験終了後、結果について講評、コメントを行う。

オフィスアワー

初回講義時に提示

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	超音波診断の理論と基本操作（竹中）	1	超音波診断装置の画像構築の原理と装置の基本的な操作方法を理解する。	45分	超音波診断による胎位の確認法と胎児計測の方法を確認する。	45分
2	超音波診断の理論と基本操作（竹中）	1	超音波診断装置の画像構築の原理と装置の基本的な操作方法を理解する。	45分	超音波診断による胎位の確認法と胎児計測の方法を確認する。	45分

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	胎児とその付属物の評価と診断（超音波診断）実技（竹中）	1	妊婦健診時に超音波検査で確認すべき項目を理解する。	45分	実際の妊婦さんに超音波検査を行う際の留意点を確認する。	45分
4	胎児とその付属物の評価と診断（超音波診断）実技（竹中）	1	妊婦健診時に超音波検査で確認すべき項目を理解する。	45分	実際の妊婦さんに超音波検査を行う際の留意点を確認する。	45分
5	超音波検査の実際と画像評価（増山）	1	出生前の胎児超音波診断、及び妊婦の検査項目につき、前回の講義を復習しておく。	45分	自己の実践を振り返り、不足する学習内容を補完する。	45分
6	超音波検査の実際と画像評価（増山）	1	出生前の胎児超音波診断、及び妊婦の検査項目につき、前回の講義を復習しておく。	45分	自己の実践を振り返り、不足する学習内容を補完する。	45分
7	分娩時のモニタリングと胎児の評価 理論と実技（吉田）	3	胎児心拍数モニタリングの基礎的な知識を理解する。	45分	実際の胎児心拍数モニタリング波形を判読する。	45分
8	分娩時のモニタリングと胎児の評価 理論と実技（吉田）	3	胎児心拍数モニタリングの基礎的な知識を理解する。	45分	実際の胎児心拍数モニタリング波形を判読する。	45分
9	産道の異常：会陰切開術と会陰裂傷縫合術理論（吉田）	2	骨盤底の解剖を理解する。	45分	助産婦が施行可能な会陰裂傷の程度と局所麻酔法を確認する。	45分
10	産道の異常：会陰切開術と会陰裂傷縫合術理論（吉田）	2	骨盤底の解剖を理解する。	45分	助産婦が施行可能な会陰裂傷の程度と局所麻酔法を確認する。	45分
11	産道の異常：会陰縫合術基本の実際（吉田）	2	会陰縫合術に使用する縫合糸や持針器について理解する。	45分	基本的な縫合や糸結びを確認する。	45分
12	産道の異常：会陰縫合術基本の実際（吉田）	2	会陰縫合術に使用する縫合糸や持針器について理解する。	45分	基本的な縫合や糸結びを確認する。	45分
13	分娩時の出血とその対処（胎盤圧出法、子宮内反、弛緩出血）（伊藤）	3	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。	45分	講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	45分
14	分娩時の出血とその対処（胎盤圧出法、子宮内反、弛緩出血）（伊藤）	3	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。	45分	講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	45分
15	産科救急（産科ショック、薬物療法）（伊藤）	3	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。	45分	講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	45分
16	産科救急（産科ショック、薬物療法）（伊藤）	3	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。	45分	講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	45分
17	産科救急（産科ショック、帝王切開術を含む）（伊藤）	3	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容と意義を理解する。	45分	講義の内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	45分
18	産科救急（産科ショック、帝王切開術を含む）（伊藤）	3	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容と意義を理解する。	45分	講義の内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	45分
19	娩出力の異常：吸引・鉗子分娩とその介助（伊藤）	3	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。	45分	講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	45分
20	娩出力の異常：吸引・鉗子分娩とその介助（伊藤）	3	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。	45分	講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	45分
21	娩出力の異常：骨盤位分娩とその介助（伊藤）	3	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。	45分	講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	45分
22	新生児の異常と画像評価（丸山）	3	今までの新生児の異常編の授業を復習しておく	45分	新生児の診断方法について画像評価の役割を復習する	45分
23	新生児の異常と画像評価（丸山）	3	今までの新生児の異常編の授業を復習しておく	45分	新生児の診断方法について画像評価の役割を復習する	45分
24	新生児蘇生法、緊急時対応の基礎理論（丸山）	3	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	45分	講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。	45分
25	新生児蘇生法、緊急時対応の基礎理論（丸山）	3	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	45分	講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。	45分
26	新生児蘇生法、緊急時対応の基礎理論（丸山）	3	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	45分	講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。	45分
27	新生児蘇生法の実技演習・相互評価討論（丸山）	3	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	45分	講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。	45分
28	新生児蘇生法の実技演習・相互評価討論（丸山）	3	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	45分	講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。	45分
29	新生児蘇生法の実技演習・相互評価討論（丸山）	3	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	45分	講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。	45分
30	新生児蘇生法の実技演習・相互評価討論（丸山）	3	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	45分	講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。	45分

備考



- ・ 予習・復習は、原則として全授業をとおして45時間は行う。
- ・ 担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。

印刷 

地域母子保健実習(助産師養成領域)

英文名：Advanced Practice on Maternal and Child Health in the Community

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

学位授与方針との対応：

- ✓看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

寺口顕子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①特に乳児4か月までを対象として、地域における母子の家庭訪問や、地域で開催される母子を対象とした学級、健診、相談、世代間交流、グループ・地域組織形成や、母子保健活動の実践を調査し、より有効で新たな地域包括子育て支援の仕組みを考察し、実践活動能力の基礎を養う。
- ②臨地実習を行う。

到達目標

- 1.地域診断の基本を理解し、説明ができる。
- 2.地域のアセスメントをし、乳児4か月までの地域母子保健の課題を見だし、支援策の一部を実施できる。
- 3.地域で実践されている地域包括子育て支援事業等を理解し、部分的に実施できる。
- 4.事業の企画・運営・実践・評価の一連のプロセスを理解し、部分的に実施できる。

参考文献

- ①群馬県保健要覧，群馬県保健予防課
- ②わが国の母子保健，母子衛生研究会
- ③母子保健の主なる統計，母子衛生研究会

評価方法

レポート（100％）

課題・評価に対するフィードバック方法

レポート返却時に口頭または書面でfeedbackする。

オフィスアワー

火曜日12時～13時、5号館5階509研究室

メールアドレス（#→@）

teraguchi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

第1日

- ・地域診断、事業の企画から運営、実施、評価までのプロセス

第2日

- ・女性の健康問題、DV等
- ・多胎児、産後ケア、産後訪問
- ・メンタルヘルス、子育て支援、虐待等の全国及び県内の状況調査

第3日

- ・妊産婦、新生児、乳幼児等の個別の健康診査や相談後のフォローアップ
- ・妊産婦、新生児、乳幼児等の電話訪問指導の企画

第4日

- ・地域包括産後ケアシステムの企画

第5日

- ・グループワーク：産後ケアの企画から評価まで一部実施または学内演習、まとめ
- 【予習】わが国の母子保健（母子衛生研究会）を読む。
- 【予習時間】期間中適宜

【復習】母子保健の主なる統計（母子衛生研究会）を読む。
【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）

15h

備考

受講に関しては履修登録が必要。
事前学習を行い、今までの知識を統合したうえで実習に臨むこと。
1週間（5日間）＝45時間

印刷



国際助産論(助産師養成領域)

英文名：International Midwifery

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：通年

選択・必修：選択

単位数：1単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大石時子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①Global化する世界の中での国際母子保健とwomen's healthの課題を知り、助産師が果たす役割を理解する。またそのために活動している国際組織を知り、その活動内容を理解する。近年急増する在日外国人家族や在外日本人家族の母子保健とwomen's healthに関するニーズを理解し、助産師が実践できるケアを考察する。

②対面とZOOMの組み合わせで実施、必要時、現場に出かけての講義も実施する。

到達目標

- 1.世界での母子の健康状態の特徴がわかる
- 2.Global化の中でのwomen's healthの課題がわかる
- 3.世界のwomen's healthや母子保健に果たす国際機関の役割がわかる
- 4.在日外国人女性のwomen's healthや母子保健の現状と課題がわかる
- 5.国内外で助産師がはたすべき役割がわかる

使用教材

随時、資料を提示する。

参考文献

医学書院、助産学講座9、地域母子保健・国際母子保健

評価方法

レポート（60％） 参加度（40％）

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。

オフィスアワー

火曜日12時～13時、5号館5階508研究室

メールアドレス（#→@）

oishi-t#takasaki-u.ac.jp（大石）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	助産学と国際社会（大石）	1	助産師が世界でどのような活動をしているか調べる	1.5h	助産師が世界で実践している活動を復習し、その役割を考察する	1.5h
2	国際母子保健（大石）	1,2	日本の母子保健の指標を復習しておく	1.5h	日本の母子保健の指標を世界と比較し、国際母子保健の課題を考察する	1.5h
3	国際的なwomen's healthの課題（大石）	1,2,3	世界での人口移動がどのように行われているか調べる	1.5h	世界と日本が女性の健康に関してどのように関連し合っているかを考察し、助産師の課題を考える	1.5h
4	在日外国人女性の現状と健康（大石）	4,5	日本や群馬県に在住する外国人の統計を調べる	1.5h	助産師の役割を考察する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	在日外国人の母子保健（大石）	4,5	日本や群馬県に在住する外国人の母子保健統計を調べる	1.5h	助産師の役割を考察する	1.5h
6	在外日本人の母子保健とWomen's Health（大石）	3,5	参考書の6章Bを読む	1.5h	助産師が国際的に連携する意義について考察する	1.5h
7	助産に関わる国際組織の活動（大石）	3,5	WHO, UNFPA.ICMのHPを調べる	1.5h	国際組織が果たす役割についてまとめる	1.5h
8	助産実践と助産教育の国際比較（大石）	3,5	ICMのHPをみしておく	1.5h	助産教育と実践の違いが、世界の女性の健康におよぼす影響について考察する	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

- ・主体的にdiscussionに参加する。
- ・自律的に学習する。
- ・予習・復習は、原則として全授業をとおして24時間は行う。
- ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールでアボをとり研究室で対応する。5号館5階508研究室

印刷



女性のメンタルヘルスとジェンダー(助産師養成領域)

英文名: Women's Mental health issues in gender's perspective

科目区分: 修士課程

学年: 1年

開講期: 後期

選択・必修: 選択

単位数: 1単位

学位授与方針との対応:

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大石時子、長江美代子、菊地栄

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①女性が歴史的、経済的、社会的に置かれている立場がメンタルヘルスに及ぼす影響およびメンタルヘルスが女性の一生の健康に及ぼす影響を講義し討議で考察する。助産師としての早期発見の技術とケア方法を講義するとともに、助産師としての課題と解決策をgenderの視点から双方向で討議する。
- ②対面またはZOOMでの講義と双方向の討議。

到達目標

1. 女性特有のメンタルヘルスの課題を説明できる
2. 女性が歴史的、経済的、社会的に置かれている立場を説明できる
3. ジェンダーが女性のメンタルヘルスに及ぼす影響を説明できる
4. 助産師としての早期発見の技術とケア方法を説明できる
5. 助産師としてジェンダーに関連したメンタルヘルスの課題を解決していく方法を考察できる

使用教材

授業時にその都度提示する。

評価方法

授業参加度・貢献度（50%）、プレゼンテーション（50%）で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。

オフィスアワー

大石：火曜日12時～13時、5号館5階508研究室
 他教員については、初回講義時に提示する

メールアドレス（#→@）

大石： oishi-t#takasaki-u.ac.jp
 他教員については、初回講義時に提示する

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	女性のメンタルヘルスの諸問題と助産師（大石）	1	Women's health、周産期のメンタルヘルスについて復習しておく	1.5h	どのようなメンタルヘルスの諸問題があるか復習し、その原因を考える	1.5h
2	Genderとは何か。歴史的・政治的に規範化され、内面化している性別役割（菊地）	2	自らが内面化しているGender規範について考えてみる	1.5h	自らの祖母、母のリプロダクションについて考察する	1.5h
3	セクシュアリティと身体・メンタルヘルス（菊地）	3	セクシュアリティの概念について調べておく	1.5h	セクシュアリティが女性の健康やメンタルヘルスに及ぼす影響を復習する	1.5h
4	DV、性暴力は何故起こり、どのように女性の一生の健康に影響するか（長江）	3	Women's healthの講義を復習しておく	1.5h	女性の一生の健康に影響するか復習し考察する	1.5h
5	うつ、自殺、PTSD（長江）	4,5	前回の講義からPTSDを調べておく	1.5h	うつ、自殺、PTSDと女性の社会的立場との関連を考察する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	幼児期から思春期、そして周産期への影響（長江）	4,5	性暴力被害サバイバーの出産について調べておく	1.5h	周産期の臨床を振り返りサバイバーのケアについて考察する	1.5h
7	周産期のメンタルヘルス（長江）	4,5	妊産婦メンタルヘルスケアマニュアルを読む	1.5h	周産期のメンタルヘルスを今までの講義から、俯瞰し統合する	1.5h
8	助産師はどのように女性のメンタルヘルスをケアできるか ― genderの視点を踏まえて（大石）	5	Presentationを準備する	1.5h	授業で討論したことから考察を深める	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

- ・プレゼンテーション時は、資料を作成し主体的に参加できることを重視する。
- ・予習・復習は、原則として全授業をとおして24時間は行う。
- ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対応する。

印刷



助産学概論

英文名：Introduction to Midwifery

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

大石時子、寺口顕子

履修を必須とする資格

助産師国家試験受験資格取得にかかる必修科目（基礎助産学）

SDGsとの関連



「その他」のアクティブラーニング実施方法

ディスカッション

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①助産とは何かについて、助産の本質、意義、歴史、対象について理解し、専門職としての助産師の業務・責務・役割を認識して、深められる。また、国際的視点から見た助産師の活動、倫理、教育、研究についての理解を通して、各自の中に専門職としての助産師像を持てるようにする。
- ②対面で行う。

到達目標

1. 独占業務である助産についての本質と意義を、さまざまな根拠に基づいて説明できる。
2. 助産学を支える理論や概念について理解できる。
3. 助産師の業務・責務・役割について法的、社会通念的に説明できる。
4. 助産と助産師の歴史や文化について、日本独自な特徴や世界に共通した面について理解できる。
5. 日本の助産活動を世界の助産師の実践・教育と比較しながら考察できる。

使用教材

基礎助産学第1巻，助産学概論，第6版，医学書院

参考文献

- ①育良クリニックの軌跡、幻冬舎
- ②看護六法，新法規出版
- ③福井トシ子、井本寛子編 助産師業務要覧 2024年版
- ④その他講義ごとに資料を準備する。

評価方法

レポート（100%）「私が目指したい助産師活動」

課題・評価に対するフィードバック方法

授業中のディスカッションを重視し、その中で講評・コメントする。

オフィスアワー

大石 火曜日12時～13時 5号館5階508研究室
寺口 火曜日12時～13時 5号館5階509研究室

メールアドレス（#→@）

大石 oishi-t#takasaki-u.ac.jp
寺口 teraguchi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	助産学とは（大石）	1,2	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。	1.5h	科目オリエンテーションの内容を確認するとともに、看護学との相違を考察する。	1.5h
2	助産師と法律（大石）	1,3	教科書第3章を読む。	1.5h	助産師独自の権利について復習する。	1.5h
3	助産学に関連する概念と理論（生命倫理、職業倫理を含む）（寺口）	1,2	助産師の声明（日本助産師会）を読む。	1.5h	助産学を構築する理論、関連する学問領域との探求方法について考察する。	1.5h
4	助産の歴史（古代から江戸時代、明治・大正・昭和初期）（寺口）	4	日本の歴史を高校の教科書で復習してくる。	1.5h	歴史の中で子産み子育てケアの根底にある流れを考察する。	1.5h
5	助産の歴史（第二次大戦後）（寺口）	4	戦後の看護の歴史について復習してくる。	1.5h	助産におけるこれからの展望について、歴史的視点から考察する。	1.5h
6	日本の助産実践の現状（寺口）	1,4,5	日本助産師会のHPから助産院の活動について調べる。	1.5h	日本の助産師活動の特徴についてまとめる	1.5h
7	日本と諸外国での助産師の活動と教育（大石）	1,4,5	助産師の教育について、助産の歴史の中から復習してくる。	1.5h	日本において期待される助産師活動は何かを考え教育のあり方を考察する。	1.5h
8	日本の助産師の将来と課題（寺口）	1,4,5	今までの講義を復習する。	1.5h	どのような助産師活動をしたいか考察する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

- ・主体的にdiscussionに参加する。
- ・自律的に学習する。
- ・予習・復習は、原則として全授業をとおして30時間を行い、試験前に補完する。
- ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールで対応する。

印刷



助産健康教育論

英文名：Health education in Midwifery

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

学位授与方針との対応：

- ✓看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

寺口顕子、大石時子、茂木佐智子

履修を必須とする資格

助産師国家試験受験資格取得にかかる必修科目（基礎助産学）

SDGsとの関連



「その他」のアクティブラーニング実施方法

グループワーク、ディスカッション、演習

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①助産師は、思春期から老年期にわたる女性やその家族を対象に、健康の保持・増進のための健康教育をする役割を担っている。中でも、本科目では、健康状態・生活スタイル・役割などの著しい変化への対応が求められる周産期にある妊産褥婦やその家族への健康教育や保健指導を実施するための知識・技術・態度を養う。
- ②オムニバス形式での講義と、一部演習を実施する。

到達目標

- 1.健康教育の基礎理論や方法論について理解できる。
- 2.本科目で学習する理論を用い、助産学生として実施可能な範囲で科学的根拠に基づいた健康教育を企画することができる。
- 3.企画した健康教育について、対象者の安全・安楽に配慮しながら実施することができる。
- 4.実施した健康教育について、評価することができる。
- 5.実施した健康教育について考察し、今後の自己の課題を明確にすることができる。
- 6.助産師が行う健康教育の意義についての見解を示すことができる。

使用教材

- ①助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ(第6版)、医学書院

参考文献

- ①助産学講座1 基礎助産学 [1] 助産学概論(第6版)、医学書院
- ②助産学講座2 基礎助産学 [2] 母子の基礎科学(第6版)、医学書院
- ③助産学講座3 基礎助産学 [3] 母子の健康科学(第6版)、医学書院
- ④助産学講座4 基礎助産学 [4] 母子の心理・社会学(第6版)、医学書院
- ⑤助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期(第6版)、医学書院
- ⑥助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期(第6版)、医学書院
- ⑦助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期(第6版)、医学書院
- ⑧助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健(第6版)、医学書院
- ⑨日本健康教育士養成機構編著：新しい健康教育 理論と事例から学ぶ健康増進への道、保健同人社
- ⑩日本健康教育学会編：健康教育 ヘルスプロモーションの展開、保健同人社
- ⑪鈴木由美：新人看護師、助産師学生、看護士学生のためのマタニティサイクルの実践保健指導 妊娠期、丸善プラネット
- ⑫鈴木由美：新人看護師、助産師学生、看護士学生のためのマタニティサイクルの実践保健指導 産褥期、丸善プラネット
- ⑬平山三千代、高橋弘枝編著：参加型両親学級そのまま使えるツール集、日総研出版
- ⑭日本助産師会保健指導部会委員会編集・監修：助産師による思春期の健康教育、日本助産師会出版

評価方法

対面：講義参加・貢献度（40%）、保健指導や健康教育の企画書の作成とプレゼンテーション（60%）で、総合的に評価する。
オンライン：対面と同様に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

保健指導や健康教育の企画について指導し、プレゼンテーションについて講評をする。

オフィスアワー

寺口 火曜日12～13時 5号館5階509研究室

メールアドレス（#→@）

teraguchi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	健康教育と助産師（大石）	1,2,6	シラバスの内容を確認する。	0.5h	助産学実習Ⅰで見学した助産師が行う保健指導や健康教育について復習する。	0.5h
2	健康教育の基礎理論（大石）	1,2,6	行動変容理論について調べる。	0.5h	行動変容理論の健康教育への活用について考える。	0.5h
3	健康教育の方法（茂木）	1,2,6	教科書①の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	0.5h	配布資料を基に、講義内容の理解を深める。	0.5h
4	健康教育の方法（茂木）	1,2,6	教科書①の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	0.5h	配布資料を基に、講義内容の理解を深める。	0.5h
5	健康教育の企画書の作成①（大石） ・対象者・健康教育の意義・目的・目標の設定	1,2,3,6	健康教育企画について、自己の取り組みたい内容を考える。	0.5h	企画する健康教育の意義・目的・目標について検討する。	0.5h
6	健康教育の企画書の作成②（大石） ・健康教育計画シートの作成	1,2,3,6	参考図書⑩の第2章を通読し、学習内容を確認する。	0.5h	健康教育計画シートの作成をする。	0.5h
7	健康教育の企画書の作成③（大石） ・企画内容・シナリオの検討・評価方法の検討	1,2,3,6	具体的な健康教育の内容について考える。	0.5h	企画内容・シナリオの検討・評価方法について検討する。	0.5h
8	健康教育の企画書の作成④（大石） ・企画内容・シナリオの検討・評価方法の検討	1,2,3,6	企画内容・シナリオの検討・評価方法について調べる。	0.5h	企画内容・シナリオの検討・評価方法について検討する。	0.5h
9	健康教育の実施準備①（寺口） ・教育媒体の作成	1,2,3,6	教育媒体について調べる。	0.5h	教育媒体を作成する。	0.5h
10	健康教育の実施準備②（寺口） ・教育媒体の作成、リハーサル準備	1,2,3,6	健康教育の企画やシナリオの見直しをする。	0.5h	教育媒体を完成させる。	0.5h
11	健康教育のリハーサル①（寺口・大石） ・健康教育のリハーサルの実施	1,2,3,6	健康教育のプレゼンテーションの練習をする。	0.5h	教員に指摘された内容についてディスカッションし、修正する。	0.5h
12	健康教育のリハーサル②（寺口・大石） ・前回のリハーサル後の修正の確認、および最終リハーサルの実施	1,2,3,4,6	健康教育企画内容の修正点を明確にする。	0.5h	健康教育企画内容を完成させる。	0.5h
13	健康教育の実施①（寺口・大石）	1,2,3,4,5,6	健康教育企画の留意点を再確認し、実施に向けて練習する。	0.5h	各自、実施評価表をもとに振り返りを行う。	0.5h
14	健康教育の実施②（寺口・大石）	1,2,3,4,5,6	健康教育企画の留意点を再確認し、実施に向けて練習する。	0.5h	各自、実施評価表をもとに振り返りを行う。	0.5h
15	保健指導・健康教育の評価（寺口）	1,2,3,4,5,6	各自の実施評価表を作成し、グループでの評価に備える。	0.5h	健康教育についての自己の課題を明確にする。	0.5h

合計時間（予習・復習）

15h

備考

- ・質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる（オンライン時も同様）。そのほかにもメールにて随時対応する。
- ・予習や復習に必要な時間は最低限の時間を表示するが、あくまでも参考程度であり、単位習得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。この科目の単位を修得するためには、講義・演習時間（90分×15回）＋自習時間（15時間）が必要である。
- ・自律的に講義・演習の時間外を利用しての企画の検討や修正、プレゼンテーション練習を行う。
- ・健康教育を実施する際には、対象者や実施場所に適した服装で実施する（ユニフォームもしくはスーツ等、企画時に教員と相談予定）。
- ・健康教育の対象者や実施時期・場所は、感染症や医療情勢に合わせて調整する。

印刷



妊娠期の助産診断技術学

英文名：Midwifery Diagnosis and Skills in Pregnancy

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

飯嶋友美、行田智子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①妊婦と胎児の生理的経過を理解し、その健康状態を診断し、リスクアセスメントをするために必要な知識・技術を習得する。診断に基づき、妊婦と胎児、家族に対する支援と健康教育に必要な知識と技術を習得する。
- ②講義ならびに情報収集のためのコミュニケーション技術・保健指導技術・紙上事例を用いた助産過程の展開の演習、妊婦健康診査・保健指導のシミュレーションを行う。

到達目標

- 1.妊娠の生理的経過と正常逸脱を早期発見するためのアセスメントを説明することができる。
- 2.妊婦診察に必要な基本的技術を実践することができる。
- 3.妊婦・胎児の健康状態と家族の適応に関する助産過程の展開を説明することができる。
- 4.助産診断に基づいて必要な助産ケア・健康教育を演習で実践することができる。

使用教材

- 1.堀内成子：助産診断・技術学Ⅰ、助産学講座5、医学書院
- 2.我部山キヨ子・武谷雄二：助産診断・技術学Ⅱ、助産学講座6 妊娠期、医学書院

参考文献

1. 北川真理子・内山和美編：今日の助産、改訂第4版、南山堂
 2. 日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編集・監修：産婦人科診療ガイドライン 産科編2023、日本産科婦人科学会
 3. 医療情報科学研究所：病気がみえる vol.10 産科、改訂第4版、メディックメディア
- その他、講義の中で紹介する。

評価方法

筆記試験（30％）、実技・レポート（事例の助産過程の展開、保健指導案含む、50％）、講義の参加度（20％）

課題・評価に対するフィードバック方法

事例を用いた助産過程の展開、健康教育に関する演習に当たりコメントする。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。場所：5号館5階512研究室（飯嶋研究室）

メールアドレス（#→@）

ijijima-y#takasaki-u.ac.jp（飯嶋）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	助産診断の概念と助産過程（飯嶋）	1,3	看護診断の類型について各自振り返ってくる。	1.5h	助産診断過程の概要を振り返り、理解する。	1.5h
2	妊娠期の助産診断1－妊娠の診断、妊娠時期の診断（飯嶋）	1,3	妊娠の診断のために必要な情報についてテキストを読む。	1.5h	分娩予定日・妊娠時期の診断について振り返り、その内容を理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	妊娠期の助産診断2－妊娠経過の診断（飯嶋）	1,3	妊娠に伴う母体の変化について母性看護学の復習をし、テキストの該当箇所を読む。	1.5 h	妊娠経過の診断のポイントを理解する。	1.5 h
4	妊娠期の助産診断3－胎児の健康状態・発育状態（飯嶋）	1,3	胎児発育について、テキストの該当箇所を読む。	1.5 h	胎児の健康状態の診断のポイントを理解する。	1.5 h
5	妊娠期の助産診断4－健康生活診断（飯嶋）	1,3	マイナートラブルの機序についてテキストを読む。	1.5 h	マイナートラブルの機序について理解し、まとめる。	1.5 h
6	助産診断におけるハイリスク妊婦ケアのためのアセスメント3 母子感染、出生前診断（飯嶋）	1,3	母子の安全管理についてテキストを読む。	1.5 h	感染、出生前診断についてまとめる。	1.5 h
7	妊娠経過に即した情報収集の方法；妊婦診察のためのコミュニケーションスキル（飯嶋）	1,2	妊娠の診断に必要な情報（第4講参照）の収集方法についてテキストの該当箇所を確認する。	1.5 h	分娩予定日の算出方法・妥当性の確認について理解し、考察する。	1.5 h
8	妊娠期の助産診断5－家族の適応（飯嶋）	1,3	妊婦・家族の心理・社会的変化についてテキストの該当箇所を読む。	1.5 h	家族の移行について考察する。	1.5 h
9	妊娠期の助産診断6－出産準備（飯嶋）	1,3	母親役割獲得についてテキストの該当箇所を読む。	1.5 h	出産・育児準備について振り返り、理解する。	1.5 h
10	妊娠時期別助産ケア1－妊娠初期・中期（飯嶋）	1,4	妊娠届の根拠法を調べる。	1.5 h	妊娠期の食事についてまとめる。	1.5 h
11	妊娠時期別助産ケア2－妊娠後期①（飯嶋）	1,4	妊娠後期のマイナートラブルの機序について確認する。	1.5 h	マイナートラブルのセルフケアへの支援について考察する。	1.5 h
12	妊婦事例の助産過程の展開1－妊娠中期①（アセスメント）（飯嶋）	1,3,4	事例のアセスメントを記述する。	1.5 h	アセスメントを確認し、助産過程の展開を理解する。	1.5 h
13	妊婦事例の助産過程の展開1－妊娠中期①（アセスメント）（飯嶋）	1,3,4	事例のアセスメントを記述し、事例に関する助産診断・目標・計画を記述する。	1.5 h	アセスメントを確認し、助産過程の展開を理解する。	1.5 h
14	助産診断におけるハイリスク妊婦ケアのためのアセスメント1（行田）	1,3	妊娠期の異常についてテキストを読む。	1.5 h	異常妊娠をまとめる。	1.5 h
15	助産診断におけるハイリスク妊婦ケアのためのアセスメント2（行田）	1,3	ハイリスク妊娠についてテキストを読む。	1.5 h	DM・高血圧等の合併妊娠をまとめる。	1.5 h
16	妊婦事例の助産過程の展開1－妊娠中期①（アセスメント）（飯嶋）	1,3,4	事例のアセスメントを記述し、事例に関する助産診断・目標・計画を記述する。	1.5 h	アセスメントを確認し、助産過程の展開を理解する。	1.5 h
17	妊婦事例の助産過程の展開2－妊娠中期②（保健指導の実施・ロールプレイ）（飯嶋）	1,3,4	事例の助産診断、目標、計画及び指導案を記述する。	1.5 h	助産計画を振り返り、理解する。	1.5 h
18	妊婦事例の助産過程の展開2－妊娠中期②（保健指導の実施・ロールプレイ）（飯嶋）	1,3,4	事例の助産診断、目標、計画及び保健指導案を記述する。保健指導に必要な媒体を作成する。	1.5 h	助産計画を振り返り、理解する。実施した保健指導を評価・考察し、自身の課題を明確化する。	1.5 h
19	妊婦事例の助産過程の展開2－妊娠中期②（保健指導の実施・ロールプレイ）（飯嶋）	1,3,4	事例の助産診断、目標、計画及び保健指導案を記述する。保健指導に必要な媒体を作成する。	1.5 h	助産計画を振り返り、理解する。実施した保健指導を評価・考察し、保健指導に関する自身の課題を明確化する。	1.5 h
20	妊娠時期別助産ケア4－妊娠後期③ リラクゼーション（飯嶋）	1,3,4	パースプランについてテキストの該当箇所を読む。	1.5 h	産痛部位・産痛緩和を理解し、まとめる。	1.5 h
21	妊娠時期別助産ケア5－母乳育児準備（飯嶋）	2,3,4	妊婦の姿勢・日常生活行動についてテキストの該当箇所を読む。	1.5 h	妊婦のリラクゼーションについて考察する。	1.5 h
22	妊娠時期別助産ケア3－妊娠後期② パースプラン、産痛緩和・呼吸法（飯嶋）	1,3,4	母乳育児成功のための10力条を読む。	1.5 h	妊婦の乳房ケアについてまとめる。	1.5 h
23	妊婦事例の助産過程の展開3－妊娠後期①（アセスメント）（飯嶋）	1,3,4	事例のアセスメント、助産診断、目標を記述する。	1.5 h	助産診断を確認し、妊娠後期の助産過程の特性を理解する。	1.5 h
24	妊婦事例の助産過程の展開4－妊娠後期②（アセスメント）（飯嶋）	1,3,4	事例のアセスメントを記述し、事例に関する助産診断・目標・計画を記述する。	1.5 h	助産計画を振り返り、理解する。事例の助産計画、保健指導内容を記述する。	1.5 h
25	妊婦事例の助産過程の展開4－妊娠後期③（飯嶋）	1,3,4	事例のアセスメントを記述し、事例に関する助産診断・目標・計画を記述する。事例の助産計画、保健指導内容を記述する。	1.5 h	助産計画を振り返り、理解する。	1.5 h
26	妊婦事例の助産過程の展開4－妊娠後期（保健指導の実施・ロールプレイ）①（飯嶋）	1,3,4	事例の助産診断、目標、計画及び指導案を記述する。	1.5 h	助産計画を振り返り、理解する。	1.5 h
27	妊婦事例の助産過程の展開2－妊娠後期（保健指導の実施・ロールプレイ）②（飯嶋）	1,3,4	事例の助産診断、目標、計画及び指導案を記述する。	1.5 h	助産計画を振り返り、理解する。実施した保健指導を評価・考察し、保健指導に関する自身の課題を明確化する。	1.5 h
28	妊婦事例の助産過程の展開2－妊娠後期（保健指導の実施・ロールプレイ）③（飯嶋）	1,3,4	事例の助産診断、目標、計画及び保健指導案を記述する。保健指導に必要な媒体を作成する。	1.5 h	助産計画を振り返り、理解する。実施した保健指導を評価・考察し、自身の課題を明確化する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
29	保健指導技術（個人、集団）（行田）	3,4	個人指導について確認する。	1.5h	個人・集団指導の利点と欠点についてまとめる。	1.5h
30	保健指導技術（個人、集団）（行田）	3,4	集団指導について確認する。	1.5h	学級運営について振り返り、理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



①予習・復習は全講義を通して30時間行うこと。事例を用いた助産過程の展開、健康教育の演習に際しては、各自のアセスメント・計画案作成の上で出席することが必要です。

②学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールまたはメールで日時を調整し、研究室で対応します。

なお、メールで問い合わせの際は氏名を記載してください。

印刷

分娩期の助産診断技術学 I

英文名：Midwifery Diagnosis and Skills in Intrapartum I

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

寺口顕子

科目に関連した実務経験

助産師として病院に勤務（経験）

履修を必須とする資格

助産師国家試験受験資格取得にかかる必修科目

SDGsとの関連



「その他」のアクティブラーニング実施方法

ディカッション・演習

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①産婦・胎児の経過を理解し、その健康状態を診断する上で必要な知識・技術を習得する。
- ②講義だけでなく、参考図書や事例を用いながら、アセスメントや診断技術をディスカッションしながら進める。また演習の際には、モデルを用いたり、院生自身や教員が産婦役となりながら、分娩助産技術や助産ケアを実施しながら講義を進める。

到達目標

1. 分娩機転と分娩経過の理解に基づき、診断に必要なアセスメントの視点を説明できる。
2. 分娩進行を診断するための基本的な診察技術を実践することができる。
3. 正常な分娩経過を促すための支援を説明できる。
4. 分娩期にある産婦に対するケアプランを立案することができる。

使用教材

1. 我部山キヨ子他編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期, 医学書院
2. 藤森敬也：改訂3版 胎児心拍数モニタリング講座 大事なサインを見逃さない!, メディカ出版

参考文献

1. 平澤美恵子他監修：写真でわかる 助産技術アドバンス 妊産婦の主体性を大切にしたケア、安全で母子に優しい助産のわざ, インターメディア
2. 北川眞理子・内山和美編：今日の助産、改訂第4版、南山堂
3. 分娩期ケアガイドライン翻訳チーム：ポジティブな出産体験のための分娩期ケア、医学書院
4. 医療情報科学研究所：病気がみえる vol.10 産科、改訂第4版、メディックメディア

評価方法

筆記試験（30%）、助産診断・グループ討議への参加度（30%）、診断技術演習（20%）、保健指導案（20%）

課題・評価に対するフィードバック方法

助産過程の展開・技術演習への助言
保健指導案に対するコメント

オフィスアワー

寺口 火曜日12時～13時 5号館5階509研究室

メールアドレス（#→@）

teraguchi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表							^
回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間	
1	分娩の定義、3要素－産道	1	科目の概要を読み、理解する。	15分	分娩の3要素についてまとめ、理解する。	30分	
2	分娩のメカニズム	1	骨盤誘導線についてテキストの該当箇所を読む。	15分	分娩機転についてまとめ、理解する。	30分	
3	分娩経過における母体・胎児への影響	1	分娩に伴う母体の変化についてテキストの該当箇所を読む。	15分	分娩経過の胎児への影響についてまとめる。	30分	
4	分娩期の助産診断1－経過に応じた情報収集	1,2	受け持ち時の診察、助産診断に必要な事項についてテキストの該当箇所を読む。	30分	分娩開始の診断について理解する。	15分	
5	分娩期の助産診断2－診察技術；外診、内診、CTG判読	1,2	陣痛測定についてテキストの該当箇所を読む。	15分	分娩期の内診技術についてまとめる。	30分	
6	分娩期の助産診断3－診察技術；外診、内診、CTG判読演習	1,2	胎児心拍数モニタリングについてテキストの該当箇所を読む。	15分	内診所見のとりかたを振り返り、各自でトレーニングを行う。	30分	
7	分娩期の助産診断4－分娩時期・分娩進行の診断、産婦・家族の適応に関する診断	2	分娩時期の診断についてテキストの該当箇所を読む。	15分	分娩の3要素を踏まえた分娩予測について考察する。	30分	
8	分娩進行に応じた産婦への助産ケア 講義・演習	3	産婦の健康生活支援についてテキストの該当箇所を読む。	15分	産痛緩和の方法をまとめる。	30分	
9	産婦事例Aを用いた助産過程の展開1－受け持ち時診断の演習	1,3,4	事例Aの受け持ち時のアセスメントを記述する。	30分	受け持ち時診断、分娩予測について考察する。	15分	
10	産婦事例Aを用いた助産過程の展開2－分娩経過の診断・分娩予測修正の演習	1,3,4	事例Aの分娩経過のアセスメントを記述する。	30分	分娩予測の修正について考察する。	30分	
11	産婦事例Aを用いた助産過程の展開3－分娩終了時の診断の演習	1,3,4	事例Aの分娩終了時のアセスメントを記述する。	15分	助産過程を振り返り、分娩終了時の診断について考察し、帰室指導案を作成する（保健指導案の提出期限は講義時に指示する）。	30分	
12	ハイリスク産婦の助産診断と助産ケア 演習1 分娩第3期の積極的管理	1,3,4	ハイリスク事例のアセスメントの視点についてテキストの該当箇所を読む。	15分	事例の助産診断について考察する。	30分	
13	ハイリスク産婦の助産診断と助産ケア 演習2 分娩誘発・促進法と助産管理	1,3,4	心理的支援についてテキストの該当箇所を読む。	15分	ハイリスク産婦の助産過程について考察する。	30分	
14	産婦事例Bを用いた助産過程の展開	1,3,4	分娩期の助産診断技術学Ⅱで分娩介助の一連の技術について学習した後、総合演習として助産過程の展開のシミュレーションを行う。事前配布資料に基づいて準備を行う。	60分	事例Bの助産過程について考察する。	30分	
15	産婦事例Bを用いた助産過程の展開	1,3,4	分娩期の助産診断技術学Ⅱで分娩介助の一連の技術について学習した後、総合演習として助産過程の展開のシミュレーションを行う。事前配布資料に基づいて準備を行う。	60分	事例Bの助産過程について考察する。	30分	

合計時間（予習・復習）

13h

^

備考

予習・復習は全講義を通して11時間15分行うこと。事例を用いた助産過程の展開に際しては、各自のアセスメント・計画案作成の上で出席する事が必要です。保健指導案は助産学実習で活用するため計画的に作成して提出し、指導を受けて修正することが必要となります。

学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールまたはメールで日時を調整し、研究室で対応します。

メールで問い合わせの際は氏名を記載してください。

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じます（オンライン時も同様）。そのほかにもメールにて随時対応します。

^

印刷



分娩期の助産診断技術学Ⅱ

英文名：Midwifery Diagnosis and Skills in IntrapartumⅡ

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

学位授与方針との対応：

- ✓看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

堀越摂子、大谷優子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①

- 1.助産診断に基づいた、正常分娩のための基本的な分娩助産技術や様々な分娩方法に関連した助産ケアの技術を修得する。
- 2.産科的医療介入時や正常な分娩過程の逸脱時の処置や助産ケアの知識・技術・態度を修得する。
- ②モデルを用いたり、院生自身や教員が産婦役となり、分娩助産技術や助産ケアを実施しながら講義を進める。

到達目標

- 1.産婦および胎児・新生児とその家族に対する安全・安楽な出産を支援するための助産診断と分娩助産技術を模擬産婦に実施できる。
- 2.正常な分娩経過にある産婦および胎児・新生児に対する医療介入や医療介入に伴う助産ケアを理解し、模擬産婦に実施できる。
- 3.正常な分娩過程を逸脱した産婦および胎児・新生児とその家族に必要な医療介入や助産診断・技術を理解し、模擬産婦に実施できる。
- 4.分娩期における産婦および胎児・新生児とその家族に対する助産ケアの根拠を理解するとともに、助産ケアのあり方について考察することができる。

使用教材

我部山キヨ子他編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期、医学書院
日本助産診断実践学会：実践マタニティ診断 第5版、医学書院

参考文献

町浦美智子編：助産師基礎教育テキスト、2025年版 第5巻 分娩期の診断とケア、日本看護出版会
竹田省、高橋眞理：CGでわかる！分娩の仕組みと介助法、MEDICALVIEW
岩田塔子：回線がわかれば助産がわかる！体位別フリースタイル分娩助産法、MCメディカ出版
荒木勤：最新産婦人科学 正常編、文光堂
平澤美恵子、村上睦子監修：写真でわかる助産技術アドバンス 妊産婦の主体性を大切にケア、安全で母子に優しい助産のわざ、インターメディカ

評価方法

対面：講義や演習への参加・貢献度（20%）、実技（40%）、技術試験（40%）によって総合的に評価する。
オンラインの場合も同様に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

講義・演習で作成したレポートや技術評価表などは、担当教員がコメントを付して返却する。また、対面・オンラインに関わらず、毎回の講義・演習でコメントを行う。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる（オンライン時も同様）。そのほかにもメールにて随時対応する（堀越）。

メールアドレス（#→@）

horikoshi#takasaki-u.ac.jp（#を@に変換すること）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	科目のオリエンテーション（堀越） 分娩介助の意義と目的、入院時の判断や分娩第Ⅰ期から分娩室入室の時期について （モデルを用いた内診とCTGの判読）	1,2, 3,4	シラバスを通読し、学習内容を確認する。分娩期の助産診断技術学Ⅰの講義資料を振り返る。	0.5h	分娩介助の意義と目的、入院時の判断や分娩第Ⅰ期から分娩室入室の時期について理解を深める。モデルを用いて内診の練習をする。CTGの判読について振り返り、入院～分娩室入室の判断について復習をする。	0.5h
2	分娩室・必要物品の準備と分娩に向けた準備について（堀越） （清潔野の作成、ガウン・マスク、滅菌手袋の装着、導尿）	1,2, 4	教科書や参考書の該当箇所を通読して学習内容を確認する。	0.5h	分娩室・必要物品や分娩に向けた準備の理解を深め、技術練習を行う。	0.5h
3	分娩介助の準備（外陰部消毒）について（堀越） 分娩介助技術について （人工破膜・肛門保護・会陰保護・児頭娩出・体幹娩出・肩甲難産・マックロパーツ体位）	1,2, 3,4	教科書や参考書の該当箇所を通読して学習内容を確認する。	1h	分娩介助の準備や児の娩出について理解を深め、技術練習を行う。	1h
4	分娩介助の準備（外陰部消毒）について（堀越） 分娩介助技術について （人工破膜・肛門保護・会陰保護・児頭娩出・体幹娩出・肩甲難産・マックロパーツ体位）	1,2, 3,4	教科書や参考書の該当箇所を通読して学習内容を確認する。	1h	分娩介助の準備や児の娩出について理解を深め、技術練習を行う。	1h
5	出生時の処置について（堀越） （出生した児の呼吸補助、臍帯切断、アプガースコアの採点） 胎盤娩出について （胎盤剥離徴候の確認と娩出、胎盤精査、軟産道の精査、子宮収縮促進と収縮不良時のケア）	1,2, 4	教科書や参考書の該当箇所を通読して学習内容を確認する。	1h	出生時の処置や胎盤娩出について理解を深め、技術練習を行う。	1h
6	出生時の処置について（堀越） （出生した児の呼吸補助、臍帯切断、アプガースコアの採点） 胎盤娩出について （胎盤剥離徴候の確認と娩出、胎盤精査、軟産道の精査、子宮収縮促進と収縮不良時のケア）	1,2, 4	教科書や参考書の該当箇所を通読して学習内容を確認する。	1h	出生時の処置や胎盤娩出について理解を深め、技術練習を行う。	1h
7	一連の分娩介助技術演習（堀越）	1,2, 3,4	一連の分娩介助技術について、前回までの講義資料の復習をする。	1h	一連の分娩介助技術について理解を深め、技術練習を行う。	1h
8	一連の分娩介助技術演習（堀越）	1,2, 3,4	一連の分娩介助技術について、前回までの講義資料の復習をする。	1h	一連の分娩介助技術について理解を深め、技術練習を行う。	1h
9	分娩介助技術演習（分娩期から産褥早期のケア）（堀越）	1,2, 3,4	本科目で学習した内容の復習と一連の分娩介助技術の練習を行う。	1h	教員から指摘された内容について理解を深め、分娩介助技術練習を行う。	1h
10	分娩介助技術演習（分娩期から産褥早期のケア）（堀越）	1,2, 3,4	本科目で学習した内容の復習と一連の分娩介助技術の練習を行う。	1h	教員から指摘された内容について理解を深め、分娩介助技術練習を行う。	1h
11	出生直後の新生児の観察とケアについて（堀越） （全身観察、アプガースコア・シルバーマンスコア・成熟度評価、計測）	1,2, 3,4	教科書や参考書の該当箇所を通読して学習内容を確認する。	1h	出生直後の新生児の観察とケアについて理解を深め、技術練習を行う。	1h
12	出生直後の新生児の観察とケアについて（堀越） （全身観察、アプガースコア・シルバーマンスコア・成熟度評価、計測）	1,2, 3,4	教科書や参考書の該当箇所を通読して学習内容を確認する。	1h	出生直後の新生児の観察とケアについて理解を深め、技術練習を行う。	1h
13	フリースタイル分娩の分娩介助法について（大谷） （側臥位、座位、四つんばい等）	1,2, 4	教科書や参考書の該当箇所を通読して学習内容を確認する。	1h	フリースタイル分娩について理解を深め、技術練習を行う。	1h
14	フリースタイル分娩の分娩介助法について（大谷） （側臥位、座位、四つんばい等）	1,2, 4	教科書や参考書の該当箇所を通読して学習内容を確認する。	1h	フリースタイル分娩について理解を深め、技術練習を行う。	1h
15	分娩介助技術演習（分娩期から産褥早期のケア）（堀越）	1,2, 3,4	本科目で学習した内容の復習と一連の分娩介助技術の練習を行う。	1h	教員から指摘された内容について理解を深め、分娩介助技術練習を行う。	1h

合計時間（予習・復習）



28h

備考



- ・ 予習や復習に必要な時間は最低限の時間を表示するが、あくまでも参考程度であり、単位習得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。
- ・ 分娩介助技術は、講義・演習の時間外を利用して、繰り返し練習が必要となる。
- ・ この科目を履修した後に分娩介助技術試験を受け、その結果が不十分な場合には、助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは履修できないものとする。
- ・ 演習は、学外実習と同様の身だしなみ（ユニフォーム・名札・ナースシューズ）で実施する。

印刷 

産褥・新生児期の助産診断技術学

英文名：Midwifery Diagnosis and Skills in Postpartum and Neonatal

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

茂木佐智子、堀越摂子、新井基子

科目に関連した実務経験

助産師として病院、助産所の勤務経験を有する

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①褥婦と新生児の助産診断に必要な基本となる知識と技術を修得する。
- ②オムニバス形式での講義と、一部実技演習を実施する。

到達目標

1. 褥婦と新生児の生理的变化と正常逸脱を早期発見するためのアセスメントを説明することができる。
2. 褥婦と新生児の診察に必要な基本的技術を実践することができる。
3. 褥婦と新生児ならびに家族の適応に関する助産過程の展開を説明することができる。
4. 褥婦と新生児・乳児に対する助産ケア・健康教育を演習で実践することができる。

使用教材

助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ（第6版）、医学書院
 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期（第6版）、医学書院
 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期（第6版）、医学書院

評価方法

対面：講義・実技演習の貢献度（40%）、助産過程の展開（60%）で、総合的に評価する。
 オンライン：対面と同様に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

実技演習や助産過程について指導、講評する。

オフィスアワー

茂木 火曜日の4限 5号館5階510研究室

メールアドレス（#→@）

motegi-s#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	産褥経過と助産診断：産褥の生理と異常（茂木）	1,2	シラバスの内容を確認する。	1h	指導案作成について考える。	2h
2	褥婦の健康生活上におけるセルフケアへの支援：褥婦の診察技術（茂木）	3,4	褥婦の健康診査の実施に必要な基本的知識と技術を確認する	1h	褥婦の診察技術の習得に向けて反復練習する。	2h
3	褥婦の心理社会的変化、健康生活の助産診断、分娩体験の早期の支援（茂木）	1,3,4	妊娠から産褥期までの心理社会的変化を確認する。	1h	バースレビューの実践について練習する。	2h
4	褥婦の退院に向けたセルフケア（茂木）	3,4	褥婦に対する退院指導について確認する。	1h	沐浴指導と退院指導の計画を立案する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	母乳育児支援：乳房の形態・機能、新生児の哺乳行動にかかわる携帯・機能(新井)	3,4	乳房の形態と機能について確認する。	1h	母乳育児支援に必要な知識をまとめる。	2h
6	母乳育児支援：母乳育児開始と確立、母乳育児継続のための支援（新井）	3,4	授乳の支援について確認する。	1h	母乳育児支援に必要な知識と技術を復習する。	2h
7	新生児の経過と助産診断(堀越)	1,2	新生児の生理を確認する。	1h	褥婦と新生児の事例の情報をアセスメントする。	2h
8	新生児の診察技術：バイタルサインを含む全身の観察（堀越）	1,2	新生児の診察技術を確認する。	1h	新生児の診察技術の習得に向けて反復練習する。	2h
9	育児に関する知識と技術獲得支援：2週間・1か月健診、受診を必要とする状態等（茂木）	3,4	正常な新生児の2週間、1か月時の成長発達を確認する。	1h	新生児の2週間、1か月時の健診に必要な知識と技術を復習する。	2h
10	グループワークによる産褥母子事例の助産過程1（堀越）	3,4	事例の助産過程の展開に必要な知識を確認する。	1h	助産過程の展開について自己の課題を補完する。	2h
11	グループワークによる産褥母子事例の助産過程2（堀越）	3,4	事例の助産過程の展開に必要な知識を確認する。	1h	助産過程の展開について自己の課題を補完する。	2h
12	ハイリスク新生児ケア：低出生体重児、呼吸障害、高ビリルビン血症（茂木）	1,2,4	低出生体重児について確認する。	1h	ハイリスク新生児のケアについて復習する。	2h
13	産後うつ病、母子愛着障害、児の虐待要因、早期発見への支援	1,2,4	産後うつ病について確認する。	1h	褥婦のメンタルケアについて復習する。	2h
14	産褥母子事例の助産過程：保健指導の実技演習とディスカッション1（堀越）	3,4	沐浴指導計画の実施事項を確認する。	1h	保健指導の実施を反復練習する。	2h
15	産褥母子事例の助産過程：保健指導の実技演習とディスカッション1（堀越）	3,4	退院指導計画の実施事項を確認する。	1h	退院指導の実施を反復練習する。	2h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- 【学習上の助言および受講時のルール】
- ・質問や学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる（オンライン時も同様）。その他にもメールで随時対応する。
 - ・自律的に講義・演習の時間外を利用して、計画の検討や修正、実技の反復練習を行うこと。

印刷 

遺伝カウンセリング

英文名：Genetic Counselling

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

寺口顕子、有森直子、御手洗幸子

科目に関連した実務経験

有森 認定遺伝カウンセラーとして病院に勤務
御手洗 遺伝看護専門看護師として病院に勤務

履修を必須とする資格

助産師国家試験受験資格取得にかかる必修科目「助産診断・技術学」

SDGsとの関連



「その他」のアクティブラーニング実施方法

ディスカッション、ロールプレイによる演習

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①遺伝看護の概要、意義、歴史と遺伝看護における意思決定支援の役割について理解する。
出生前検査、ウィメンズヘルスとしてのがんへの支援における理論と実際について、助産師としての責務・役割を理解し、遺伝学的課題について考察する。
- ②講義、ロールプレイ、ディスカッションを行う。

到達目標

1. 遺伝看護の概要、意義を踏まえ、遺伝看護における意思決定支援の役割について説明できる。
2. 出生前検査（出生前診断）の方法と診断のプロセスを説明することができる。
3. 出生前検査（出生前診断）における助産師の責務・役割について考察することができる。
4. ウィメンズヘルスにおけるがんへの支援を理解し、助産師の役割について考察することができる。

参考文献

- ①有森直子、溝口満子編著、井ノ上逸郎医学監修 遺伝//ゲノム看護、医歯薬出版株式会社、2018。
②中込さと子監修、西垣昌和、渡邊淳編、基礎から学ぶ遺伝看護学 「継承性」と「多様性」の看護学、羊土社、2019。

評価方法

講義での発言50%、レポート「助産師の遺伝学的検査に関する役割・責務」50%

課題・評価に対するフィードバック方法

講義時の発言を重視し、その場でフィードバックする。
最終的な学びに関するレポートについては、後日コメントする。

オフィスアワー

寺口 火曜日12時～13時 5号館5階509研究室

メールアドレス（#→@）

teraguchi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	遺伝看護の概論と意思決定支援（有森）	1	- 参考書①第1章遺伝/ゲノム看護とは を読む。 - 日本医学会「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」2022年3月改定 202203_guidelines.pdf (jsog.or.jp) - 遺伝/ゲノム看護とは 「看護職者に求められる遺伝看護実践能力 一般看護職者と遺伝専門看護職者の比較」 https://www.jstage.jst.go.jp/article/jans1981/24/2/24_13/_pdf/-char/ja 「遺伝/ゲノム医療に関わる看護職に期待されること」 日本遺伝看護学会 遺伝看護専門職検討委員会 http://www.idenkango.com/wp-content/uploads/2020/02/nursing-in-genetics20170220-1.pdf	1h	遺伝看護における意思決定支援における看護職の役割について考察する。	1h
2	遺伝看護の概論と意思決定支援（有森）	1	- 参考書①第1章遺伝/ゲノム看護とは を読む。 - 日本医学会「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」2022年3月改定 202203_guidelines.pdf (jsog.or.jp) - 遺伝/ゲノム看護とは 「看護職者に求められる遺伝看護実践能力 一般看護職者と遺伝専門看護職者の比較」 https://www.jstage.jst.go.jp/article/jans1981/24/2/24_13/_pdf/-char/ja 「遺伝/ゲノム医療に関わる看護職に期待されること」 日本遺伝看護学会 遺伝看護専門職検討委員会 http://www.idenkango.com/wp-content/uploads/2020/02/nursing-in-genetics20170220-1.pdf	1h	遺伝看護における意思決定支援における看護職の役割について考察する。	1h
3	出生前検査（診断）に関する助産師のケア（御手洗）	2,3	「NIPT等の出生前検査に関する専門委員会報告書」 厚生労働省 厚生科学審議会（科学技術部会） https://www.mhlw.go.jp/content/000783387.pdf - 日本産科婦人科学会 https://www.jsog.or.jp/modules/committee/index.php?content_id=225 公開動画 重篤な遺伝性疾患を対象とした着床前遺伝学的検査（PGT-M）／不妊症および不育症を対象とした着床前遺伝学的検査（PGT-A・SR） 動画の視聴 「生殖・周産期医療に関係する生命倫理を考えるに際しての日本産科婦人科学会の基本姿勢」 https://www.jsog.or.jp/activity/rinri/202203_rinri_kihon.pdf - こども家庭庁委託事業サイト 妊娠中の検査に関する情報サイト https://prenatal.cfa.go.jp/growth-and-life/ を一読し、助産師の役割について考察し、意見交換したい内容を考える	1h	講義内容を振り返り、自己の考察を深める	1h
4	出生前検査（診断）に関する助産師のケア（御手洗）	2,3	「NIPT等の出生前検査に関する専門委員会報告書」 厚生労働省 厚生科学審議会（科学技術部会） https://www.mhlw.go.jp/content/000783387.pdf - 日本産科婦人科学会 https://www.jsog.or.jp/modules/committee/index.php?content_id=225 公開動画 重篤な遺伝性疾患を対象とした着床前遺伝学的検査（PGT-M）／不妊症および不育症を対象とした着床前遺伝学的検査（PGT-A・SR） 動画の視聴 「生殖・周産期医療に関係する生命倫理を考えるに際しての日本産科婦人科学会の基本姿勢」 https://www.jsog.or.jp/activity/rinri/202203_rinri_kihon.pdf - こども家庭庁委託事業サイト 妊娠中の検査に関する情報サイト https://prenatal.cfa.go.jp/growth-and-life/ を一読し、助産師の役割について考察し、意見交換したい内容を考える	1h	講義内容を振り返り、自己の考察を深める	1h
5	ウィメンズヘルスとしてのがん（御手洗）	4	AYA（Adolescent and Young Adult）世代のがんについて、その特徴や課題を知り、プレコンセプションケアにつながる知見を深めておく。 遺伝がん看護について、講義内で考える。 * 国立がん中央センター がん情報サービス （AYA世代のがんについて） https://ganjoho.jp/public/knowledge/about_aya.html （がんゲノム医療） https://ganjoho.jp/public/diagnose/treatment/genomic_medicine/genmed02.html	1h	講義内容を振り返り、自己の考察を深める	1h
6	ウィメンズヘルスとしてのがん（御手洗）	4	AYA（Adolescent and Young Adult）世代のがんについて、その特徴や課題を知り、プレコンセプションケアにつながる知見を深めておく。 遺伝がん看護について、講義内で考える。 * 国立がん中央センター がん情報サービス （AYA世代のがんについて） https://ganjoho.jp/public/knowledge/about_aya.html （がんゲノム医療） https://ganjoho.jp/public/diagnose/treatment/genomic_medicine/genmed02.html	1h	講義内容を振り返り、自己の考察を深める	1h
7	遺伝性疾患をもつ子の親の心理、まとめ（寺口）	4	事前配布資料を読み、意見交換したい内容を考える。	1h	講義内容を振り返り、自己の考察を深める。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	遺伝性疾患をもつ子の親の心理、まとめ（寺口）	4	事前配布資料を読み、意見交換したい内容を考える。	1h	講義内容を振り返り、自己の考察を深める。	1h

合計時間（予習・復習）

16h

備考

学習過程で質問等がある場合は、メールまたはメールで日時を調整し研究室で対応する。メールで問い合わせの際は氏名を記載のこと。
記載した予習・復習時間では、単位修得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
その他

・オンライン授業の場合：学内で授業資料の配付が可能な場合は、事前に通知する。

印刷



乳児の発達と子育て支援

英文名：Child rearing support in accordance with development of infants

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

堀越摂子、赤堀八重子、千葉千恵美

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①講義の目標：生後4か月までの乳児の発達を理解し、地域で子育てをする両親や家族への子育て支援の方法を考察する。
- ②講義の実施方法：オムニバス形式での講義と、演習（見学）を実施する。

到達目標

- 1.生後4か月までの乳児の発達を理解する
- 2.生後4か月までの乳児の発達に応じた子育て方法を理解する
- 3.乳児を育てる母親・父親・家族の心理と関係性の変化を理解する
- 4.地域における子育て支援の社会資源を理解する
- 5.社会資源を利用しながら、多職種連携により子育て支援をする方法を考察する

使用教材

妊産婦にかかる保健・医療の現状と関連施策(厚労省)、産後ケア事業ガイドライン(厚労省)、妊産婦メンタルヘルスクアマニュアル(日本産婦人科医会)

評価方法

レポート「私の考える地域包括子育て支援」（60%）、討論への参加度（40%）で評価する

課題・評価に対するフィードバック方法

授業中に討議の形で行う

オフィスアワー

火曜日12：00～13：00、5号館 511研究室

メールアドレス（#→@）

horikoshi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	乳児4か月までの子育て世代地域包括支援と助産師の役割（堀越）	1,2,3,4,5	新生児期の発達を復習しておく	1.5h	周産期のメンタルヘルスについて復習しておく	1.5h
2	乳児の発達に応じた子育て（1か月～2か月）（千葉）	1,2,3	1か月～2か月の乳児の発達に応じた遊びと子育て支援について調べておく	1.5h	1か月～2か月の乳児の発達に応じた遊びと子育て支援について復習する	1.5h
3	行政における子育て支援事業 地域における多職種連携（赤堀）	1,2,3,4,5	行政の母子保健事業における他職種連携・施設連携について調べておく	1.5h	子育て支援に関わる保健・医療・福祉の連携について復習する	1.5h
4	地域における子育て支援の実践（講義）（高崎保健所）	4,5	産後ケア事業ガイドラインを読む	1.5h	地域における子育て支援の課題を考察する	1.5h
5	地域における子育て支援の実践（股関節脱臼検診 見学）（高崎保健所）	1,4,5	2か月の乳児の発達について復習しておく	1.5h	行政における子育て支援事業での助産師の役割について考察する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	地域における子育て支援の実際（股関節脱臼検診 見学）（高崎保健所）	1,4,5	2か月の乳児の発達について復習しておく	1.5h	行政における子育て支援事業での助産師の役割について考察する	1.5h
7	地域における子育て支援の実際（子育てなんでもセンター見学）（高崎保健所）	2,3,4,5	母親・父親・家族の相談の内容について考察しておく	1.5h	多職種連携の中で子育て支援事業における助産師の役割を復習する	1.5h
8	地域における子育て支援の実際（子育てなんでもセンター見学）（高崎保健所）	2,3,4,5	母親・父親・家族の相談の内容について考察しておく	1.5h	多職種連携の中で子育て支援事業における助産師の役割を復習する	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

- ・主体的にディスカッションに参加する。
- ・自律的に学習する。
- ・予習・復習は、原則として全授業をとおして24時間は行う。
- ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールでアボをとり研究室で対応する。

印刷 

地域母子保健論

英文名：Maternal Child Health in the Community

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

学位授与方針との対応：

- ✓看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

寺口顕子、高津三枝子、金寿子

科目に関連した実務経験

高津三枝子：NPO法人地域母子支援サージファム代表者として地域母子保健活動に従事
金 寿子：助産師として母子訪問等地域母子保健事業に従事
寺口顕子：助産師として新生児訪問に従事（経験）

履修を必須とする資格

助産師国家試験受験資格取得にかかる必修科目「地域母子保健」

SDGsとの関連



「その他」のアクティブラーニング実施方法

ディスカッション

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①地域における助産師活動を展開するために、国、都道府県、市町村、公益法人、NPOにおける助産師の母子保健活動の歴史的・理解、母子保健活動の動向等の理解を基盤とし、地域母子保健活動の目的、しくみ、展開のプロセス、地域における連携、協働、個別支援、グループ、地域組織活動の育成支援等、具体的な事例を含めて学ぶとともに、助産師としてのリーダーシップのあり方を学ぶ。
②学内講義と、NPO法人地域母子支援サージファムでの講義・地域母子保健活動の見学を行う。

到達目標

1. 妊娠期から一貫した母子と家族に対する健康支援を理解する。
2. 母子・家族に関する健康指標と地域特性を踏まえたアセスメントを説明できる。
3. 地域の特性や母子の健康レベルに応じた母子への支援を計画し発表できる。
4. 多職種協働と連携の必要性を説明でき、実行できる。

使用教材

1) 我部山キヨ子編：助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 第6版、医学書院

参考文献

- 1) 山本あい子編：助産師基礎教育テキスト 第1巻 助産概論、日本看護協会出版会
- 2) 公益財団法人母子衛生研究会編：母子保健の主なる統計（最新版）、母子保健事業団
- 3) 国民衛生の動向（最新版）、厚生労働統計協会

評価方法

講義時の討論の参加度（100%）

課題・評価に対するフィードバック方法

授業中のディスカッションの中で講評・コメントする。

オフィスアワー

寺口 火曜日12時～13時、5号館5階509研究室

メールアドレス（#→@）

寺口 teraguchi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

^

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	地域母子保健活動の意義、現状と動向（寺口）	1,4	第1、2章 地域母子保健の意義、現状と動向を読む。	1.5h	地域母子保健の意義と課題について考察する。	1.5h
2	国、都道府県、市町村、公益法人、NPO等の助産師の母子保健活動の歴史的理解（高津）	2	第3章 地域母子保健行政の体系を読む。	1.5h	助産師の母子保健活動に影響する要因について考察する。	1.5h
3	地域母子保健活動の基盤となる法律や制度、社会の変化に伴う制度上の矛盾（高津）	1,2,4	第3章 母子保健関係法規の策定された時代の社会背景を調べる。	1.5h	母子保健関係法規と現代社会の問題との関連について考察する。	1.5h
4	地域母子保健活動の基盤となる法律や制度、社会の変化に伴う制度上の矛盾（高津）	1,2,4	第3章 母子保健関係法規の策定された時代の社会背景を調べる。	1.5h	母子保健関係法規と現代社会の問題との関連について考察する。	1.5h
5	地域母子保健活動の展開1－地域における様々な協働①（高津）	2,4	地域において母子保健事業にかかわっている職種を調べる。	1.5h	協働の意義を考える。	1.5h
6	地域母子保健活動の展開2－地域における様々な協働②（高津）	1,2,3	地域において母子保健事業にかかわっている職種を調べる。	1.5h	協働の意義を考える。	1.5h
7	地域母子保健活動の展開3－訪問指導の実際①（金）	1,2,3	第5章-C,D,Eを読む。	1.5h	母子の健康レベルに応じた支援について考察する。	1.5h
8	地域母子保健活動の展開4－訪問指導の実際②（金）	2,3,4	第5章-C,D,Eを読む。	1.5h	母子の健康レベルに応じた支援について考察する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

^

24h

備考

^

- ・授業中の討論に主体的に参加できることを重視する。
- ・授業内容に基づき、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。
- ・予習・復習は、原則として全授業をととして24時間は行う。
- ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールで日時を調整し、研究室で対応する。

印刷



地域母子保健演習

英文名：Practice of Maternal and Child health in the Community

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

堀越摂子、高津三枝子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①継続事例の母子の生活する地域の特性、地域において実施されている産後ケア事業や健診等の母子保健活動に関する助産実践やケアシステムの現状を理解する。また、妊娠分娩経過をふまえた、産後・生後4か月までの助産過程の展開により具体的な計画を立案・実践することで、地域で生活する母子と家族に対する基礎的な助産実践能力を獲得する。さらに、本演習により、地域で生活する母子（子育て中の家族）に対する切れ目のない支援を行っていくために必要な実践方法や多職種連携・協働について考察することができる。

②教科書や参考書の内容をまとめたスライドを用いた講義と、地域における母子保健事業の見学や継続事例の母子への支援に関する演習を実施する。

到達目標

- 1.産褥・新生児期から乳児期における母子の経過と家族役割や地域での生活、母子保健事業等の現状について継続的・総合的に理解することができる。
- 2.科学的根拠に基づいて、対象となる母子の個性や母子の生活する地域特性を重視した、継続的な助産過程を展開することができる。
- 3.対象となる母子のさまざまなニーズや生活している地域の特性、母子の成長・発達や健康増進のための保健指導の実践や多職種連携・協働について考察することができる。

使用教材

助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健：医学書院

助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期：医学書院

参考文献

わが国の母子保健：母子衛生研究会

母子保健の主なる統計：母子衛生研究会

国民衛生の動向

群馬県保健医療計画：群馬県健康福祉部医務課

その他、乳幼児健診に関する書籍・資料等

評価方法

活発な議論や演習における活動への参加・貢献度（40%）、継続事例への母子への助産過程の展開、保健指導案の作成（30%）、保健指導の実施・プレゼンテーション（30%）によって総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートや質問等に対してコメントをする。オンライン授業となった場合も同様とする。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる（オンライン時も同様）。その他にもメールにて随時対応する。

メールアドレス（#→@）

horikoshi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、地域における助産活動（堀越）	1	「乳児の発達と子育て支援」で学習したことを確認する。	1h	地域における助産活動の現状について理解を深める。	1h
2	地域特性のアセスメント（堀越）	1,2	教科書①の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	地域特性のアセスメントの視点と解釈について理解を深める。	1h
3	乳児の発達段階に応じた母子と家族の健康課題のアセスメント（堀越）	1,2	教科書①の該当箇所を通読し、学習内容を確認する。	1h	健康課題のアセスメントの視点と解釈について理解を深める。	1h
4	継続事例の股関節脱臼検診の見学と保健指導の実施（堀越）	1,2	生後2か月児の成長・発達、および母親の心身の状態について調べる。	1h	継続事例の産後（生後）2か月時点の助産過程を記述する。	1h
5	継続事例の股関節脱臼検診の見学と保健指導の実施（堀越）	1,2	生後2か月児の成長・発達、および母親の心身の状態について調べる。	1h	継続事例の産後（生後）2か月時点の助産過程を記述する。	1h
6	股関節脱臼検診時の振り返り、および継続事例のアセスメントと保健指導計画の作成（堀越） （学生それぞれが継続事例への保健指導計画を作成する）	1,2	継続事例の生後5～6か月時点での保健指導の内容を考える。	1h	保健指導計画を立案する。	1h
7	股関節脱臼検診時の振り返り、および継続事例のアセスメントと保健指導計画の作成（堀越） （学生それぞれが継続事例への保健指導計画を作成する）	1,2	継続事例の生後5～6か月時点での保健指導の内容を考える。	1h	保健指導計画を立案する。	1h
8	地域における保健指導の見学 3～4か月児健康診査の見学（堀越）	1,2,3	該当地域で実施されている母子保健事業について調べる。	1h	該当地域で実施されている母子保健事業について理解を深めるとともに、継続事例への保健指導計画を完成させる。	1h
9	地域における保健指導の見学 3～4か月児健康診査の見学（堀越）	1,2,3	該当地域で実施されている母子保健事業について調べる。	1h	該当地域で実施されている母子保健事業について理解を深めるとともに、継続事例への保健指導計画を完成させる。	1h
10	継続事例を対象としたクラスでの健康診査、保健指導のロールプレイによる調整（堀越）	1,2,3	健康診査、保健指導の計画に基づいた事前学習	1h	ロールプレイを通して計画を調整し、必要な準備（練習）を行う。	1h
11	継続事例を対象としたクラスの開催（生後5～6か月頃の母子の観察と保健指導の実施）（高津）	1,2,3	計画に基づいた練習を行う。 ＊詳細は講義時	1h	健康診査と保健指導の振り返りを行い、クラス開催時の継続事例の助産過程を記述する。	1h
12	継続事例を対象としたクラスの開催（生後5～6か月頃の母子の観察と保健指導の実施）（高津）	1,2,3	計画に基づいた練習を行う。 ＊詳細は講義時	1h	健康診査と保健指導の振り返りを行い、クラス開催時の継続事例の助産過程を記述する。	1h
13	クラスの振り返り（継続事例の助産過程）（堀越）	1,2,3	クラス開催時の助産過程の発表準備をする。	1h	次のプレゼンテーションに向けて継続事例の助産実践をまとめる。	1h
14	継続事例への助産実践に関するプレゼンテーション（堀越）	1,2,3	継続事例に対する妊娠分娩経過を反映させた産後ケアのケースプレゼンテーション（個々でプレゼンテーションの練習）を行うとともに、その助産実践評価から、切れ目のない支援を行っていくために必要な自己の健康教育、多職種連携・協働についての課題を明確にする。	1h	地域で暮らす母子への助産実践に関する学習内容を統合する。	1h
15	継続事例への助産実践に関するプレゼンテーション（堀越）	1,2,3	継続事例に対する妊娠分娩経過を反映させた産後ケアのケースプレゼンテーション（個々でプレゼンテーションの練習）を行うとともに、その助産実践評価から、切れ目のない支援を行っていくために必要な自己の健康教育、多職種連携・協働についての課題を明確にする。	1h	地域で暮らす母子への助産実践に関する学習内容を統合する。	1h

合計時間（予習・復習）

30h

備考

- ・予習や復習に必要な時間は最低限の時間を表示するが、あくまでも参考程度であり、単位習得に必要な時間との差異は、各自で補完すること。
- ・プレゼンテーションやディスカッションを多く行うため、積極的に参加すること。
- ・本科目では、助産学実習Ⅰ～Ⅲで学生それぞれが担当した継続事例対象者についてアセスメント等を行っていく。

助産学実習 I (基礎)

英文名：Clinical Practice of Midwifery I (Basics)

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：3単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

堀越摂子、寺口顕子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①本実習では周産期にある母子とその家族のより健康な妊娠・出産・産褥・子育ての実現に向けた医療・助産実践を理解するとともに、指導者の助言を受けながら対象の助産診断および母子の健康診査を一部実施することができる。
- ②病院での臨地実習を実施する。

到達目標

- 1.既習の知識をもとに、医療・助産実践の現状を理解できる。
- 2.周産期にある母子とその家族のニーズや健康状態を分析して助産診断を行うことが理解できる。
- 3.指導者の助言を受けながら、助産診断を行うことができる。
- 4.指導者の助言を受けながら、対象者を総合的に理解して助産計画を立案・評価ができる。
- 5.安全・安楽な分娩介助や正常な分娩過程を逸脱した場合の助産ケアを理解できる。
- 6.周産期にある対象者の健康の保持・増進および個別性に合わせた妊婦健康診査について理解できる。
- 7.対象者の個別性に合わせた保健指導について理解できる。
- 8.周産期にある母子とその家族の発達課題の達成のための支援の現状と課題について理解することができる。
- 9.周産期にある母子とその家族の発達課題の達成のための支援に参加し、指導を受けながら実践することができる。
- 10.指導者の助言を受けながら、自己の助産実践を振り返り、自己の課題を見出すことができる。
- 11.病院施設における安全管理システムやチーム医療について理解することができる。
- 12.助産師の役割と責務について理解することができる。

使用教材

講義で使用した参考書・テキスト等、実習要項

北川眞理子他著：今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程、改訂第4版、南江堂

齋藤益子他著：実践マタニティ診断 第5版、医学書院

中井章人：図説 CTGテキスト アドバンス、メジカルビュー社

日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく新生児蘇生法テキスト 第4版、メジカルビュー社

参考文献

(参考図書)

日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会：産婦人科診療ガイドライン産科編 2023

一般社団法人日本助産学会：エビデンスに基づく助産ガイドライン―妊娠期・分娩期・産褥期 2020

評価方法

助産診断過程の展開・助産技術の習得度・実習記録（60%）、実習態度・意欲（40%）の内容を総合して評価する。オンラインや学内実習となった場合も同様に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

対面：毎日行動計画表を記載することで、実習を振り返るとともに、教員からのコメントを受ける。

オフィスアワー

質問及び相談には、随時応じる（オンライン時も同様）。そのほかにもメールにて随時対応する。

メールアドレス（#→@）

実習オリエンテーション時に提示する。

授業計画表



・本実習は、実習施設に3週間（1週間：5日間×3）で、到達目標の達成に向けて実習を行う。そのうち1週間は、継続事例実習とする。実習は、実習施設の予定や分娩の状況によって予定が変更になる場合がある。（実習時間は、5日間＝45時間）

【実習内容】

- ・実習施設における分娩介助のための機器等（医療器材・リネン）や分娩室（LDR）の物品の配置や操作・使用方法を確認する。
- ・妊婦健康診査や助産師外来で、助産師の保健指導を見学する。
- ・両親学級や母親学級等の周産期における健康教育を見学する。
- ・産褥期の褥婦の退行性変化・進行性変化（母乳育児）や母親役割獲得の経過・ケア等を見学をする。
- ・母子同室指導、沐浴指導、退院指導等の健康教育の見学をする。
- ・分娩介助の見学をする。
- ・分娩の間接介助の見学をする。
- ・新生児のバイタルサイン測定や全身観察、清拭や沐浴を見学し、実施する。
- ・帝王切開を受ける産婦・新生児のケアの見学を行う。

【実習記録】

実習記録は様式1～19を使用する。

- ・日々の行動計画の作成による実践内容と自己課題を記述する。
- ・セルフチェック表、助産学実習経験記録を記述する。

【予習】・実習要項や実習施設の資料を通読し、実習の目的・目標の理解を深める。

- ・この実習の基礎となる科目の講義資料・参考書を確認し、妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期のケアについて学習を深める。
- ・分娩介助技術の練習をすることで、安全で安楽な技術を実践できるようにする。

【予習時間】期間中適宜

【復習】・周産期にある母子とその家族へのケアについて振り返り、助産師の役割と責務等について考察するとともに、自己の課題を明確にする。

【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



- ・予習や復習に必要な時間は「期間中適宜」と表示するが、この科目の単位を修得するためには、実習時間外を利用して、分娩介助技術の繰り返し練習や自立的な学習が必要となる。
- ・本科目は、妊娠期の助産診断技術学、分娩期の助産診断技術学Ⅰ・Ⅱ、産褥・新生児の助産診断技術学の履修が必要である。
- ・本実習では、基本的にユニフォーム・名札・ナースシューズの着用が必要である。
- ・実習終了後には、報告会でのプレゼンテーションを予定している。

印刷



助産学実習Ⅱ(実践力開発)

英文名：Clinical Practice of MidwiferyⅡ (Practical Development)

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：4単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

堀越摂子、寺口顕子、吉田千草、安井明日香

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

本実習の基礎となる科目は、女性フィジカルアセスメント、新生児学、助産学概論、妊娠期の助産診断技術学、分娩期の助産診断技術学Ⅰ・Ⅱ、産褥・新生児期の助産診断技術学、地域母子保健論、助産健康教育論および助産学実習Ⅰ（基礎）である。

- ①本実習では、周産期にある母子とその家族のより健康な妊娠・出産・産褥・子育ての実現に向け、指導者の助言を受けながら安全・安楽な分娩介助や正常な分娩過程を逸脱した場合の看護ケア及び保健指導が実施できることを目標とする。
- ②病院での臨地実習を実施する。

到達目標

- 1.既習の知識をもとに、指導者の助言を受けながら周産期にある母子とその家族のニーズや健康状態を分析して助産診断を行うことができる。
- 2.指導者の助言を受けながら、対象者を総合的に理解して助産計画が立案・評価ができる。
- 3.指導者の助言を受けながら、安全・安楽な分娩介助や正常な分娩過程を逸脱した場合の助産ケアが実施できる。
- 4.指導者の助言を受けながら、周産期にある対象者の健康の保持・増進および個別性に合わせた妊婦健康診査における助産ケアが実施できる。
- 5.指導者の助言を受けながら、対象者の個別性に合わせた保健指導が実施できる。
- 6.指導者の助言を受けながら、周産期にある母子とその家族の発達課題の達成のための支援について思考・創造することができる。
- 7.指導者の助言を受けながら、自己の助産実践を評価し、自己の課題を見出すことができる。
- 8.病院施設における安全管理システムやチーム医療について理解し、助産師の役割と責務・倫理観について考察し、今後の具体的な自己の取り組みについて考察する。

使用教材

講義で使用した参考書・テキスト等、実習要項

北川眞理子他著：今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程、改訂第4版、南江堂

齋藤益子他著：実践マタニティ診断 第5版、医学書院

中井章人：図説 CTGテキスト アドバンス、メジカルビュー社

日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく新生児蘇生法テキスト 第4版、メジカルビュー社

参考文献

日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会：産婦人科診療ガイドライン産科編 2020

一般社団法人日本助産学会：エビデンスに基づく助産ガイドライン―妊娠期・分娩期・産褥期 2020

評価方法

助産診断過程の展開・助産技術の習得度・実習記録（60％）、実習態度・意欲（40％）の内容を総合して評価する。オンラインや学内実習となった場合も同様に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

対面：毎日行動計画表を記載することで、実習を振り返るとともに、教員からのコメントを受ける。助産過程と分娩介助評価表を分娩介助中および分娩介助終了後に臨床指導者や教員に提出し、指導を受ける。
オンラインや学内実習の場合は、教員に助産過程や分娩介助評価表を提出して指導を受ける。

オフィスアワー

質問及び相談には、随時応じる（オンライン時も同様）。そのほかにもメールにて随時対応する。

メールアドレス（#→@）

実習オリエンテーション時に提示する。

授業計画表

- ・本実習は、実習施設に4週間（1週間：5日間×4）で、到達目標の達成に向けて実習を行う。そのうち1週間は、継続事例実習とする。実習は、実習施設の予定や分娩の状況によって予定が変更になる場合がある。（実習時間は、5日間＝45時間）
 - 【実習内容】
 - ・継続事例（1例）の対象者の妊婦健康診査や助産師外来で保健指導を実施する。
 - ・母子同室指導、沐浴指導、退院指導等の保健指導を実施する。
 - ・分娩介助（1～6例程度）を実施する。
 - ・間接介助を実施する。
 - ・新生児のバイタルサイン測定や全身観察、清拭や沐浴を実施する。
 - ・産褥期の褥婦の退行性変化・進行性変化（母乳育児）や母親役割獲得の経過を促進するためのケアを実施する（継続事例においては、退院後の1ヵ月健康診査まで実施する）。
- ※保健指導については、必ず臨床指導者や教員の指導を受けた後に実施する。
- ・帝王切開を受ける産婦・新生児のケア

【実習記録】

実習記録は様式1～19を使用する。

- ・日々の行動計画の作成による実践内容と自己課題を記述する。
 - ・セルフチェック表、助産学実習経験記録を記述する。
 - ・分娩介助実施の過程で、助産過程と分娩介助評価表を記述する。
 - ・分娩介助実施後には、分娩介助評価表に自己評価を記述する。
- （自己評価をしてから臨床指導者の評価を受けて、自己の課題を明確にする。間接介助時も同様。）

- 【予習】・実習要項や実習施設の資料を通読し、実習の目的・目標の理解を深める。
- ・この実習の基礎となる科目の講義資料・参考書を確認し、妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期のケアについて学習を深める。
 - ・分娩介助技術の練習をすることで、安全で安楽な技術を実践できるようにする。

【予習時間】期間中適宜

【復習】・周産期にある母子とその家族へのケアについて振り返り、助産師の役割と責務等について考察するとともに、自己の課題を明確にする。

【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



- ・予習や復習に必要な時間は「期間中適宜」と表示するが、この科目の単位を修得するためには、実習時間外を利用して、分娩介助技術の繰り返し練習や自立的な学習が必要となる。
- ・本科目は、助産学実習Ⅰ、妊娠期の助産診断技術学、分娩期の助産診断技術学Ⅰ・Ⅱ、産褥・新生児の助産診断技術学の履修が必要である。
- ・本実習では、基本的にユニフォーム・名札・ナースシューズの着用が必要である。
- ・実習終了後には、報告会でのプレゼンテーションを予定している。

印刷



助産学実習Ⅲ(実践力発展)

英文名：Clinical Practice of MidwiferyⅢ(Practical Advanced)

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：3単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

堀越摂子、寺口顕子、吉田千草、安井明日香

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

本実習の基礎となる科目は、女性のフィジカルアセスメント、新生児学、助産学概論、妊娠期の助産診断技術学、分娩期の助産診断技術学Ⅰ・Ⅱ、産褥・新生児期の助産診断技術学、地域母子保健論、助産健康教育論および助産学実習Ⅰ（基礎）・助産学実習Ⅱ（実践力開発）である。

- ①本実習では、周産期にある母子とその家族のより健康な妊娠・出産・産褥・子育ての実現に向け、指導者の助言を受けながら、自立的に思考・行動することで、安全・安楽な分娩介助や正常な分娩過程を逸脱した場合の助産ケア及び保健指導が実施できることを目標とする。
- ②病院での臨地実習を実施する。

到達目標

- 1.既習の知識をもとに、指導者の助言を受けながら、自立的に周産期にある母子とその家族のニーズや健康状態を分析して助産診断を行うことができる。
- 2.指導者の助言を受けながら、自立的に対象者を総合的に理解して助産計画が立案・評価ができる。
- 3.指導者の助言を受けながら、自立的に安全・安楽な分娩介助や正常な分娩過程を逸脱した場合の助産ケアが実施できる。
- 4.指導者の助言を受けながら、主体的に周産期にある対象者の健康の保持・増進および個別性に合わせた妊婦健康診査および産後健診における助産ケアが実施できる。
- 5.指導者の助言を受けながら、主体的に対象者の個別性に合わせた保健指導が実施できる。
- 6.指導者の助言を受けながら、自立的に周産期にある母子とその家族の発達課題の達成のための支援について思考・創造することができる。
- 7.指導者の助言を受けながら、自立的に自己の助産実践を評価し、自己の課題を見出すことができる。
- 8.病院施設における安全管理システムやチーム医療について理解し、助産師の役割と責務・倫理観について考察し、今後の具体的な自己の取り組みについて述べる。

使用教材

講義で使用した参考書・テキスト等、実習要項

北川眞理子他著：今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程、改訂第4版、南江堂

齋藤益子他著：実践マタニティ診断 第5版、医学書院

中井章人：図説 CTGテキスト アドバンス、メジカルビュー社

日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく新生児蘇生法テキスト 第4版、メジカルビュー社

参考文献

日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会：産婦人科診療ガイドライン産科編 2020

一般社団法人日本助産学会：エビデンスに基づく助産ガイドライン—妊娠期・分娩期・産褥期 2020

評価方法

助産診断過程の展開・助産技術の習得度・実習記録（50%）、継続事例の記録（20%）実習態度・意欲（30%）の内容を総合して評価する。オンラインや学内実習となった場合も同様に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

対面：毎日行動計画表を記載することで、実習を振り返るとともに、教員からのコメントを受ける。助産過程と分娩介助評価表を分娩介助中および分娩介助終了後に臨床指導者や教員に提出し、指導を受ける。
オンラインや学内実習の場合は、教員に助産過程や分娩介助評価表を提出して指導を受ける。

オフィスアワー

質問及び相談には、随時応じる（オンライン時も同様）。そのほかにもメールにて随時対応する。

メールアドレス（#→@）

実習オリエンテーション時に提示する。

授業計画表

- ・本実習は、実習施設に3週間（1週間：5日間×3）で、到達目標の達成に向けて実習を行う。そのうち1週間は、継続事例実習とする。実習は、実習施設の予定や分娩の状況によって予定が変更になる場合がある。（実習時間は、5日間＝45時間）
 - 【実習内容】
 - ・継続事例（1例）の対象者の妊婦健康診査や助産師外来で保健指導を実施する。
 - ・母子同室指導、沐浴指導、退院指導等の保健指導を実施する。
 - ・分娩介助（7～10例程度）を実施する。
 - ・間接介助を実施する。
 - ・新生児のバイタルサイン測定や全身観察、清拭や沐浴を実施する。
 - ・産褥期の褥婦の退行性変化・進行性変化（母乳育児）や母親役割獲得の経過を促進するためのケアを実施する（継続事例においては、退院後の1か月健康診査まで実施する）。
- ※保健指導については、必ず臨床指導者や教員の指導を受けた後に実施する。
- ・帝王切開を受ける産婦・新生児のケア

【実習記録】

実習記録は様式1～19を使用する。

- ・日々の行動計画の作成による実践内容と自己課題を記述する。
 - ・セルフチェック表、助産学実習経験記録を記述する。
 - ・分娩介助実施の過程で、助産過程と分娩介助評価表を記述する。
 - ・分娩介助実施後には、分娩介助評価表に自己評価を記述する。
- （自己評価をしてから臨床指導者の評価を受けて、自己の課題を明確にする。間接介助時も同様。）
- 【予習】・実習要項や実習施設の資料を通読し、実習の目的・目標の理解を深める。
- ・この実習の基礎となる科目の講義資料・参考書を確認し、妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期のケアについて学習を深める。
 - ・分娩介助技術の練習をすることで、安全で安楽な技術を実践できるようにする。

【予習時間】期間中適宜

【復習】・周産期にある母子とその家族へのケアについて振り返り、助産師の役割と責務等について考察するとともに、自己の課題を明確にする。

【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



- ・予習や復習に必要な時間は「期間中適宜」と表示するが、この科目の単位を修得するためには、実習時間外を利用して、分娩介助技術の繰り返し練習や自立的な学習が必要となる。
- ・本科目は、助産学実習Ⅰ・Ⅱ、妊娠期の助産診断技術学、分娩期の助産診断技術学Ⅰ・Ⅱ、産褥新生児期の助産診断技術学の履修が必要である。
- ・本実習では、基本的にユニフォーム・名札・ナースシューズの着用が必要である。
- ・実習終了後には、報告会でのプレゼンテーションを予定している。
- ・本実習終了後も、修士2年前期の「地域母子保健演習」において、継続事例対象者の乳児期（4か月）健康診査への同行や家庭訪問を予定している。

印刷



助産学実習Ⅳ(助産管理)

英文名：Clinical Practice of MidwiferyⅣ(Midwifery Management)

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：1単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

寺口顕子、堀越摂子

履修を必須とする資格

助産師国家試験受験資格取得にかかる必修科目「助産学実習」

SDGsとの関連



「その他」のアクティブラーニング実施方法

実習

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①助産師が活動する地域、及び産科棟での役割と責任、業務の推進にかかわる助産管理の実際を学ぶとともに、現状の課題を理解し、解決のための方策を考えることができる。
- ②病院での臨地実習を実施する。

到達目標

- 1.診療報酬や自由診療、出産育児一時金などの社会保障を理解し、説明できる。
- 2.管理の実際を理解でき、課題を見つけれられる。
- 3.助産施設の医療安全対策とアメニティの向上に関する業務の実際を説明できる。
- 4.助産師の倫理と理念に基づいた母子の継続ケア、並びにウイメンズヘルス・ケアを実践できる。
- 5.関係諸記録の種類の確認と記載、保管の実際を説明できる。

使用教材

資料配布、授業等で用いた資料、テキスト・参考書
矢島床子：フィーリングバース,自然食通信社
飯田俊彦：アクテバースサイエンス, メディカ出版

評価方法

現地での参加度（60％） 発表（40％）

課題・評価に対するフィードバック方法

発表時、その場でdiscussionを通して、feedbackする

オフィスアワー

質問及び相談には、随時応じる（オンライン時も同様）。そのほかにもメールにて随時対応する。

メールアドレス（#→@）

teraguchi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

第1日目

・助産所実習

事前学習の文献検索（見学時の観察ポイントの確認、経営に関しての知識（診療報酬と自由診療等）と整理を行い実際に参画

第2日目

・助産所実習

助産所マネージメントの実際を見学

多職種協働の実際に参加

第3～5日目

- ・実習後グループディスカッション
- ・まとめ、レポート作成
- 【予習】フィーリングバースについて考察を深める。
- 【予習時間】期間中適宜
- 【復習】助産師業務要覧Ⅰ(基礎編)を学習し考察を深める。
- 【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



- ・予習を行い、体調を整えて実習に臨むこと。1週間（5日間）＝45時間
- ・本実習では、名札（助産学実習Ⅰ～Ⅲで使用）、スラックス、ポロシャツなど（ナースウェアやジャージ、ジーンズではない）、靴下を着用する。

印刷

助産学実践 I (EBPM探究)(助産師養成領域)

英文名 : Practice of Midwifery I (Search for EBPM)

科目区分 : 修士課程

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

寺口顕子、大石時子、堀越摂子、片岡弥恵子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①助産師としてエビデンスに基づいた自律的活動と研究に向けEBPM（Evidence Based Practice in Midwifery）とは何かについて理解し、内外の助産技術文献の検索、助産技術に関する文献のクリティークを行う。また、倫理的手段を踏んで、エビデンスの構築に向けた助産の技術評価が可能な方法を検討し、研究課題を明確にする。
- ②対面またはZoomにて講義とdiscussionを行う。

到達目標

- 1.助産にかかわるケア技術がどのようなエビデンスに基づいているのか否かを知る方法を説明できる。
- 2.助産ケアの課題を明確にし、文献を探索しクリティークした結果を報告できる。
- 3.研究目的の焦点化と課題を明確にし、説明できる。

使用教材

- 1)日本産科婦人科学会 産婦人科診療ガイドライン2023、産科編、婦人科編
 - 2)日本助産学会 エビデンスに基づく助産ガイドライン—妊娠期・分娩期・産褥期 2024 他
- その他、資料を配布する、並びに検索した文献を活用する。

評価方法

授業参加度・貢献度（40%）プレゼンテーション（60%）で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。

オフィスアワー

寺口 火曜日12時～13時、5号館5階509研究室
堀越 月曜日12時～13時 5号館5階511研究室
大石 火曜日12時～13時 5号館5階508研究室

メールアドレス（#→@）

寺口 teraguchi#takasaki-u.ac.jp
堀越 horikoshi#takasaki-u.ac.jp
大石 oishi-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	EBPMの歴史、evidenceに基づく助産実践の必要性（大石）	1	EBMの意味を調べる	1.5h	助産実践にとってのEBPMの意義を考察する	1.5h
2	助産ケアのevidenceの探求と検証（大石）	1,2	自分が疑問に思うケア（臨床疑問）を挙げ、根拠を考えてくる	1.5h	既成のguidelineのevidenceで自分の臨床疑問が解決するかを考えてみる	1.5h
3	助産学にかかわる内外研究紹介と抄読、グループワーク（片岡）	1,2	助産文献の精読と批判的吟味	1.5h	批判的吟味の解説の熟読	1.5h
4	助産学にかかわる内外研究紹介と抄読、グループワーク（片岡）	1,2	助産文献の精読と批判的吟味	1.5h	批判的吟味の解説の熟読	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	岡)					
5	助産文献のクリティーク（片岡）	2	助産文献の精読と批判的吟味	1.5h	批判的吟味の解説の熟読	1.5h
6	助産文献のクリティーク（片岡）	2	助産文献の精読と批判的吟味	1.5h	批判的吟味の解説の熟読	1.5h
7	研究テーマの設定1（寺口）	2,3	助産学の先行研究から関心のあるテーマの論文を選択、文献リストを記述する。	1.5h	選択した論文（先行研究）の目的とその背景、研究方法を確認して、文献リストを整理する。	1.5h
8	研究テーマの設定2（寺口）	2,3	文献検討から自己の研究課題の背景を記述する。	1.5h	研究背景を整理し、文献を示して記述する。	1.5h
9	文献のクリティークと研究目的の焦点化（寺口）	2,3	文献を自己課題にそって選択しクリティークする	1.5h	授業を踏まえ、もう一度文献クリティークをする	1.5h
10	研究目的の焦点化 プレゼンテーション（寺口・大石・堀越）	1,2,3	自己の研究課題の目的、意義を記述し、プレゼンテーションの準備をする。	1.5h	自己の研究課題の目的、意義を深めて修正する。	1.5h
11	研究計画書作成1（寺口）	1,2,3	研究の背景、研究目的、意義を記述する。	1.5h	授業で課題となった点を調べる	1.5h
12	研究計画書作成2（寺口）	1,2,3	研究目的に適した研究デザイン、研究方法（データ収集方法、調査項目）を検討し、記述する。	1.5h	授業で課題となった点を調べ修正する	1.5h
13	研究計画書作成3（寺口）	1,2,3	研究目的に適した研究デザイン、研究方法（データ収集方法、調査項目）を検討し、記述する。	1.5h	授業で課題となった点を調べ修正する。	1.5h
14	研究課題確定1（寺口・大石・堀越）	1,2,3	個別指導を通して研究課題を再考する。	1.5h	研究課題を焦点化するために必要な事項を調べる	1.5h
15	研究課題確定2（寺口・大石・堀越）	1,2,3	個別指導を通して研究課題を再考する。	1.5h	研究課題を確定し提出する	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- ・プレゼンテーション時は、資料を作成し主体的に参加できることを重視する。
- ・授業内容に基づき、また自己の取り組みたい研究課題を見据え、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。
- ・予習・復習は、原則として全授業をとおして45時間を行う。
- ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールまたはメールで日程調整のうえ研究室で対応する。

印刷

助産学実践Ⅱ (EBPM展開)(助産師養成領域)

英文名 : Practice of Midwifery Ⅱ (Practice of EBPM)

科目区分 : 修士課程

学年 : 2年

開講期 : 通年

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
 - ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
 - ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

大石時子、寺口顕子、堀越摂子

SDGsとの関連



「その他」のアクティブラーニング実施方法

プレゼンテーション、ディスカッション

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①助産ケアやシステムのエビデンスを検証するための研究テーマ、研究枠組みの作成に向けて、妥当な実習場所を選択し、対象者の選定条件、サンプルサイズ、介入方法、測定指標、分析方法、倫理的配慮を踏まえ、プレテストを展開して、研究枠組みを構築し、研究計画書を完成させる。
- ②対面、ZOOM等による個人指導で実施する。

到達目標

- 1.課題に基づいたフィールドと対象者が選定でき先方と交渉ができる。
- 2.研究の目的にそった介入方法と、測定指標、解析方法が設定できる。
- 3.倫理的条件を満たし、必要時プレテストとしてフィールドで展開できる。
- 4.研究枠組みを構築し、研究計画書を完成し、発表できる。

使用教材

資料を配布する、並びに検索した文献を活用する

参考文献

小笠原知枝・他編：これからの看護研究－基礎と応用－，ヌーベルヒロカワ

評価方法

レポート（100%）

課題・評価に対するフィードバック方法

研究計画書に関する作成資料について口頭指導またはコメントなどを付けて返却する。

オフィスアワー

大石 火曜日12時～13時 5号館5階508研究室
 寺口 火曜日12時～13時 5号館5階509研究室
 堀越 月曜日12時～13時 5号館5階511研究室

メールアドレス（#→@）

大石 oishi-t#takasaki-u.ac.jp
 寺口 teraguchi#takasaki-u.ac.jp
 堀越 horikoshi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

4月
 助産技術実施可能地域・施設の調査・検討と交渉
 対象者の選定と実施手続き

5月
 介入プログラム・効果判定指標等の点検

6月
 研究展開のプレテストを行い、実施方法の再点検、修正、研究計画書完成

【予習】研究プロセスに応じ授業時に課題を提示
【予習時間】期間中適宜
【復習】研究プロセスに応じ授業時に課題を提示
【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）



22.5 h

備考



- 1.授業外学習の進め方 ：
- 1)研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進めること。
- 2)助産学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。
- 2.予習・復習の時間 ： 各授業の内容に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。

印刷 

助産学実践Ⅲ(地域実践)(助産師養成領域)

英文名：Practice of MidwiferyⅢ (Community Practice)

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：3単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

大石時子、寺口顯子、堀越摂子

SDGsとの関連



「その他」のアクティブラーニング実施方法

プレゼンテーション、ディスカッション

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①助産学にかかわる自己の研究課題に対する文献検討、fieldworkを行い、助産学における理念、技術、思考の熟成を含め、課題を達成する。
- ②対面、ZOOM等による個人指導で実施する。

到達目標

- 1.自己課題に対応したフィールドを決め、交渉できる。
- 2.自己課題を解決する計画を企画し、立案できる。
- 3.計画に基づき実践し、課題を達成できる。

使用教材

資料を配布する、並びに検索した文献を活用する
小笠原知枝・他編：これからの看護研究—基礎と応用—，ヌーベルヒコカワ

評価方法

レポート（100%）

課題・評価に対するフィードバック方法

データ収集の状況と分析過程について口頭あるいは書面でコメントする。

オフィスアワー

大石 火曜日12時～13時 5号館5階508研究室
寺口 火曜日12時～13時 5号館5階509研究室
堀越 月曜日12時～13時 5号館5階511研究室

メールアドレス（#→@）

大石 oishi-t#takasaki-u.ac.jp
寺口 teraguchi#takasaki-u.ac.jp
堀越 horikoshi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

企画準備

5月 課題目的に沿ったフィールドでの実施

地域実践の拠点の例

院内助産所：助産所とうみ

地域連携：寿助産院（高崎地区の産後母子訪問システムの調整役）

子育てサロンサージファム

周産期搬送コーディネーター：県立小児医療センター

まとめ

【予習】今までの文献検索に基づき、自己課題を明らかにして、目的に合うフィールドを調査、探究する。

【予習時間】適宜

【復習】課題解決の課程で、その状況に必要な文献検索および学習を行う。
【復習時間】適宜

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- 1.授業外学習の進め方：
- 1)課題解決のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に課題解決を進めること。
- 2)助産学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。
- 2.予習・復習の時間：各授業の内容に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。不足分は各自補完すること。

印刷



助産学課題研究

英文名：Seminar for Master's thesis on Midwifery

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：4単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

大石時子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①臨床実習、助産学実践Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにおいて、事例を通して焦点化した課題に対して、その科学的探究に向けた知見を得るため、内外の文献に基づき倫理的配慮も踏まえて研究を計画し、実施し、論文として発表する。
- ②対面、ZOOM等による個人指導で実施する。

到達目標

- 1.文献reviewに基づいて、研究計画書を作成できる
- 2.研究のフィールド開拓を教員と共に行い、交渉できる。
- 3.研究倫理審査に対応できる。
- 4.研究計画書に基づいて研究を実施し、分析し論文としてまとめることができる

使用教材

資料を配布する、並びに検索した文献を活用する

評価方法

論文審査の結果を踏まえ、研究の過程を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

- ・研究計画書に関する作成資料についてコメントなどを付けて返却する。
- ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方、考察の内容などについて口頭あるいは書面でコメントする。
- ・作成段階の修士論文について緒言、方法、結果、考察、結語についてコメントなどを付け返却する。

オフィスアワー

火曜日12時～13時、5号館5階508研究室

メールアドレス（#→@）

oishi-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

2年次

4月～ 先行研究を踏まえて研究を計画し、研究計画書審査に合格する

6～7月 研究倫理審査

8～9月 データ収集

10月 データ分析、中間発表会

11月 修士論文作成

12月 修士論文審査

【予習】研究プロセスに応じ授業時に課題を提示

【予習時間】期間中適宜

【復習】研究プロセスに応じ授業時に課題を提示

【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）

適宜

備考



1. 授業外学習の進め方

- 1) 研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進めること。
- 2) 教員と密に連絡をとり、フィールドの開拓や交渉、プレテストを自ら実施する。

2. 予習・復習の時間

各授業の内容に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。

印刷 

助産学課題研究

英文名：Seminar for Master's thesis on Midwifery

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：4単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

寺口顕子

SDGsとの関連



「その他」のアクティブラーニング実施方法

プレゼンテーション、ディスカッション

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①助産学実習、助産学実践Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにおいて焦点化した課題に対して、その科学的探求に向けた知見を得るため、内外の文献に基づき倫理的配慮も踏まえて研究を計画、実施し、論文として公表する。
- ②個別または指導教員の担当する複数の院生とのディスカッション、プレゼンテーションを行う。

到達目標

- 1.文献レビューに基づいて研究目的を明確にし、研究計画書を作成できる。
- 2.研究のフィールド開拓を教員と共にに行い、交渉できる。
- 3.研究倫理審査に対応できる。
- 4.研究計画書に基づいて研究を実施し、分析して論文としてまとめることができる。

使用教材

検索した文献の活用、資料配布

参考文献

近藤潤子監訳（2010）：看護研究 原理と方法 第2版、医学書院
ほか適宜紹介する。

評価方法

論文審査の結果を踏まえ、研究の過程を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

- ・研究計画書に関する資料についてコメントなどを付けて返却する。
- ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方、考察の内容などについて口頭あるいは書面でコメントする。
- ・作成段階の修士論文の緒言、研究方法、結果、考察、結論についてコメントなどを付け返却する。
- ・プレゼンテーションのスライド作成、口演について口頭でコメントする。

オフィスアワー

火曜日12:00～13:00、5号館5F 509研究室

メールアドレス（#→@）

teraguchi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

4月～6月 先行研究を踏まえて研究を計画し、研究計画書審査に合格する
6月～7月 研究倫理審査を受け、研究許可を受ける
7月～9月 データ収集
9月～10月 データ分析、中間発表会
11月 修士論文作成
12月 修士論文審査
【予習】研究プロセスに応じ、ゼミ資料を作成する。

【予習時間】 各回1.5h
【復習】 ゼミでのディスカッションを踏まえ、不明点の確認や修正を行う。
【復習時間】 各回1.5h

合計時間（予習・復習）



60h

備考



- 1.授業外学習の進め方
- 1)研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進める。
- 2)教員と密に連絡をとり、フィールドの開拓や交渉、プレテストを自ら実施する。
- 3)目的に合った分析手法についての学修を自ら行う。
- 2.予習・復習の時間
- 各授業の内容に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。不足分は各自補完すること。
- 3.学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールまたはメールで日時を調整したのち、研究室で対応する。

印刷



助産学課題研究

英文名：Seminar for Master's thesis on Midwifery

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：4単位

学位授与方針との対応：

- ✓看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

堀越摂子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①助産学実習、助産学実践Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにおいて焦点化した課題に対して、その科学的探求に向けた知見を得るため、国内外の文献に基づき倫理的配慮も踏まえて研究を計画、実施し、論文として公表する。
- ②ゼミ形式で授業を展開する。研究の実施および論文の作成に関する指導は、個人の進捗状況に合わせて指導の日程や時間を調整する。

到達目標

- 1.文献レビューに基づいて研究目的を明確にし、研究計画書を作成できる。
- 2.研究のフィールド開拓を教員と共に行い、交渉できる。
- 3.研究倫理審査に対応できる。
- 4.研究計画書に基づいて研究を実施し、分析して論文としてまとめることができる。

使用教材

検索した文献の活用、資料配布

参考文献

近藤潤子監訳（2010）：看護研究 原理と方法 第2版、医学書院
ほか適宜紹介する。

評価方法

論文審査の結果を踏まえ、研究の過程を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

- ・研究計画書に関する資料についてコメントなどを付けて返却する。
- ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方、考察の内容などについて口頭あるいは書面でコメントする。
- ・作成段階の修士論文の緒言、方法、結果、考察、結論についてコメントなどを付け返却する。
- ・プレゼンテーションのスライド作成、口演について口頭でコメントする。

オフィスアワー

月曜日13：00～14：30、5号館5階511研究室

メールアドレス（#→@）

horikoshi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

4月～6月 先行研究を踏まえて研究を計画し、研究計画書審査に合格する
6月～7月 研究倫理審査
7月～9月 データ収集
10月 データ分析、中間発表
11月 修士論文作成
12月 修士論文審査
【予習】研究プロセスに応じて、必要な課題を提示する。
【予習時間】期間中適宜
【復習】研究プロセスに応じて、必要な課題を提示する。
【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



1. 授業外学習の進め方：
- 1) 研究のプロセスにおける要点を具体的に確認しながら、積極的に研究を進める。
 - 2) 教員と密に連絡をとり、フィールドの開拓や交渉、プレテストを自ら実施する。
 - 3) 目的に合った分析手法についての学修を自ら行う。
2. 予習・復習の時間： 各授業の内容に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。

印刷



助産学特論 I (ウィメンズヘルス)(助産実践開発科学領域)

英文名 : Advanced Theory of Midwifery I (Women's Health)

科目区分 : 修士課程

学年 : 1年

開講期 : 前期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大石時子、寺口顯子、伊藤理廣、青木知子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①女性のライフサイクルにおける性と生殖にかかわる助産師の視点からのアセスメントとケア並びにその評価について学び実践に生かせる。
- ②対面またはZOOMにて講義とdiscussionを行う。

到達目標

- 1.思春期男女に対する基本的姿勢と心身の理解の基に、相談や、適切な対応ができる。
- 2.セクシュアリティの多様性（性自認や性志向）を理解し、性交渉や避妊のあり方、および妊娠の中断に対する個別相談や集団指導の基礎を理解し説明できる。
- 3.思春期から中高年の女性の性と生殖に関する健康問題とその対応について説明できる。
- 4.女性へ暴力・性暴力の原因、現状、将来的影響を理解し、支援方法について説明できる

使用教材

1荻野美穂：女のからだ、岩波新書

参考文献

ウィメンズヘルス事典-女性のからだところガイド、日本母性衛生学会
 燕は戻って来ない、桐野夏生

評価方法

参加度（40%）、presentation（60%） 「不妊治療大国日本に対する私の考え」

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。

オフィスアワー

火曜日12時～13時、5号館5階508研究室

メールアドレス（#→@）

oishi-t#takasaki-u.ac.jp（大石）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	WOMEN'S HEALTH とGENDER（大石）	1,2,3,4	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する	1.5h	科目オリエンテーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容について確認する	1.5h
2	現代の思春期の人々のSexualityとGender（大石）	1,2,3,4	性の多様性について、Web上で、どのような内容が書かれているかnavigateしてみる	1.5h	思春期の人々の性のあり様の現状を多面的に理解する（COVID-19の影響を含む）	1.5h
3	女性と月経、月経障害について（寺口）	1,2,3	女のからだ 第2章までを読む	1.5h	女のからだ 第3,4章を読む	1.5h
4	思春期女性の支援（避妊）（寺口）	1,2,3	女のからだ 第2章までを読む	1.5h	女のからだ 第3,4章を読む	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	思春期女性の支援（ピル）（伊藤）	1,2,3	月経のメカニズムについて調べておく	1.5h	ピルの作用機序と副作用について復習する	1.5h
6	思春期女性の支援（ピル）（伊藤）	1,2,3	月経のメカニズムについて調べておく	1.5h	ピルの作用機序と副作用について復習する	1.5h
7	性感染症予防と支援（大石）	1,2,3	子宮と女性性器の解剖	1.5h	性感染症予防に果たす助産師の役割を考察する	1.5h
8	子宮頸がん、乳がん（大石）	1,2,3,4	乳房、子宮と女性性器の解剖	1.5h	子宮頸がん予防に果たす助産師の役割を考察する	1.5h
9	女性生殖器がんと助産ケア（大石）	1,2,3	乳がん、子宮がん、卵巣がんについて復習しておく	1.5h	女性にとって生殖器がんがもつ意味とそれに対する助産ケアを考察する	1.5h
10	女性に対する暴力―DV、人身売買他（大石）	1,2,3	DVについてインターネット上の情報を収集する	1.5h	DVの社会背景を考察する	1.5h
11	女性に対する暴力―性暴力（青木）	1,2,3,4	DVについてインターネット上の情報を収集する	1.5h	性暴力の社会背景を考察する	1.5h
12	不妊治療の現状（寺口）	3	妊娠成立のメカニズムを復習しておく	1.5h	テキスト：女のからだ 第5章を読む	1.5h
13	不妊の悩みを持つ女性と家族への支援（寺口）	3	テキスト：女のからだ 第5章を読む	1.5h	不妊治療が女性と社会に及ぼす影響について考察する	1.5h
14	不妊治療に対する考察のpresentation（大石）	3	自分の関心のある不妊治療について調べ、考察しpresentationを準備する	1.5h	発表で共有した情報を統括し、不妊治療への考察を深める	1.5h
15	中高年女性における性と生殖、身体的健康上の特徴とケア（寺口）	3,4	中高年女性の身体的特徴	1.5h	中高年女性の健康に及ぼす社会的要因について考察する	1.5h

合計時間（予習・復習）



45h

備考



- ・主体的にdiscussionに参加する。
- ・自律的に学習する。
- ・予習・復習は、原則として全授業をととして45時間を行う。
- ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールでアポをとり研究室で対応する。

印刷



助産学特論Ⅱ(助産管理)(助産実践開発科学領域)

英文名：Advanced Theory of MidwiferyⅡ(Midwifery Management)

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：1単位

学位授与方針との対応：

- ✓看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

小泉仁子、馬目裕子、川崎綾子

科目に関連した実務経験

小泉仁子は総合周産期母子医療センターを有する大学附属病院での看護管理経験を持つ

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①助産業務、管理、および病院、助産所運営の基本的な法的理解を図るとともに、助産業務の評価とその調整ができるための管理プロセスの基礎を学ぶ。
- ②講義は、対面またはZOOMで実施する。

到達目標

- 1.助産業務に関する法律を理解し、説明できる。
- 2.助産管理の方法を理解し、説明できる。
- 3.安全管理のあり方を理解し、説明できる。
- 4.自己の開設する助産所または勤務する周産期母子センターを想定し、助産管理の一側面における姿勢を説明できる。（各自の経験に基づき想定したそれぞれの助産管理）

使用教材

1我部山・他：助産学講座10，医学書院 2助産業務要覧2023年版，看護協会出版会

参考文献

看護六法，新日本法規，助産業務ガイドライン2019，院内助産・助産師外来ガイドライン2018

評価方法

筆記試験（100%）

課題・評価に対するフィードバック方法

講義時にディスカッションを通して相互理解を深める。

オフィスアワー

初講時に示す。

メールアドレス（#→@）

初講時に示す。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	助産業務・管理の概念（小泉） ＊助産業務と助産業務展開について助産師の役割と業務について学ぶ	1,2	必読図書を読み、課題を明確にしておく。	1.5h	ディスカッションで自己課題を明確にする。	1.5h
2	助産業務に関連する法規（法的施策）（小泉）	1,2	テキストの該当部分を熟読し、自己の問題点を明確にする。	1.5h	問題点が明らかになったことを確認し、次の単元の学習につなげる。	1.5h
3	助産業務に関連する法規（法的施策）（小泉）	1,2	テキストの該当部分を熟読し、自己の問題点を明確にする。	1.5h	問題点が明らかになったことを確認し、次の単元の学習につなげる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	助産業務管理の実際（病院）（小泉） ＊助産業務における安全・管理の実際について学ぶ	2,4	必読図書を読み、課題を明確にしておく。	1.5h	ディスカッションで自己課題を明確にする。	1.5h
5	助産業務管理の実際（含助産所等の連携）（川崎） ＊助産業務における安全・管理の実際について学ぶ	2,4	必読図書を読み、課題を明確にしておく。	1.5h	ディスカッションで自己課題を明確にする	1.5h
6	助産業務管理の実際（含助産所等の連携）（川崎） ＊助産業務における安全・管理の実際について学ぶ	2,4	必読図書を読み、課題を明確にしておく。	1.5h	ディスカッションで自己課題を明確にする	1.5h
7	周産期における安全管理・危機管理（川崎）	2,3	テキストの該当部分を熟読し、自己の問題点を明確にする。	1.5h	問題点が明らかになったことを確認し、次の単元の学習につなげる。	1.5h
8	医療事故防止、感染予防対策、災害対策等（馬目）	2,3	産科医療過誤訴訟	1.5h	災害支援・災害時分娩	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

- ・各単元（授業時間）について、テキストの該当部分にそって自己の学習目標を明確にする。
- ・予習・復習は、原則として全授業をととして24時間は行う。
- ・授業内容について、理解できた事柄を確認し、出来なかった事柄をさらに追求する努力をする。
- ・学習内容について、問題意識を高め、他の参考書、一般書籍、新聞等に目を通すなどさらに研鑽する。
- ・国内外を問わず、母子と女性の健康問題について幅広く知識や出来事に興味を馳せるよう努力する。
- ・講義を受けるに当たっては、積極的に参加し、質問や議論を交りあるものにするよう努力する。

印刷

助産学特論Ⅲ(開業・院内助産)(助産実践開発科学領域)

英文名: Advanced Theory of MidwiferyⅢ(Independent Practice of Midwifery)

科目区分: 修士課程

学年: 1年

開講期: 後期

選択・必修: 必修

単位数: 1単位

学位授与方針との対応:

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

寺口顕子、東福寺幾夫、宮下美代子、岡本登美子、眞下由利子、林啓子

科目に関連した実務経験

宮下美代子: みやした助産院院長

岡本登美子: ウバウバハウス岡本助産院院長

眞下由利子: 眞下助産院院長

林 啓子: 院内バースセンター(院内助産所)を開設している病院に勤務

履修を必須とする資格

助産師国家試験受験資格取得にかかる必修科目「助産管理」

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①地域における助産所等の開業や院内助産の設置、運営に必要な企業家としてのマインドと経営的視点を持ちつつ、マネジメントを行っていくための基礎を学ぶ。
- ②講義ならびに助産所における講義・実践の見学を踏まえ、自身の開所したい助産所のプレゼンテーションを行う。

到達目標

- 1.助産所・院内助産や助産師の開業に関わる法的根拠を説明できる。
- 2.経営や、経営戦略を理解し説明ができる。
- 3.マネジメントの一環としての多職種協同を理解し、説明できる。
- 4.リスク管理や必要時の対応を具体的に説明できる。
- 5.行政への働きかけ(産後母子訪問システム等の実績等)、NPO法人の取得・運営を理解し、説明できる。
- 6.助産に関わる各種ガイドラインを理解し、説明できる。

使用教材

- 1)我部山キヨ子編.助産学講座10 助産管理.医学書院
 - 2)産婦人科診療ガイドライン2023 産科編
 - 3)日本助産師会.助産業務ガイドライン2019
 - 4)福井トシ子・井本寛子編.助産師業務要覧2024年版.日本看護協会出版会
 - 5)日本遠隔医療学会.図説・日本の遠隔医療2017
- その他資料で提供

評価方法

授業参加度・貢献度(30%)、presentation(70%)で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

presentationに対して、その場でコメントをしてフィードバックする。

オフィスアワー

寺口 火曜日12時～13時、5号館5階509研究室

メールアドレス(#→@)

teraguchi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス・助産師の開業・起業（寺口）	1,6	助産師の開業に関わる法的根拠について確認する。	0.5h	助産師のさまざまな起業の可能性について考察する。	0.25h
2	群馬県助産師会における母子保健事業（眞下）	2,5	群馬県助産師会立すずの音助産院のHPで活動方針・事業を確認する	0.5h	すずの音助産院の事業の実際からその役割・特徴を振り返りまとめる。	0.25h
3	群馬県助産師会における母子保健事業の実際（眞下）	3,4,5	群馬県助産師会立すずの音助産院のHPで活動方針・事業を確認する	0.5h	すずの音助産院の事業の実際からその役割・特徴を振り返りまとめる。	0.25h
4	助産所における経営と経営戦略（宮下）	2	みやした助産院の経営内容をHPで調べておく。業務要覧で該当箇所を読む。	0.5h	学びをまとめ「私が開所したい助産院」とのテーマでpresentationの準備をする	0.25h
5	助産所における経営戦略の実際（宮下）	2	みやした助産院の経営内容をHPで調べておく。業務要覧で該当箇所を読む。	0.5h	学びをまとめ「私が開所したい助産院」とのテーマでpresentationの準備をする	0.25h
6	助産師の自律と多職種協働（内外）のあり方（宮下）	3	みやした助産院の経営内容をHPで調べておく。業務要覧で該当箇所を読む。	0.5h	学びをまとめ「私が開所したい助産所とのテーマでpresentationの準備をする	0.25h
7	助産師の自律と人間関係の調整（宮下）	3	みやした助産院の経営内容をHPで調べておく。業務要覧で該当箇所を読む。	0.5h	学びをまとめ「私が開所したい助産所」とのテーマでpresentationの準備をする	0.25h
8	医療の安全体制、緊急時の対応、ハイリスク妊産婦ケアの適切な展開（宮下）	4,6	みやした助産院の経営内容をHPで調べておく。業務要覧で該当箇所を読む。	0.5h	学びをまとめ「私が開所したい助産所」とのテーマでpresentationの準備をする	0.25h
9	助産師による産後ケア事業の実際（岡本）	4	ウバウバハウス岡本助産院のHPで産後ケア事業を調べる	0.5h	産後ケア事業の法的根拠と意義についてまとめる	0.25h
10	助産師による産後ケア事業の実際（岡本）	5	ウバウバハウス岡本助産院のHPで産後ケア事業を調べる	0.5h	産後ケア事業の法的根拠と意義についてまとめる	0.25h
11	院内助産システムと助産師の自律について（林）	3,4,6	院内助産システムとはどのようなシステムなのか調べておく	0.5h	施設の状況に合わせた院内助産システムの導入について考える	0.25h
12	助産師の自律（バースセンターの設立経験から）（林）	3,4,6	院内助産を導入していくために、助産師自身に何が必要かを考える	0.5h	助産師の声明・綱領（日本助産師会）を読み、院内助産を通した助産師の自律について考える	0.25h
13	遠隔医療とは（東福寺） （1）遠隔医療とは （2）遠隔医療の歴史 （3）遠隔医療実用上の障害 （4）D to D遠隔医療 （5）D to P、D to N to P遠隔医療、オンライン診療 （6）その他の遠隔医療 （7）遠隔禁煙支援とDigital Therapy	3,4	副読本「図説・日本の遠隔医療2017」（日本遠隔医療学会編）1章～3章を通読する。	0.5h	助産師の立場で、遠隔医療をどのように利用できるかを考え、整理する。	0.25h
14	IT technologyを使った周産期管理（東福寺） （1）分娩監視装置 （2）遠隔妊婦健診 （3）電子母子手帳	3,4	副読本「図説・日本の遠隔医療2017」（日本遠隔医療学会編）2章を通読する。	0.5h	周産期管理へのICT応用を整理する。	0.25h
15	presentation 私が開所したい助産所（寺口）	1,2,3,4,6	presentationの準備：助産所の理念・業務内容・人員配置・マップほか	0.5h	お互いの発表を共有し、さらに自己の考察を深める	0.25h

合計時間（予習・復習）

11.25h

備考

- ・助産所では予習してきた項目に基づき、疑問を解決すべく、積極的に質問する。旅費等については別途説明する。
- ・授業内容に基づき、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。
- ・予習・復習は、原則として全授業をとおして11時間15分は行う。
- ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールまたはメールで調整の上、研究室で対応する。

印刷

助産学特論Ⅳ (母子保健政策)(助産実践開発科学領域)

科目区分：修士課程 学年：2 年 開講期：前期 選択・必修：必修 単位数：1 単位

学位授与方針との対応：

✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる

✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる

教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる

✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

■ 担当教員

寺口顕子、高田昌代、菊地栄、西優也

■ SDGs との関連



■ 実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①母子保健、女性の健康および助産に関連する法律や政策がどのように策定され実施されていくのかを理解する。

②対面または ZOOM による講義に加えて、現場を見学しながら説明や講義を受ける。

■ 到達目標

- 母子保健・女性の健康・および助産に関連する法律や政策を理解し説明ができる。
- 母子保健・女性の健康および助産に関連する法律や政策がどのように変遷してきたかを理解できる。
- 政策策定過程に影響を及ぼす団体（助産師職能団体・NPO 法人・女性団体等）の役割を理解できる。
- 母子保健・女性の健康および助産に関連する法律や政策がどのように現実に実践されているのかを理解し、説明できる。
- 母子保健・女性の健康および助産に関連する政策を改善していくための方策を考察する。

■ 参考文献

①井本寛子、福井トシ子編、助産師業務要覧、日本看護協会出版会

②産み育てと助産の歴史、2016、医学書院

その他資料提供

■ 評価方法

レポート (100%) 「母子保健・女性の健康のために必要な政策改善と方法についての私の考え」

■ 課題・評価に対するフィードバック方法

質問に対して、その場でコメントをしてフィードバックする。

■ オフィスアワー

寺口 火曜日 12 時～13 時、5 号館 5 階 509 研究室

■ メールアドレス (#→@)

寺口 teraguchi # takasaki-u.ac.jp

■ 授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	母子保健政策と助産師（寺口）	1,2,3	母子保健や女性、助産師に関わる法律にはどのようなものがあるか調べておく	1.5h	社会政策の決定過程やその内容が、社会における母子や助産師に与える影響について具体的な例をあげて考える	1.5h
2	母子保健と助産をめぐる法律や政策の変遷（菊地）	1,2,3	母子保健、女性の健康、助産に関連する法律や政策のニュースに日頃から注目し、書き留めておく	1.5h	関連する法律や政策について列挙し、自分の考えをまとめる	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	こどもの権利と困難（菊地）	1,2,3	子どもの権利及び人権に関連するニュースを日頃から注目し、書き留めておく	1.5h	関連する法律や政策について列挙し、自分の考えをまとめる	1.5h
4	日本助産師会における政策要望活動等（高田）	1,3	日本助産師会の HP より職能団体の役割を知る	1.5h	職能団体が政策策定に関わっている事項と方法についてまとめる	1.5h
5	日本助産師会における政策要望活動等（高田）	2,4	日本助産師会の HP より職能団体の役割を知る	1.5h	職能団体が政策策定に関わっている事項と方法についてまとめる	1.5h
6	県レベルにおける母子保健政策実施（西）	2,4	群馬県の HP で母子保健統計と政策を調べる	1.5h	母子保健政策の法的根拠と国、県、市町村の役割を復習する	1.5h
7	県レベルにおける母子保健政策実施（西）	4,5	群馬県の HP で母子保健統計と政策を調べる	1.5h	母子保健政策の法的根拠と国、県、市町村の役割を復習する	1.5h
8	母子保健政策への要望の試み、まとめ（寺口）	5	7 回までの講義を振り返り、母子保健政策への要望を考えて参加する。	1.5h	助産師が母子保健政策の改善に関わる意義についてまとめる	1.5h

■ 合計時間（予習・復習）

24h

■ 備考

- ・各施設で、予習してきた項目に基づき、疑問を解決すべく、積極的に質問する。
- ・授業内容に基づき、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。
- ・予習・復習は、原則として全授業をととして 24 時間は行う。
- ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールまたはメール連絡の上で研究室で対応する。

助産における補完代替医療(助産実践開発科学領域)

英文名 : Complementary and Alternative Care in Midwifery

科目区分 : 修士課程

学年 : 2年

開講期 : 後期

選択・必修 : 選択

単位数 : 2単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

今関節子、山西加織、小池智美

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①女性のライフスタイルをホリスティックに観て、一人ひとりの状態に合わせた健康管理の一環として、助産業務における適切な活用範囲を、特に女性の性と生殖にあてて、その目的、適用、実際を習得する。
- 各テーマについて、目標に照して理論的な理解をはかり、実技を通して臨床における展開の基礎とする。
- ②対面での講義、演習を行う。

到達目標

- 1.助産業務の中に補完代替医療を活用するにあたって、安全性の確認と倫理性について説明できる。
- 2.各種補完代替医療を正しく理解し、十分な習得の下で適切に実施できる。

使用教材

基本的には講義時に資料を配布する。

- 1松本清一・他著：妊産婦体操の理論と実際、全国保健センター連合会
- 2鮫島浩二：女性によく効くアロマセラピー、主婦の友社
- 3今西二郎：医療従事者のための補完・代替医療、金芳堂

評価方法

レポート（100%）

各補完代替法実施後、各自確認して様式に沿って提出された記録により評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

毎回提出された記録に対して、コメントし、評価する。

オフィスアワー

初回講義時に提示

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	科目オリエンテーション 補完代替医療とリスクマネジメント（今関）	1,2	シラバスの内容を読み、授業の内容を理解する。	1.5 h	オリエンテーションの内容を確認するとともに助産師に求められる守備範囲について法や事例を通して確認し、記録を提出する。	1.5 h
2	ヨガの基礎理論（山西）	2	ヨガに関して書籍等でその効果や実践方法等を予習する。	1.5 h	授業で実践したヨガを実践し、効果や実践のポイントを復習する。	1.5 h
3	ヨガの実際（山西）	2	ヨガに関して書籍等でその効果や実践方法等を予習する。	1.5 h	授業で実践したヨガを実践し、効果や実践のポイントを復習する。	1.5 h
4	妊産婦エクササイズの理論（今関）	1,2	あらかじめ配布された資料によく目を通して出席する。	1.5 h	授業で指摘し、実践したエクササイズを実際に行って確認する。	1.5 h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	妊産婦エクササイズの実際（今関）	1,2	あらかじめ配布された資料によく目を通して出席する。	1.5 h	授業で指摘し、実践したエクササイズを実際に行って確認する。	1.5 h
6	産痛緩和法の理論と実際 身体的・心理的リラクセーション（今関）	1,2	配布した資料並びに今まで実践した産痛緩和リラクセーション方法や効果を理論的に理解しておく。	1.5 h	学習した産痛緩和につながる身体的・心理的リラクセーションについて、理論的にまとめる。	1.5 h
7	産痛緩和法の理論と実際 マッサージ・呼吸法（今関）	1,2	配布した資料並びに今まで実践したマッサージ・呼吸法やその効果を振り返って理論的に理解して出席する。	1.5 h	学習した産痛緩和法を実際に行って確認し、効果をまとめる準備をする。	1.5 h
8	アロマ・ハーブに使われる精油・植物（今関）	1,2	身近で取得可能なハーブの植物を調べ採取して、配布資料にもとづき主要成分や作用を調べてくる。	1.5 h	学習したアロマセラピーや、ハーブティーを妊産婦に応用する上での留意点をまとめる。	1.5 h
9	女性のライフサイクルとアロマセラピー（今関）	1,2	女性のライフサイクルにおける健康課題を復習しておく。	1.5 h	学習したアロマセラピーや、ハーブティーを妊産婦や女性の日常に応用する効果をまとめて、提出する。	1.5 h
10	リフレクソロジーの基礎理論（小池）	1,2	左右の足底の反射区の違いを理解して授業に出席する。	1.5 h	各種技法を実際の実施し、様式に沿って記録し提出する。	1.5 h
11	リフレクソロジーの実際（小池）	1,2	左右の足底の反射区の違いを理解して授業に出席する。	1.5 h	各種技法を実際の実施し、様式に沿って記録し提出する。	1.5 h
12	ツボの基礎理論（今関）	1,2	資料にもとづいて主要な経脈の確認をして授業に出席する。	1.5 h	周産期、月経時に関わる主要なツボが確認でき実施できるようにしておく。	1.5 h
13	ツボの女性・妊産婦ケアへの適用（今関）	1,2	資料にもとづいて主要な経脈の確認をして授業に出席する。	1.5 h	周産期、月経時に関わる主要なツボが確認でき実施できるようにしておく。	1.5 h
14	産後の骨盤エクササイズの理論と実際（今関）	1,2	産後の骨盤と筋・靱帯の変化を理解して授業に出席する。	1.5 h	骨盤底筋群のエクササイズを復習し、様式に沿って記録して提出する。	1.5 h
15	快適なコンチネンスのための骨盤底筋エクササイズの理論と実際（今関）	1,2	コンチネンスのための骨盤と筋・靱帯の変化を理解して授業に出席する。	1.5 h	骨盤底筋群のエクササイズを復習し、様式に沿って記録して提出する。	1.5 h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

・授業の実施場所は、2・3回目は8号館1Fイベントホール、他はすべて助産学実習室。いつでも運動と水分補給ができるように準備して臨む。
・学習過程において疑問・質問が生じた場合は下記の方法で対応する。
オフィスアワーおよびメールアドレスは初回講義時に提示

印刷

女性のフィジカルアセスメント(助産実践開発科学領域)

英文名：Physical Assessment of Women

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大石時子、寺口顯子、新井基子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①女性の性と生殖に関わるフィジカルアセスメントの意義と原則並びに基本技術の理論と実際を理解し、実践のための土台を築く。
- ②対面による講義と演習を行う。

到達目標

- 1.助産師が行うべき女性の生涯の各ステージに対応したフィジカルアセスメントの診察項目、診察技法、評価について説明出来る。
- 2.女性のフィジカルアセスメントに必要な助産師に許可された診察・検査・計測機器についての操作法と結果の評価について説明出来る。
- 3.女性の生殖器の診察と評価および検体採取について演習で実施できる。

使用教材

大石時子・他：助産師のためのフィジカルイグザミネーション，医学書院

参考文献

学部で使用したフィジカルアセスメントの教科書等、助産診断技術学の教科書

評価方法

実技試験（100％）

課題・評価に対するフィードバック方法

演習において、その場で講評・コメントする。

オフィスアワー

火曜日12時～13時、5号館5階508研究室

メールアドレス（#→@）

oishi-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	助産師によるフィジカルアセスメントの基本と意義（大石）	1,2	教科書序章、I-1を読む	1.5h	看護診断と助産診断の相違を考察する	1.5h
2	妊娠判定、妊婦健康診断（寺口）	1,2	妊婦健診の項目を復習しておく	1.5h	診察法と妊娠期診断技術学で学習したアセスメントとを結びつける	1.5h
3	妊婦健康診断法（胎児の健康を含む）（寺口）	1,2	妊婦健診法の技術を復習し、妊婦健診の目的を再確認しておく	1.5h	診察法と妊娠期診断技術学で学習した内容を結びつけアセスメントする	1.5h
4	頭部、顔、頸部の診察法とアセスメント（大石）	1,2	教科書 I-3を読む	1.5h	診察技術を練習する	1.5h
5	腹部、手足の診察とアセスメント（大石）	1,2	教科書 I-3を読む	1.5h	診察技術を練習する	1.5h
6	婦人科的診察法（大石）	1,2,3	教科書 I-3を読む	1.5h	生殖器の解剖を復習する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	検体採取法、アセスメントの実際（大石）	1,2,3	教科書 I -5を読む	1.5h	技術テストに向け練習を行う	1.5h
8	婦人科的診察 ・検体採取法、アセスメントの実際（大石）	1,2,3	教科書 I -5を読む	1.5h	技術テストに向け練習を行う	1.5h
9	乳房の診察法の基礎理論（新井）	1,2	教科書 IV-3,4を読む	1.5h	配布資料の理解を確認する	1.5h
10	乳房の診察法とアセスメントの実際（新井）	1,2	教科書 IV-3,4を読む	1.5h	配布資料の理解を確認する	1.5h
11	胸部の診察とアセスメント（大石）	1,2	教科書 I -3を読む	1.5h	診察技術を練習する	1.5h
12	褥婦の健康診査（産褥復古、心理・精神の変化のアセスメント）	1,2	教科書の第IV章1〜4を読む	1.5h	診察技術・アセスメントの練習	1.5h
13	新生児の診察法とアセスメントの基礎（全身の診察、成熟度判定）	1,2	教科書の第VI章、今日の助産等の該当箇所を読む	1.5h	診察技術を練習する	1.5h
14	新生児の診察法とアセスメントの実際（全身の診察、成熟度判定）	1,2	診察技術の確認	1.5h	診察技術を練習する	1.5h
15	中高年女性のアセスメント（加齢・ホルモン変動に伴う変化）	1,2	助産学特論 I 「中高年女性」に関する講義の振り返り、 助産診断技術学 I の該当箇所を読む	1.5h	助産学特論 I の学修と結び付けて理解したことをまとめる	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

^

備考

- ・主体的に演習に参加する。
- ・自律的に技術の練習をする。
- ・技術で得た身体所見をアセスメントする
- ・予習・復習は、原則として全授業をとおして45時間は行う。
- ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールでアボをとり研究室で対応する。

^

印刷



産婦人科医学診断(助産実践開発科学領域)

英文名：Gynecology Diagnosis

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

篠崎博光、曾田雅之、中村和人

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①女性のライフサイクルに沿った健康を支援していくために、生涯にわたる女性特有の疾患とその管理について理解する。
- ②講義は対面で実施する。

到達目標

- 1.医学的側面からの疾患のアセスメントならびに疾患管理プロセスを理解する。
- 2.婦人科診療の基本的考え方と方法、ならびに疾患診断への姿勢を説明できる。
- 3.女性の生涯にわたって起こりやすい疾患と医療について説明できる。
- 4.生涯にわたる女性特有の疾患とその管理について理解し、女性の健康支援における研究シーズを獲得する。

使用教材

テキスト：岡井 崇：標準産婦人科学(STANDARD TEXTBOOK), 医学書院

評価方法

授業参加度・貢献度（30％） レポート（70％）

課題・評価に対するフィードバック方法

講義開始時に学習内容についての質問を提示し、講義終了時にフィードバックを行う。

オフィスアワー

初回講義時に提示

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	女性生殖器官の構造・女性の性機能（篠崎）	1,2,3,4	該当部分をテキスト等で事前学習する。	1h	不足する学習内容を補充する。	2h
2	女性のライフサイクルと健康課題（篠崎）	1,2,3,4	該当部分をテキスト等で事前学習する。	1h	不足する学習内容を補充する。	2h
3	月経異常 女子アスリートとウィメンズヘルス（篠崎）	1,2,3,4	該当部分をテキスト等で事前学習する。	1h	不足する学習内容を補充する。	2h
4	産婦人科検査（画像診断）（篠崎）	1,2,3,4	該当部分をテキスト等で事前学習する。	1h	不足する学習内容を補充する。	2h
5	女性性器の疾患①（中村）	2,3,4	女性性器の感染症・良性腫瘍の内容について、テキストを用いて包括的に把握しておく。	1h	テキスト・資料をもとにして内容の確認を行う。	2h
6	女性性器の疾患②（中村）	2,3,4	婦人科悪性腫瘍の各々について、特徴を事前に理解しておく。	1h	テキストと実地臨床との違いを確認し、知識を整理する。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	加齢と疾患、更年期と更年期障害（曾田）	1,2,3,4	該当部分をテキスト等で事前学習する。	1h	不足する学習内容を補充する。	2h
8	加齢と疾患、骨粗鬆症（曾田）	1,2,3,4	該当部分をテキスト等で事前学習する。	1h	不足する学習内容を補充する。	2h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

- ・予習・復習は、原則として全授業をととして24時間は行う。
- ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。

印刷

新生児学(助産実践開発科学領域)

英文名：Neonatology

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

丸山 憲一

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①新生児の成熟度および体格による分類とその評価を行う能力を修得する。更に子宮外環境への生理的適応変化を知り、出生後の栄養と育児などを含めた基本的ケアの提供方法を選択、判断できる知識を養う。また、ハイリスク新生児や染色体異常症、代謝異常症など遺伝に関わる疾患や奇形症候群の症例に対して、家族への支援方法を助産師の立場から検討できる知識を養う。
- ②講義は対面で実施する。

到達目標

- 1.新生児の特徴、生理的適応変化を理解できる。
- 2.新生児のアセスメントとケアを展開できる能力を養う。
- 3.ハイリスク新生児、疾患をもつ新生児の病態生理を理解できる。
- 4.緊急時に対応できる知識を理解できる。

使用教材

テキスト：仁志田博司：新生児学入門(第5版)，医学書院

評価方法

レポート（50%）および口頭発表（50%）で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

口頭発表時に、発表内容についてディスカッションするとともに講評、コメントする。

オフィスアワー

初回講義時に提示

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	新生児学総論、ハイリスク新生児の評価	1,2,3	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h
2	新生児診断学	1,2,3	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h
3	新生児の生理、発達	1,2,3	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h
4	新生児の養護と管理（ハイリスク新生児、NICU入院児を含む）	1,2,3,4	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h
5	体温調節と保温	1,2,3,4	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	栄養の基礎と診療	1,2,3,4	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h
7	水―電解質バランス	1,2,3,4	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h
8	内分泌系・代謝系の異常	1,2,3,4	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h
9	内分泌系・代謝系の異常と管理	1,2,3,4	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h
10	呼吸器系の生理と診療	1,2,3,4	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h
11	循環器系の基礎と診療	1,2,3,4	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h
12	黄疸の基礎と臨床、血液系の病態と診療	1,2,3,4	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	【復習】講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h
13	免疫系と感染	1,2,3,4	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h
14	中枢神経系の障害と診療	1,2,3,4	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h
15	先天異常と遺伝、主要疾患の病態と整理	1,2,3,4	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	0.25h	講義内容について理解が不十分であった点、興味をもった点についてテキスト、配布資料等を用いて学習し、理解を深める。	0.5h

合計時間（予習・復習）

11.25h

備考

- ・予習・復習は、原則として全授業をとおして45時間は行う。
- ・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。

印刷

周産期ハイリスク論 I (助産実践開発科学領域)

英文名：High risk of Perinatal Complications I

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：1単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

伊藤理廣、竹中恒久

SDGsとの関連

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①妊娠・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期の異常及び主なる合併症とその予防策について理解できる。
- ②講義は対面で実施する。

到達目標

- 1.妊娠・分娩期の母体・胎児、産褥期の主要な異常の病態生理について述べるができる。
- 2.妊娠・分娩期の母体・胎児、産褥期の異常発生時の対応およびハイリスクな母子のアセスメントとケアを展開できる能力を養う。
- 3.緊急時に対応できる知識を学ぶ。

使用教材

標準産科婦人科学 第5版 綾部琢哉 医学書院(ISBN：978-4-260-04265-9)

評価方法

筆記試験（100%）

課題・評価に対するフィードバック方法

第4回以降の講義では、毎回、前回の学習内容についての小テストを行う。

オフィスアワー

初回講義時に提示

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	胎児の発生と出生前診断（伊藤）	1,2	シラバスの内容に基づき、左記の項目について専門書などで調べる。	0.25h	不足する学習内容を補完学習する。	0.5h
2	不妊症（伊藤）	1,2	シラバスの内容に基づき、左記の項目について専門書などで調べる。	0.25h	不足する学習内容を補完学習する。	0.5h
3	不育症（伊藤）	1,2	シラバスの内容に基づき、左記の項目について専門書などで調べる。	0.25h	不足する学習内容を補完学習する。	0.5h
4	妊娠の異常：つわり、妊娠悪阻、流産・切迫流産、異所性妊娠（竹中）	1,2	教科書の該当部分を通読しておく。（前書きも読んでおいてください。）	0.25h	当日学習した要点を整理する。	0.5h
5	妊娠の異常：多胎妊娠、卵巣腫大、胎児形態異常、妊娠高血圧症候群（竹中）	1,2	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25h	当日学習した要点を整理する。	0.5h
6	妊娠の異常：早産・切迫早産、過期妊娠・過期産、多胎妊娠（その2）、血液型不適合妊娠（竹中）	1,2	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25h	当日学習した要点を整理する。	0.5h
7	妊娠の異常：羊水の異常、胎盤・臍帯の異常、胎児発育不全、巨大児、胎児疾患（竹中）	1,2	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25h	当日学習した要点を整理する。	0.5h
8	合併症妊娠・偶発合併症：外陰腔疾患、子宮疾患、卵巣の疾患、心血管疾患、血液疾患（竹中）	1,2	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25h	当日学習した要点を整理する。	0.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
9	合併症妊娠・偶発合併症：腎・泌尿器系疾患、消化器疾患、呼吸器疾患、糖代謝異常、甲状腺機能異常、精神神経疾患（竹中）	1,2	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25h	当日学習した要点を整理する。	0.5h
10	合併症妊娠・偶発合併症：母子感染、環境要因と胎児障害（竹中）	1,2	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25h	当日学習した要点を整理する。	0.5h
11	分娩の異常：前期破水、陣痛の異常、産道の異常、児頭骨盤不均衡、回旋・胎勢・進入の異常（竹中）	1,2,3	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25h	当日学習した要点を整理する。	0.5h
12	分娩の異常：胎位の異常、遷延分娩、胎児機能不全、胎盤・臍帯の異常（その2）（竹中）	1,2,3	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25h	当日学習した要点を整理する。	0.5h
13	分娩の異常：産道損傷、弛緩出血、子宮内反症、羊水塞栓症、出血と産科ショック（竹中）	1,2,3	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25h	当日学習した要点を整理する。	0.5h
14	分娩の異常：ハイリスク分娩の管理 産科処置：産科手術、分娩誘発・陣痛促進（竹中）	1,2,3	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25h	当日学習した要点を整理する。	0.5h
15	産科処置：産科麻酔 産褥期の異常：静脈血栓症、肺血栓塞栓症、産褥感染症、産褥期の精神疾患、恥骨結合離開（竹中）	1,2,3	教科書の該当部分を通読しておく。	0.25h	当日学習した要点を整理する。	0.5h

合計時間（予習・復習）

11.25h

備考

・担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。

印刷

周産期ハイリスク論Ⅱ(助産実践開発科学領域)

英文名：High risk of Perinatal ComplicationsⅡ

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

伊藤雄二、丸山憲一、竹中俊文、吉田光典、増山葉月

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①周産期ハイリスク論Ⅰ、新生児学で学習したことをふまえて、妊娠期・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期におけるハイリスクな母子に対応した、助産に当然付随する行為と臨時応急の処置として、助産の立場から必要とされる技術を習得する。
- ②講義は対面で実施する。講義内容によっては学外で実習を行う。

到達目標

- 1.超音波装置による診察と画像の評価の基礎が演習でできる。
- 2.会陰裂傷の評価と縫合の基礎が演習でできる。
- 3.妊娠期・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期の異常発生時の対応に必要な技術が習得できる。

使用教材

テキスト：

- 1荒木勤：最新産科学(異常編)，文光堂
- 2岡井崇・綾部琢哉：標準産婦人科学(第5版)，医学書院
- 3細野茂春：新生児蘇生法テキスト第4版，メジカルビュー社

参考文献

参考書：①馬場一憲：基礎からわかる産婦人科超音波診断，東京医学社 ②藤森敬：胎児心拍数モニタリング講座（第2版），メディカ出版 ③進純郎・堀口成子：正常分娩の助産術－トラブルへの対応と会陰裂傷縫合（ブラッシュアップ助産学），医学書院 ④田村正徳：日本版救急蘇生ガイドライン2015に基づく新生児蘇生法テキスト（第3版），メジカルビュー社 ⑤村越毅・加藤智子：産科の必須手技ベスト58－本当に知りたかった技とコツ，メディカ出版

評価方法

筆記試験（60％） 演習レポート（40％）

課題・評価に対するフィードバック方法

講義および実習中に逐次ディスカッションを行い、その都度講評・コメントする。

試験終了後、結果について講評、コメントを行う。

オフィスアワー

初回講義時に提示

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	超音波診断の理論と基本操作（竹中）	1	超音波診断装置の画像構築の原理と装置の基本的な操作方法を理解する。	45分	超音波診断による胎位の確認法と胎児計測の方法を確認する。	45分
2	超音波診断の理論と基本操作（竹中）	1	超音波診断装置の画像構築の原理と装置の基本的な操作方法を理解する。	45分	超音波診断による胎位の確認法と胎児計測の方法を確認する。	45分

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	胎児とその付属物の評価と診断（超音波診断）実技（竹中）	1	妊婦健診時に超音波検査で確認すべき項目を理解する。	45分	実際の妊婦さんに超音波検査を行う際の留意点を確認する。	45分
4	胎児とその付属物の評価と診断（超音波診断）実技（竹中）	1	妊婦健診時に超音波検査で確認すべき項目を理解する。	45分	実際の妊婦さんに超音波検査を行う際の留意点を確認する。	45分
5	超音波検査の実際と画像評価（増山）	1	出生前の胎児超音波診断、及び妊婦の検査項目につき、前回の講義を復習しておく。	45分	自己の実践を振り返り、不足する学習内容を補完する。	45分
6	超音波検査の実際と画像評価（増山）	1	出生前の胎児超音波診断、及び妊婦の検査項目につき、前回の講義を復習しておく。	45分	自己の実践を振り返り、不足する学習内容を補完する。	45分
7	分娩時のモニタリングと胎児の評価 理論と実技（吉田）	3	胎児心拍数モニタリングの基礎的な知識を理解する。	45分	実際の胎児心拍数モニタリング波形を判読する。	45分
8	分娩時のモニタリングと胎児の評価 理論と実技（吉田）	3	胎児心拍数モニタリングの基礎的な知識を理解する。	45分	実際の胎児心拍数モニタリング波形を判読する。	45分
9	産道の異常：会陰切開術と会陰裂傷縫合術理論（吉田）	2	骨盤底の解剖を理解する。	45分	助産婦が施行可能な会陰裂傷の程度と局所麻酔法を確認する。	45分
10	産道の異常：会陰切開術と会陰裂傷縫合術理論（吉田）	2	骨盤底の解剖を理解する。	45分	助産婦が施行可能な会陰裂傷の程度と局所麻酔法を確認する。	45分
11	産道の異常：会陰縫合術基本の実際（吉田）	2	会陰縫合術に使用する縫合糸や持針器について理解する。	45分	基本的な縫合や糸結びを確認する。	45分
12	産道の異常：会陰縫合術基本の実際（吉田）	2	会陰縫合術に使用する縫合糸や持針器について理解する。	45分	基本的な縫合や糸結びを確認する。	45分
13	分娩時の出血とその対処（胎盤圧出法、子宮内反、弛緩出血）（伊藤）	3	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。	45分	講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	45分
14	分娩時の出血とその対処（胎盤圧出法、子宮内反、弛緩出血）（伊藤）	3	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。	45分	講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	45分
15	産科救急（産科ショック、薬物療法）（伊藤）	3	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。	45分	講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	45分
16	産科救急（産科ショック、薬物療法）（伊藤）	3	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。	45分	講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	45分
17	産科救急（産科ショック、帝王切開術を含む）（伊藤）	3	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容と意義を理解する。	45分	講義の内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	45分
18	産科救急（産科ショック、帝王切開術を含む）（伊藤）	3	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容と意義を理解する。	45分	講義の内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	45分
19	娩出力の異常：吸引・鉗子分娩とその介助（伊藤）	3	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。	45分	講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	45分
20	娩出力の異常：吸引・鉗子分娩とその介助（伊藤）	3	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。	45分	講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	45分
21	娩出力の異常：骨盤位分娩とその介助（伊藤）	3	シラバスおよび参考資料を読み、講義の内容とシミュレーションする実技の意義を理解する。	45分	講義および実技シミュレーションの内容を確認するとともに、自律的に学習する必要性のある内容を確認する。	45分
22	新生児の異常と画像評価（丸山）	3	今までの新生児の異常編の授業を復習しておく	45分	新生児の診断方法について画像評価の役割を復習する	45分
23	新生児の異常と画像評価（丸山）	3	今までの新生児の異常編の授業を復習しておく	45分	新生児の診断方法について画像評価の役割を復習する	45分
24	新生児蘇生法、緊急時対応の基礎理論（丸山）	3	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	45分	講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。	45分
25	新生児蘇生法、緊急時対応の基礎理論（丸山）	3	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	45分	講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。	45分
26	新生児蘇生法、緊急時対応の基礎理論（丸山）	3	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	45分	講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。	45分
27	新生児蘇生法の実技演習・相互評価討論（丸山）	3	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	45分	講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。	45分
28	新生児蘇生法の実技演習・相互評価討論（丸山）	3	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	45分	講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。	45分
29	新生児蘇生法の実技演習・相互評価討論（丸山）	3	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	45分	講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。	45分
30	新生児蘇生法の実技演習・相互評価討論（丸山）	3	講義の項目についてテキストで事前学習を行う。	45分	講義内容について理解が不十分であった点についてテキスト、配布資料等を用いて補完学習する。	45分

備考



- ・ 予習・復習は、原則として全授業をとおして45時間は行う。
- ・ 担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。

印刷 

地域母子保健実習(助産実践開発科学領域)

英文名：Advanced Practice on Maternal and Child Health in the Community

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

寺口顕子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①特に乳児4か月までを対象として、地域における母子の家庭訪問や、地域で開催される母子を対象とした学級、健診、相談、世代間交流、グループ・地域組織形成や、母子保健活動の実態を調査し、より有効で新たな地域包括子育て支援の仕組みを考察し、実践活動能力の基礎を養う。
- ②臨地実習を行う。

到達目標

- 1.地域診断の基本を理解し、説明ができる。
- 2.地域のアセスメントをし、乳児4か月までの地域母子保健の課題を見だし、支援策の一部を実施できる。
- 3.地域で実践されている地域包括子育て支援事業等を理解し、部分的に実施できる。
- 4.事業の企画・運営・実践・評価の一連のプロセスを理解し、部分的に実施できる。

参考文献

- ①群馬県保健要覧，群馬県保健予防課
- ②わが国の母子保健，母子衛生研究会
- ③母子保健の主なる統計，母子衛生研究会

評価方法

レポート（100％）

課題・評価に対するフィードバック方法

レポート返却時に口頭または書面でfeedbackする。

オフィスアワー

火曜日12時～13時、5号館5階509研究室

メールアドレス（#→@）

teraguchi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

第1日

- ・地域診断、事業の企画から運営、実施、評価までのプロセス

第2日

- ・女性の健康問題、DV等
- ・多胎児、産後ケア、産後訪問
- ・メンタルヘルス、子育て支援、虐待等の全国及び県内の状況調査

第3日

- ・妊産婦、新生児、乳幼児等の個別の健康診査や相談後のフォローアップ
- ・妊産婦、新生児、乳幼児等の電話訪問指導の企画

第4日

- ・地域包括産後ケアシステムの企画

第5日

- ・グループワーク：産後ケアの企画から評価まで一部実施または学内演習、まとめ
- 【予習】わが国の母子保健（母子衛生研究会）を読む。
- 【予習時間】期間中適宜

【復習】母子保健の主なる統計（母子衛生研究会）を読む。
【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）

15h

備考

受講に関しては履修登録が必要。
事前学習を行い、今までの知識を統合したうえで実習に臨むこと。
1週間（5日間）＝45時間

印刷



国際助産論(助産実践開発科学領域)

英文名：International Midwifery

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：通年

選択・必修：選択

単位数：1単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大石時子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①Global化する世界の中での国際母子保健とwomen's healthの課題を知り、助産師が果たす役割を理解する。またそのために活動している国際組織を知り、その活動内容を理解する。近年急増する在日外国人家族や在外日本人家族の母子保健とwomen's healthに関するニーズを理解し、助産師が実践できるケアを考察する。

②対面とZOOMの組み合わせで実施、必要時、現場に出かけての講義も実施する。

到達目標

- 1.世界での母子の健康状態の特徴がわかる
- 2.Global化の中でのwomen's healthの課題がわかる
- 3.世界のwomen's healthや母子保健に果たす国際機関の役割がわかる
- 4.在日外国人女性のwomen's healthや母子保健の現状と課題がわかる
- 5.国内外で助産師が果たすべき役割がわかる

使用教材

随時、資料を提示する。

参考文献

医学書院、助産学講座9、地域母子保健・国際母子保健

評価方法

レポート（60％） 参加度（40％）

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。

オフィスアワー

火曜日12時～13時、5号館5階508研究室

メールアドレス（#→@）

oishi-t#takasaki-u.ac.jp（大石）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	助産学と国際社会（大石）	1	助産師が世界でどのような活動をしているか調べる	1.5h	助産師が世界で実践している活動を復習し、その役割を考察する	1.5h
2	国際母子保健（大石）	1,2	日本の母子保健の指標を復習しておく	1.5h	日本の母子保健の指標を世界と比較し、国際母子保健の課題を考察する	1.5h
3	国際的なwomen's healthの課題（大石）	1,2,3	世界での人口移動がどのように行われているか調べる	1.5h	世界と日本が女性の健康に関してどのように関連し合っているかを考察し、助産師の課題を考える	1.5h
4	在日外国人女性の現状と健康（大石）	4,5	日本や群馬県に在住する外国人の統計を調べる	1.5h	助産師の役割を考察する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	在日外国人の母子保健（大石）	4,5	日本や群馬県に在住する外国人の母子保健統計を調べる	1.5h	助産師の役割を考察する	1.5h
6	在外日本人の母子保健とWomen's Health（大石）	3,5	参考書の6章Bを読む	1.5h	助産師が国際的に連携する意義について考察する	1.5h
7	助産に関わる国際組織の活動（大石）	3,5	WHO, UNFPA.ICMのHPを調べる	1.5h	国際組織が果たす役割についてまとめる	1.5h
8	助産実践と助産教育の国際比較（大石）	3,5	ICMのHPをみしておく	1.5h	助産教育と実践の違いが、世界の女性の健康におよぼす影響について考察する	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

- ・主体的にdiscussionに参加する。
- ・自律的に学習する。
- ・予習・復習は、原則として全授業をとおして24時間は行う。
- ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールでアボをとり研究室で対応する。5号館5階508研究室

印刷



女性のメンタルヘルスとジェンダー(助産実践開発科学領域)

英文名: Women's Mental health issues in gender's perspective

科目区分: 修士課程

学年: 1年

開講期: 後期

選択・必修: 選択

単位数: 1単位

学位授与方針との対応:

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大石時子、長江美代子、菊地栄

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①女性が歴史的、経済的、社会的に置かれている立場がメンタルヘルスに及ぼす影響およびメンタルヘルスが女性の一生の健康に及ぼす影響を講義し討議で考察する。助産師としての早期発見の技術とケア方法を講義するとともに、助産師としての課題と解決策をgenderの視点から双方向で討議する。
- ②対面またはZOOMでの講義と双方向の討議。

到達目標

1. 女性特有のメンタルヘルスの課題を説明できる
2. 女性が歴史的、経済的、社会的に置かれている立場を説明できる
3. ジェンダーが女性のメンタルヘルスに及ぼす影響を説明できる
4. 助産師としての早期発見の技術とケア方法を説明できる
5. 助産師としてジェンダーに関連したメンタルヘルスの課題を解決していく方法を考察できる

使用教材

授業時にその都度提示する。

評価方法

授業参加度・貢献度（50%）、プレゼンテーション（50%）で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。

オフィスアワー

大石：火曜日12時～13時、5号館5階508研究室
他の教員については、初回講義時に提示する

メールアドレス（#→@）

大石： oishi-t#takasaki-u.ac.jp
他の教員については、初回講義時に提示する

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	女性のメンタルヘルスの諸問題と助産師（大石）	1	Women's health、周産期のメンタルヘルスについて復習しておく	1.5h	どのようなメンタルヘルスの諸問題があるか復習し、その原因を考える	1.5h
2	Genderとは何か。歴史的・政治的に規範化され、内面化している性別役割（菊地）	2	自らが内面化しているGender規範について考えてみる	1.5h	自らの祖母、母のリプロダクションについて考察する	1.5h
3	セクシュアリティと身体・メンタルヘルス（菊地）	3	セクシュアリティの概念について調べておく	1.5h	セクシュアリティが女性の健康やメンタルヘルスに及ぼす影響を復習する	1.5h
4	DV、性暴力は何故起こり、どのように女性の一生の健康に影響するか（長江）	3	Women's healthの講義を復習しておく	1.5h	女性の一生の健康に影響するか復習し考察する	1.5h
5	うつ、自殺、PTSD（長江）	4,5	前回の講義からPTSDを調べておく	1.5h	うつ、自殺、PTSDと女性の社会的立場との関連を考察する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	幼児期から思春期、そして周産期への影響（長江）	4,5	性暴力被害サバイバーの出産について調べておく	1.5h	周産期の臨床を振り返りサバイバーのケアについて考察する	1.5h
7	周産期のメンタルヘルス（長江）	4,5	妊産婦メンタルヘルスケアマニュアルを読む	1.5h	周産期のメンタルヘルスを今までの講義から、俯瞰し統合する	1.5h
8	助産師はどのように女性のメンタルヘルスをケアできるか ― genderの視点を踏まえて（大石）	5	Presentationを準備する	1.5h	授業で討論したことから考察を深める	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

- ・プレゼンテーション時は、資料を作成し主体的に参加できることを重視する。
- ・予習・復習は、原則として全授業をとおして24時間は行う。
- ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、下記の方法で対応する。

印刷



助産学実践 I (EBPM探究)(助産実践開発科学領域)

英文名 : Practice of Midwifery I (Search for EBPM)

科目区分 : 修士課程

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

寺口顕子、大石時子、堀越摂子、片岡弥恵子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①助産師としてエビデンスに基づいた自律的活動と研究に向けEBPM（Evidence Based Practice in Midwifery）とは何かについて理解し、内外の助産技術文献の検索、助産技術に関する文献のクリティークを行う。また、倫理的手段を踏んで、エビデンスの構築に向けた助産の技術評価が可能な方法を検討し、研究課題を明確にする。
- ②対面またはZoomにて講義とdiscussionを行う。

到達目標

- 1.助産にかかわるケア技術がどのようなエビデンスに基づいているのか否かを知る方法を説明できる。
- 2.助産ケアの課題を明確にし、文献を探索しクリティークした結果を報告できる。
- 3.研究目的の焦点化と課題を明確にし、説明できる。

使用教材

- 1)日本産科婦人科学会 産婦人科診療ガイドライン2023、産科編、婦人科編
 - 2)日本助産学会 エビデンスに基づく助産ガイドライン—妊娠期・分娩期・産褥期 2024 他
- その他、資料を配布する、並びに検索した文献を活用する。

評価方法

授業参加度・貢献度（40%）プレゼンテーション（60%）で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。

オフィスアワー

寺口 火曜日12時～13時、5号館5階509研究室
堀越 月曜日12時～13時 5号館5階511研究室
大石 火曜日12時～13時 5号館5階508研究室

メールアドレス（#→@）

寺口 teraguchi#takasaki-u.ac.jp
堀越 horikoshi#takasaki-u.ac.jp
大石 oishi-t#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	EBPMの歴史、evidenceに基づく助産実践の必要性（大石）	1	EBMの意味を調べる	1.5h	助産実践にとってのEBPMの意義を考察する	1.5h
2	助産ケアのevidenceの探求と検証（大石）	1,2	自分が疑問に思うケア（臨床疑問）を挙げ、根拠を考えてくる	1.5h	既成のguidelineのevidenceで自分の臨床疑問が解決するかを考えてみる	1.5h
3	助産学にかかわる内外研究紹介と抄読、グループワーク（片岡）	1,2	助産文献の精読と批判的吟味	1.5h	批判的吟味の解説の熟読	1.5h
4	助産学にかかわる内外研究紹介と抄読、グループワーク（片岡）	1,2	助産文献の精読と批判的吟味	1.5h	批判的吟味の解説の熟読	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	岡)					
5	助産文献のクリティーク（片岡）	2	助産文献の精読と批判的吟味	1.5h	批判的吟味の解説の熟読	1.5h
6	助産文献のクリティーク（片岡）	2	助産文献の精読と批判的吟味	1.5h	批判的吟味の解説の熟読	1.5h
7	研究テーマの設定1（寺口）	2,3	助産学の先行研究から関心のあるテーマの論文を選択、文献リストを記述する。	1.5h	選択した論文（先行研究）の目的とその背景、研究方法を確認して、文献リストを整理する。	1.5h
8	研究テーマの設定2（寺口）	2,3	文献検討から自己の研究課題の背景を記述する。	1.5h	研究背景を整理し、文献を示して記述する。	1.5h
9	文献のクリティークと研究目的の焦点化（寺口）	2,3	文献を自己課題にそって選択しクリティークする	1.5h	授業を踏まえ、もう一度文献クリティークをする	1.5h
10	研究目的の焦点化 プレゼンテーション（寺口・大石・堀越）	1,2,3	自己の研究課題の目的、意義を記述し、プレゼンテーションの準備をする。	1.5h	自己の研究課題の目的、意義を深めて修正する。	1.5h
11	研究計画書作成1（寺口）	1,2,3	研究の背景、研究目的、意義を記述する。	1.5h	授業で課題となった点を調べる	1.5h
12	研究計画書作成2（寺口）	1,2,3	研究目的に適した研究デザイン、研究方法（データ収集方法、調査項目）を検討し、記述する。	1.5h	授業で課題となった点を調べ修正する	1.5h
13	研究計画書作成3（寺口）	1,2,3	研究目的に適した研究デザイン、研究方法（データ収集方法、調査項目）を検討し、記述する。	1.5h	授業で課題となった点を調べ修正する。	1.5h
14	研究課題確定1（寺口・大石・堀越）	1,2,3	個別指導を通して研究課題を再考する。	1.5h	研究課題を焦点化するために必要な事項を調べる	1.5h
15	研究課題確定2（寺口・大石・堀越）	1,2,3	個別指導を通して研究課題を再考する。	1.5h	研究課題を確定し提出する	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- ・プレゼンテーション時は、資料を作成し主体的に参加できることを重視する。
- ・授業内容に基づき、また自己の取り組みたい研究課題を見据え、自ら学習すべき内容を精選し、自律的に学習する。
- ・予習・復習は、原則として全授業をとおして45時間を行う。
- ・学習過程において疑問・質問が生じた場合には、メールまたはメールで日程調整のうえ研究室で対応する。

印刷

助産学実践Ⅱ(EBPM展開)(助産実践開発科学領域)

英文名：Practice of MidwiferyⅡ(Practice of EBPM)

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
 - ✓看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
 - ✓教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

大石時子、寺口顕子、堀越摂子

SDGsとの関連



「その他」のアクティブラーニング実施方法

プレゼンテーション、ディスカッション

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①助産ケアやシステムのエビデンスを検証するための研究テーマ、研究枠組みの作成に向けて、妥当な実習場所を選択し、対象者の選定条件、サンプルサイズ、介入方法、測定指標、分析方法、倫理的配慮を踏まえ、ブレテストを展開して、研究枠組みを構築し、研究計画書を完成させる。
- ②対面、ZOOM等による個人指導で実施する。

到達目標

- 1.課題に基づいたフィールドと対象者が選定でき先方と交渉ができる。
- 2.研究の目的にそった介入方法と、測定指標、解析方法が設定できる。
- 3.倫理的条件を満たし、必要時ブレテストとしてフィールドで展開できる。
- 4.研究枠組みを構築し、研究計画書を完成し、発表できる。

使用教材

資料を配布する、並びに検索した文献を活用する

参考文献

参考テキスト：小笠原知枝・他編：これからの看護研究－基礎と応用－，ヌーベルヒロカワ

評価方法

レポート（100%）

課題・評価に対するフィードバック方法

研究計画書に関する作成資料について口頭指導またはコメントなどを付けて返却する。

オフィスアワー

大石 火曜日12時～13時 5号館5階508研究室
 寺口 火曜日12時～13時 5号館5階509研究室
 堀越 月曜日12時～13時 5号館5階511研究室

メールアドレス（#→@）

大石 oishi-t#takasaki-u.ac.jp
 寺口 teraguchi#takasaki-u.ac.jp
 堀越 horikoshi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

4月
 助産技術実施可能地域・施設の調査・検討と交渉
 対象者の選定と実施手続き

5月
 介入プログラム・効果判定指標等の点検

6月
 研究展開のブレテストを行い、実施方法の再点検、修正、研究計画書完成

【予習】研究プロセスに応じ授業時に課題を提示
【予習時間】期間中適宜
【復習】研究プロセスに応じ授業時に課題を提示
【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



- 1.授業外学習の進め方 ：
- 1)研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進めること。
- 2)助産学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。
- 2.予習・復習の時間 ： 各授業の内容に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。

印刷

助産学実践Ⅳ(実践評価)(助産実践開発科学領域)

英文名：Practice of MidwiferyⅣ(Evaluation of Practices)

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：3単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

大石時子、寺口顯子、堀越摂子

SDGsとの関連



「その他」のアクティブラーニング実施方法

プレゼンテーション、ディスカッション

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①今まで経験したケアやケアシステムを、エビデンスを通して評価する。
より女性に寄り添ったケアを実践するために必要なエビデンスは何かを考察する、
よりよいケアシステム創成のために必要な構成要素について考察する。
- ②対面、ZOOM等による個人指導によって実施する。

到達目標

- 1.今まで自己が行ったケアや経験したケアシステムから実践上の課題を抽出する。
- 2.1の課題に対しエビデンスを通して評価する。
- 3.より女性に寄り添ったケアを実践するためにどうすればよいかをエビデンスを通して考察する。
- 4.よりよいケアシステム創成のために必要な構成要素を現存するケアシステムから見出す。
- 5.より女性に寄り添ったあるべきケアシステムについてエビデンスを用いて考察する。

使用教材

資料を配布する、並びに検索した文献やHP(日本助産師会等)を活用する
2020 Evidence-Based Guidelines for Midwifery Care, J of Japan Academy of Midwifery
2021年度 出産ガイドライン、日本助産学会
日本助産学会 エビデンスに基づく助産ガイドラインー妊娠期・分娩期・産褥期 2024 他

評価方法

レポート (100%)

課題・評価に対するフィードバック方法

実践の評価とエビデンスについて口頭あるいは書面でコメントする。

オフィスアワー

大石 火曜日12時～13時 5号館5階508研究室
寺口 火曜日12時～13時 5号館5階509研究室
堀越 月曜日12時～13時 5号館5階511研究室

メールアドレス（#→@）

大石 oishi-t#takasaki-u.ac.jp
寺口 teraguchi#takasaki-u.ac.jp
堀越 horikoshi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

今まで経験したケアやケアシステムから課題を抽出し、エビデンスを通して評価する。
より女性に寄り添ったケアを実践するために、何が必要だったかをエビデンスや実践フィールドの見学を通して考察する。
よりよいケアシステム創成のために必要な構成要素を知るため、様々な実践フィールドの見学等を行う。
より女性に寄り添ったあるべきケアシステムについてエビデンスを用いて考察する。
【予習】今までの自己の実践を振り返り、実践上の課題を明らかにする。

【予習時間】適宜

【復習】実践評価の課程で、その状況に必要な文献検索および学習を行う。助産師が関わっている様々な実践のHPを探索する。

【復習時間】適宜

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



1.授業外学習の進め方

1)自己の実践を評価するための文献検索を積極的に進めること。

2)助産学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動につなげる。

2.予習・復習の時間：各授業の内容に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。

印刷 

助産学特別研究

英文名：Seminar for Master's thesis on Midwifery Science

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：6単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

大石時子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①助産学実践Ⅰ、Ⅱにより研究計画を立案し、助産学実践Ⅳにおいて実際にフィールドにおいて試みた結果に基づき、本格的に、助産技術や母子保健を向上させるための助産サービス提供システムや、女性のライフサイクル、メンタルヘルス、周産期の助産ケア、コーディネイト等の課題に対して、その科学的知見を得るため、内外の文献により検討を加え、倫理的条件も踏まえながら研究を遂行し、論文として公表する。
- ②対面またはZOOM等による個人指導によって実施する。

到達目標

1. 実習のフィールドと交渉できる。
2. 研究倫理審査に対応できる。
3. 研究計画書に基づいた研究を実施し、公開されている研究誌等に公表できる。

使用教材

資料を配布する、並びに検索した文献を活用する。

テキスト：小笠原知枝・他編：これからの看護研究―基礎と応用―，ヌーベルヒロカワ

評価方法

論文審査の結果を踏まえ、研究の過程を総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

- ・研究計画書に関する作成資料についてコメントなどを付けて返却する。
- ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方、考察の内容などについて口頭あるいは書面でコメントする。
- ・作成段階の修士論文について緒言、方法、結果、考察、結語についてコメントなどを付け返却する。

オフィスアワー

火曜日12時～13時、5号館5階508研究室

メールアドレス（#→@）

oishi-t@takasaki-u.ac.jp

授業計画表

4～5月

1. 研究を倫理的に進めるために必要な内容を含めた研究計画書を確認し倫理審査へ提出する。
 - 1) 研究の背景・動機が体系的に記載され、研究目的が明確であることを確認する。
 - 2) 研究方法に対象者、対象者の選定理由、選定方法、調査方法、調査内容、分析方法、安全性・公平性の確保、倫理的配慮など必要事項が記載されていることを確認する。
2. 研究計画書に記載した方法に基づき、対象者の倫理を十分考慮しデータ収集を開始する。
 - 1) 調査方法、調査内容などを中心に、質の高いデータを得るために具体的調整や準備を行う。
 - 2) データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても準備した上で収集に取り組む。

6～8月

精度の高い豊かなデータを収集するため、調査方法や調査内容を確認しながら収集する。

- 1) データ収集の手順や対象者への細かな配慮についても検討した上で、収集に取り組む。
- 2) 得られたデータと研究目的や分析との適合性を確認し、データ収集方法の精度を上げる。

9～10月

計画書に記載した分析方法に基づき順序立て分析を行い、結果を系統的に図表も用いまとめる。

中間発表を行い、受けたコメントを論文の作成に活用する。

- 1)データを計画書に記載した分析方法をもとに体系的な分析を行う。
- 2)分析結果に適した図表を作成し、結果の内容を科学的に表現する。

11～1月

論文の内容を熟考し知見を明確に表現し、表記の適切性にも考慮し作成する。

- 1)論文として緒言から結語まで、研究目的に対し一貫性や客観性を確認しながら作成する。
- 2)助産学における課題へ対応し、発展に寄与しうる研究結果に対する考察を作成する。
- 3)論文と図表など、またプレゼンテーション資料について適切な記載方法で作成する。
- 4)研究の全体についてプレゼンテーションし、助言をもとに追加修正し論文の精度を上げる。
- 5)新知見を明確にし、臨床における助産学の向上に向け最終論文として提出する。

【予習】研究プロセスに応じ授業時に課題を提示

【予習時間】期間中適宜

【復習】研究プロセスに応じ授業時に課題を提示

【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



- 1.授業外学習の進め方：
 - 1)研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進めること。
 - 2)助産学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。
- 2.予習・復習の時間：各授業の内容に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。

印刷



助産学特別研究

英文名：Seminar for Master's thesis on Midwifery Science

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：6単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

寺口顕子

SDGsとの関連



「その他」のアクティブラーニング実施方法

プレゼンテーション、ディスカッション

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①助産学実践Ⅰ・Ⅱにより研究計画を立案し、助産学実践Ⅳの実際にフィールドにおいて試みた結果に基づき、本格的に助産技術や母子保健を向上させるための助産サービス提供システムや、女性のライフサイクル、メンタルヘルス、周産期の助産ケア、コーディネイト等の課題に対して、その科学的知見を得るため内外の文献により検討を加え、倫理的条件も踏まえながら研究を遂行し、論文として公表する。

②個別の研究プロセスに沿った指導、プレゼンテーションに対するコメントを行う。

到達目標

1. 実習のフィールドと交渉できる。
2. 研究倫理審査に対応できる。
3. 研究計画書に基づいた研究を実施し、公開されている研究誌等に公表できる。

使用教材

検索した文献の活用ならびに適宜資料配布。自己の活用しやすい看護研究にかかる成書を用意すること。

参考文献

近藤潤子監訳（2010）：看護研究 原理と方法 第2版、医学書院
ほか適宜紹介する。

評価方法

研究計画書、論文審査の基準を踏まえ、研究の過程・成果について総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

- ・研究計画書に関する資料についてコメントなどを付けて返却する。
- ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方、考察の内容などについて口頭あるいは書面でコメントする。
- ・作成段階の修士論文の緒言、方法、結果、考察、結論についてコメントなどを付け返却する。
- ・プレゼンテーションのスライド作成、口演について口頭でコメントする。

オフィスアワー

火曜日12:00～13:00、5号館5階509研究室

メールアドレス（#→@）

teraguchi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

4～5月 研究計画書作成・研究計画書審査

- ・研究の背景・動機が体系的に記載され、研究目的が明確であることを確認する。
- ・研究方法に対象者、対象者の選定理由、選定方法、調査方法、調査内容、分析方法、安全性・公平性の確保、倫理的配慮など必要事項が記載されていることを確認する。

5～6月 研究倫理審査

6～9月 データ収集

- ・研究計画書に記載した方法に基づき、対象者の倫理を十分考慮しデータ収集を行う。

- ・調査方法、調査内容などを中心に、質の高いデータを得るために具体的調整や準備を行う。
- ・得られたデータと研究目的や分析との適合性を確認し、データ収集方法の精度を上げる。

9～10月 分析

- ・計画書の分析方法に基づき順序立てて分析を行い、結果を系統的に図表も用いまとめる。

10月 中間発表会

- ・プレゼンテーションを行い、受けたコメントを論文の作成に活用する。

11～1月 修士論文作成

- ・論文の内容を熟考し知見を明確に表現し、表記の適切性にも考慮し作成する。
- ・論文審査に向けたプレゼンテーションの準備を行う。

【予習】研究プロセスに応じ、ゼミ資料を作成する。

【予習時間】 各回1.5h

【復習】ゼミでのディスカッションを踏まえ、不明点の確認や修正を行う。

【復習時間】 各回1.5h

合計時間（予習・復習）



90 h

備考



1.授業外学習の進め方：

1)研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進めること。

2)助産学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。

2.予習・復習の時間：各授業の内容に取り組むためには、授業前後に1.5時間以上の時間をかける必要がある。

印刷



助産学特別研究

英文名：Seminar for Master's thesis on Midwifery Science

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：6単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 看護学・助産学分野における高度医療専門職者として看護実践やケアシステム、および助産実践の発展に寄与することができる
- ✓ 看護学・助産学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力と研究能力を教育や研究に生かし、看護学・助産学分野の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・看護学・助産学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

堀越摂子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①助産学実践Ⅰ、Ⅱにより研究計画を立案し、助産学実践Ⅳにおいて実際にフィールドで試みた結果に基づき、本格的に、助産技術や母子保健を向上させるための助産サービス提供システムや、女性のライフサイクル、メンタルヘルス、周産期の助産ケア、コーディネイト等の課題に対して、その科学的知見を得るため、国内外の文献により検討を加え、倫理的条件も踏まえながら研究を遂行し、論文として公表する。
- ②ゼミ形式で授業を展開する。研究の実施および論文の作成に関する指導は、個人の進捗状況に合わせて指導の日程や時間を調整する。

到達目標

- 1.実習フィールドと交渉できる。
- 2.研究倫理審査に対応できる。
- 3.研究計画書に基づいた研究を実施し、公開されている研究誌等に公表できる。

使用教材

検索した文献の活用、資料配布

参考文献

近藤潤子監訳（2010）：看護研究 原理と方法 第2版、医学書院
ほか適宜紹介する。

評価方法

研究計画書、論文審査の基準を踏まえ、研究の過程・成果について総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

- ・研究計画書に関する資料についてコメントなどを付けて返却する。
- ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方、考察の内容などについて口頭あるいは書面でコメントする。
- ・作成段階の修士論文の緒言、方法、結果、考察、結論についてコメントなどを付け返却する。
- ・プレゼンテーションのスライド作成、口演について口頭でコメントする。

オフィスアワー

月曜日13：00～14：30、5号館5階511研究室

メールアドレス（#→@）

horikoshi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

4月～6月 研究計画書を作成し、倫理審査を受ける

- ・研究の背景・動機が体系的に記載され、研究目的が明確であることを確認する。
- ・研究方法に対象者、対象者の選定理由、選定方法、調査方法、調査内容、分析方法、安定性・公平性の確保、倫理的配慮など必要事項が記載されていることを確認する。
- ・倫理審査の関連資料を作成・準備し、倫理審査を受ける。

7月～9月 研究計画書に基づき、データ収集・分析を行う

- ・研究計画書に基づき、対象者への倫理的配慮を十分考慮し、データ収集を行う。
- ・調査方法、調査内容などを中心に、質の高いデータを得るために具体的な調整や準備を行う。
- ・得られたデータと研究目的や分析との適合性を確認し、データ収集方法の精度を上げる。
- ・研究計画書に基づき、科学的方法・客観的方法を用い分析する。

10月 中間発表会を行う

- ・分析結果に適した図表を用いてまとめる。
- ・研究の背景、研究目的、研究方法、結果および分析内容についてまとめ、プレゼンテーションする。
- ・中間発表会で受けた講評や助言をもとに、修士論文作成に向けた示唆を確認する。

11～1月 修士論文作成を作成する

- ・論文として緒言から結語まで、研究目的に対し一貫性や客観性を確認しながら作成する。
- ・助産学における課題へ対応し、発展に寄与しうる研究結果に対する考察を作成する。
- ・研究全体についてプレゼンテーションし、助言をもとに追加修正し論文の精度を上げる。
- ・新知見を明確にし、臨床における助産学の向上に向け最終論文として提出する。

【予習】研究プロセスに応じて、必要な課題を提示する。

【予習時間】期間中適宜

【復習】研究プロセスに応じて、必要な課題を提示する。

【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



1. 授業外学習の進め方：
 - 1) 研究のプロセスにおける要点を具体的に確認しながら、積極的に研究を進める。
 - 2) 助産学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。
2. 予習・復習の時間：各授業の内容に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。

印刷



保健医療統計特論

英文名：Health and Medical Statistics

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

長井万恵、飯田義裕

SDGsとの関連



「その他」のアクティブラーニング実施方法

統計解析に使用するソフトウェアを用いた実データ解析の演習を行う

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①初等的な記述統計・推測統計から多変量解析まで、保健医療分野で用いられる統計解析法を学ぶ。
- ②主に座学にて講義を実施するが、体系的に学習したのちに、統計ソフトウェアを用いて実際にデータ解析を行う。

到達目標

- 1. 論文で使われている統計手法が理解できる。
- 2. 研究を行う際、適切な統計解析法を選択でき、自らのデータに応用できる。
- 3. 論文を作成するにあたって、用いた統計解析の内容を適切に表現できる。

使用教材

特に必須とする教材はない。学期の初めに案内する。

評価方法

期末のレポートにより評価する(100%)

課題・評価に対するフィードバック方法

課題は期末レポートのみとするが、授業の中でその都度わからない部分などについては随時質問を受け付ける。
なお、必要に応じてディスカッション・コメントをする。
E-メールによる質疑応答も可とする。

オフィスアワー

質問および学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。
メールやオンラインでの質問・学習相談については、日程調整のうえで応じる。

メールアドレス（#→@）

kazue-nagai#gunma-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	講義案内、統計学的思考とは、参考図書の案内、データの分類（長井）	1,2,3	下記／で区切られた用語は対比させて説明できるとよい 質的／量的データ。 名義／順序／間隔／比尺度	1.5h	下記／で区切られた用語は対比させて説明できるとよい 質的／量的データ。 名義／順序／間隔／比尺度	1.5h
2	1変数および2変数まとめた簡約表現、集計表やグラフ、統計量による表現 クロス集計表・散布図・相関係数（長井）	1,2,3	棒グラフ／ヒストグラム 平均値／中央値、分散／標準偏差 クロス集計表／散布図 関連係数／相関係数	1.5h	棒グラフ／ヒストグラム 平均値／中央値、分散／標準偏差 クロス集計表／散布図 関連係数／相関係数	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	統計学における推測とは、推定とは（長井） 母平均値の推定を例に解説する Studentのt分布	1,2,3	記述統計／推測統計 母集団／標本、推定／検定 点推定／区間推定（95%信頼区間） 標準偏差／標準誤差 正規分布／t分布	1.5h	記述統計／推測統計 母集団／標本、推定／検定 点推定／区間推定（95%信頼区間） 標準偏差／標準誤差 正規分布／t分布	1.5h
4	統計的検定とは（長井） 平均値の差の検定を例に解説する	1,2,3	帰無仮説／対立仮説 有意水準／有意確率（=p値） 両側検定／片側検定 対応のある／対応のない（=独立）	1.5h	帰無仮説／対立仮説 有意水準／有意確率（=p値） 両側検定／片側検定 対応のある／対応のない（=独立）	1.5h
5	前回の補足、t検定の具体的手順（長井） ノンパラメトリック法：正規分布を仮定しなくとも使える手法、Mann-WhitneyのU検定など	1,2,3	Wilcoxonの順位和検定／Wilcoxonの符号（付）順位検定	1.5h	Wilcoxonの順位和検定／Wilcoxonの符号（付）順位検定	1.5h
6	相関と回帰（長井） (1) 相関係数の推定と検定 (2) ある変数（群）から別変数を予測する解析：回帰分析	1,2,3	無相関の検定とは 線形回帰、最小2乗法 相関係数／決定係数	1.5h	無相関の検定とは 線形回帰、最小2乗法 相関係数／決定係数	1.5h
7	統計解析の実際：Excelを用いた演習（1）（飯田） 表計算ソフトを初めて使用する事を想定して演習を実施します。 Excelの関数機能を用いて、擬似的なデータから、平均値、中央値分散と値、分散と標準偏差を求めます。 また、度数分布表を作成し、ヒストグラムを作成します。	2,3	平均値、中央値分散値、分散と標準偏差 度数分布表、ヒストグラム	1.5h	平均値、中央値分散値、分散と標準偏差 度数分布表、ヒストグラム	1.5h
8	統計解析の実際：Excelを用いた演習（2）（飯田） 対応のあるデータに対して相関係数と回帰直線を求め、散布図中に回帰直線を書き入れたグラフを作成します。	2,3	相関係数、回帰直線、散布図	1.5h	相関係数、回帰直線、散布図	1.5h
9	クロス集計による関連性の解析（長井） 2つの質的変数についての解析：クロス表の検定	1,2,3	χ^2 検定 Fisherの正確確率検定	1.5h	χ^2 検定 Fisherの正確確率検定	1.5h
10	分散分析初歩（長井） 分散分析：3つ以上の平均値の比較 多重比較。	1,2,3	F検定、F分布 一元配置／二元配置 2要因実験／乱塊法	1.5h	F検定、F分布 一元配置／二元配置 2要因実験／乱塊法	1.5h
11	多変量解析（1）（長井） 重回帰分析とその周辺、logistic回帰	1,2,3	重回帰分析／logistic回帰	1.5h	重回帰分析／logistic回帰	1.5h
12	多変量解析（2）（長井） 主成分分析と因子分析	1,2,3	主成分分析／因子分析	1.5h	主成分分析／因子分析	1.5h
13	調査研究と質問票研究の基本（長井） 質問票の開発	1,2,3	量的研究／質的研究 信頼性／妥当性 Cronbachの α 係数	1.5h	量的研究／質的研究 信頼性／妥当性 Cronbachの α 係数	1.5h
14	統計解析の実際：統計解析ソフトを用いた演習（1）（長井）	2,3	これまでの総復習を兼ねる	1.5h	これまでの総復習を兼ねる	1.5h
15	統計解析の実際：統計解析ソフトを用いた演習（2）（長井）	2,3	これまでの総復習を兼ねる	1.5h	これまでの総復習を兼ねる	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

印刷 

チーム医療特論

英文名：Advanced Team Medical Care

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

渡邊秀臣、寺口顕子、梅原里実、浅香満、山上徹也

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①チーム医療の目的と施設・在宅・地域を貫く広がりの実態を理解し、今日的課題と今後のあり方について検討し、チーム医療を担う高度医療専門職の役割について考察する。
- ②講義形式で行い、レポートの提出を求め、それを基に、最後にグループディスカッションを行う。

到達目標

1. チーム医療の基本的考え方と今日的課題について理解できる。
2. チーム医療の連携の実態と概要について理解できる。
3. チーム医療を担う高度医療専門職者の役割について考えられる。

使用教材

1. 水本清久、岡本牧人、石井邦雄、土本寛二 編集：「実践 チーム医療論 -実態と教育プログラム-」医歯薬出版株式会社
2. Charles Vincent著、相馬孝博/藤澤由和・訳「Patient Safety 患者安全」篠原出版社
3. 厚労省から出される「チーム医療の推進に関する提言」等を使用

評価方法

授業への参加度（50%）、プレゼンテーション（50%）で総合的に評価する。（オンライン、対面いずれの講義でも同様）

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションを行い、コメントし、次の課題が明確になるよう話し合う。（オンライン、対面いずれの講義でも同様）

オフィスアワー

月曜日3～5限 木曜日1～2限 5号館1階 研究科長室

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	チーム医療の基本的考え方及び求められる資質と今日的課題（渡邊）	1	シラバスの内容を読み、講義の目標を理解する。	1.5h	チーム医療の推進に関する現状と課題について整理する。	1.5h
2	チーム医療の中で看護に求められる役割と実態（梅原）	1,2,3	チーム医療の推進の中で看護が果たしている役割について内省し、課題を整理しておく。	1.5h	看護が果たすべき役割に焦点化し不足する学習内容を補完する。	1.5h
3	呼吸リハビリテーションチームの実践を通じたチーム医療の理解（浅香）	2	チーム医療に関する実践の文献や雑誌を読んで概要をつかむ。	1.5h	不足する学習内容を補完する。	1.5h
4	地域リハビリテーションにおけるチーム医療の実態（浅香）	2	チーム医療に関する実践の文献や雑誌を読んで概要をつかむ。	1.5h	不足する学習内容を補完する。	1.5h
5	認知症ケアにおけるチーム医療の実態（山上）	2	チーム医療を実践する上での課題とその解決策・工夫点を検討する。	1.5h	不足する学習内容を補完する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	チーム員の教育とチーム医療（山上）	2,3	学生の実習や新人教育の効果的な実施方法を検討する。	1.5h	不足する学習内容を補完する。	1.5h
7	母性看護学・助産学分野におけるチーム医療の役割と実際（寺口）	1,2,3	チーム医療の推進の中で看護が果たしている役割について内省し、課題を整理しておく。	1.5h	看護が果たすべき役割に焦点化し不足する学習内容を補完する。	1.5h
8	チーム医療の推進に関する課題を整理し、今後の展望を考察（渡邊） 各自プレゼンテーションし、それを基にディスカッションする	1,2,3	チーム医療の意義と課題について自己の経験の中から考察し、プレゼンテーションに向けて用意をする。	1.5h	グループディスカッションの中で得られた知見を基に、自己の考えを整理する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

1.授業外学習の進め方

自律的な学習が基本です。チーム医療については、国の施策の変化に注目しつつ、同時に実践的課題が明らかになってきているので、行政的施策や実践報告に目を通しておくこと。

予習・復習のための時間は、1回の授業についておよそ1.5～2時間は取る必要があります。

2.質問や疑問点への対応

①随時メールにて対応します。疑問が生じたらすぐに連絡して、解決を図ること。

印刷



チーム医療アプローチ特別演習

英文名：Seminar on team medical approach

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：1単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

田中聡一、吉田剛、棚橋さつき

科目に関連した実務経験

非常勤医師、非常勤理学療法士、非常勤訪問看護師として勤務（現在）

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①患者およびその家族の健康問題を解決、QOLの向上を目指すために、多職種によるチームアプローチが必要となる事例を検討し、チームアプローチ医療の理解を深める。看護師、医師、リハビリテーション専門職、栄養士、薬剤師、介護福祉士、ソーシャルワーカーなど各専門職に求められる機能を検討し、チームアプローチを推進するための、それぞれの働きや得意分野、守備範囲を学習した上で、機能的・効率的医療提供に結びつくコーディネート法を理解する。
- ②資料やスライドを使いながら学生同士でディスカッションを行う。

到達目標

1. 具体的事例に対して自分が中心となって討論ができ、チームアプローチ医療に対するチームの考えを発表できる。
2. チームアプローチによる医療の重要性、問題点に対して、事例を提示して、プレゼンターとなって討論し、チームアプローチ医療に対する具体的な解答を発表できる。

使用教材

チーム医療を成功させる10 か条 現場に学ぶチームメンバーの心得(中山書店)ISBN 978-4-521-73707-2

評価方法

参加態度60%、プレゼンテーション20%、レポート20%で総合的に判断する。
* オンライン授業の場合も同様を予定。

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションに対するディスカッション、提出レポートの内容、完成度をコメントする。

オフィスアワー

メール等で学習に関する質問は随時受け付ける。

メールアドレス（#→@）

stanaka#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	チーム医療の現状、それに関わる職種、環境（田中）	1,2	チーム医療の現状、それに関わる職種、環境について調査する。	2h	授業をまとめる。	1h
2	病院におけるチーム医療の演習（田中）	1,2	具体的な病院におけるチーム医療例を発表、ディスカッション、ロールプレイングができる様に準備する。	2h	授業をまとめる。	1h
3	地域におけるチーム医療の演習（田中）	1,2	具体的な地域におけるチーム医療例を発表、ディスカッション、ロールプレイングができる様に準備する。	2h	授業をまとめる。	1h
4	行政・法的支援におけるチーム医療（田中）	1,2	行政・法的支援を発表し、具体的なケースを調査する。	2h	授業をまとめる。	1h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	リハビリテーション医療チームにおける各職種の役割（吉田）	1,2	リハ看護やリハにおける理学療法士の役割について調べる。	2h	臨床場面でのリハチームにおける各職種の役割を整理する。	1h
6	産婦人科領域における助産師と理学療法士の協業について（吉田）	1,2	妊産婦の腰痛や腹圧性尿失禁と骨盤底筋トレーニングについて調べる。	2h	産婦人科領域におけるリハチームについて整理する。	1h
7	看護師の視点から考える医療機関およびチーム医療（棚橋）	1,2	チーム医療について調べる。	2h	授業をまとめる。	1h
8	多職種連携における職種の役割（棚橋）	1,2	地域でかかわる各職種について調べる。	2h	授業をまとめる。	1h

合計時間（予習・復習）



24h

備考



予習、復習は原則として全授業を通して24 時間は行う。演習はグループで行うので、予習、復習は自己学習と、グループ学習の両学習を行う。質問は授業前後、メールで随時。



地域支援学特論

英文名：Advanced Community Support and Care

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：1単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

棚橋さつき、寺口顕子、倉林しのぶ、梅原里実、篠原智行

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①在院日数の短縮による病院から在宅・地域への医療の移行や少子高齢化社会における家族の多様化が、健康問題を抱える個人を含む家族や地域にもたらす様々な問題について検討し、個人・家族・地域を繋いだ包括的なサポートについて学ぶ。
 独居老人の生活、老々介護の問題、介護負担、虐待などの社会問題には家族の抱える問題が潜んでいることを学び、地域における療養者、家族の生活を支える看護支援やリハビリテーション、地域における子育てを含めた支援の在り方を学ぶ。
 ②双方向でディスカッションを行いながら進める。

到達目標

1. リハビリテーションを中心とした地域支援の在り方を理解できる。
2. 倫理的側面から家族関係、広くは地域支援をとらえることができる。
3. 地域における認知症高齢者、家族の現状と課題について理解できる。
4. 地域における子育ての現状と課題について理解できる。
5. 在宅における療養者、家族への地域支援について理解できる。

使用教材

- 1) 山口晴保編著；認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント，協同医書出版社
 - 2) 日本在宅ケア学会誌
- * その他適宜資料を活用する。

評価方法

授業参加度・貢献度（30%）、レポート（70%）で総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

授業の中でその都度ディスカッションをするとともに講評・コメントする。

オフィスアワー

オフィスアワーは各担当者が、講義開始時に提示する

メールアドレス（#→@）

棚橋：tanahashi#takasaki-u.ac.jp 寺口：teraguti#takasaki-u.ac.jp
 篠原：shinohara#takasaki-u.ac.jp 倉林：kura#takasaki-u.ac.jp
 梅原：umehara#takasakoi-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	在宅生活を継続するためのリハビリテーション的思考について（篠原）	1	リハビリテーション高齢者のリハビリテーション定義を学習する。	1.5h	在宅生活を維持するための支援ができるように自己学習する。	1.5h
2	地域リハビリテーションを構成する専門職の連携と課題（篠原）	1	地域で障害者・家族を支えるための態勢について事前学習する。	1.5h	地域のネットワークを作るために自分で出来ることを補完学習する。	1.5h
3	行政における地域支援事業①（倉林）	2,3	地域包括ケアシステムおよび行政の高齢者保健施策について調べておく。	1.5h	講義資料を読み直し、地域高齢者支援の課題を整理する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	行政における地域支援事業②（倉林）	2,3	地域包括ケアシステムおよび行政の高齢者保健施策について調べておく。	1.5h	講義資料を読み直し、地域高齢者支援の課題を整理する。	1.5h
5	地域で暮らす認知症高齢者（若年性認知症患者を含む）及び家族のおかれている現状と課題（梅原）	3	新聞やネットニュース等から認知症者や家族等が置かれている社会問題について調べ、事例を持参する。	1.5h	現状から課題を整理する。	1.5h
6	地域における子育ての現状と課題（寺口）	4	子育て世代包括支援センターの制度や社会サービス内容について調べておく。	1.5h	現状の子育て支援における問題を理解する。	1.5h
7	在宅における療養者への支援の在り方（棚橋）	5	地域における療養者の支援方法について書籍等にて調べておく。	1.5h	不足する学習内容を補完学習する。	1.5h
8	地域支援に関する課題と今後の展望（棚橋）	1,2,3,4,5	地域における課題について最新情報について学習しておく。	1.5h	不足する学習内容を補完学習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

授業内容に基づき自ら学習すべき内容を自律的に学習する。

予習・復習は、原則として全授業をとおして30時間を行う。

学習過程において質問等生じた場合にはメール等や講義開始前、終了後に対応する。

印刷

健康科学特論

英文名：Advanced Health Science

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

桑原敦志、入澤孝一、角野善司

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①健康寿命の延伸には、栄養、身体活動・運動、心の安静、生体防御機構(免疫)の維持が必須である。本授業では、健康の仕組み、身体活動・運動、心の安静、免疫の基礎知識と自己免疫疾患、生活習慣病とその予防など、健康維持における心身のあり方の重要性を科学的根拠に基づき理解する。
- ②講義の実施方法はオムニバス方式で行う。

到達目標

- 1.健康とは何か、健康の概念について理解できる。
- 2.健康の維持・増進と身体活動・運動との関連性について理解できる。
- 3.身体的健康と精神的健康の関連性について理解できる。
- 4.ストレスによる生体反応と健康障害のメカニズムおよび効果的なストレス対処法について理解できる。
- 5.生体防御と免疫機構について理解できる。

参考文献

参考書：別冊ニュートン「人体完全ガイド」第3版 ISBN 978-4-315-52503-8 ニュートンプレス 2022年 1980円

評価方法

対面で行う場合：課題レポート3部（各30%） 授業の積極性（10%）で総合的に判断する。トータルで100%とする。

オンラインで行う場合：Cラーニングを用いた小テスト（教員各30%）、オンライン授業の積極性（10%）で判断する。トータル100%とする。

課題・評価に対するフィードバック方法

講義内で質問し、その返答に対する正当性、および発表態度についてディスカッション、提出レポートの内容、完成度をコメント。

オンラインで行う場合は、アンケート回答という形でフィードバックする。

オフィスアワー

水曜日13時から14時30分 5号館3階301研究室

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	健康科学とは？健康寿命の延伸を目指すために（桑原）	1	健康科学に関する文を読んで、自分の持っている知識の整理しておく。	1.5h	配布されたプリントに基づく討論の内容を考察しレポートにまとめる。	1.5h
2	身体活動・運動と健康および健康障害－老化と骨粗しょう症（入澤）	2,3	運動と筋肉・骨格の関係について知識の整理をしていく。	1.5h	授業終了後、配布課題についてレポートにまとめる。	1.5h
3	身体活動・運動と健康および健康障害－肥満（入澤）	2,3	運動・食生活と肥満の関係について知識を整理していく。	1.5h	授業終了後、配布課題についてレポートにまとめる。	1.5h
4	身体活動・運動と健康および健康障害－生活習慣病（入澤）	2,3	運動と生活習慣病についての知識を整理していく。	1.5h	授業終了後、配布課題についてレポートにまとめる。	1.5h
5	身体活動・運動の評価方法（入澤）	2,3	新体力テストについて知識をまとめていく。	1.5h	児童生徒の体力と運動の関連について課題を考察し、レポートにまとめる。	1.5h
6	身体的健康と精神的健康の関連性（角野）	2,3,4	心身の健康の連関に関する基礎知識を学習する。	1.5h	配布プリントに従って、身体的健康と精神的健康の関連性について考察し、レポートにまとめる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	身体的健康度の評価方法（角野）	2,3,4	身体的健康度の評価方法に関する既存の知識を整理するとともに、関連する研究知見を調べる。	1.5h	配布プリントに従って、各種の身体的健康度の評価方法の利点・留意点について、レポートにまとめる。	1.5h
8	精神的健康度の評価方法（角野）	2,3,4	精神的健康度の評価方法に関する既存の知識を整理するとともに、関連する研究知見を調べる。	1.5h	配布プリントに従って、各種の精神的健康度の評価方法の利点・留意点について、レポートにまとめる。	1.5h
9	ストレスと生体反応・健康障害（角野）	2,3,4	ストレス学説に関する基礎知識を学習する。	1.5h	配布プリントに従って、ストレスが生体反応・健康障害を生じさせるメカニズムを理解し、レポートにまとめる。	1.5h
10	ストレス対処行動と評価方法（角野）	2,3,4	ストレスコーピングに関する基礎知識を学習する。	1.5h	配布プリントに従って、コーピングによるストレス緩和効果について、レポートにまとめる。	1.5h
11	生体防御と免疫機構（桑原）	5	免疫機構を理解するための基礎知識を学習する。	1.5h	配布プリントに従って、免疫機構の知見を理解し健康を保つのに役立っているかをレポートにまとめる。	1.5h
12	感染症と免疫（桑原）	5	感染症発症メカニズムや免疫の破たんを学習する。	1.5h	配布プリントに従って感染防御、自己免疫疾患を理解しレポートにまとめる。	1.5h
13	生活習慣病が招く健康破たんの結果とは（桑原）	2,3	糖尿病に関する基礎知識を学習する。	1.5h	配布プリントおよびスライドから糖尿病の診断、治療、予防を理解しレポートにまとめる。	1.5h
14	生活習慣病予防がもたらす社会的利益（桑原）	2,3	メタボリックシンドロームの基礎知識を学習する。	1.5h	配布プリントおよびスライドからメタボリックシンドロームと動脈硬化を理解しレポートにまとめる。	1.5h
15	食事・運動・ストレスコントロールで健康増進（桑原）	2,3,4	健康増進のための方法を学習する。	1.5h	食事や運動により生活習慣病を予防し、ストレスを解消する手段をレポートにまとめる。	1.5h

備考



単位修得に必要な時間を満たしていない場合
記載した予習・復習時間では、単位取得に必要な時間に満たないため、各自で補完すること。
予習はノートを作成し、まとめてきた上で講義に望む。復習は講義で学習した事項およびその後の自己学習を加え、エビデンスを持った、現時点で最新の疾患に関する知見を明らかにし、レポート作成を行う。 下記メール等での連絡の上、学習に関する質問等は随時受け付ける。

印刷

病態生理学特論

英文名：Advanced pathophysiology

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

田中聡一、渡邊秀臣、桑原敦志

科目に関連した実務経験

非常勤医師として病院に勤務（現在）

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①患者の身体状況を把握し、適切な診療に結び付けていくために、エビデンスに基づいた情報収集と判断が必要である。そのために必要な臨床検査の種類とその意義について学習し、臓器別の病態生理学を詳細に学び、患者の全体的な病態生理を把握する。
- ②スライドや資料を使いながら講義やディスカッションを行う。

到達目標

- 1.患者の健康管理・病態把握・病状管理のために必要な理学的所見および病態生理を説明できる。
- 2.適切な病態把握と臨床検査の方法、そしてそれを身体所見と結びつけて考え、適切な治療を選択できる。
- 3.理学所見や臨床検査学を通じて得られた情報から病態生理の知識に裏づけた医療的アプローチが実践できる。

使用教材

北川美千代(2012)臨床家のための基礎からわかる病態生理学(医道の日本社)

評価方法

参加態度80%、レポート20%で総合的に判断する。

* オンライン授業の場合も同様を予定。

課題・評価に対するフィードバック方法

講義内で質問し、その返答に対する正当性、および発表態度についてディスカッション、提出レポートの内容、完成度をコメント。

オフィスアワー

メール等で学習に関する質問は随時受け付ける。

メールアドレス（#→@）

stanaka#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	臨床検査から病態を考察（桑原）	1,2,3	臨床検査に関して基礎知識を学習しておく。	1.5h	実際の患者データをみて、病態を検討し、関連する疾患を考察しレポートにまとめる。	1.5h
2	感染症の病態生理と院内感染（桑原）	1,2,3	感染症、院内感染防止について基礎知識を学習しておく。	1.5h	感染症の実態と感染経路別院内感染防止策を考察しレポートにまとめる。	1.5h
3	甲状腺疾患の病態生理（桑原）	1,2,3	甲状腺疾患に関する基礎知識を学習しておく。	1.5h	甲状腺疾患合併妊娠に関する注意点を考察しレポートにまとめる。	1.5h
4	自己免疫疾患の病態生理（桑原）	1,2,3	アレルギーと自己免疫疾患に関する基礎知識を学習しておく。	1.5h	疫機序の破たんによる疾患を考察しレポートにまとめる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	呼吸器疾患の病態生理（桑原）	1,2,3	慢性閉塞性肺疾患に関する基礎知識を学習しておく。	1.5h	慢性閉塞性肺疾患の成因および対応を考察しレポートにまとめる。	1.5h
6	循環器疾患の病態生理（桑原）	1,2,3	心臓の解剖、生理学および検査を学習しておく。	1.5h	心電図の成り立ちと心電図からわかることを考察しレポートにまとめる。	1.5h
7	骨折の病態生理（渡邊）	1,2,3	骨折を起こしやすい部位と種類を学習しておく。	1.5h	骨折の対応法をレポートにまとめる。	1.5h
8	骨、関節系の痛み（渡邊）	1,2,3	骨、関節系で頻度の高いものを調べておく。	1.5h	痛みの原因となるものをレポートにまとめる。	1.5h
9	ロコモティブ症候群（渡邊）	1,2,3	ロコモティブ症候群の定義と病態を調べておく。	1.5h	ロコモティブ症候群の対策をレポートにまとめる。	1.5h
10	内分泌系の生理と疾患（田中）	1,2,3	代表的な内分泌器官を挙げ、放出されるホルモンについて学習しておく。	1.5h	放出されるホルモンの標的とその作用についてレポートにまとめる。	1.5h
11	消化器系の生理と疾患（田中）	1,2,3	食道、胃、十二指腸、小腸、大腸にみられる疾患について学習しておく。	1.5h	肝臓、胆道系、膵臓にみられる疾患についてレポートにまとめる。	1.5h
12	腎・泌尿器系の生理と疾患（田中）	1,2,3	腎臓、尿路、膀胱、尿道のマクロ、ミクロの病理および解剖（含む血管系、内分泌系、神経系）を学習する。	1.5h	腎臓、尿路、膀胱、尿道に関する疾患について解剖・病態生理の視点から説明し、レポートにまとめる。	1.5h
13	神経系の生理と疾患（田中）	1,2,3	中枢神経、末梢神経、筋肉のマクロ、ミクロの病理および解剖（含む血管系、内分泌系）を学習する。	1.5h	中枢神経、末梢神経、筋肉に関する疾患について解剖・病態生理の視点から説明し、レポートにまとめる。	1.5h
14	感覚器の生理と疾患（田中）	1,2,3	体性感覚系のマクロ、ミクロの病理および解剖（含む血管系、内分泌系、神経系）を学習する。	1.5h	体性感覚系に関する疾患について解剖・病態生理の視点から説明し、レポートにまとめる。	1.5h
15	口腔の生理と疾患（田中）	1,2,3	口腔、歯のマクロ、ミクロの病理および解剖（含む血管系、内分泌系、神経系）を学習する。	1.5h	口腔、歯に関する疾患について解剖・病態生理の視点から説明し、レポートにまとめる。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

予習、復習は原則として全授業を通して60時間は行う。予習はノートを作成し、まとめてきた上で講義に望む。復習は講義で学習した事項およびその後の自己学習を加え、エビデンスを持った、現時点で最新の疾患に関する解剖・病態生理の視点をもって、レポート作成を行う。下記メール等での連絡の上、学習に関する質問等は随時受け付ける。オフィスアワーは授業前後。

印刷

医療栄養学特論

英文名：Advanced medical nutrition

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

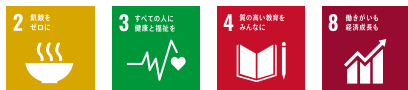
担当教員

竹内真理

科目に関連した実務経験

管理栄養士として国立病院機構に勤務（経験）、健大附属クリニック管理栄養士兼任

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①傷病者のための適切な栄養療法を見極め、治療方針（栄養療法）を提案できる知識を身につけること。また、傷病者のQOLを損なうことなく栄養療法を実践できる知識を身につけることを目的とする。
- ②授業は、配布資料を用いて進める。事例や症例検討を通して、知識と実践力を身に着ける。

到達目標

- 臨床現場における傷病者の様々な病態を把握し、疾病に応じた栄養療法を選択できる力を修得する。
- 栄養スクリーニングおよび栄養アセスメントを実施し、必要栄養量や栄養補給方法を選択できる能力を修得する。
- ベッドサイドや在宅医療の現場での栄養管理を実践し、栄養ケアプランを立案する能力を修得する。
- NST活動などのチーム医療においてディレクターやアシスタントディレクターとして活躍できる力を養う。

使用教材

各講義時に資料を配布する。

参考文献

静脈経腸栄養ハンドブック（南江堂）、NSTガイドブック（メディカルレビュー社）、病態栄養ガイドブック（メディカルレビュー社）

評価方法

授業中の発表や発言内容（50%）、学習意欲（20%）、レポート提出（30%）にて総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

授業の中で、その都度ディスカッションするとともに評価およびコメントする。

オフィスアワー

木曜2-4時限。1号館308研究室

メールアドレス（#→@）

mtakeuchi@takasaki-u.ac.jp 質問等はメールでも受け付けます。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	栄養評価。栄養スクリーニングと栄養アセスメント	1,2	学部の栄養学を復習しておく	1.5h	学習した内容を次の講義までに再度確認する	1.5h
2	栄養補給量（投与エネルギー、栄養素、水、電解質など）の算定と栄養補給法の選択	1,2	配布資料の指定箇所を事前に目を通す	1.5h	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する	1.5h
3	栄養ケアプランの立案（診断計画、治療計画、教育計画）	1,2	配布資料の指定箇所を事前に目を通す	1.5h	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	栄養補給の方法①（経口摂取，栄養補助食品の使い方）	1,2	配布資料の指定箇所を事前に目を通す	1.5h	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する	1.5h
5	栄養補給の方法②（経腸栄養，静脈栄養）	1,2	配布資料の指定箇所を事前に目を通す	1.5h	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する	1.5h
6	日本人の食事摂取基準，食生活指針，食事バランスガイド	1,2	配布資料の指定箇所を事前に目を通す	1.5h	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する	1.5h
7	栄養ケアプロセス（NCP）と栄養診断	1,2,4	配布資料の指定箇所を事前に目を通す	1.5h	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する	1.5h
8	チーム医療とNST活動	1,2,4	配布資料の指定箇所を事前に目を通す	1.5h	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する	1.5h
9	入院患者の退院支援	1,2,4	配布資料の指定箇所を事前に目を通す	1.5h	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する	1.5h
10	在宅患者の栄養管理	1,2,4	配布資料の指定箇所を事前に目を通す	1.5h	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する	1.5h
11	病態別栄養管理（内科領域）①	1,2,3,4	配布資料の指定箇所を事前に目を通す	1.5h	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する	1.5h
12	病態別栄養管理（内科領域）②	1,2,3,4	配布資料の指定箇所を事前に目を通す	1.5h	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する	1.5h
13	病態別栄養管理（外科領域）①	1,2,3,4	配布資料の指定箇所を事前に目を通す	1.5h	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する	1.5h
14	病態別栄養管理（外科領域）②	1,2,3,4	配布資料の指定箇所を事前に目を通す	1.5h	その日の学習内容を次回講義までに再度確認する	1.5h
15	まとめ	1,2,3,4	今まで学んだ栄養管理について，自分の専門職の領域でどのように活かすことができるのか考える	1.5h	自分の思い描く看護師像についてまとめる	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

予習復習時間はレポート作成のための学習時間で補完すること
オンラインで実施する場合：状況に応じ，講義内容，評価方法，試験は変更することがある。

印刷 

薬物動態学特論

英文名：Advanced Biopharmaceutics

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

荻原琢男

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①薬物の生体膜透過機構、生体内での吸収、体内分布、代謝および排泄を理解し、ファーマコキネティクス理論による体内薬物濃度の解析と血中薬物濃度モニタリング（TDM）の意義を学ぶ。また、妊娠時や授乳時に注意すべき医薬品について、事例を示しながら概説する。
- ②対面で行う。

到達目標

- 1.薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬効発現の関わりについて説明できる。
- 2.薬物の代表的な投与方法（剤形、投与経路）を列挙し、その意義を説明できる。
- 3.経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化（崩壊、分散、溶解など）を説明できる。
- 4.妊娠時の服用について、特に胎児移行の観点から注意すべき薬物について、説明できる。
- 5.授乳時の服用について、特に乳汁移行の観点から注意すべき薬物について、説明できる。

使用教材

基礎からわかる妊婦・授乳婦のくすりと服薬指導 第2版 ナツメ社

参考文献

「エピソード薬物動態学」 辻彰 京都廣川書店

評価方法

複数回の症例レポート（50%）と期末試験（50%）によって、薬物動態学の総合的な理解度を測る。

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。

オフィスアワー

講義当該時限の前後の時

メールアドレス（#→@）

プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションするとともに講評・コメントする。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	薬物の生体内運命を理解するための、薬物動態学の意義を学ぶ	1	シラバスを予習しておくこと。	1.5h	本科目の概要・課題について復習し、理解すること。	1.5h
2	薬物の生体膜透過機構と吸収、代表的な投与方法について学び、薬物動態学と製剤学の関連について	2,3	講義内容について概要を調べておく。	1.5h	講義内容をまとめ、理解する。	1.5h
3	薬物の生体膜透過機構と吸収、代表的な投与方法について学び、薬物動態学と製剤学の関連について	2,3	講義内容について概要を調べておく。	1.5h	講義内容をまとめ、理解する。	1.5h
4	薬物の体内分布、排泄およびファーマコキネティクス理論の基礎（分布容積、クリアランスなど）	1	講義内容について概要を調べておく。	1.5h	講義内容をまとめ、理解する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	薬物の体内分布、排泄およびファーマコキネティクス理論の基礎（分布容積、クリアランスなど）	1	講義内容について概要を調べておく。	1.5h	講義内容をまとめ、理解する。	1.5h
6	薬物の代謝とそれに関わる酵素、その阻害および誘導、代謝に関わる相互作用について	1,2	講義内容について概要を調べておく。	1.5h	講義内容をまとめ、理解する。	1.5h
7	妊娠時の服用について、特に胎児移行の観点から注意すべき薬物について①	1,4	講義内容について概要を調べておく。	1.5h	講義内容をまとめ、理解する。	1.5h
8	妊娠時の服用について、特に胎児移行の観点から注意すべき薬物について②	1,4	講義内容について概要を調べておく。	1.5h	講義内容をまとめ、理解する。	1.5h
9	授乳時の服用について、特に乳汁移行の観点から注意すべき薬物について①	1,5	講義内容について概要を調べておく。	1.5h	講義内容をまとめ、理解する。	1.5h
10	授乳時の服用について、特に乳汁移行の観点から注意すべき薬物について②	1,5	講義内容について概要を調べておく。	1.5h	講義内容をまとめ、理解する。	1.5h
11	薬物動態パラメータの算出方法とその意味について	1,2,3,4,5	講義内容について概要を調べておく。	1.5h	講義内容をまとめ、理解する。	1.5h
12	薬効に個人差が生じた場合の薬物の投与設計（投与量、投与間隔等）について、実際の事例を通じて理解する（演習形式）	1,2,3	講義内容について概要を調べておく。	1.5h	講義内容をまとめ、理解する。	1.5h
13	薬効に個人差が生じた場合の薬物の投与設計（投与量、投与間隔等）について、実際の事例を通じて理解する（演習形式）	1,2,3	講義内容について概要を調べておく。	1.5h	講義内容をまとめ、理解する。	1.5h
14	薬物動態学の最近のトピックス	1,2,3,4,5	講義内容について概要を調べておく。	1.5h	講義内容をまとめ、理解する。	1.5h
15	薬物動態学特論のまとめ	1,2,3,4,5	講義内容について概要を調べておく。	1.5h	講義内容をまとめ、理解する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

予習・復習は原則として、全授業をとおして45時間は行う。

印刷 

医療倫理学特論

英文名：Advanced Medical Ethics

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
 - ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
 - ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

倉林しのぶ、大石桂子

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①近年の生命倫理学・医療倫理学に関する諸問題を学ぶだけにとどまらず、臨床現場で起こりうる個々の倫理的問題について検討する。また、“医療を行う側”と“医療を受ける側”それぞれの立場における価値観の相違や、倫理的問題を取り巻く背景を理解しながら問題解決の方策を探る。
- ②具体的な事例を用い理論的な検討を行う。また、文献購読やグループディスカッションを通して、自己と他者との価値観の相違や個をとり巻く背景を理解しながら問題解決の方策を探る。

到達目標

1. 医療を支える人間と生についての基本的な理念を理解できる。
2. 現代医療の倫理的問題について、正確な知識と多角的な視野をもつことができる。
3. 医療職が臨床で直面する倫理的問題を理解できる。
4. 医療職、患者、家族それぞれの価値観の違いを理解できる。
5. 倫理的問題の背景を理解しながら、問題解決に向けた方策を検討できる。

使用教材

テキストは使用しない。配布資料を中心とする。

参考文献

参考文献： 霜田求：テキストブック生命倫理。法律文化社 2018、赤林朗：入門・医療倫理Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ 勁草書房 2009、福井次矢編：臨床倫理学入門 医学書院、2003
生命倫理学会誌，死の臨床研究会誌 等

評価方法

レポート（30％） 授業参加度・授業貢献度（70％）
オンラインの場合もZOOM等を利用し講義を行うため、同様に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

グループディスカッション、また、事例検討では、その都度、講評とともにコメントする。
オンラインの場合も同様に、C-learning等を活用してコメントをフィードバックする。

オフィスアワー

倉林：オフィスアワー：月曜日・火曜日の11：00～13：00
大石：オフィスアワー：月曜日13：00～14：00、金曜日10：45～12：15

メールアドレス（#→@）

倉林：kura#takasaki-u.ac.jp
大石：oishi#takasaki-u.ac.jp
＊メールの場合は専攻と氏名を必ず記載すること。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	新生児医療における代理決定（大石）	1,2,3	シラバスの講義内容を確認し、配布プリントに目を通す。	1.5h	講義資料を見直し、課題を完成させる。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
2	尊厳死とACP（大石）	2,3,4,5	シラバスの講義内容を確認し、配布プリントに目を通す。	1.5h	講義資料を見直し、課題を完成させる。	1.5h
3	海外における安楽死の事情（大石）	2,3,4	シラバスの講義内容を確認し、配布プリントに目を通す。	1.5h	講義資料を見直し、課題を完成させる。	1.5h
4	エンハンスメントー「より良い生」を求める技術と「弱さ」の価値（大石）	1,2,5	シラバスの講義内容を確認し、配布プリントに目を通す。	1.5h	講義資料を見直し、課題を完成させる。	1.5h
5	出生前検査（1）診断技術と現状（大石）	2,3,4,5	シラバスの講義内容を確認し、配布プリントに目を通す。	1.5h	講義資料を見直し、課題を完成させる。	1.5h
6	出生前診断（2）過去の優生学と技術の意義（大石）	2,3,4,5,	シラバスの講義内容を確認し、配布プリントに目を通す。	1.5h	講義資料を見直し、課題を完成させる。	1.5h
7	グリーフケア（大石）	2,3,4,5	シラバスの講義内容を確認し、配布プリントに目を通す。	1.5h	講義資料を見直し、課題を完成させる。	1.5h
8	臨床の倫理（1）医療における倫理とは何か（倉林）	1,2,3	シラバスの講義内容を確認しテーマに沿った自分の考えをまとめておくこと。	1.5h	講義資料を見直し、医療職、患者、家族それぞれの価値観の違いについて振り返る。	1.5h
9	臨床の倫理（2）生と死にかかわる倫理的課題（倉林）	1,2,3	生殖または死に関わる場面での倫理的課題について考える。	1.5h	講義資料を見直し、自身の研究にリンクして考える。	1.5h
10	臨床の倫理（3）研究倫理（倉林）	3,4	看護研究法で学んだ研究倫理について振り返りかえておく。	1.5h	講義資料を見直し、自身の研究に関する倫理的配慮について考える。	1.5h
11	文献抄読1（倉林）	3,4	医療倫理・臨床倫理に関する文献を読み、内容を把握する。	1.5h	ディスカッションの内容から学んだことを振り返る。	1.5h
12	文献抄読2（倉林）	3,4	医療倫理・臨床倫理に関する文献を読み、内容を把握する。	1.5h	ディスカッションの内容から学んだことを振り返る。	1.5h
13	事例検討（1）（倉林）	2,3,4,5	文献を読み込み、資料を作成する。	1.5h	資料文献を見直す。	1.5h
14	事例検討（2）（倉林）	2,3,4,5	文献を読み込み、倫理的課題とその解決に向けた方向性について考える。	1.5h	ディスカッションの内容から学んだことを振り返る。	1.5h
15	事例検討（3）（倉林）	2,3,4,5	文献を読み込み、倫理的課題とその解決に向けた方向性について考える。	1.5h	ディスカッションの内容から学んだことを振り返り、医療者としてそれをどのように活かせるかを検討する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- ・授業はディスカッションを中心に行う。積極的に参加できることを重視する。
- ・事前に文献等を配布された場合、よく読み自分なりの考えをもって講義に参加すること。
- ・オンラインの場合、C-learning また動画配信による講義を行う。また、出席管理は C-learning 上、登録キーの管理で行う。登録キーについては講義時間内に提示する。

印刷



教育学特論

英文名：Advanced Education

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

小池洋子、茂木佐智子、樋口大輔

科目に関連した実務経験

病院の教育担当経験

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①専門職として後輩の育成に携わる者としての教育的機能を発揮できる能力を養うことを目的とする。教育対象者は青年期から成人期にあることから成人学習理論、経験学習理論を中心に教育活動を行うための知識・技術を学修する。
- ②講義において教育学の基礎知識を学習後、授業展開のプロセスを踏まえ模擬授業を実施する。

到達目標

1. 自己が経験してきた学習を通し、教育と学習について理解する。
2. 対象である青年期から成人期の学習者としての特徴を理解する。
3. 成人学習者の学習支援の方法について理解する。
4. 医療専門職の制度と教育体系を理解する。
5. 教育分野におけるICT活用の現状を理解する。
6. 教育学に基づく、授業展開過程を理解し、授業を設計する。
7. 評価の種類と意義を理解し、授業を評価・改善することを価値づける。

使用教材

必要に応じ資料を配布する。

参考文献

舟島なをみ：看護教育学第8版。医学書院、2023年

舟島なをみ：看護学教育における授業展開－質の高い講義・演習・実習の実現に向けて－第2版。医学書院、2020年

丸山仁司：リハビリテーション専門職のための教育学現場で役立つ「教える技術」。医歯薬出版株式会社、2021年

松尾睦：職場が生きて育つ「経験学習」入門。ダイヤモンド社、2011年

評価方法

授業への参加度（50％） 課題についてのプレゼンテーション内容（50％）

課題・評価に対するフィードバック方法

プレゼンテーションに対して、その都度ディスカッションを行いつつ、コメント・評価し、次の課題を明確化する。

オフィスアワー

5号館207研究室 火13：00～17：00

メールアドレス（#→@）

koike-y#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、教育、学習について（小池）	1	シラバスを読んでおく	1.5h	教育・学習について概念を整理する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
2	専門職を教育する対象者の発達段階と学習の特徴 青年期・成人期の特徴、成人学習（茂木）	2	現在、関わっている指導対象者の特徴を整理しておく	1.5h	対象者の現状を把握することの必要性和成人学習者に対する支援についての考えをまとめる	1.5h
3	臨床での学習支援 経験学習、リフレクション（小池）	3	経験学習について事前学習をする	1.5h	経験を学習にする過程を整理し、学習者への支援の考えをまとめる	1.5h
4	医療専門職の教育体系 看護職、リハビリテーション専門職、その他（小池）	2,4	自分が有する資格の法的位置づけと教育体系を確認しておく	1.5h	医療関係職種のエデュケーション体系を整理する	1.5h
5	授業展開過程① 授業設計と授業の組織化（小池）	2,4,5,6	授業設計について事前学習しておく	1.5h	授業設計の意義について自己の考えをまとめる	1.5h
6	授業展開過程② 教育目的・目標の設定（小池）	2,3,5,6	教育目的・目標の設定、授業方法について事前学習しておく	1.5h	授業設計する上で教育目的・目標を設定する意義について考えをまとめる	1.5h
7	授業展開過程③ 教育におけるICT活用（樋口）	2,5,6	教育評価の定義について事前学習しておく	1.5h	評価の意義を整理する	1.5h
8	授業展開過程④ 授業評価について（小池）	2,5,7	評価の種類について調べておく	1.5h	教育目標と教育評価の関連について整理する	1.5h
9	授業展開過程の演習① 授業案の作成（小池・茂木・樋口）	2,5,6,7	模擬授業実施のための授業案を作成する	1.5h	コメントを受け、授業案を修正する	1.5h
10	授業展開過程の演習② 授業案の作成（小池・茂木・樋口）	2,4,5,6,7	模擬授業実施のための授業案を作成する	1.5h	コメントを受け、授業案を修正する	1.5h
11	授業展開過程の演習③ 授業案の作成（小池・茂木・樋口）	2,4,5,6,7	模擬授業実施のための授業案を作成する	1.5h	コメントを受け、授業案を修正する	1.5h
12	授業展開過程の演習④ 授業案の作成（小池・茂木・樋口）	2,4,5,6,7	模擬授業実施のための授業案を作成する	1.5h	コメントを受け、授業案を修正する	1.5h
13	授業展開過程の演習⑤ 模擬授業（小池・茂木・樋口）	2,4,5,6,7	模擬授業を実施する準備をする	1.5h	模擬授業を実施しての振り返りを行う	1.5h
14	授業展開過程の演習⑩ 模擬授業実施の評価と改善（小池・茂木・樋口）	2,4,5,6,7	模擬授業を実施しての自己評価を行う。	1.5h	授業展開過程をとおして理解したことを整理する。	1.5h
15	まとめ（小池）	1,2,3,4,5,6,7	1回～14回に学習した内容を復習しておく	1.5h	学習した内容を整理する	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

- 1.授業外の学習の取り組み方
1) 自律的に学習することが基本である。
2) 各自が模擬授業を実施するため、模擬授業で取り上げる内容について知識を整理する。
3) 予習・復習の時間：各授業に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。
3.その他 オンライン授業となった場合はZOOMを用いる。

印刷

英文読解・英作文の技法

英文名：English for Health Care Science

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：1単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

松田幸子

SDGsとの関連

実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①保健医療学の論文を読み書きするのに必要な、基礎的な英語の読解力と表現力を養う。

この授業は、基礎的な英語の読解力と表現力の向上を目的とする。

②学生による発表をもとに講義を行う。

到達目標

- 1.論理的な英文構成を理解することができる。
- 2.幅広い英語の表現方法を理解することができる。

使用教材

『はじめてのアカデミックライティング』・田地野彰監修・朝日出版社・2020・1,980円(本体1,800円+税)

『5分間 英文書き換えトレーニング』・小中秀彦・南雲堂・2016・770円(本体700円+税)

国際誌掲載論文のアブストラクト(授業で配布)

評価方法

授業中の発表(70%)、課題(30%)

課題・評価に対するフィードバック方法

授業中の発表に対しては、その場でコメントをする。提出課題については、コメントをつけて返却する。

オフィスアワー

質問および学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、アカデミックライティングとは、名詞節の書き換え。	1,2	使用教材1のUnit 1、使用教材2のLessons 1 - 3	1.5h	授業で扱った内容の見直し。	1.5h
2	叙述文の書き方、形容詞節・副詞節の書き換え。	1,2	使用教材1のUnit 2、使用教材2のLessons 4 - 6	1.5h	授業で扱った内容の見直し。	1.5h
3	比較・対比を表す文章の書き方、副詞節の書き換え。	1,2	使用教材1のUnit 3、使用教材2のLessons 7 - 9	1.5h	授業で扱った内容の見直しと作文課題。	1.5h
4	原因・結果を表す文章の書き方、不定詞・分詞構文などの活用。	1,2	使用教材1のUnit 4、使用教材2のLessons 10 - 12	1.5h	授業で扱った内容の見直し。	1.5h
5	論述文の書き方、態の書き換え。	1,2	使用教材1のUnit 5、使用教材2のLessons 13 - 15	1.5h	授業で扱った内容の見直し。	1.5h
6	論述文の書き方、主語の書き換え。	1,2	使用教材1のUnit 6、使用教材2のLessons 16 - 18	1.5h	授業で扱った内容の見直しと作文課題。	1.5h
7	抄録の書き方、主語の書き換え。	1,2	Abstract 1、使用教材2のLessons 19 - 20	1.5h	授業で扱った内容の見直し。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	抄録の書き方。	1,2	Abstract 2	1.5h	授業で扱った内容の見直しと作文課題。	1.5h

合計時間（予習・復習）

24h

備考

予習欄にある指定教材の範囲をしっかりと準備して授業に臨むこと。

印刷 

研究倫理と理学療法学研究法

英文名：Advanced Research Ethics and Research Methods in Physical Therapy

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

富田洋介、竹内伸行、田中聡一、解良武士、正木光裕

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①研究倫理に関する最新の考え方を理解したうえで、理学療法におけるエビデンス構築のための研究の意義・役割および研究に必要な基礎的知識を習得する。人を対象とする研究の特殊性・倫理性を踏まえ、妥当性・信頼性の高い研究とはどのようなものか、研究をクリティークするための視点を学ぶ。実験研究、準実験研究、調査研究、尺度開発および介入研究のプロセス（研究テーマの明確化、文献検討、研究デザインの選択、対象の選定、データ収集方法、データ分析方法、結果、考察）について学ぶ。

②本講義は基本的にオンライン講義とする。必要に応じて対面での実施をする。

到達目標

- 1.最新の研究倫理に関する考え方を理解したうえで、理学療法におけるエビデンスの構築のための研究の意義・役割が理解できる。
- 2.人を対象とする研究の特殊性・倫理性を踏まえ、妥当性・信頼性の高い研究とはどのようなものか、研究をクリティークするための視点を理解できる。
- 3.各研究方法の特徴およびプロセスを理解できる。

使用教材

理学療法研究法 第3版 医学書院

評価方法

プレゼンテーション50%、レポート50%

課題・評価に対するフィードバック方法

提出されたレポート、発表用資料、発表内容等について口頭あるいは書面をもってコメントする。

オフィスアワー

月曜18：15～19：45（不在時はメールで問い合わせること）

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	理学療法におけるエビデンス構築のための研究の意義・役割、研究倫理について	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
2	最新の研究倫理に関する考え方のポイント	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
3	理学療法学における研究倫理の実践	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
4	理学療法学における研究デザインの種類と特徴	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
5	リサーチクエストからオーバービューへ	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。の不足部分を文献や配付資料	1.5h
6	データ収集と管理のポイントおよび注意点	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
7	データ解析のポイントおよび注意点	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
8	理学療法学における調査研究について	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
9	理学療法学における実験研究・準実験研究について	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
10	理学療法学における尺度開発について	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
11	理学療法学における基礎研究について	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
12	理学療法学における臨床研究について	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
13	基本的統計解析手法の理解①信頼性、妥当性、相関	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
14	基本的統計解析手法の理解②対象者数、有意水準、効果量、信頼区間MDC	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
15	研究論文の書き方（富田）	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

予習を必ず行い、疑問を明確にして授業に臨み、授業後は自己の課題を分析して知識を整理しておくこと。なお、予習復習は90分以上行う必要がある。学内で開催される研究倫理に関する講習会およびe-learningによる所定の倫理研修を必ず受講する。

印刷

障害予防学特論

英文名：Advanced Lecture on prevention of obstacle

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

田中聡一、吉田剛、解良武士、中川和昌、正木光裕

科目に関連した実務経験

非常勤医師、理学療法士として病院等に勤務（現在）

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①地域で暮らす人が、健康を維持しながら障害予防、疾病予防を実践し健康寿命を延伸していくために、理学療法士に求められる知識および技術について広く考える基盤を養う。障害の発生に関与する因子について生活環境の影響を踏まえて広くとらえ、予測的対応についてより具体的に考えるための基礎を身につける。
- ②スライドや資料を使いながら講義やディスカッションを行う。

到達目標

1. 今までに行われてきた障害予防の取り組みを概観できる。
2. 予後予測に基づく予防的対応について理解する。
3. 障害構造と生活環境の関係について理解する。
4. 効果的な障害予防について考えることができる。

参考文献

市橋則明 「運動療法学各論 高齢者の機能障害に対する運動療法」 文光堂
 鈴木隆夫 「完全版 介護予防マニュアル」 法研
 大淵修一 「予防理学療法学要論」 医歯薬出版

評価方法

参加態度80%、レポート20%で総合的に判断する。
 ＊オンライン授業の場合も同様を予定。

課題・評価に対するフィードバック方法

レポートの評価、添削をし、ディスカッションを行う。

オフィスアワー

メール等で学習に関する質問は随時受け付ける。

メールアドレス（#→@）

stanaka#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション：障害予防の概念について（田中）	1,3	高齢者の健康維持、疾病予防、介護予防の現状と課題をまとめる。	1.5h	障害予防に対する理学療法士の役割をまとめる。	1.5h
2	生活不活発病とその原因（解良）	1,2,3,4	生活不活病の定義を調べる。	1.5h	生活不活病予防の対策をまとめる。	1.5h
3	フレイルとサルコペニアについて①（解良）	1,2,3,4	フレイルとサルコペニアの定義について調べる。	1.5h	フレイルとサルコペニアの診断基準の違いについて整理する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
4	フレイルとサルコペニアについて②（解良）	1,3,4	フレイルとサルコペニアの評価について調べる。	1.5h	フレイルとサルコペニアの介入について整理する。	1.5h
5	個別性に対する評価指標（吉田）	1,2,3	障害を予防するためには個体差があることが前提となるので、項目を列挙する。	1.5h	列挙できなかった評価項目について、どのような指標が妥当か検討する。	1.5h
6	誤嚥性肺炎予防①（吉田）	1,2,3,4	誤嚥性肺炎について調べる。	1.5h	誤嚥性肺炎の原因について整理する。	1.5h
7	誤嚥性肺炎予防②（吉田）	1,2,3,4	現在どのような予防法が推奨されているか調べる。	1.5h	予防のための指導ポイントを整理してまとめる。	1.5h
8	障害の予後予測に使われる評価指標（中川）	1,2,4	自分の専門分野に関する予後予測の評価指標に関する資料を抄読する。	1.5h	授業で取り扱った評価指標を自分の専門分野にどのように応用できるかを考察する。	1.5h
9	ロコモ予防（中川）	1,2,3,4	ロコモが提唱されるに至った背景、具体策について整理する。	1.5h	ロコモ予防における専門家としての自分の役割を考察する。	1.5h
10	健康体操とその意義（中川）	1,2,3,4	健康増進のために実践されている体操・運動に関する文献を抄読する。	1.5h	ロコモ予防における専門家としての具体策を考察する。	1.5h
11	脳性麻痺における障害予防（正木）	1,2,3,4	脳性麻痺の障害について調べる。	1.5h	脳性麻痺において、発達段階（加齢も含む）の中で必要となる運動機能に対する障害予防について整理する。	1.5h
12	ダウン症における障害予防（正木）	1,2,3,4	ダウン症の障害について調べる。	1.5h	ダウン症において、発達段階（加齢も含む）の中で必要となる運動機能に対する障害予防について整理する。	1.5h
13	発達障害における障害予防（正木）	1,2,3,4	発達障害の障害について調べる。	1.5h	発達障害において、発達段階（加齢も含む）の中で必要となる認知機能に対する障害予防について整理する。	1.5h
14	認知症予防（田中）	1,3,4	アルツハイマー病の発症危険因子、脳血管性認知症の症危険因子をまとめる。	1.5h	アルツハイマー病、脳血管性認知症それぞれの予防方法を考察する。	1.5h
15	まとめ（田中）	1,2,3,4	これまで学習してきた障害予防についてプレゼンテーションの準備をする。	1.5h	プレゼンテーションで質問されたことに対する正確な解答を得る。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

地域で行われている障害予防の取り組みについて自発的に情報収集し、レポートにまとめる。なお、予習復習は90分以上行う必要がある。オフィスアワーは授業前後。メール等で学習に関する質問は随時受け付ける。

印刷

自立生活支援学特論

英文名：Advanced Lecture on Independent living support

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

篠原智行、吉田剛、田中聡一、解良武士、中川和昌、正木光裕、富田洋介

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①超高齢社会において要介護高齢者が増加し、十分な介護サービスの提供も困難になってきており、介護高齢者に対して必要な介護サービスを提供するだけでなく、できるだけ本人の潜在能力を引き出すことでより自立した生活を送ることを理学療法士として支援していく取り組みが求められている。在宅生活において求められている自立生活支援サービスの現状を知り、生活に対応するために必要な広い知識を身につけより高い問題解決能力を有する在宅サービス指導を行うための基礎を身につける。

②スライドや資料を供覧しながら、講義またはディスカッション形式で行う。

到達目標

1. 自立生活支援の概念を理解する。
2. 自立生活を支える要因を挙げることができる。
3. 退院支援における患者・家族に対する指導ポイントについて理解する。
4. 家屋環境整備や補装具の適応について理解を深める。
5. 自立支援型介護サービスの在り方について考えることができる。

使用教材

指定なし。

評価方法

参加態度 50%、発表および発表用資料 50%

課題・評価に対するフィードバック方法

提出されたレポート、発表用資料、発表内容等について口頭あるいは書面をもってコメントする。

オフィスアワー

メールにて随時応じる。

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション：自立生活支援の概念とは（田中）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
2	現在の介護サービスの実態と自立支援の取り組み状況（田中）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
3	自立生活に必要な動作と能力（解良）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
4	自立に必要なセルフエフィカシーおよび自己管理能力についての評価（解良）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
5	見守りと自立の境界および段階化についての考え方（正木）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	退院支援の実際：家屋環境への介入①（吉田）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
7	退院支援の実際：家屋環境への介入②（吉田）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
8	退院支援の実際：患者・家族教育（正木）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
9	自立支援のための補装具活用①（富田）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
10	自立支援のための補装具活用②（富田）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
11	自立支援型介護サービスの在り方について（篠原）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
12	訪問理学療法場面での自立支援アプローチ①（中川）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
13	訪問理学療法場面での自立支援アプローチ②（中川）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
14	訪問理学療法場面での自立支援アプローチ③（篠原）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
15	まとめ（篠原）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h



印刷

地域リハマネージメント特論

英文名：Advanced Lecture on Management of Community-Based Rehabilitation

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

中川和昌、吉田剛、田中聡一、篠原智行、正木光裕

科目に関連した実務経験

全教員が各自の専門下において地域における予防活動や健康増進活動に従事している。

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①医療・介護総合確保法により、医療・介護の枠組みは大きく変わろうとしている。リハビリテーション専門職種として、これから構築されていく地域包括ケアシステムの中で、地域の課題を解決するためにどのように取り組み、連携していくのかについて広く知識をもち、地域社会に有益なサービスを提供するためのマネージメント能力を養う。
- ②原則、オンライン（Zoom等）で集合し、各自が調べた内容等の発表、ディスカッション、教員からのフィードバックを通じて学修する。

到達目標

1. 医療・介護総合確保法を理解し、今後の医療・介護の流れを理解する。
2. 行政システムについて知り、身近な地域のリハサービスの実情を把握する。
3. 地域の課題を把握し、解決策を考えるための基礎を身につける。
4. リハビリテーション専門職種として行政に対するマネージメント能力を身につける。
5. リハビリテーション専門職種として地域住民に対するマネージメント能力を身につける。

使用教材

特になし（各講義に応じて提示します）

参考文献

特になし

評価方法

地域課題の調査レポート、実践レポート、情報収集方法に関するレポートなど（70%）
講義参加度・貢献度（30%）

課題・評価に対するフィードバック方法

提出されたレポートについてコメントする。また発表内容に関してコメントする。

オフィスアワー

水曜1限（4号館4階413号室）

メールアドレス（#→@）

nakagawa-ka#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション：これからの医療・介護の方向性	1,3	自分の活躍する地域リハビリテーションの現状を調べてくる	1.5h	授業の内容を踏まえ、自分の活躍する地域において必要な知識・技術を考察する	1.5h
2	行政による地域計画策定の流れおよび地域の課題	2,3	行政による地域計画策定の流れについて調べてくる	1.5h	授業の内容を踏まえ、自分の活躍する地域における課題について考察する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	地域リハビリテーションサービスと多職種連携	1,3	多職種連携について自身の考えを発表できるように準備してくる	1.5h	授業の内容を踏まえ、自分の活躍する地域における課題について考察する	1.5h
4	地域の実情を把握するための情報収集	3	自分の活躍する地域の現状を調べてくる	1.5h	授業の内容を踏まえ、自分の活躍する地域の現状に関する理解を深める	1.5h
5	行政に対するマネジメントの考え方	4	自分の活躍する地域の行政の活動状況について調べてくる	1.5h	授業の内容を踏まえ、自分の活躍する地域の行政に関する理解を深める	1.5h
6	地域包括ケアサービスにおける対応①	3,4	地域包括ケアサービスに関して調べてくる	1.5h	地域包括ケアサービスの中で、自分の専門性を活かしてどのような活動ができるか考察する	1.5h
7	地域包括ケアサービスにおける対応②	3,4	地域包括ケアサービスに関して調べてくる	1.5h	地域包括ケアサービスの中で、自分の専門性を活かしてどのような活動ができるか考察する	1.5h
8	地域住民に対するマネジメント：家族支援	3,5	家族支援に関して自身の考えを整理し、調べてくる	1.5h	授業の内容を踏まえて、自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する	1.5h
9	地域住民に対するマネジメント：自助・互助の促進	3,5	自助・互助の概念に関して調べてくる	1.5h	授業の内容を踏まえて、自分の専門性を活かしてどのような活動ができるか考察する	1.5h
10	地域住民に対するマネジメント：行動変容へのアプローチ	3,5	行動変容に関して調べてくる	1.5h	授業の内容を踏まえて、自分の専門性を活かしてどのような活動ができるか考察する	1.5h
11	地域住民に対するマネジメント：活用すべきツールの開発	3,5	地域住民に対するマネジメントにおいて、活用可能なツールに関して調べてくる	1.5h	授業の内容を踏まえて、自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する	1.5h
12	地域の課題に対する対処法①	3,5	自分の活躍する地域の課題について発表できるように準備する	1.5h	授業の内容を踏まえて、自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する	1.5h
13	地域の課題に対する対処法②	3,5	自分の活躍する地域の課題について発表できるように準備する	1.5h	授業の内容を踏まえて、自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する	1.5h
14	地域の課題に対する対処法③	3,5	自分の活躍する地域の課題について発表できるように準備する	1.5h	授業の内容を踏まえて、自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する	1.5h
15	まとめ	1,2,3,4,5	授業全体の内容を踏まえ、自分の活躍する地域でどのような活動が必要かを考察し、発表できるように準備する	1.5h	授業の内容を踏まえて、自分の活躍する地域でどのような活動が必要かを考察する	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

地域の実態調査や地域の課題の解決に関する調査を自主的に行いレポートにまとめる。
なお講義は必要に応じてオンラインで実施する。その場合は担当教員よりオンライン上で連絡がある。

印刷 

障害評価・解析学特論

英文名：Advanced Lecture on Physical Therapy Evaluation and Analysis of Obstacle

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

樋口大輔、解良武士、竹内伸行、篠原智行、富田洋介

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①理学療法分野で用いられている様々な評価法および評価指標を整理し、障害の全体像を把握するためおよび個々の問題を解決するために必要な評価・解析方法について、より具体的に理解する。問題解決のためには、病態を把握し問題となる原因を特定することが求められる。また、効果判定をより科学的に検証するために必要な要件について考え、新たな視点で評価・解析を行うための基盤を作る。
- ②授業はディスカッションを中心に行う。

到達目標

- 1.既存の評価法を項目に分けて整理し、網羅的に把握する。
- 2.生活面の問題を評価するための指標を抽出できる。
- 3.自立支援に必要な評価指標について抽出できる。
- 4.病態把握し個別対応に生かせる評価指標について理解する。
- 5.効果判定を科学的に検証するために評価・解析方法が備えるべき要件の概要を理解する。

使用教材

特に指定しない。

参考文献

内山靖 「標準理学療法学 理学療法評価学 第2版」 医学書院

評価方法

講義で指示された課題レポート（70%）、講義参加度・貢献度（30%）

課題・評価に対するフィードバック方法

提出されたレポートについてコメントする。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了時間後に応じる。

メールアドレス（#→@）

higuchi-d#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション：問題解決型の評価・解析とは（樋口）	1,4	特に必要としない。	2h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2h
2	テーマ別の評価・解析方法の整理①内部障害系（解良）	1,4	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2h
3	テーマ別の評価・解析方法の整理②神経系（篠原）	1,4	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2h
4	テーマ別の評価・解析方法の整理③運動器系（樋口）	1,4	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	痛みの評価①（樋口）	1,4	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2h
6	痛みの評価②（樋口）	1,4	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2h
7	臨床における動作解析①（富田）	5	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2h
8	臨床における動作解析②（富田）	5	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2h
9	生活面の問題に関する評価①内部障害系（解良）	2,3	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2h
10	生活面の問題に関する評価②神経系（篠原）	2,3	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2h
11	生活面の問題に関する評価③運動器系（樋口）	2,3	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2h
12	科学的検証を行うための評価・解析方法の要件①（竹内）	5	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2h
13	科学的検証を行うための評価・解析方法の要件②（竹内）	5	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2h
14	評価・解析方法の開発について（竹内）	5	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2h
15	まとめ（樋口）	1,2,3,4,5	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	2h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	2h

合計時間（予習・復習）

60h



印刷

臨床推論特論

英文名：Advanced Clinical Reasoning

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

正木光裕、吉田剛、解良武士、竹内伸行、樋口大輔、田中繁弥

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①臨床問題の解決に向けた臨床思考過程の実践について、そこで必要となる基礎知識と事例検討を通してより具体的に理解する。これにより、臨床および地域リハビリテーション場面における様々な問題の原因を追究するための思考能力を養い、問題解決能力を高めていくことで臨床実践能力向上につなげていく。
- ②実施方法として、各回の講義にてスライドを用いた説明またはディスカッションを行うことで進める。

到達目標

1. 臨床の問題を解決するための臨床推論の思考過程について理解する。
2. 臨床推論を進めるために必要な基礎知識について理解する。
3. 具体的な臨床場面における事例を通して臨床に応用できる。

使用教材

授業スライド

参考文献

内山靖 「症候障害学序説」 文光堂

評価方法

事例ならびにその周辺知識に関するポートフォリオ（70%）、講義参加度・貢献度（30%）

課題・評価に対するフィードバック方法

提出されたポートフォリオについてコメントする。

オフィスアワー

質問および学習相談には、授業開始前もしくは終了後に応じる。

メールアドレス（#→@）

科目責任者の正木 光裕（masaki#takasaki-u.ac.jp、#→@）が一括して受け、必要に応じて分担教員に引き継ぐ。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション：臨床推論における思考過程について（正木）	1,2	特に必要としない。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h
2	廃用症候群予防のための臨床推論①基礎知識（正木）	1,2	講義内容に関連する課題を 事前に指示する。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h
3	廃用症候群予防のための臨床推論②事例検討（正木）	3	講義内容に関連する課題を 事前に指示する。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h
4	基本動作の阻害因子と対処法①基礎知識（解良）	1,2	講義内容に関連する課題を 事前に指示する。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h
5	基本動作の阻害因子と対処法②事例検討－起居動作（解良）	3	講義内容に関連する課題を 事前に指示する。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	基本動作の阻害因子と対処法③事例検討一歩行（解良）	3	講義内容に関連する課題を 事前に指示する。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h
7	誤嚥性肺炎予防のための臨床推論①基礎知識（吉田）	1,2	講義内容に関連する課題を 事前に指示する。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h
8	誤嚥性肺炎予防のための臨床推論②事例検討（吉田）	3	講義内容に関連する課題を 事前に指示する。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h
9	認知症における問題行動と対処法①基礎知識（田中）	1,2	講義内容に関連する課題を 事前に指示する。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h
10	認知症における問題行動と対処法②事例検討（田中）	3	講義内容に関連する課題を 事前に指示する。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h
11	痛みの解決に向けた臨床推論①基礎知識（竹内）	1,2	講義内容に関連する課題を 事前に指示する。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h
12	痛みの解決に向けた臨床推論②事例検討（竹内）	3	講義内容に関連する課題を 事前に指示する。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h
13	転倒予防のための臨床推論①基礎知識（樋口）	1,2	講義内容に関連する課題を 事前に指示する。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h
14	転倒予防のための臨床推論②事例検討（樋口）	3	講義内容に関連する課題を 事前に指示する。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h
15	まとめ（正木）	1,2	講義内容に関連する課題を 事前に指示する。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

予習・復習の時間：15回の講義の予習・復習として合計45時間を確保することとする。

※ オンライン授業で実施する場合の変更点

- ①評価方法：上記対面授業の場合と同様であり、C-learningを使用してポートフォリオ提出を実施する。
- ②課題に対するフィードバック：上記対面授業の場合と同様であり、C-learningを使用してポートフォリオ提出においてフィードバックを実施する。

印刷 

理学療法実践学特論

英文名：Advanced Physical Therapy Practice

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：選択

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

解良武士、吉田剛、竹内伸行、樋口大輔、田中繁弥

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①最新のエビデンスに基づく理学療法実践方法についての知識を身につけ、臨床における問題解決能力を高め、正しく解決方法を選択するための基礎を身につけ、臨床場面に生かせるような能力をつけることを目標とする。
- ②講義は教員によるレクチャー、テーマに関する論文についての要約や関連知識に関しての学生発表、関連テーマについてのディベートなどを行う。

到達目標

- 各領域の理学療法実践のエビデンスについて最新の情報を身につける。
- 総合的な臨床実践能力を身につけ、臨床における問題解決能力が高まる。
- 個別性を考慮した評価に基づき、適切な実践方法の選択ができるようになる。

参考文献

参考書は、なるべく新しい情報が載っている各領域の理学療法実践書および論文を参考にする。

評価方法

各分野の理学療法実践に関するポートフォリオ（70%）、講義参加度・貢献度（30%）

課題・評価に対するフィードバック方法

提出されたレポート、発表用資料、発表内容等について口頭あるいは書面をもってコメントする。

オフィスアワー

初回講義時に提示する。

メールアドレス（#→@）

kera#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション：リハビリテーション実践に関するエビデンス（解良）	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
2	内部障害系理学療法①エビデンス（解良）	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
3	内部障害系理学療法②実践方法1（解良）	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
4	内部障害系理学療法③実践方法2（解良）	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
5	運動器系理学療法①エビデンス（樋口）	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
6	運動器系理学療法②実践方法1（樋口）	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	運動器系理学療法③実践方法2（樋口）	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
8	神経系理学療法④エビデンス（吉田）	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
9	神経系理学療法②実践方法1（吉田）	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
10	神経系理学療法③実践方法2（吉田）	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
11	誤嚥性肺炎予防に対するアプローチ（吉田）	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
12	認知症予防に対するアプローチ（田中）	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
13	物理療法①（竹内）	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
14	物理療法②（竹内）	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
15	まとめ（解良）	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

学生からの発表やディベートなどを行う場合は、事前に課題や知識整理などの指示を出すことがある。

印刷 

地域リハビリテーション特論

英文名：Advanced Community-based Rehabilitation

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

大野洋一、吉田剛、田中聡一、解良武士、篠原智行、中川和昌、正木光裕

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①医療と介護のしくみが変化しようとしている今、地域リハビリテーションは、介護予防、健康増進、疾病予防、地域作りなど、地域住民に対して多岐にわたる対応が求められる重要なものとなっている。この講義では、地域リハビリテーションの理念と現状・課題を学習し、地域理学療法学研究および実践に必要な地域リハビリテーションに関する基礎知識、技術を会得し、応用できるようになることを目標に行う。そして、地域理学療法学研究に必要な課題を見つけることができるよう、事例を挙げながら実践学習をする。

②適宜、資料等を使用して進める。
出席は講義時に口頭にて確認する。

到達目標

- 1.地域リハビリテーションの理念を説明できる。
- 2.地域リハビリテーションシステムの現状と問題点をしっかりと把握することができる。
- 3.地域における地域リハビリテーションサービスの現状と問題点を把握することができる。
- 4.地域作りに貢献する地域リハビリテーションの役割を説明できる。
- 5.地域リハビリテーションの中で取り組むべき地域理学療法の課題を見つけることができる。

使用教材

講義資料は必要に応じて適宜配布する。

評価方法

授業参加度・貢献度 50% レポート 50%

課題・評価に対するフィードバック方法

提出されたレポート、発表用資料、発表内容等について口頭あるいは書面をもってコメントする。

オフィスアワー

初回講義時に提示する。

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	地域リハビリテーションの理念とこれまでの歴史（田中）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
2	行政による介護予防施策と地域リハビリテーション活動の実践（中川）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
3	これまでの健康増進への取り組みと今後の方向性（解良）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
4	これまでの疾病予防対策と今後の方向性（解良）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	日本におけるコミュニティとしての地域作りの現状と国際比較（中川）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
6	地域住民に対する啓発活動の現状（正木）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
7	専門職者に対する地域リハビリテーション教育の現状と問題点（正木）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
8	地域リハビリテーションサービスにおける職種間連携の実際（田中）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
9	地域リハビリテーション支援体制整備事業の地域（群馬県）における現状（中川）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
10	通所サービスにおける現状と問題点（吉田）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
11	訪問サービスにおける現状と問題点（中川）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
12	地域ケア会議の現状と問題点（中川）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
13	地域連携クリティカルパスの現状と問題点（田中）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
14	コストパフォーマンスを考えた地域リハビリテーションサービスの在り方（篠原）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
15	地域リハビリテーションに従事する人材育成方法の在り方（大野）	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

自分の生活居住範囲にある、実際の地域理学療法の実状を調査する。その上で、授業内容と照らし合わせて、知識を身につけた上での自分なりの考察が発言できるように準備すること。
担当教員連絡先およびオフィスアワーについては初回講義時に提示する。

印刷

地域理学療法学特論

英文名：Advanced Community-based Physical Therapy

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

中川和昌、吉田剛、田中聡一、解良武士、正木光裕、田中繁弥

科目に関連した実務経験

全教員が各自の専門下において地域における予防活動や健康増進活動に従事している。

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①地域理学療法は、介護予防、健康増進、疾病予防、地域作りなど、今や多岐にわたる重要なものとなっている。この講義では、地域理学療法実践に関して重要な知識を各論的に詳細に学習し、地域理学療法学研究で必要な研究計画、研究実践に望むことができるようにする。
- ②原則、オンライン（Zoom等）で集合し、各自が調べた内容等の発表、ディスカッション、教員からのフィードバックを通じて学修する。

到達目標

1. 地域理学療法の現状と関わるために必要な基礎知識について理解することができる。
2. 地域理学療法に関わる理学療法士の役割を説明できる。
3. 各種の障がいに関する地域理学療法研究の動向を説明できる。
4. 地域理学療法システムなどに関わる研究の動向についても理解することができる。
5. これからの地域理学療法の課題を広い視野で考えることができるようになる。

使用教材

特になし（各講義に応じて提示します）

参考文献

特になし

評価方法

地域課題の調査レポート、実践レポート、情報収集方法に関するレポートなど（70％）講義参加度・貢献度（30％）

課題・評価に対するフィードバック方法

提出されたレポートについてコメントする。また発表内容に関してコメントする。

オフィスアワー

水曜1限(4号館4階413号室)

メールアドレス（#→@）

nakagawa-ka#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	地域理学療法に関わる理学療法士の現状と役割	1,5	自分の専門分野において地域理学療法に関係する資料を抄読する	1.5h	授業の内容を踏まえて、自分が専門分野でどのように活躍できるかを考察する	1.5h
2	高次脳機能障がいに関わる地域理学療法研究の実態	3,4,5	高次脳機能障がいに関わる地域理学療法を実践するうえで必要な知識・技術について調べてくる	1.5h	授業の内容を踏まえて、自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	認知症に関わる地域理学療法研究の実際	3,4,5	認知症に関わる地域理学療法を実践するうえで必要な知識・技術について調べてくる	1.5h	授業の内容を踏まえて、自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する	1.5h
4	疾病予防に関する研究の実際	3,4,5	疾病予防に関わるうえで必要な知識・技術について調べてくる	1.5h	授業の内容を踏まえて、自分が専門分野でどのように活躍できるかを考察する	1.5h
5	地域理学療法に必要な知識と技術	1,2,5	地域理学療法を実践するうえで必要な知識・技術について調べてくる	1.5h	授業の内容を踏まえて、自分が専門分野でどのように活躍できるかを考察する	1.5h
6	内部障害系障がいに対する地域理学療法研究の実際	3,4,5	内部障害系障がいに関わる地域理学療法を実践するうえで必要な知識・技術について調べてくる	1.5h	授業の内容を踏まえて、自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する	1.5h
7	介護予防に関する研究の実際	3,4,5	介護予防に関わるうえで必要な知識・技術について調べてくる	1.5h	授業の内容を踏まえて、自分が専門分野でどのように活躍できるかを考察する	1.5h
8	福祉用具開発に関する研究の実際	3,4,5	福祉用具開発に関わるうえで必要な知識・技術について調べてくる	1.5h	授業の内容を踏まえて、自分の地域でどのような活動が必要かを考察する	1.5h
9	神経系障がいに対する地域理学療法研究の実際	3,4,5	神経系障がいに関わる地域理学療法を実践するうえで必要な知識・技術について調べてくる	1.5h	授業の内容を踏まえて、自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する	1.5h
10	運動機能障がいに関わる地域理学療法研究の実際	3,4,5	運動機能障がいに関わる地域理学療法を実践するうえで必要な知識・技術について調べてくる	1.5h	授業の内容を踏まえて、自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する	1.5h
11	地域理学療法のシステムに関する研究の実際	3,4,5	地域理学療法のシステムに関して必要な知識・技術について調べてくる	1.5h	授業の内容を踏まえて、自分が専門分野でどのように活躍できるかを考察する	1.5h
12	地域理学療法に関与する人材育成に関する研究の実際	3,4,5	地域理学療法に関与する人材育成を実施する上で必要だと考えられる知識・技術について、発表できるように準備する	1.5h	授業の内容を踏まえて、自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する	1.5h
13	地域理学療法の実践に関する研究の実際	3,4,5	地域理学療法のシステム、人材育成の内容を踏まえ、実際の実践を科学的に評価する上で必要だと考えられる知識・技術について調べてくる	1.5h	授業の内容を踏まえて、自分の活躍する地域でどのような活動ができるのかを考察する	1.5h
14	これからの地域理学療法学	2,5	地域理学療法の今後の展望、未来に関して考察し、発表できるように準備する	1.5h	授業の内容を踏まえて、自分の地域でどのような活動が必要かを考察する	1.5h
15	まとめ	2,5	授業全体の内容を踏まえ、自分の活躍する地域でどのような活動が必要かを考察し、発表できるように準備する	1.5h	授業の内容を踏まえて、自分の地域でどのような活動が必要かを考察する	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

自分の生活居住範囲にある、実際の地域の現状を調査する。その上で、授業内容と照らし合わせて、知識を身につけた上での自分なりの考察が言えるようにすること。
なお講義は必要に応じてオンラインで実施する。その場合は担当教員よりオンライン上で連絡がある。

印刷

地域リハビリテーション演習

英文名：Seminar:Advanced Community-based Rehabilitation

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

篠原智行、吉田剛、田中聡一、解良武士、中川和昌、正木光裕、大野洋一

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①この演習では各自の研究課題までの過程を踏み、進行させていく。地域理学療法学研究の実際を体験しながら、修士号取得にふさわしい、地域理学療法領域で貢献できる研究ができるようにテーマを抽出する。
- ②スライドや資料を供覧しながら、講義またはディスカッション形式で行う。

到達目標

- 1.明確に興味ある研究内容を説明できる。
- 2.地域リハビリテーションに関する問題点の討論ができる。
- 3.地域リハビリテーションに対する適切な情報収集ができる。
- 4.エビデンスに裏付けされた発表と討論ができる。
- 5.地域理学療法の課題を見出すことができる。

使用教材

特に指定しない。

評価方法

参加態度 50%、発表および発表用資料 50%

課題・評価に対するフィードバック方法

提出された発表用資料および発表内容に関してコメントする。

オフィスアワー

メールにて随時応じる。

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	地域リハビリテーションで各自が興味のある点の発表と討論	1,2	地域リハビリテーションで各自が興味のある点に関して発表準備をする。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h
2	地域リハビリテーションで各自が興味のある点の発表と討論	1,2	地域リハビリテーションで各自が興味のある点に関して発表準備をする。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h
3	地域リハビリテーション研究の関連文献の収集演習	3,4	自分の専門分野において地域リハビリテーションに関係する資料を抄読する	1.5h	授業で取り扱った内容を自分の専門分野にどのように応用できるかを考察する	1.5h
4	地域リハビリテーション研究の関連文献の収集演習	3,4	自分の専門分野において地域リハビリテーションに関係する資料を抄読する	1.5h	授業で取り扱った内容を自分の専門分野にどのように応用できるかを考察する	1.5h
5	地域理学療法学研究の最新情報の収集演習	3,4	関連する文献を読み情報収集する	1.5h	授業で取り扱った内容を自分の専門分野にどのように応用できるかを考察する	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
6	地域理学療法学研究の最新情報の収集演習	3,4	関連する文献を読み情報収集する	1.5h	授業で取り扱った内容を自分の専門分野にどのように応用できるかを考察する	1.5h
7	地域リハビリテーション活動への参加（実習）	5	実習に当たって必要な情報を収集する	1.5h	実習で得た内容をまとめ直し、発表準備をする。	1.5h
8	地域リハビリテーション活動への参加（実習）	5	実習に当たって必要な情報を収集する	1.5h	実習で得た内容をまとめ直し、発表準備をする。	1.5h
9	地域リハビリテーション活動への参加（実習）	5	実習に当たって必要な情報を収集する	1.5h	実習で得た内容をまとめ直し、発表準備をする。	1.5h
10	活動参加報告会	2,5	発表のための準備をする	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h
11	各自が興味のある問題に対する情報収集を行い発表	1,2,3,4,5	自分の専門分野において地域リハビリテーションに関係する資料を抄読する	1.5h	授業で取り扱った内容を自分の専門分野にどのように応用できるかを考察する	1.5h
12	各自が興味のある問題に対する情報収集を行い発表	1,2,3,4,5	自分の専門分野において地域リハビリテーションに関係する資料を抄読する	1.5h	授業で取り扱った内容を自分の専門分野にどのように応用できるかを考察する	1.5h
13	地域理学療法における課題抽出と研究テーマの抽出	1,2,3,4,5	地域リハビリテーションにおける問題点とその解決のためのプログラムを立案する	1.5h	授業で取り扱った内容を自分の専門分野にどのように応用できるかを考察する	1.5h
14	地域理学療法における課題抽出と研究テーマの抽出	1,2,3,4,5	地域リハビリテーションにおける問題点とその解決のためのプログラムを立案する	1.5h	授業で取り扱った内容を自分の専門分野にどのように応用できるかを考察する	1.5h
15	地域理学療法における課題抽出と研究テーマの抽出	1,2,3,4,5	地域リハビリテーションにおける問題点とその解決のためのプログラムを立案する	1.5h	授業で取り扱った内容を自分の専門分野にどのように応用できるかを考察する	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h



印刷



地域理学療法学演習

英文名 : Seminar:Advanced Community-based Physical Therapy

科目区分 : 修士課程

学年 : 1年

開講期 : 後期

選択・必修 : 必修

単位数 : 2単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

解良武士、篠原智行、田中繁弥

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①この演習では、地域理学療法学研究の実際を体験しながら、修士号取得にふさわしい、地域理学療法学領域で貢献できる研究力を習得することを目標とする。
- ②講義はデータ取得や解析の体験や演習を中心として実施する。

到達目標

- 1.適切な研究課題を掲げられる。
- 2.研究遂行に最もふさわしい、研究計画がたてられるようにする。
- 3.最も適切な研究実行ができる。
- 4.研究データを適切に解析できる。
- 5.研究成果を適切に報告できる。

使用教材

特に指定しない。

評価方法

各段階における発表用資料および発表 100%

課題・評価に対するフィードバック方法

提出されたレポート、発表用資料、発表内容等について口頭あるいは書面をもってコメントする。

オフィスアワー

初回講義時に提示する。

メールアドレス（#→@）

kera#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	地域理学療法における研究方法の整理	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
2	地域理学療法研究の演習1（地域高齢者の研究調査の概略）	1,2,3,4,5	コホート調査について学習する。。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
3	地域理学療法研究の演習2（地域高齢者の研究調査の概略）	1,2,3,4,5	地域高齢者に対するコホート調査項目について調べておく。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
4	地域理学療法研究の演習3（地域高齢者の研究調査の進め方）	1,2,3,4,5	地域高齢者に関する調査方法を過去の研究論文から調べておく。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
5	地域理学療法研究の演習4（地域高齢者の研究調査の進め方）	1,2,3,4,5	地域高齢者に関する調査方法を過去の研究論文から調べておく。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
6	地域理学療法研究の演習5（高齢者研究で用いられる評価バッテリー）	1,2,3,4,5	高齢者研究で用いられる評価の具体的な方法を調べておく。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
7	地域理学療法研究の演習6（高齢者研究で用いられる評価バッテリー）	1,2,3,4,5	高齢者研究で用いられる評価の具体的な方法を調べておく。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
8	地域理学療法研究の演習7（データの解釈）	1,2,3,4,5	高齢者研究で用いられる評価の結果の解釈について調べておく	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
9	地域理学療法研究の演習8（データの解釈）	1,2,3,4,5	高齢者研究で用いられる評価の結果の解釈について調べておく	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
10	データの解析演習1（データの事前処理）	1,2,3,4,5	データ処理や統計解析の関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
11	データの解析演習2（データの事前処理）	1,2,3,4,5	データ処理や統計解析の関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
12	データの解析演習3（データの分析）	1,2,3,4,5	データ処理や統計解析の関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
13	データの解析演習4データの分析）	1,2,3,4,5	データ処理や統計解析の関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
14	データの解析演習5データの分析）	1,2,3,4,5	データ処理や統計解析の関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
15	解析結果の発表と考察	1,2,3,4,5	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

学生からの発表やディベートなどを行う場合は、事前に課題や知識整理などの指示を出すことがある。
研究調査に関する学外演習を協定先研究所で行う予定であるが詳細については講義開始前に提示する。
データ解析のためにSPSS等のソフトウェアを利用するので環境等については事前に教員に相談すること（相談先：解良）。

印刷

地域理学療法学特別研究

英文名：Seminar of Master's Thesis on Community-based Physical Therapy

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：8単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

吉田剛

科目に関連した実務経験

行政（館林市5年、尾島町3年）の地域事業に関与
医療機関からの在宅訪問リハ指導に16年従事

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①・自身が掲げたテーマを基に、その背景や問題点について、地域に広い視野から理解を深めていく。
 - ・研究テーマの目的・意義を明確にした上で掲げ、それを客観的に検証できるための研究方法で研究デザインを立案していく方法を学ぶ。
 - ・研究を実施し、その結果に基づいた考察を踏まえて修士論文を完成させ、その成果についてプレゼンテーションを実施し、討論を重ねることでその理解を深めていく。
 - ・研究に伴う一連の流れについて理解し、正しい手順・方法で研究ができることを目的とする。
- ②日頃はZOOMを用いて定期的に指導し、必要に応じて対面指導を行う。

到達目標

- 1.研究テーマに関する過去の文献を読み、整理することができる。
- 2.研究計画書を作成することができる。
- 3.データを客観的に分析し、その結果をまとめることができる。
- 4.得られた結果に対して、他文献を参照にしながら、適切な考察ができる。
- 5.研究成果について報告・討論することができる。

使用教材

特に指定しない

評価方法

学位論文審査基準7項目によって行われる論文審査と最終試験基準4項目によって行われる最終試験の結果（80％）および研究への取り組み等（20％）を踏まえ、総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

- ・研究計画書に関する作成資料等について、口頭または文書にてフィードバックする。
- ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方や考察の内容等について口頭または文書にてコメントする。
- ・作成段階の修士論文について方法、結果、考察、結語について口頭または文書にてフィードバックする。

オフィスアワー

初回講義時に提示する。

メールアドレス（#→@）

tsuyoshida#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

4～5月 関連文献の抄読や最新研究の現状について討論
6～9月 研究実施
10月 中間発表会
10～11月 結果のまとめ、データ解析
12～1月 修士論文作成と発表
【予習】研究プロセスに応じ授業中に課題を提示

【予習時間】 期間中適宜
【復習】 研究プロセスに応じ授業中に課題を提示
【復習時間】 期間中適宜

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



研究計画書を期限までに研究科委員会に提出する。また修士論文を期限までに提出できない場合は単位認定対象外となる。
予習・復習の時間：各授業に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要があるので各自で補完する。
<授業外学習の進め方>
1) 研究プロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進める。
2) 理学療法学に関する修士論文を作成できるよう関連文献を有効に活用し研究活動を行う。

印刷

地域理学療法学特別研究

英文名：Seminar of Master's Thesis on Community-based Physical Therapy

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：8単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

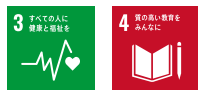
担当教員

田中聡一

科目に関連した実務経験

非常勤医師として病院に勤務（現在）

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①自身が決定した研究テーマに関する過去の報告、最新研究の実情を取得し、それらを自身の研究に生かして研究計画立案、研究実施、データ解釈、考察ができ、適切な方法で研究成果を発表する。
- ②研究遂行のためのディスカッションを行う。必要に応じて技術練習を行う。

到達目標

- 1.自身の研究に関連する知識を説明できる。
- 2.適切なデータ解析ができる。
- 3.プレゼンテーションと学術論文による研究成果の報告ができる。

使用教材

特に指定しない

評価方法

学位論文審査基準7項目によって行われる論文審査（80%）と、最終試験基準4項目によって行われる最終試験（20%）の結果を踏まえ、総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

指導教員との複数回のディスカッション

オフィスアワー

メール等で学習に関する質問は随時受け付ける。

メールアドレス（#→@）

stanaka#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

4～5月 関連文献の抄読や最新研究の現状について討論
 6～9月 研究実施
 10月 中間発表会
 10～11月 結果のまとめ、データ解析
 12～1月 修士論文作成と発表
 【予習】研究前に必要な準備を丹念に確認する
 【予習時間】期間中適宜
 【復習】研究ノートを作製し、短期、長期目標を確認、検討、修正する
 【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）

適宜

備考

研究テーマの決定、計画の立案、研究の実践、結果のまとめと解析、考察、研究成果発表など指導教員と常にコンタクトをとりながら進行すること。指導教員とのディスカッションは欠かせないこと。オフィスアワーは月曜日6限目前後で、メール（stanaka#takasaki-u.ac.jp）等で連絡の上、学習に関する質問は随時受け付ける。
（#を@に変換すること）

印刷 

地域理学療法学特別研究

英文名：Seminar of Master's Thesis on Community-based Physical Therapy

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：8単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

解良武士

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①自身が掲げたテーマを基に、その背景や問題点について、地域に広い視野から理解を深めていく。
また自身の研究テーマを、その目的・意義を明確にした上で掲げ、それを客観的に検証できるための研究方法で研究デザインを立案できること、さらに実際に研究を実施し、その結果に基づいた考察を踏まえて修士論文を完成することが本講義の目標である。
- ②講義は面談や課題・論文提出などを通じて論文執筆を指導する方法で実施する。

到達目標

- 1.研究テーマに関する過去の文献を読み、整理することができる。
- 2.研究計画書を作成することができる。
- 3.データを客観的に分析し、その結果をまとめることができる。
- 4.得られた結果に対して、他文献を参照しながら、適切な考察ができる。
- 5.研究成果について報告・討論することができる。

使用教材

特に指定しない

評価方法

学位論文審査基準7項目によって行われる論文審査と最終試験基準4項目によって行われる最終試験の結果（80%）および研究への取り組み等（20%）を踏まえ、総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

- ・研究計画書に関する作成資料等について、口頭または文書にてフィードバックする。
- ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方や考察の内容等について口頭または文書にてコメントする。
- ・作成段階の修士論文について方法、結果、考察、結語について口頭または文書にてフィードバックする。

オフィスアワー

初回講義時に提示する。

メールアドレス（#→@）

kera#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

4～5月 関連文献の抄読や最新研究の現状について討論

6～9月 研究実施

10月 中間発表会

10～11月 結果のまとめ、データ解析

12～1月 修士論文作成と発表

【予習】研究プロセスに応じ授業中に課題を提示

【予習時間】期間中適宜

【復習】研究プロセスに応じ授業中に課題を提示

【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）

適宜

備考



研究計画書を期限までに研究科委員会に提出する。また修士論文を期限までに提出できない場合は単位認定対象外となる。予習・復習の時間：各授業に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。

＜授業外学習の進め方＞

- 1) 研究プロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進める。
- 2) 理学療法学に関する修士論文を作成できるよう関連文献を有効に活用し研究活動を行う。

印刷



地域理学療法学特別研究

英文名：Seminar of Master's Thesis on Community-based Physical Therapy

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：8単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

篠原智行

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①本邦における地域の課題と、理学療法士が対処できる事象を適切に認識し、地域における理学療法および理学療法士の在り方の理解を深める。地域包括ケアシステムの構築が進む昨今、地域とは地域在住高齢者や生活期の理学療法のみを示すものではなく、医療・介護の施設や、老若男女を含む幅広い視点で考察する。その上で研究テーマを掲げ、レビューを元に目的、意義、仮説を明示し、研究デザインを立案する。
主體的に進める研究を通じて、得られた研究データを適切に処理する技能、科学的思考力、文章力、マネジメント能力といった研究者としての素養を身につける。
②スライドや資料を供覧しながら、講義またはディスカッション形式で行う。学外での講義、指導も積極的に行う（地域、学会、研修、など）。

到達目標

- 1.研究テーマに関する過去の文献を読み、整理することができる。
- 2.研究計画書を作成することができる。
- 3.データを客観的に分析し、その結果をまとめることができる。
- 4.得られた結果に対して、他文献を参照にしながら、適切な考察ができる。
- 5.研究成果について報告・討論することができる。

使用教材

特に指定しない

評価方法

学位論文審査基準7項目によって行われる論文審査（80％）と、最終試験基準4項目によって行われる最終試験（20％）の結果を踏まえ、総合的に評価する。
＊オンライン授業の場合も同様に予定。

課題・評価に対するフィードバック方法

各自の研究計画・発表に合わせて、適宜実施する。
＊オンライン授業の場合も同様に予定。

オフィスアワー

随時、面談やメールにて対応する

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

4～5月 関連文献の抄読や最新研究の現状について討論（通年）
6～9月 研究実施（主に2年目）
10～11月 結果のまとめ、データ解析、中間発表会（主に2年目）
12～2月 修士論文作成と発表（主に2年目）
【予習】各自の研究計画・発表に合わせて準備する
【予習時間】期間中適宜
【復習】各自の研究計画・発表に合わせて実施する
【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）

適宜

備考



研究計画書を期限までに専攻および研究倫理委員会に提出する。
また修士論文を期限までに提出できない場合は単位認定対象外となる。

印刷 

地域理学療法学特別研究

英文名：Seminar of Master's Thesis on Community-based Physical Therapy

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：8単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

中川和昌

科目に関連した実務経験

理学療法士、アスレティックトレーナー、中級バラスポーツ指導員として地域におけるスポーツを中心とした地域貢献活動を継続して実施している。

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①自身が掲げたテーマを基に、その背景や問題点について、地域に広い視野から理解を深めていく。
また自身の研究テーマを、その目的・意義を明確にした上で掲げ、それを客観的に検証できるための研究方法で研究デザインを立案していく方法を学ぶ。
さらに実際に研究を実施し、その結果に基づいた考察を踏まえて修士論文を完成させ、その成果についてプレゼンテーションを実施し、討論を重ねることでその理解を深めていく。
研究に伴う一連の流れについて理解し、正しい手順・方法で研究ができることを目的とする。
②対面での指導・ディスカッションに加え、適宜メール等、オンラインで相互に連絡を取り合って進める。

到達目標

1. 研究テーマに関する過去の文献を読み、整理することができる。
2. 研究計画書を作成することができる。
3. データを客観的に分析し、その結果をまとめることができる。
4. 得られた結果に対して、他文献を参照にしながら、適切な考察ができる。
5. 研究成果について報告・討論することができる。

使用教材

特になし

参考文献

特になし

評価方法

学位論文審査基準7項目によって行われる論文審査（80％）と、最終試験基準4項目によって行われる最終試験（20％）の結果を踏まえ、総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

各自の研究計画・発表に合わせて、適宜実施する。

オフィスアワー

水曜 1限 4号館413研究室

メールアドレス（#→@）

nakagawa-ka#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

- 4 ～5月 関連文献の抄読や最新研究の現状について討論
6 ～9月 研究実施
10月 中間発表会
10～11月 結果のまとめ、データ解析
12～ 1月 修士論文作成と発表
【予習】各自の研究計画・発表に合わせて準備する
【予習時間】期間中適宜

【復習】各自の研究計画・発表に合わせて実施する
【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



研究計画書を期限までに研究科委員会に提出する。
また修士論文を期限までに提出できない場合は単位認定対象外となる。
状況に応じてオンラインでのやり取りを並行しながら進めます。

印刷



地域理学療法学特別研究

英文名：Seminar of Master's Thesis on Community-based Physical Therapy

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：8単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

正木光裕

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①自身が掲げたテーマを基に、その背景や問題点について、地域に広い視野から理解を深めていく。
また自身の研究テーマを、その目的・意義を明確にした上で掲げ、それを客観的に検証できるための研究方法で研究デザインを立案していく方法を学ぶ。
さらに実際に研究を実施し、その結果に基づいた考察を踏まえて修士論文を完成させ、その成果についてプレゼンテーションを実施し、討論を重ねることでその理解を深めていく。
- 研究に伴う一連の流れについて理解し、正しい手順・方法で研究ができることを目的とする。
- ②実施方法として、ゼミ形式でディスカッションまたは大学院生によるプレゼンテーションを行うことで進める。

到達目標

- 1.研究テーマに関する過去の文献を読み、整理することができる。
- 2.研究計画書を作成することができる。
- 3.データを客観的に分析し、その結果をまとめることができる。
- 4.得られた結果に対して、他文献を参照にしながら、適切な考察ができる。
- 5.研究成果について報告・討論することができる。

使用教材

研究のプロセスに応じて、資料を配布する。

評価方法

学位論文審査基準7項目によって行われる論文審査（80％）と、最終試験基準4項目によって行われる最終試験（20％）の結果を踏まえ、総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

- ・研究計画書に関する作成資料等について、口頭または文書にてフィードバックする。
- ・データ収集の状況や分析過程、まとめ方の内容等について、口頭または文書にてフィードバックする。
- ・作成段階の修士論文のはじめに、方法、結果、考察、結論について、口頭または文書にてフィードバックする。

オフィスアワー

月曜 PM（4号館4階415研究室）

メールアドレス（#→@）

masaki#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

- 4～5月 関連文献の抄読や最新研究の現状について討論
6～9月 研究実施
10月 中間発表会
10～11月 結果のまとめ、データ解析
12～1月 修士論文作成と発表
【予習】各自の研究計画・発表に合わせて準備する
【予習時間】期間中適宜
【復習】各自の研究計画・発表に合わせて実施する
【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）

備考



研究計画書を期限までに研究科委員会に提出する。

また修士論文を期限までに提出できない場合は単位認定対象外となる。

※ オンライン授業で実施する場合の変更点

①評価方法：上記対面実施の場合と同様であり、必要に応じてC-learningを使用する。

②課題に対するフィードバック：上記対面実施の場合と同様であり、必要に応じてC-learningを使用する。

印刷 

地域理学療法学特別研究

英文名：Seminar of Master's Thesis on Community-based Physical Therapy

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：8単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

大野洋一

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

①

- 1) 自身が掲げたテーマを基に、その背景や問題点について、地域に広い視野から理解を深めていく。
 - 2) 自身の研究テーマを、その目的・意義を明確にした上で掲げ、それを客観的に検証できるための研究方法で研究デザインを立案していく方法を学ぶ。
 - 3) 実際に研究を実施し、その結果に基づいた考察を踏まえて修士論文を完成させ、その成果についてプレゼンテーションを実施し、討論を重ねることでその理解を深める。
 - 4) 研究に伴う一連の流れについて理解し、正しい手順・方法で研究ができる。
- ②受講者の研究進行状況に合わせ、適宜、資料等を使用して進める。
出席は講義時に口頭にて確認する。

到達目標

1. 研究テーマに関する過去の文献を読み、整理することができる。
2. 研究計画書を作成することができる。
3. データを客観的に分析し、その結果をまとめることができる。
4. 得られた結果に対して、他文献を参照にしながら、適切な考察ができる。
5. 研究成果について報告・討論することができる。

使用教材

研究のプロセスに応じて、資料を配布する。

評価方法

学位論文審査基準7項目によって行われる論文審査（80％）と、最終試験基準4項目によって行われる最終試験（20％）の結果を踏まえ、総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

研究計画の進行に合わせて適宜実施する。

オフィスアワー

月曜日 18時以降

メールアドレス（#→@）

ohno#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

4～5月 関連文献の抄読や最新研究の現状について討論
 6～9月 研究実施
 10月 中間発表会
 10～11月 結果のまとめ、データ解析
 12～1月 修士論文作成と発表
 【予習】各自の研究計画・発表に合わせて準備する
 【予習時間】期間中適宜
 【復習】各自の研究計画・発表に合わせて実施する
 【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）

備考



研究計画書を期限までに研究科委員会に提出する。

また修士論文を期限までに提出できない場合は単位認定対象外となる。

※ オンライン授業で実施する場合の変更点

- ①評価方法：上記対面実施の場合と同様であり、必要に応じてC-learningを使用する。
- ②課題に対するフィードバック：上記対面実施の場合と同様であり、必要に応じてC-learningを使用する。

印刷 

地域理学療法学特別研究

英文名：Seminar of Master's Thesis on Community-based Physical Therapy

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：8単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

田中繁弥

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①自身が掲げたテーマを基に、その背景や問題点について、地域に広い視野から理解を深めていく。
- ・自身の研究テーマを、その目的・意義を明確にした上で掲げ、それを客観的に検証できるための研究デザイン立案方法を学ぶ。
 - ・実際に研究を実施し、その結果に基づいた考察を踏まえて修士論文を完成させることを通じて科学的思考力、情報収集能力、プレゼンテーション能力、課題解決能力を涵養する。
 - ・研究に伴う一連の流れについて理解し、正しい手順・方法による研究を実践できる。
- ②実施方法は、大学院生によるプレゼンテーションやディスカッション、面談を主体とし、論文作成・審査準備の際は学位論文作成を軸として進める。

到達目標

- 1.研究テーマに関する過去の文献を読み、整理することができる。
- 2.研究計画書を作成することができる。
- 3.データを客観的に分析し、その結果をまとめることができる。
- 4.得られた結果に対して、他文献を参照にしながら、適切な考察ができる。
- 5.研究成果について報告・討論することができる。

使用教材

研究のプロセスに応じて、資料を配布する。

評価方法

学位論文審査基準7項目によって行われる論文審査（80％）と、最終試験基準4項目によって行われる最終試験（20％）の結果を踏まえ、総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

- ・研究計画書に関する作成資料等について、口頭または文書にてフィードバックする。
- ・データ収集の状況や分析過程、まとめ方の内容等について、口頭または文書にてフィードバックする。
- ・作成段階の修士論文のはじめに、方法、結果、考察、結論について、口頭または文書にてフィードバックする。

オフィスアワー

火曜3限(13:00-14:30)（4号館409研究室）

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

4～5月 関連文献の抄読や最新研究の現状について討論
6～9月 研究実施
10月 中間発表会
10～11月 結果のまとめ、データ解析
12～1月 修士論文作成と発表
【予習】各自の研究計画・発表に合わせて準備する
【予習時間】期間中適宜
【復習】各自の研究計画・発表に合わせて実施する
【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）

備考



研究計画書を期限までに研究科委員会に提出する。

また修士論文を期限までに提出できない場合は単位認定対象外となる。

※ オンライン授業で実施する場合の変更点

①評価方法：上記対面実施の場合と同様であり、必要に応じてC-learningを使用する。

②課題に対するフィードバック：上記対面実施の場合と同様であり、必要に応じてC-learningを使用する。

印刷 

臨床理学療法学特論 I

英文名：Advanced Clinical Physical Therapy I

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

竹内伸行、吉田剛、坂本雅昭、樋口大輔、富田洋介

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①理学療法場面で用いられている評価指標について開発の経緯や方法を学び、臨床理学療法学における問題解決および効果判定に活かすための知識を身につける。特に、帰結評価として用いるべき評価項目は何かについて、機能および能力の評価による効果判定を踏まえて、さらに生活自立度、QOL向上、医療経済への影響等についても広い視点をもって考える機会を得る。これらにより、既存の評価指標を踏まえて、新しい評価指標を開発するための基礎を身につける。
- ②教員が提示した資料および院生がまとめた資料等を用いて、双方向のディスカッションを中心としたアクティブラーニングにより学習する。

到達目標

1. 評価指標の開発手順について文献を通して理解する。特に既存評価指標の妥当性と信頼性の検証過程と方法を理解する。
2. 病態を把握するための臨床評価項目の構成要素について理解する。
3. 効果判定をするための帰結評価の現状を把握し、新規評価の必要性を考えることができる。
4. 生活自立度、QOLの向上に対する評価の視点について理解する。

使用教材

教員が用意した資料を使用する。

参考文献

参考書：内山靖・他 「臨床評価指標入門 適用と解釈のポイント」 協同医書出版

評価方法

各領域の臨床評価指標に関する文献についてのレポート、プレゼンテーション、ディスカッション（70%）
講義参加度・貢献度（30%）

課題・評価に対するフィードバック方法

提出されたレポート、発表用資料、発表内容等について口頭あるいは書面をもってコメントする。

オフィスアワー

科目責任者のオフィスアワー：月曜18：15～19：45(不在時はメールで問い合わせること)

メールアドレス（#→@）

ntakeuchi#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション：臨床理学療法における問題分析の方法	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
2	病態把握のための臨床評価項目とその開発事例（内部障害系）①	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
3	病態把握のための臨床評価項目とその開発事例（内部障害系）②	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
4	病態把握のための臨床評価項目とその開発事例（運動器系）①	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	病態把握のための臨床評価項目とその開発事例（運動器系）②	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
6	病態把握のための臨床評価項目とその開発事例（神経系）①	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
7	病態把握のための臨床評価項目とその開発事例（神経系）②	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
8	効果判定のための帰結評価とその開発事例①：内部障害系	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
9	効果判定のための帰結評価とその開発事例②：運動器系	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
10	効果判定のための帰結評価とその開発事例③：神経系	1,2,3	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
11	生活自立度向上に必要な評価構成要素	1,2,3,4	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
12	QOL向上に必要な評価構成要素	1,2,3,4	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
13	障害予防に必要な評価構成要素	1,2,3,4	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
14	臨床場面における評価の視点から新しい評価法を考える。	1,2,3,4	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h
15	まとめ	1,2,3,4	関連文献を抄読し予備知識を整理する。	1.5h	知識の不足分を文献や配付資料により学習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

最新の情報を積極的に収集し、整理してプレゼンテーション用の資料を作成する。予習を必ず行い、疑問を明確にして授業に臨み、授業後は自己の課題を分析して知識を整理する。予習・復習の時間：各授業に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。

印刷 

臨床理学療法学特論Ⅱ

英文名：Advanced Clinical Physical Therapy Ⅱ

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く▼

すべて閉じる▲

担当教員

樋口大輔、吉田剛、解良武士、竹内伸行、飯塚陽一、富田洋介

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①臨床の理学療法場面における介入研究について、最新の情報を整理すると同時に、問題解決につながる介入方法を検討するための基礎を身につける。さらに、介入研究を行う際にどのような準備が必要か、研究デザインの選択、介入効果の検証に用いる帰結評価の選定などについて、文献的に検証しながら、介入研究を行うための基礎的知識を身につける。
- ②授業はディスカッションを中心に行われる。

到達目標

- 最新の介入方法についてテーマごとに整理することができる。
- 介入研究論文から、研究手法を抽出し整理することができる。
- 介入方法を検討する過程を理解する。
- 問題解決に向けた介入研究の計画立案に必要な基礎知識を身につける

使用教材

特に指定しない。

参考文献

内山靖「理学療法研究法 第2版」 医学書院

評価方法

介入研究に関するポートフォリオ（70%）、講義参加度・貢献度（30%）

課題・評価に対するフィードバック方法

提出されたポートフォリオについてコメントする。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了時間後に応じる。

メールアドレス（#→@）

higuchi-d#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション：臨床理学療法場面における介入方法の検討（樋口）	4	特に必要としない。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h
2	最新の疼痛に対する治療法（樋口）	1,2	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h
3	最新の整形外科領域に対する治療法（飯塚）	1,2	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h
4	最新の内部障害領域に対する理学療法介入（解良）	1,2	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	最新の痙縮に対する治療法（竹内）	1,2	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h
6	最新の物理療法（竹内）	1,2	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h
7	最新の嚥下障害に対する理学療法（吉田）	1,2	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h
8	最新のニューロリハビリテーション（吉田）	1,2	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h
9	最新の協調運動障害に対する理学療法（樋口）	3,4	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h
10	新たな介入方法の開発とエビデンスの構築（樋口）	3,4	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h
11	臨床理学療法における介入研究のデザイン（解良）	3,4	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h
12	臨床理学療法における介入研究のための準備（解良）	3,4	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h
13	臨床理学療法における介入研究における効果判定①（富田）	3,4	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h
14	臨床理学療法における介入研究における効果判定②（富田）	3,4	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h
15	介入研究におけるエビデンス構築プロセス（富田）	4	講義内容に関連する課題を事前に指示する。	1.5h	講義内容をまとめ直し、理解を深める。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h



印刷



臨床理学療法学演習 I

英文名：Seminar I：Advanced Clinical Physical Therapy

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：前期

選択・必修：必修

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

千木良佑介、竹内伸行、樋口大輔、富田洋介

科目に関連した実務経験

大学病院、急性期総合病院、通所リハビリテーション事業所に勤務（経験）
非常勤理学療法士として急性期総合病院、地域回復期療養型病院、整形クリニックに勤務（現在）

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①理学療法士の立場で臨床における問題点を抽出すると同時に、それらの問題について明確に評価するための評価指標の検討を行う。また、各自の興味ある分野の問題に焦点を当てて、問題解決に必要なプロセスについての理解を深め、研究テーマの絞り込みと関連論文の考証、使用する評価指標の選択および新たな開発の準備などについて学ぶ。
- ②発表スライドを用い、並行してアクティブラーニングを行っていく。

到達目標

- 1.臨床における問題点の抽出方法を理解し、各自の研究テーマにつなげて具体化することができる。
- 2.研究テーマに即した関連論文の考証を行い、広い視点をもって問題を概観することができる。 ■
- 3.問題解決のためのアプローチの多様性を認識し、その中からテーマに合う方法を見出すことができる。
- 4.必要な評価指標を選択し、また新規に開発する必要性を理解できる。
- 5.研究計画書の準備資料を作成し、提出する事ができる。 ■

参考文献

内山靖「理学療法研究法 第2版」 医学書院

評価方法

毎回の発表用資料および文献集・文献リストなどのポートフォリオ（70%）、講義参加度・貢献度（30%）
総合60%以上で合格とする（対面、オンライン同様）。
オンライン授業の場合、『課題に対するフィードバック』『出席方法』はC-learning上で行う。

課題・評価に対するフィードバック方法

評価方法に対する課題のフィードバックを適時行い、プレゼンテーションに対し、その都度ディスカッションを行うとともに講評する。

オフィスアワー

月曜日13：00～14：00、水曜日16：00～17：00、5号館5階504研究室

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1	自身の研究テーマを説明できるように準備する。	1.5h	自律的に学習の必要のある事柄に対し確認する。	1.5h
2	臨床における問題点の抽出 ■	1,2	自身の臨床（研究）における問題点の抽出。	1.5h	関連文献の考証。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
3	臨床における問題点の抽出	1,2	自身の臨床（研究）における問題点の抽出。	1.5h	関連文献の考証。	1.5h
4	臨床における問題点の抽出	1,2	自身の臨床（研究）における問題点の抽出。	1.5h	関連文献の考証。	1.5h
5	関連文献考証 ■	1,2	関連文献の準備。	1.5h	関連文献を参考に補完学習する。	1.5h
6	関連文献考証	1,2	関連文献の準備。	1.5h	関連文献を参考に補完学習する。	1.5h
7	関連文献考証	1,2	関連文献の準備。	1.5h	関連文献を参考に補完学習する。	1.5h
8	問題解決に必要な評価指標の検討 ■	1,3	関連文献の準備。	1.5h	関連文献を参考に補完学習する。	1.5h
9	問題解決に必要な評価指標の検討	1,3	関連文献の準備。	1.5h	関連文献を参考に補完学習する。	1.5h
10	問題解決に必要な評価指標の検討	1,3	関連文献の準備。	1.5h	関連文献を参考に補完学習する。	1.5h
11	新しい評価指標の必要性の検討	3,4	関連文献の準備。	1.5h	関連文献を参考に補完学習する。	1.5h
12	新しい評価指標の必要性の検討	3,4,5	関連文献の準備。	1.5h	関連文献を参考に補完学習する。	1.5h
13	問題の明確化：研究テーマの方向性 ■	1,3	関連文献の準備。	1.5h	関連文献を参考に補完学習する。	1.5h
14	問題の全体像整理：関連文献の考証のまとめ	1,2,3	関連文献をもとに研究デザインを再考する。	1.5h	参考文献を参考に補完学習する。	1.5h
15	問題解決のための戦略：方法論に関する方向性	1,2,3,4,5	関連文献をもとに研究デザインを再考する。	1.5h	参考文献を参考に補完学習する。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

予習・復習の時間：15回の講義の中で45時間を確保する。
各自の研究分野に関する情報収集および資料の整理を行い、発表用資料作成を行う。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷 

臨床理学療法学演習Ⅱ

英文名：SeminarⅡ：Advanced Clinical Physical Therapy

科目区分：修士課程

学年：1年

開講期：後期

選択・必修：必修

単位数：2単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

千木良佑介、竹内伸行、樋口大輔、富田洋介

科目に関連した実務経験

大学病院、急性期総合病院、通所リハビリテーション事業所に勤務（経験）
非常勤理学療法士として急性期総合病院、地域回復期療養型病院、整形クリニックに勤務（現在）

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①臨床における研究課題について具体的な解決方法を見出し、必要な介入方法についての検討を進める。さらに、妥当な問題解決方法を模索し、他者に分かるような論理構成で、科学的手法を用いた研究計画を作成するための準備を行い、研究計画書を提出、発表をする。
- ②発表スライドを用い、並行してアクティブラーニングを行っていく。

到達目標

- 文献考証から、各自の研究課題に対してより具体的に問題解決方法を抽出することができる。
- 介入方法について多角的視点で検討し、科学的な手法を考えることができる。
- 予備検討などを行い介入方法の実現可能性や妥当性を検討することができる。
- 各自の研究に関する全体像を他者に分かるように論理的に表現することができる。
- 研究計画書を提出し、その内容のスライド資料を作成し、発表する事ができる。

使用教材

特に指定しない。

評価方法

研究計画書（70%）、各回の準備資料のポートフォリオ（20%）、講義参加度・貢献度（10%）、総合60%以上で単位認定とする（対面、オンライン同様）。
オンライン授業の場合、『課題に対するフィードバック』『出席方法』はC-learning上で行う。

課題・評価に対するフィードバック方法

介入方法に対する課題のフィードバックを適時行い、プレゼンテーションに対し、その都度ディスカッションを行うとともに講評する。

オフィスアワー

月曜日13：00～14：00、水曜日16：00～17：00、5号館5階504研究室

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	1	自身の研究テーマにおける問題点や評価方法について説明できるように準備する。	1.5h	自律的に学習の必要のある事柄に対し確認しておく。	1.5h
2	関連文献から介入方法に関する整理	1,2	関連文献考証。	1.5h	指摘事項の再確認。	1.5h
3	介入方法の提案	2,3	関連文献考証。	1.5h	指摘事項や課題について再確認。	1.5h
4	介入方法の提案	2,3	関連文献考証。	1.5h	指摘事項や課題について再確認。	1.5h

回数	講義内容	該当到達目標	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
5	介入方法の提案	2,3	関連文献考証。	1.5h	指摘事項や課題について再確認。	1.5h
6	介入事例の検討	2,3	関連文献考証。	1.5h	指摘事項や課題について再確認。	1.5h
7	介入事例の検討	2,3	関連文献考証。	1.5h	指摘事項や課題について再確認。	1.5h
8	介入事例の検討	2,3	関連文献考証。	1.5h	指摘事項や課題について再確認。	1.5h
9	研究計画の提案	2,3,4	発表練習しておく。	1.5h	指摘事項の確認。	1.5h
10	研究計画の提案	2,3,4	発表練習しておく。	1.5h	指摘事項の確認。	1.5h
11	研究計画のプレ発表会 (準備) ■	4,5	発表練習しておく。	1.5h	指摘事項の確認。	1.5h
12	研究計画のプレ発表会 ■	4,5	発表練習しておく。	1.5h	指摘事項の修正。	1.5h
13	研究計画の修正	4,5	発表練習しておく。	1.5h	指摘事項の修正。	1.5h
14	研究計画の修正	4,5	発表練習しておく。	1.5h	指摘事項の修正。	1.5h
15	研究計画発表会 ■	5	発表練習しておく。	1.5h	指摘事項の確認・修正。	1.5h

合計時間（予習・復習）

45h

備考

予習・復習の時間：15回の講義の中で45時間を確保する。
毎回の発表のための準備作業を行い、段階的に研究計画書の作成に取り組む。
■：実務経験に基づく内容を示す。

印刷

臨床理学療法学特別研究

英文名 : Seminar of Master's Thesis on Clinical Physical Therapy

科目区分 : 修士課程

学年 : 2年

開講期 : 通年

選択・必修 : 必修

単位数 : 8単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

すべて開く

すべて閉じる

担当教員

渡邊秀臣

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①臨床において科学的根拠に基づいた理学療法を提供するための高い実践能力および問題解決能力を一連の研究を通して習得する。臨床における未解決な諸課題を明らかにしていくことができる研究能力（研究デザイン立案、研究遂行、データ解析、発表を実践できる能力）を習得する。
- ②ゼミナール形式で、原則週1回の定期的およびオンデマンドで進展状況に応じて指導、講義を行う。

到達目標

1. 臨床に存在する課題を検討し、先行研究のレビューを通して適切な研究デザインを立案する。
2. 研究遂行に必要な倫理的配慮を適切に行うことができる。
3. 信頼性や妥当性などを含めた測定データの意味を理解できる。
4. 測定データを科学的に解析できる。
5. 修士論文作成、研究発表を行い、研究成果を他者に適切に伝えることができる。

使用教材

使用教材課題や修士論文の内容などに関する文献等を提示し活用する。

評価方法

学位論文審査基準7項目によって行われる論文審査と最終試験基準4項目によって行われる最終試験の結果（80%）および研究への取り組み等（20%）を踏まえ、総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

- ・研究計画書に関する作成資料等について、口頭または文書にてフィードバックする。
- ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方や考察の内容等について口頭または文書にてコメントする。
- ・作成段階の修士論文について方法、結果、考察、結語について口頭または文書にてフィードバックする。

オフィスアワー

金曜18:15~19:45（不在時はメールで問い合わせること）

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

4~5月 関連文献の抄読や最新研究の現状について討論
 6~9月 研究実施
 10月 中間発表会
 10~11月 結果のまとめ、データ解析
 12~1月 修士論文の作成と発表
 【予習】研究プロセスに応じ授業中に課題を提示
 【予習時間】期間中適宜
 【復習】研究プロセスに応じ授業中に課題を提示
 【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）

適宜

設定した研究課題に関する予習復習は不可欠であり、積極的な自己学習が求められる。状況により関連学会での発表や論文投稿も行うことが望ましい。予習・復習の時間：各授業に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。

＜授業外学習の進め方＞

- 1) 研究プロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進める。
- 2) 理学療法学に関する修士論文を作成できるよう関連文献を有効に活用し研究活動を行う。

印刷 

臨床理学療法学特別研究

英文名 : Seminar of Master's Thesis on Clinical Physical Therapy

科目区分 : 修士課程

学年 : 2年

開講期 : 通年

選択・必修 : 必修

単位数 : 8単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

坂本雅昭

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①臨床において科学的根拠に基づいた理学療法を提供するための高い実践能力および問題解決能力を一連の研究を通して習得する。臨床における未解決な諸課題を明らかにしていくことができる研究能力（研究デザイン立案、研究遂行、データ解析、発表を実践できる能力）を習得する。
- ②講義はゼミ形式とする。研究過程に沿った課題を提示し、各内容についてディスカッション行う。

到達目標

- 1.臨床に存在する課題を検討し、先行研究のレビューを通して適切な研究デザインを立案する。
- 2.研究遂行に必要な倫理的配慮を適切に行うことができる。
- 3.信頼性や妥当性などを含めた測定データの意味を理解できる。
- 4.測定データを科学的に解析できる。
- 5.修士論文作成、研究発表を行い、研究成果を他者に適切に伝えることができる。

使用教材

使用教材課題や修士論文の内容などに関する文献等を提示し活用する。

評価方法

学位論文審査基準7項目によって行われる論文審査と最終試験基準4項目によって行われる最終試験の結果（80%）および研究への取り組み等（20%）を踏まえ、総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

- ・研究計画書に関する作成資料等について、口頭または文書にてフィードバックする。
- ・データ収集状況と分析過程及びまとめ方や考察の内容等について口頭または文書にてコメントする。
- ・作成段階の論文について方法、結果、考察、結語について口頭または文書にてフィードバックする。

オフィスアワー

月曜18：15～19：45（不在時はメールで問い合わせること）

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

4～5月 関連文献の抄読や最新研究の現状について討論
6～9月 研究実施
10月 中間発表会
10～11月 結果のまとめ、データ解析
12～1月 修士論文の作成と発表
【予習】研究プロセスに応じ授業中に課題を提示
【予習時間】期間中適宜
【復習】研究プロセスに応じ授業中に課題を提示
【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）

適宜

設定した研究課題に関する予習復習は不可欠であり、積極的な自己学習が求められる。状況により関連学会での発表や論文投稿も行うことが望ましい。予習・復習の時間：各授業に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。

＜授業外学習の進め方＞

- 1) 研究プロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進める。
- 2) 理学療法学に関する修士論文を作成できるよう関連文献を有効に活用し研究活動を行う。

印刷 

臨床理学療法学特別研究

英文名：Seminar of Master's Thesis on Clinical Physical Therapy

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：8単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

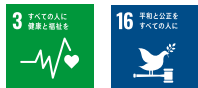
担当教員

飯塚陽一

科目に関連した実務経験

非常勤医師（整形外科医）として病院・診療所に勤務

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①臨床において科学的根拠に基づいた理学療法を提供するための高い実践能力および問題解決能力を一連の研究を通して習得する。臨床における未解決な諸課題を明らかにしていくことができる研究能力（研究デザイン立案、研究遂行、データ解析、発表を実践できる能力）を習得する。
- ②講義はディスカッションを中心に行われる。

到達目標

- 1.臨床に存在する課題を検討し、先行研究のレビューを通して適切な研究デザインを立案する。
- 2.研究遂行に必要な倫理的配慮を適切に行うことができる。
- 3.信頼性や妥当性などを含めた測定データの意味を理解できる。
- 4.測定データを科学的に解析できる。
- 5.修士論文作成、研究発表を行い、研究成果を他者に適切に伝えることができる。

使用教材

使用教材課題や修士論文の内容などに関する文献等を提示し活用する。

評価方法

学位論文審査基準7項目によって行われる論文審査と最終試験基準4項目によって行われる最終試験の結果（80%）および研究への取り組み等（20%）を踏まえ、総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

- ・研究計画書に関する作成資料等について、口頭または文書にてフィードバックする。
- ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方や考察の内容等について口頭または文書にてコメントする。
- ・作成段階の修士論文について方法、結果、考察、結語について口頭または文書にてフィードバックする。

オフィスアワー

月曜3-4限、理学療法学科棟3階 311研究室（不在時はメールで問い合わせること）

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

4～5月 関連文献の抄読や最新研究の現状について討論

6～9月 研究実施

10月 中間発表会

10～11月 結果のまとめ、データ解析

12～1月 修士論文の作成と発表

【予習】研究プロセスに応じ授業中に課題を提示

【予習時間】期間中適宜

【復習】研究プロセスに応じ授業中に課題を提示

【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



設定した研究課題に関する予習復習は不可欠であり、積極的な自己学習が求められる。状況により関連学会での発表や論文投稿も行うことが望ましい。予習・復習の時間：各授業に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。

＜授業外学習の進め方＞

- 1) 研究プロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進める。
- 2) 理学療法学に関する修士論文を作成できるよう関連文献を有効に活用し研究活動を行う。

印刷 

臨床理学療法学特別研究

英文名 : Seminar of Master's Thesis on Clinical Physical Therapy

科目区分 : 修士課程

学年 : 2年

開講期 : 通年

選択・必修 : 必修

単位数 : 8単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

竹内伸行

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①臨床において科学的根拠に基づいた理学療法を提供するための高い実践能力および問題解決能力を一連の研究を通して習得する。臨床における未解決な諸課題を明らかにしていくことができる研究能力（研究デザイン立案、研究遂行、データ解析、発表を実践できる能力）を習得する。
- ②教員が提示した資料および院生がまとめた資料等を用いて双方向のディスカッションを中心としたアクティブラーニングにより知識を深める。

到達目標

- 1.臨床に存在する課題を検討し、先行研究のレビューを通して適切な研究デザインを立案する。
- 2.研究遂行に必要な倫理的配慮を適切に行うことができる。
- 3.信頼性や妥当性などを含めた測定データの意味を理解できる。
- 4.測定データを科学的に解析できる。
- 5.修士論文作成、研究発表を行い、研究成果を他者に適切に伝えることができる。

使用教材

課題や修士論文の内容などに関する文献等を提示し活用する。

評価方法

学位論文審査基準7項目によって行われる論文審査と最終試験基準4項目によって行われる最終試験の結果（80%）および研究への取り組み等（20%）を踏まえ、総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

- ・研究計画書に関する作成資料等について、口頭または文書にてフィードバックする。
- ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方や考察の内容等について口頭または文書にてコメントする。
- ・作成段階の修士論文について方法、結果、考察、結語について口頭または文書にてフィードバックする。

オフィスアワー

月曜18：15～19：45（不在時はメールで問い合わせること）

メールアドレス（#→@）

ntakeuchi@takasaki-u.ac.jp

授業計画表

4～5月 関連文献の抄読や最新研究の現状について討論
6～9月 研究実施
10月 中間発表会
10～11月 結果のまとめ、データ解析
12～1月 修士論文の作成と発表
【予習】研究プロセスに応じ授業中に課題を提示
【予習時間】期間中適宜
【復習】研究プロセスに応じ授業中に課題を提示
【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）

適宜

備考



設定した研究課題に関する予習復習は不可欠であり、積極的な自己学習が求められる。可能であれば、在学期間中に関連領域の学会発表や論文投稿を行うことが望ましい。予習・復習の時間：各授業に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。

＜授業外学習の進め方＞

- 1) 研究プロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進める。
- 2) 理学療法学に関する修士論文を作成できるよう関連文献を有効に活用し研究活動を行う。

印刷 

臨床理学療法学特別研究

英文名 : Seminar of Master's Thesis on Clinical Physical Therapy

科目区分 : 修士課程

学年 : 2年

開講期 : 通年

選択・必修 : 必修

単位数 : 8単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

樋口大輔

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①エビデンスに基づく臨床理学療法研究について、研究計画に基づき倫理的配慮を行いながら、科学的手法を用いてデータ収集を行い、問題解決に必要な分析を行い、結果の整理、結果に関する考察などについてまとめて、他者に分かるように表現する方法を学ぶ。この研究指導課程を通して、自己客観性を身につけ、科学的思考力を身につけることで、研究者としての素養を身につける。
- ②授業はディスカッションを中心に行う。

到達目標

- 1.研究実行に必要な倫理的配慮を行うことができる。
- 2.科学的手法を用いたデータ収集およびデータ管理の必要性を理解する。
- 3.問題解決のためのデータ分析方法について理解する。
- 4.他者に分かるように研究成果を表現することができる。
- 5.研究論文を提出することができる。

使用教材

特に指定しない。

参考文献

特に指定しない。

評価方法

学位論文審査基準7項目によって行われる論文審査と最終試験基準4項目によって行われる最終試験の結果（80％）および研究への取り組み等（20％）を踏まえ、総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

修士論文を上梓するまでに提出された一連の資料について逐次コメントする。

オフィスアワー

質問及び学習相談には、授業開始前もしくは終了時間後に応じる。

メールアドレス（#→@）

higuchi-d#takasaki-u.ac.jp

授業計画表

【大まかなスケジュール】

4～5月 関連文献の抄読や最新研究の現状について討論

6～9月 研究実施

10月 中間発表会

10～11月 結果のまとめ、データ解析

12～1月 修士論文の作成と発表

【予習】修士論文テーマに関する資料をまとめる。

【予習時間】期間中適宜

【復習】学修した内容を修士論文に反映させる。

【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



予習・復習時間は研究の進捗に合わせて各自補完すること。

印刷



臨床理学療法学特別研究

英文名：Seminar of Master's Thesis on Clinical Physical Therapy

科目区分：修士課程

学年：2年

開講期：通年

選択・必修：必修

単位数：8単位

学位授与方針との対応：

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

千木良佑介

科目に関連した実務経験

大学病院、急性期総合病院、通所リハビリテーション事業所に勤務（経験）
非常勤理学療法士として急性期総合病院、地域回復期療養型病院、整形クリニックに勤務（現在）

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①エビデンスに基づく臨床理学療法研究について、研究計画に基づき倫理的配慮を行いながら、科学的手法を用いてデータ収集を行い、問題解決に必要な分析を行い、結果の整理、結果に関する考察などについてまとめて、他者に分かるように表現する方法を学ぶ。
この研究指導課程を通して、自己客観性を身につけ、科学的思考力を身につけることで、研究者としての素養を身につける。
- ②研究についての質疑応答を行う。資料・スライドを用い、並行してアクティブラーニングを行っていく。

到達目標

1. 研究実行に必要な倫理的配慮を行うことができる。
2. 科学的手法を用いたデータ収集およびデータ管理の必要性を理解する。
3. 問題解決のためのデータ分析方法について理解する。
4. 他者に分かるように研究成果を表現することができる。
5. 研究論文を提出することができる。

使用教材

特に指定しない。

評価方法

学位論文審査基準7項目によって行われる論文審査（80％）と、最終試験基準4項目によって行われる最終試験（20％）の結果を踏まえ、総合的に評価する（対面、オンライン同様）。

オンラインの場合、『課題に対するフィードバック』『出席方法』はC-learning上で行う。

課題・評価に対するフィードバック方法

課題に対するフィードバックを適時行い、プレゼンテーションや論文に対し、その都度ディスカッションを行うとともに講評する。

オフィスアワー

月曜日13：00～14：00、水曜日16：00～17：00、5号館5階504研究室

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

- 4～5月 関連文献の抄読や最新研究の現状について討論
- 6～9月 研究実施
- 10月 中間発表会
- 10～11月 結果のまとめ、データ解析
- 12～1月 修士論文の作成と発表
- 【予習】随時、課題に対し確認・理解し、研究・発表・論文作成の準備をしておく。
- 【予習時間】期間中適宜
- 【復習】課題に対し、研究に生かす部分と理解できなかった部分に対し再学習しておく。
- 【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）



適宜

備考



予備検討、研究データ収集、データの整理、論文作成など、必要に応じて資料を作成し、ゼミで指導を受けられるように準備を行う。

印刷



臨床理学療法学特別研究

英文名 : Seminar of Master's Thesis on Clinical Physical Therapy

科目区分 : 修士課程

学年 : 2年

開講期 : 通年

選択・必修 : 必修

単位数 : 8単位

学位授与方針との対応 :

- ✓ 理学療法学分野における高度医療専門職者として予防理学療法や地域リハビリテーションの発展に寄与することができる
- ✓ 理学療法学分野における幅広い学識と倫理観を有し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たすことができる
- ✓ 教育・研究者として、修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし理学療法学の発展に寄与することができる
- ✓ 修士課程において修得した専門能力、研究能力をもって保健医療学・理学療法学分野での実践の向上に貢献できる

[すべて開く](#)[すべて閉じる](#)

担当教員

富田洋介

SDGsとの関連



実施概要 ①講義の目標 ②講義の実施方法

- ①臨床において科学的根拠に基づいた理学療法を提供するための高い実践能力および問題解決能力を一連の研究を通して習得する。臨床における未解決な諸課題を明らかにしていくことができる研究能力（研究デザイン立案、研究遂行、データ解析、発表を実践できる能力）を習得する。
- ②本講義は対面・オンラインのいずれかを指導内容に応じて採用する。講義形態は事前に受講者に知らせる。

到達目標

- 1.臨床に存在する課題を検討し、先行研究のレビューを通して適切な研究デザインを立案する。
- 2.研究遂行に必要な倫理的配慮を適切に行うことができる。
- 3.信頼性や妥当性などを含めた測定データの意味を理解できる。
- 4.測定データを科学的に解析できる。
- 5.修士論文作成、研究発表を行い、研究成果を他者に適切に伝えることができる。

使用教材

使用教材課題や修士論文の内容などに関する文献等を提示し活用する。

評価方法

学位論文審査基準7項目によって行われる論文審査と最終試験基準4項目によって行われる最終試験の結果（80%）および研究への取り組み等（20%）を踏まえ、総合的に評価する。

課題・評価に対するフィードバック方法

- ・研究計画書に関する作成資料等について、口頭または文書にてフィードバックする。
- ・データ収集の状況と分析過程及びまとめ方や考察の内容等について口頭または文書にてコメントする。
- ・作成段階の修士論文について方法、結果、考察、結語について口頭または文書にてフィードバックする。

オフィスアワー

月曜18：15～19：45（不在時はメールで問い合わせること）

メールアドレス（#→@）

初回講義時に提示する。

授業計画表

4～5月 関連文献の抄読や最新研究の現状について討論、予備実験実施

6～9月 研究実施

10月 中間発表会

10～11月 結果のまとめ、データ解析

12～1月 修士論文の作成と発表

【予習】研究プロセスに応じ授業中に課題を提示

【予習時間】期間中適宜

【復習】研究プロセスに応じ授業中に課題を提示

【復習時間】期間中適宜

合計時間（予習・復習）

適宜

備考



設定した研究課題に関する予習復習は不可欠であり、積極的な自己学習が求められる。可能であれば、在学期間中に関連領域の学会発表や論文投稿を行うことが望ましい。予習・復習の時間：各授業に取り組むためには、授業前後に90分以上の時間をかける必要がある。

＜授業外学習の進め方＞

- 1) 研究プロセスにおける要点を具体的に理解しながら、積極的に研究を進める。
- 2) 理学療法学に関する修士論文を作成できるよう関連文献を有効に活用し研究活動を行う。

印刷 